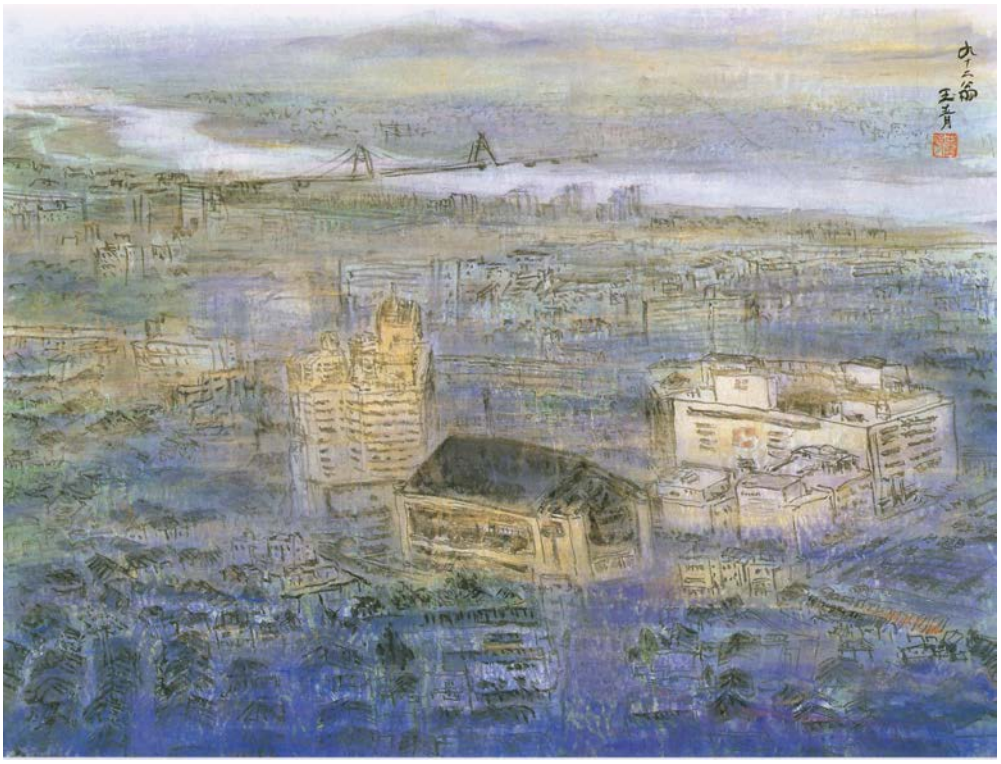
守口市民憲章制定50周年記念誌

守口百景 古今東西

令和５年 総集編（第４集）



守口朝色（97cm×131cm）　直 原 玉 青

守口市民憲章普及推進協議会

守口市民憲章制定50周年記念誌

守口百景　「古今東西」
総目次

いまの写真で尋ねる守口百景 古今東西 2023

守口市立さつき学園 …… 1
守口市立樟風(しょうふう)中学校 …… 2
守口市立よつば小学校 …… 3
守口市寺方南小学校 …… 4
守口市立さくら小学校学校 …… 5
大阪国際中学校高等学校 …… 6
守口市立図書館 …… 7
大日公園 …… 8
土居公園 …… 9
大枝公園 …… 10
守口警察署 …… 11
守口消防署本署 …… 12
西部コミュニティセンターレクリエーションホールとたきい公園 13
東部エリアコミュニティセンター …… 14

いいにしえの写真で尋ねる守口百景 古今東西 2023

(旧)市民会館の落成式 …… 15
守口町の珍しい航空写真 …… 16
義天寺と淀川 …… 17
カナディアンスクエア …… 18
全国自転車平和リレー …… 19
東海道守口宿「中島屋」 …… 20
佐太天神宮 …… 21
藤田村の弥治右衛門碑 …… 22
天社宮(てんしゃぐう) …… 23
地域総出でザリガニ捕り …… 24
中国広東省中山市との友好都市調印式 …… 25
カナダブリティッシュ・コロンビア州ニューウエストミンスター市との姉妹都市提携 …… 26
市営桜町団地 …… 27

今はない建物 …… 28

今はない風景 …… 29

いにしえの写真で尋ねる守口百景 古今東西 2019

三洋電機 淀川工場（昭和32年ごろ） …… 30
三洋電機 淀川工場（昭和32年ごろ） …… 31
守口幼稚園まえでの防火訓練（昭和31年ごろ） 32
早苗町信号機新設点灯式（昭和39年ごろ） 33
寺内保育所（昭和28年ごろ） …… 34
寺内保育所（昭和28年ごろ） …… 35
農業用水路（昭和32年ごろ） …… 36
第一モリウ食堂（八島町） …… 37
駅伝大会（国道1号線守口警察署付近） …… 38
守口市立公民館大枝分館（旧三郷町役場） 39
大阪市電（路面電車）守口 …… 40
大阪市電（路面電車）守口 …… 41
大阪市営バス…… 42
大阪府営寺方住宅（寺方本通二丁目3番地付近） 43
守口西郷郵便局 …… 44
京阪商店街 …… 45
大相撲力士「前の山」母校を訪問（昭和41年） 46
守口消防署の望楼（昭和28年頃） …… 47
田園風景（昭和初期） …… 48
西三荘ゆとり道（花のゾーン） …… 49
守口市立公益質店（早苗町12番地付近） … 50
守口市立土居小学校の運動会（昭和３０年） 51
国道1号線（旧市役所あたりから八島方面） 52
守口市国保東診療所（昭和30年ごろ） …… 53
守口市養老院「菊水園」 …… 54
大阪国際大学（藤田町） …… 55
まちなみ（八島町あたり） …… 56
守居神社の秋祭り（昭和39年ごろ） …… 57
庭窪公民館 …… 58
藤田会館（守口市藤田住宅支館） …… 59
守口市立母子寮（南寺方北通） …… 60
市制施行5周年商工祭・市民体育大会（昭和26年） 61
河内国北河内郡守口町大字守口全図 …… 62
大日交差点から遠く鳥飼大橋（右側）を望む 63

いにしえの写真で尋ねる守口百景 古今東西 2018

旧守口市庁舎（昭和26年4月落成記念式） … 64
市制5周年素人のど自慢（昭和26年）
市制15周年のど自慢大阪府予選（昭和36年） 65
本町橋の歴史-1…… 66
本町橋の歴史-2…… 67
本町橋の架け替えと豊秀松月線の拡幅工事 68
東京オリンピック出場記念（昭和39年） …… 69
守口市駅前河原通商店街の再開発…… 70
守口市クリーンセンター …… 71
橋波東之町2丁目から門真市をみる …… 72
第7回大阪府郡市対抗体育大会予選（昭和28年ごろ） 73
みどり橋（昭和38年ごろ） …… 74
竜田通り-1 …… 75
竜田通り-2 …… 76
佐太天神宮-1…… 77
佐太天神宮-2…… 78
橋波西の弁天様（昭和10年ごろ） …… 79
室戸台風の被害（昭和9年9月21日） …… 80
ジェーン台風の被害（昭和25年9月3日）…… 81
守口市と庭窪町の合併-1（昭和32年4月） … 82
守口市と庭窪町の合併-2（昭和32年4月） … 83
夏季大掃除（昭和26年7月ごろ） …… 84

いにしえの写真で訪ねる守口ところどころ 古今東西（守口百景 2016）

守口市役所付近 …… 85
八島交差点付近 …… 86
大阪市営バス守口車庫前付近…… 87
国道一号線 …… 88
京阪池（大枝公園・市民球場）付近 …… 89
京阪池と松下電池工業…… 90
京阪電車「守口市駅」 …… 91
京阪電車仮駅舎と踏切…… 92
守口市駅北側ロータリー …… 93
三洋電機　淀川工場 …… 94
京阪商店街 …… 95
桜通商店街 …… 96
旭通り商店街…… 97
京阪本通商店街 …… 98
土居駅前商店街 …… 99
三和商店街 …… 100

絵はがきで訪ねる守口ところどころ（1999～2003）

モノレール大日駅 …… 101
カナディアンスクウェア …… 102
佐太天神宮 …… 103
段蔵 …… 104
桃町緑道公園 …… 105
文禄堤 …… 106
京阪電車守口市駅周辺 …… 107
春の大枝公園…… 108
本町橋 …… 109
守口小学校 …… 110
花図かん…… 111
西三荘ゆとり道　水のゾーン …… 112
守居神社 …… 113
来迎坂 …… 114
梶町のひなだ…… 115
東橋波の小路…… 116
春の桃町緑道公園…… 117
大塩平八郎ゆかりの書院 …… 118

写真で訪ねる守口百景 絵はがき、カード守口ところどころ（1999～2011）

このページの守口百景 絵はがき,カードなどは、権利作品で掲載の承諾が得られなっかたことから、原画の構図に配慮した写真などで構成しています。

八雲のだんじり …… 119
市指定無形民俗文化財　寺方提灯踊り …… 120
淀川　わんど …… 121
守口市民体育館 …… 122
春の淀川わんど …… 123
淀川を渡るモノレール …… 124
守口市役所 …… 125
大阪府立守口高等学校 …… 126
難宗寺のいちょう …… 127
三郷小学校 …… 128
府天然記念物　妙楽寺のつつじ…… 129
もりぐち歴史館「旧中西家住宅」 …… 130
七番の渡し(昭和15年ごろ) …… 131
滝井小学校 …… 132
守口市現代南画美術館 …… 133
世木公園　釣り池 …… 134
佐太小学校 …… 135
大久保小学校 …… 136
来迎寺の松…… 137
鳥飼大橋料金所(昭和30年ごろ)…… 138
橋波小学校 …… 139
鶴見緑地公園（国際庭園） …… 140
西橋波ひなだ…… 141
大日会館とひのみやぐら …… 142
高瀬の旧家…… 143
大久保の農家…… 144
昔の金田　田園風景…… 145
唯称寺 …… 146
佐太アヒルの居る運河 …… 147
守口市生涯学習情報センター …… 148
文禄堤　うだつのある家 …… 149
弥治右衛門樋跡 …… 150

スルッとKANSAIカード

守口を走る市電…… 151
七番の渡し…… 151
京阪電車守口市駅 …… 152
来迎時の松…… 152
足踏み水車 …… 153
蓮池にメダカもいて糸トンボも飛んでいた … 153

QUO クオ・カード

守口を走るトロリーバス …… 154
わんどと鳥飼大橋 …… 154

地図で訪ねる守口ところどころ

(出典：国土地理院デジタルコンテンツ)

明治18年（1885年）頃 …… 155
大正13年（1924年） …… 156
昭和42年（1967年） …… 157
昭和49年（1974年） …… 158
平成11年（1999年） …… 159

守口市名誉市民 直原玉青画伯　南画で訪ねる守口市広報

守口市広報1号 …… 160
守口市広報2号 …… 161
守口市広報3号 …… 162
守口市広報4号 …… 163
守口市広報5号 …… 164
守口市広報6号 …… 165
守口市広報7号 京阪電車守口市駅前…… 166
守口市広報8号 高瀬神社…… 167
守口市広報9号 蓮根掘り …… 168
守口市広報10号 喜左衛門記念碑 …… 169
守口市広報11号 京阪池 …… 170
守口市広報12号 市電守口終点 …… 171
守口市広報14号 難宗寺と盛泉寺 …… 172
守口市広報15号 …… 173
守口市広報16号 守居橋 …… 174
守口市広報17号 狼島 …… 175
守口市広報18号 北の口 …… 176
守口市広報19号 守口本陣址(守口市車庫) 177
守口市広報20号 義天寺 …… 178
守口市広報21号 守口市庁舎 …… 179
守口市広報23号 大塩講学所 …… 180
守口市広報24号 堂脇橋大正天皇降車地 … 181
守口市広報25号 市制施行五周年記念号 … 182
守口市広報26号 問屋場趾 …… 183
守口市広報27号 守口宿高札場 …… 184
守口市広報28号 むかしの守口附近 …… 185
守口市広報30号 聖徳太子と茨田寺 …… 186
守口市広報32号 大陸交通の重要門戸であった
旧守口町(長柄船瀬) …… 187
守口市広報34号 僧行基土木事業を起す … 188
守口市広報36号 下仁和寺壮の政所と鎮守　189
守口市広報38号 竹間江大治江の河魚貢進　190
守口市広報40号 来迎寺の開山実尊、
剣畧で襲撃さる …… 191
守口市広報42号 大内氏の部将守口城を守る 192
守口市広報44号 戦国時代本願寺領寺内の田苅 193
守口市広報47号 豊臣秀吉と守口の街並 … 194
守口市広報49号 大阪夏の陣に際し、
守口市の社寺民家兵火に焼く …… 195
守口市広報50号 朝鮮信徒の淀川遡江 …… 196

守口市名誉市民直原玉青画伯 南画で訪ねる守口市

直原玉青画伯プロフィール …… 197
襖絵の梅に蝶がとまる …… 197
守口大根 …… 197
佐太の風景…… 197
問屋場の風景…… 198
大塩平八郎 …… 198
似雲法師 …… 198
千利休 …… 198

守口百景テレフォンカード 1988～1997

(協力：木版画同好会ばれんの会)

昭和63年・1988年～平成4年・1992年 …… 199
平成5年・1993年～平成9年・1997年 …… 200

守口市歌 …… 201

守口市民憲章音頭 …… 202

守口市の公共施設等の変遷と市民憲章のあゆみ(抜粋) …… 204

守口市民憲章５０年のあしあと …… 207

引用､掲(転)載させていただいた資料など …… 239

ご協力いただいた団体や個人 …… 239

解説文執筆者のご紹介 …… 240

発行にあたり …… 240

制作実行ワーキンググループ …… 240

巻末の『守口百景古今東西Ver.4』DVD版には、第１集（Ver.1）から第４集（Ver.4）までとすべての資料を収録しています

●「守口百景　古今東西」DVDについて

1　「守口百景　古今東西」DVDは主に PDF ファイル形式で収録しています。

•PDF ファイルをご覧になるには、Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader は Adobe のホームページからダウンロードできます。

Adobe Reader は右のアイコンをクリックするとダウンロードできます。



※ご注意　Windows10 の Microsoft Edge などでも PDF ファイルが開きますが、リンク（関連のページへ移動）しません。必ず Adobe Reade で開いてください。

【PDF ファイルを右クリック→プログラムから開く→Adobe Reader を選択】

•映像「襖絵の梅に蝶がとまる（一部）:静岡放送」や音楽「守口市歌」「守口市民憲章音頭」などを再生するには、それぞれ映像再生ソフト、音楽再生ソフトが別途必要です。

2　「守口百景　古今東西」DVDは市内の小・中学校や公共機関などへ補助教材として寄贈し、普及推進委員に市民憲章の更なる普及推進と生涯学習の一助とするため１枚あて無償で贈呈します。

3　「守口百景　古今東西」DVDの収録内容は随時改訂し、許可なく引用・転載・複写することを禁止します。

●「守口百景　古今東西」DVDの収録内容をご覧になるには

1　パソコンを起動し「守口百景　古今東西」DVDを DVD ドライブに入れる。

2　コンピューター（Windows Vista/7/8/10）または、デスクトップ（Mac OS X）にある「守口百景　古今東西」のアイコンをダブルクリック（もしくは右クリック「開く」）。

3　「総目次.pdf」アイコンをダブルクリック（もしくは右クリック「開く」）。

4　各ページにお進みください。

●推奨環境

【Windows】OS: Windows Vista、7、8、10、11

PC 環境:CPU:Intel Pentium プロセッサ 1GHz 以上（推奨 Intel Pentium プロセッサ 2GHz 以上）

解像度:1024×768 以上

モニター:16 ビット以上を表示可能なカラーモニター

メモリ:512MB 以上（推奨 1GB 以上）

【Macintosh】OS:Mac OS X 10.4～10.6、OS X 10.8

PC 環境 :CPU:PowerPC G4 866MHz 以上（推奨 Intel Core Duo 1.83GHz 以上）

解像度:1024×768 以上

モニター:16 ビット以上を表示可能なカラーモニター

メモリ:512MB 以上（推奨 1GB 以上）

【必須ソフト】

•Adobe Reader 9 以上の pdf 閲覧ソフト

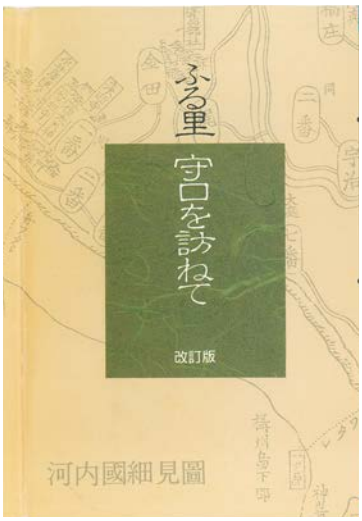
•映像再生ソフト、音楽再生ソフトなど

引用、掲(転)載資料集

巻末添付のDVD収録資料集



守口百景



ふる里守口を訪ねて



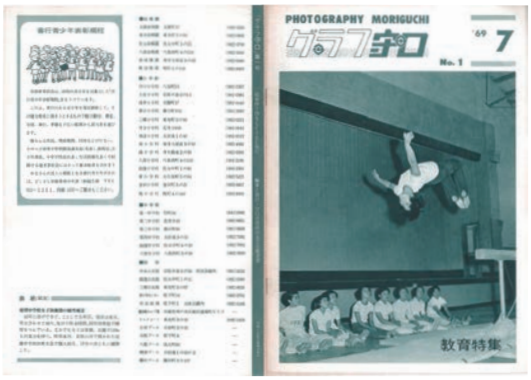
京街道検定テキスト



守口よもやま辞典



守口よもやま見聞録



グラフ守口（No.1～No.67）

（一部欠落があります）

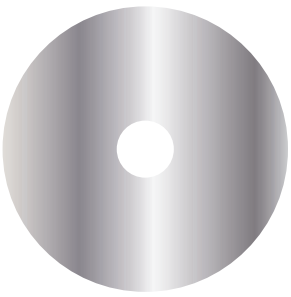


もりぐちしの
むかし いま ゆめ

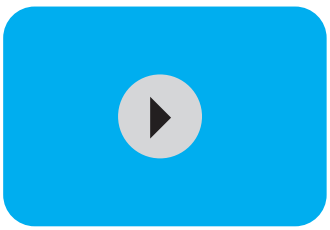
（市制施行50周年記念特集号）



守口市歌



市民憲章音頭



水墨画に蝶とまる

（襖絵の梅に蝶がとまる）

2301

守口市立さつき学園

平成28年４月１日開校

（春日町13―26）



守口市も少子高齢社会になり児童・生徒の数が減少し、学校の統合問題が持ち上がり統合が始まりました。

さつき小学校が平成26年（2014年）に春日小学校と滝井小学校の合併により設立。さつき学園はそのさつき小学校が平成28年（2016年）4月1日に第三中学校と合併し創立された小中一貫制の学園です。

大阪府民で15歳以上の小学校・中学校を卒業していない人や十分な教育を受けられないまま小・中学校を卒業した人が通学する夜間学級も併設されています。

校名には、さつきの色彩感にあふれ多様な花を咲かせるというイメージになぞらえ、「ここに集う人々がそれぞれ自分に合った花を咲かせ、誰からも愛される学校であってほしい」との願いが込められています。

市では、教育理念である「郷土を誇りに思い、夢と志をもって、国際化社会で主体的に行動する人の育成」を効果的に実現させるため、平成26年度から全中学校区で小中一貫教育を導入しています。市の目指す小中一貫教育は、各中学校区で義務教育9年間を見通した「目指す子ども像」を揚げ、学校・家庭・地域が力を合わせ中学校区が一体となって進めていく教育活動です。

平成27年（2015年）6月に学校教育法の一部が改正され、これまでの小学校、中学校などに加え，小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」が新たな校種として位置づけられました。　これを受けて、市では平成28年（2016年）4月1日から施設一体型小中一貫校となる「守口市立さつき学園」を「義務教育学校」として設置されたそうです。

「自らを高め共に学び共に育ちたくましく未来を切り拓く児童・生徒の育成やる気!げんき!さつき!」をモットーに、新しく整備された教育環境で学習に取り組んでいます。

2302

守口市立樟風（しょうふう）中学校

平成27年４月１日開校

（西郷通3−14−60）



樟風中学校は平成27年（2015年）4月1日、第二中学校と第四中学校が統合して、元の大阪府立守口高等学校の跡地に開校した学校です。第二中学校の最も生徒が多かったのは昭和37年（1962年）1889人で、平成26年（2014年）には267人にまで減少しました。

寺方南小学校とさくら小学校の通学区域で、外国にルーツがある生徒（国籍を問わず両親、祖父母のいずれかが外国にルーツがある）が、個性をありのままに伸ばせるよう言葉の指導や演奏、伝統工芸や民俗遊び、料理づくりなどの活動を行う『民俗学級』が設置されています。校庭は高校の跡地であったこともあり、広々としたグランドです。

初代の吉本卓校長は「樟風中学校の素晴らしい学習環境を活かして、生徒たちが生き生きと活躍する教育活動の推進と学習面では電子黒板やタブレットなどのICT機器を活用した分かりやすい授業の研究を深めていきたい。部活動では恵まれた施設環境を活かし、経験豊かな教職員と生徒がつながる取組を推進しています。」「国際理解教育を推進してきた二中とICT教育を推進してきた四中との特色ある二つの中学校が統合することで、当初は不安でした。しかし今は落ち着きを取り戻し、4月3日の開校式でも生徒会を中心に、合唱隊が素晴らしい歌声で校歌を紹介しました。」などと語ってくれました。

力量豊かな教職員が経験や知識を活かし、一枚岩になり「学力向上」や「豊かな心の育成」教育に汗を流し頑張っておられます。

2303

守口市立よつば小学校

平成28年４月１日開校

（大久保町2−17−26）



昭和53年（1978年）大久保小学校は生徒数1474人、東小学校は1558人のマンモス校でした。

少子化の進行で児童数が減り、平成28年（2016年）4月1日に東小学校と大久保小学校を統合してできたのがよつば小学校です。卒業後は大久保中学校に進学します。

濵口和久校長は創立6年を迎え「よつば小学校校旗の中央の円は光り輝く情熱の太陽をイメージし、四方に広がるふくよかな四枚の葉は人として大切にしてほしい『すなおさ』を『明るさ』『やさしさ』そして『正しさ』の心を表現しています。みずみずしい緑の葉が豊かな自然の中で大きく育ちそれぞれの味わいを醸し出すように、ひとりひとりの子どもたちが自身の夢や希望を叶えるべく、しなやかにたくましく生きる力となることを願って考えられたものです。このようなよつば小学校の校名や校旗の由来を心に留め、よつば小学校教職員一同、心を一つにし、学校教育目標「志をもってよく学ぶ心ゆたかなたくましい子」を掲げ、子どもたちの笑顔あふれる学校『よつば小学校』をつくりあげていきたいと思います。」など校名の由来や教育目標などを熱く語られました。

かつて、図書室（メディアセンター）はあまり目立ないところの空き教室が使われているのが多くありました。
しかしよつば小学校では上下の階をつなぐスキップフロア形式の空間が広がり、視線・動線を意識した空間づくりで活動の様子を広い範囲で感じ取ることがきるなど学習意欲を高める工夫がされています。全ての階が結び付き、学年を越えたつながりを育くめるようになっています。

学びの場のメディアセンターは校舎の中心にあり、どこからでも行き来しやすい配置で「自ら調べ、答えを探す主体的な学び」のための拠点になっています。

メディアセンターの主体となる図書スペースは中間フロアである2階中央部分に設けられています。
吹き抜けを挟み、異学年の児童が交流できる場であり、空間です。学んだ成果や作品を展示するスペースや見せる楽器庫など同じ興味を持つ児童が集い、話せるスペースも多くつくられています。

地域と学校をつなぐ地域の皆が活用できる「まちなかサロン」。「郷土資料館」は地域の皆さんが作りあげた空間。よつば小学校区は新たな地域づくりをすすめている小学校区です。

2304

守口市立寺方南小学校

平成30年４月１日開校

（寺方元町4−1−45）



寺方南小学校は平成30年（2018年）4月1日、第二中学校の跡地に寺方小学校と南小学校を統合して開校した小学校です。

水田広茂校長先生は「校章は旧寺方小学校の校章の『さくら』と旧南小学校の校章の『ひし』を合わせたものです。また寺方南地域の特色である『寺方提灯踊り』の提灯が入っています。これは寺方小学校、南小学校の豊かな歴史と伝統を継承しつつ、新たな歴史と伝統を築いてもらいたい」と言われておられます。

また、寺方南小学校の教育目標を「自ら学び心豊かにたくましく」と揚げ、すばらしい施設を最大限活用しながら「安全・安心で一人一人がいきいきと学び輝く学校」、「郷土を愛し国際社会にあっては自他の幸福のため未来を拓く力ある人の育成」とも述べられておられます。卒業後は樟風中学校に進学します。

★建物の工夫

1・2年生の教室は学級単位での学習がしやすいよう、フリースペースを教室内に内包したゆとりある広さの教室です。3・4・5・6年生の教室は引き戸で区画し、必要に応じて教室とオープンスペースを合わせて一体利用できるようになっています。

学校の中心となる吹抜空間

調べものコーナーは3〜6年生のフロアに設置され、児童たちによるグループ学習ができる空間になっています。

1・2年生のフロアには、「デン」と呼ばれる小さな空間を普通教室の前に設置することで、学習生活の中でとても楽しい空間になっています。吹き抜けの上部はトップライト構造で自然の明るさが1階まで届きます。

1階の吹き抜けのホールには様子がわかる放送室、壁面にはボルダリングコーナが配置されています。校舎の中心の吹き抜けに階段があり各階にアクセスしやすい構造となっています。

また吹抜空間に面してオープンスペースやメディアセンター、デン、ギャラリーなどを配置することで多様な学びに出会うきっかけが生まれます。いろいろ工夫された校舎です。

2305

守口市立さくら小学校

平成30年４月１日開校

（大宮通1－14－9）



平成30年（2018年）4月に三郷小学校と橋波小学校が統合して開校した小学校です。敷地内に日本ではじめて交番が設置された小学校です。

令和3年（2021年）3月に校舎が完成し、4月5日に入学式が挙行され、翌年の3月18日には卒業式が行われました。卒業後は樟風中学校に進学します。

さくら小学校の廣部孝徳校長先生は「施設は交番所もある安全で良い環境の学校ですが、それを有効に活用していくのはあくまでそこで過ごす人、見守る人など一人ひとりにかかっています。」と話され「さくら小学校のすべての子供たちが安全に安心して、生き生きと育つことができるよう、教職員はもとより保護者、地域の皆様、そしてこの学校にかかわる全ての方々の「力」や「思い」を集められたらと考えています。」とも言われています。

★安心・安全な登下校

西門には、まちの安全を守る交番が学校と一体で整備され、東門には守衛室が配置されており安心・安全な登下校を実現しています。

「ふれあい広場」は1階だけでなく上下階でのつながりや多目的室との一体利用など、学年を越えた交流が図られています。

「芸術広場」は隣接する音楽室や図工室と連絡していて、学びの場として活用できる屋外空間です。

★メディアセンター（図書室）

様々な工夫がされ、読み書かせコーナー、一体利用ができるパソコンスペース、地域の人も利用することができるなど、さまざまな学びを支援する場所といえます。

木の温もりが感じられる校舎で、2階の普通教室や共用部の屋根に木を使っています。教室表示などは建設時に残った端材を再利用し、児童が視覚・匂い・手触りなど五感で木の良さや温もりを感じることができる学校となっています。

2306

大阪国際中学校高等学校

令和4年４月1日開校

（松下町1）









昭和4年（1929年）帝国女子薬学専門学校の姉妹校として帝国高等女学校が創立され、昭和23年学制改革により帝国女子高等学校になりました。

昭和37年（1962年）には、帝国女子高等学校（大和田校）、帝国学園中学校（大和田校）が開校し、時代の変遷を経て校名を変更し、平成14年（2002年）には男女共学の大阪国際大和田中学校高等学校になりました。

旧パナソニック工場跡地約26，000㎡（松下町）で建設していた校舎が完成し、令和4年（2022年）に大阪国際中学校高等学校が開校されました。

新設の大阪国際中学校高等学校の教育方針

大阪国際滝井高等学校と大阪国際大和田中学校高等学校を発展的に統合した、新たな男女共学の併設型中高一貫教育校です。

校訓：人間をみがく。ビジョン：自分らしく生き抜く力を身につけ、未来社会の担い手となる。

ミッション：礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成する（GLOBAL　MINDを醸成する）。

大切にする価値：調和のとれた「知・徳・体」を身につける。真の国際感覚を養う。夢を抱き、志の実現に挑む。

カリキュラムの編成は中学校は、「Ⅰ類」、「Ⅱ類」高校は「国際バカロレアコース」「スーパー文理探究コース」「総合探究コース」「幼児保育進学コース」があります。

現在は、国際バカロレア（IB）資格を取得できるIBワールドスクールとして認定されています。

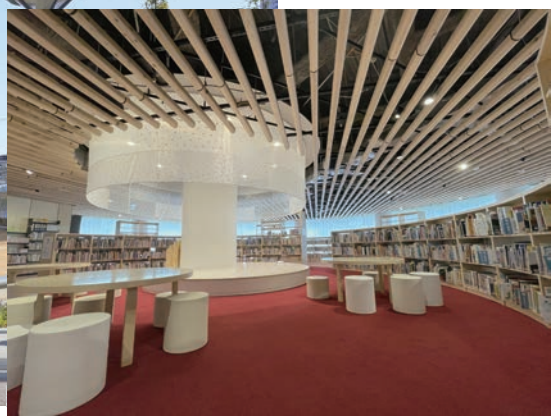
2307

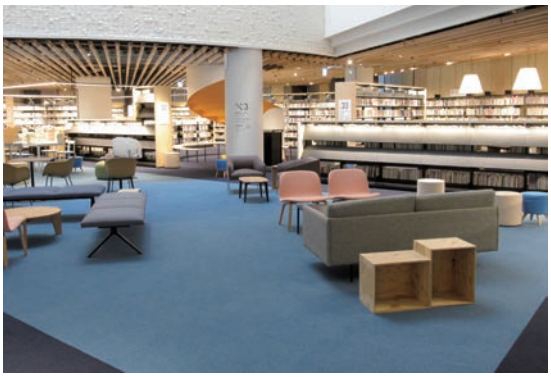
守口市立図書館

令和2年6月オープン

（大日町2−14−10）







電話：06−6905−3921　　開館時間：9時～21時、
休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

市民が「集い・学び・交流する」図書館が、6月1日ムーブ21をリニューアルして開館しました。乳幼児から高齢者まで多世代の利用を促進し、活動の多様性・活性化を図ことを目的にしています。館内には約35万冊の図書資料を所蔵しています。

アクセス

大阪メトロ谷町線大日駅3出口から北へ徒歩5分
大阪モノレール大日駅から北へ徒歩5分駐車場あり

図書などの貸し出し（自動貸出機を利用する）には利用者カードが必要です。
図書カウンター受付で新規登録を行い、有効期限5年の利用者カードを発行します。※市内、北河内6市、大阪市に在住、在勤・在学の人なら登録ができます。

貸し出しをしたい本を持って自動貸出機を操作します。①画面上で「貸出」ボタンを押し、利用カードをカード読み取り部分にかざす②本を所定の位置に置き、資料名と冊数を確認し「貸出」ボタンを押す③レシートを受け取る。これで本の貸出が完了します。

貸出の冊数は、一人10冊まで（予約資料を含む）で、貸出期間は2週間です。本などを返却をする場合は館内の返却ポストに入れるか、カウンターに返却してください。

また、他の市内施設（文化センター、各コミュニティセンター、イオンモール大日1階駅前入口エレベーター脇返却ポスト）でも返却できるとのことです。

※返却期限内にポストに入れた場合も回収時間によっては返却処理が行われるまで延滞本の表示になる場合があります。

館内には飲食ができる交流スペースや閲覧室・自習コーナー、様々なイベントも企画されていますので、ぜひ一度利用してみてください。

2308

大日公園

令和4年3月オープン

（大日町2−65）





市の東部に位置し、平成4年（2022年）3月18日にオープンした公園です。国道一号線や大阪メトロ、大阪モノレールの大日駅の近くにあります。

都市計画マスタープランで大日駅周辺を「大日都市核」として位置づけ、地域の活力・賑わいづくりの拠点として図書館のリニューアルと併せて公園が整備されました。

関係各部署が連携したことで、図書館との一体的な整備が実現し、盆踊りなど地域に根づく活動を継承できる空間になったことが特徴といえます。

将来的には図書館の管理者が公園での読み聞かせなどのイベント開催や管理を一括して行うことを想定しています。

『本を持って、さあ外に出よう』をテーマに屋外で本を読む・楽しむ時間を提供する『図書館の屋外空間』として、多様な利用を見込んだひろびろとした公園です。

〇きっかけゾーン：図書館の外へ誘うきっかけとなるゾーンでウォールアートやトリックアート、小広場を整備し、ベンチやパラソルが設置されています。

〇交流・憩いゾーン：公園中央部には「交流&憩いゾーン」として地域の賑わいの場として、来園者が憩い休める場として、パーゴラや芝生の丘にはベンチを設置してあります。

〇遊具ゾーン：現存の複合遊具があるエリアは「遊具ゾーン」として、幼児を含む子どもたちが楽しく遊べる場所として整備されています。

2309

土居公園

令和3年12月オープン

（小春町5−8）





京阪電車土居駅の南側にある土居公園は昭和26年（1951年）に設置されました。この歴史のある公園が令和3年（2021年）にリニューアルオープンしました。

以前の土居公園は時代を感じさせる鉄棒が2つある公園で、北側は京阪電車の土居駅や土居駅前商店街、東側には大阪府の守口保健所があり公園の北東の角には墓地もありました。

公園はみんなの憩いの場で、さくらの大木があり、花の咲く頃や夜店などで賑わい、買い物帰りの主婦や高齢者の方の人気の場所でした。

リニューアルで保健所の跡地を含めたため、広くなりました。公園東側の商店街側は芝生があり、もり吉の遊具・憩いの場でネットで区切られ、西側はボール遊びができる公園となりました。

多くの公園ではボール遊びが禁止されていますが、土居公園は防球ネットが設備され、子どもたちが周囲を気にせずボール遊びができる子どもたちも大喜びの公園に生まれ変わりました。

また、災害時には緊急避難ができる公園として災害備蓄倉庫、かまどベンチ、防災パーゴラなどが配置されています。

★公園に設置されているもの

〇設備トイレ、ベンチ、かまどベンチ、広場、手洗い場、遊具滑り台（幼児用）、ロッキング遊具、鉄棒（大人用）

★土居公園（ボール遊び広場）のルール

〇ボール遊びができる時間は朝9時から夕方5時30分までです。〇フェンスやネットにボールを当てるのはやめようね。〇バット、野球、スパイクを使用しないでね。〇みんなでゆずりあって遊ぼうね。〇大声でさわぐなど近所に迷惑をかけないでね。〇ペットはつれてこないでね。〇ごみは持ち帰ろうね。

このようにボールの遊び場とネットで区切られていますので、安心して幼児もお母さんも子どもさん、高齢者の方も安心してご利用下さい。ベンチもトイレも公園内にあります。

2310

大枝公園

平成31年4月グランドオープン

（松下町１－80）





昔から桜の名所と市民球場で知られていた大枝公園は、多目的球技場やテニスコート、複合遊具、芝生広場などが整備され、市民の憩いの場として生まれかわりました。

★西ゾーンはスポーツを楽しむ公園

○多目的球技場は、軟式野球やソフトボール、サッカー、ラグビーなどができる人工芝のグラウンドです。

○テニスコートは、ナイター照明つきの砂入り人工芝（オムニコート）で、野外コートと屋根つきの屋内コートが各2面ずつあります。

○相撲場も新しく生まれかわり、わんぱく相撲大会も実施されています。

★東ゾーンは家族と過ごす公園

天然芝生の広場や、コンビネーション遊具「大枝のとりで」、夏場に無料で楽しめる「水の遊び場」などがあります。

緑豊かな公園ですので、木陰のベンチで本を読んだり、市民花壇で四季折々の花を観察したりと、家族みんなで楽しめます。

そのほか、ガンバ大阪サッカースクール、テニススクール、ベースボールスクールなどの習いごとや、ヨガ、ストレッチ、スロージョギングなどの健康づくりプログラムも充実しています。

遊具もたくさんあり、家族みんなが体を動かしスポーツやレクリエーションを楽しむことができ、元気が生まれるとても大きな公園です。災害時には避難場所やヘリポートとして活用でき、防災拠点として重要な役割も備えているそうです。



2311

守口警察署

令和3年7月開署

（京阪本通2−6−10）





守口警察は明治8年（1875年）12月堺県達乙第54号で守口町大字守口227番地（現在の竜田通）に守口出張所として置かれました。庁舎は平屋建瓦葺1棟で1ヶ月50銭の家賃で民家を借りていました。

大正15年（昭和元年、1926年）7月、地方官々制の改正により、枚方警察暑の守口警察分暑が守口警察署と改称されました。京阪国道（国道一号線）の予定地で、移転することになり、昭和4年（1929年）5月に着工、本館は鉄筋コンクリート2階建てで昭和5年（1930年）1月20日に完成しました。

昭和23年（1948年）3月には自治体警察として守口市警察が発足しました。当時、市の人口は5万4000余人で警察職員数は一般職を含めてわずか87人でした。

昭和29年（1954年）6月、警察法の改正で守口市警察は廃止されました。昭和30年代は守口市、庭窪町、門真町など1市5町、人口約10万余人の区域を管轄していました。

移転前の旧庁舎は、増改築を経て昭和50年（1975年）8月に鉄筋コンクリート地上5階、地下1階が完成しました。

また経済成長とともに人口増加、交通量の激増、治安の悪化などで昭和52年（1977年）4月に門真警察署が新設されました。

しかし、庁舎も老朽化が進みエレベーターもなかったため、令和3年（2021年）7月、西に約400㍍のところに新築移転し、開署しました。

入り口前に駐輪場（9台）があり、来庁者用の駐車場も拡充され、エレベーターもあります。

余談ですが、旧市庁舎と旧警察署の跡地にはイオンタウンや14階建の共同住宅ができるそうです。

2312

守口消防署本署

令和5年7月開署予定

（京阪本通2）





昭和23年（1948年）8月、守口市門真町庭窪町消防組合が1本部1署（守口消防署）2出張所（三郷・門真）体制で発足しました。

昭和32年（1957年）4月、守口市と庭窪町の合併に伴い、守口市門真町消防組合に改称。

昭和38年（1963年）8月、門真町が市制を施行し、守口市門真市消防組合に改称しました。

現在の守口市門真市消防組合　守口消防署本署の建物は築後59年ほど経過し、現在の耐震基準を満たしていません。また、交通利量の多い国道一号線に面しているため、救急車などが帰署する時は国道を封鎖して入庫する必要があるなど、運用上の課題を多く抱えていました。



これらのことから現在より西へ約150メートル先の旧市民会館跡地に、より使いやすく災害に強い庁舎を新築することになりました。

新庁舎はエレベーターが設置され、地上6階・地下1階建てです。この令和5年（2023年）5月に完成の予定ですが、運用されるのはもう少し先になりそうです。

実践的な訓練が可能な「訓練塔」が併設され、1階には車庫や風呂場、2階から3階は仮眠室と食堂、4階には設備用のスペースなどがあります。

2313

西部コミュニティセンターレクリエーションホールとたきい公園

令和4年1月オープン

（文園町8−8）





平成4年（2022年）に京阪電車滝井駅北すぐ、大阪Metro太子橋駅からも近い旧さつき小学校（旧滝井小学校）の跡地に西部コミュニティセンターレクリエーションホールが新規オープンしました。

この施設は、年末年始（12月29日～1月3日）を除く午前9時から午後10時まで開館し、バスケットボール、バレーボール、ソフトバレーボール、バドミントン、卓球などのスポーツ活動だけでなく、各種イベント活動や教室などが開催されています。

和室（30人）、会議室（24人）、料理実習室（24人）とレクリエーションホールがあります。レクリエーションホールは全面が460円／30分で借りることができます。駐輪場はホール側に約54台、駐車場は7台（うち障がい者用1台）あります。向かいの本館図書室やロビーはこれまでどおり予約なしで無料で利用できます。

すぐそばには新しく「たきい公園」ができています。

たきい公園は内環状線に隣接し、防球ネットが張られています。遊具はありませんが、都会では少ない「ボール遊びができるひろば」とあって近くの子どもたちがよく利用しています。

2314

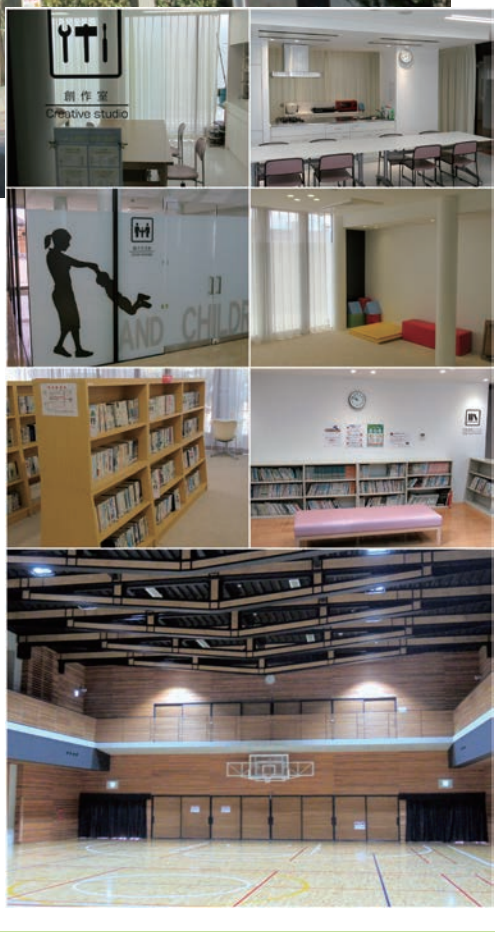
東部エリアコミュニティセンター

平成30年8月オープン

（大久保町1－南27－6）







東部エリアコミュニティセンターは、京阪電車大和田駅から徒歩約17分、萱島駅から徒歩約10分のところにあります。

市民活動の場として親子交流室、会議・セミナー室5部屋、和室、工芸室、調理室2部屋、バスケットゴールを備えた多目的ホール、スタジオ、図書室、卓球やダンスができる東体育室などを備えた施設です。

開館は年末年始（12月29日～1月3日）を除く午前9時から午後10時までで、毎日開館しています。駐輪場、駐車場もあります。

市内や北河内6市、大阪市に在住、在勤・在学の人ならここで図書などの貸出に必要な有効期限5年の利用者カードの発行ができます。

カードは、守口市立図書館、守口文化センター、守口市内全てのコミュニティセンターの各施設で利用出来ます。皆さんぜひご利用ください。

授乳室が各階にあり、室内にシンク、オムツ台、椅子、オムツ用のゴミ箱はありますが、調乳用の給湯器はありません。狭いのでベビーカーは入りづらいとのことです。また、照明が人感センサー式で、授乳中に消えてしまうことがあるそうです。

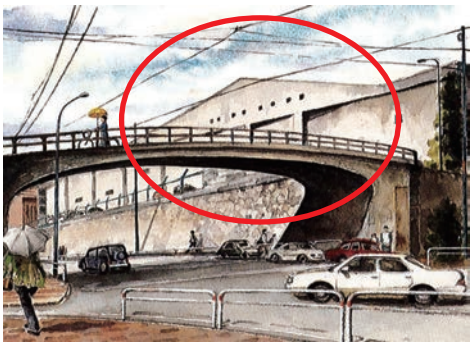
2315

（旧）市民会館の落成式

（本町2）







（旧）市民会館が昭和32年（1957年）文禄堤本町橋横の以前は守口町役場や公民館があったところに勤労者のための福利厚生施設として、鉄筋コンクリート造4階建、総工費約2,900万円で建てられました。当時は労働会館と呼ばれていました。

大集会場は定員574人、補助椅子を利用すれば約700人が収容でき、大・小の会議室、和室などがありました。

昭和34年（1959年）この市民会館に公共の結婚式場が新設されました。挙式料500円、式場料4000円、着付け室料50円の低料金で大変人気があり、翌年には第二結婚式場も増設されました。

結婚式場は昭和34年213組、35年332組、38年557組の利用者がありました。この数字をみるとすごく好評だったのですね。私は、昭和38年（1963年）に守口市に奉職。当時は組合活動が盛んな時期で幾度もこの市民会館を利用しました。

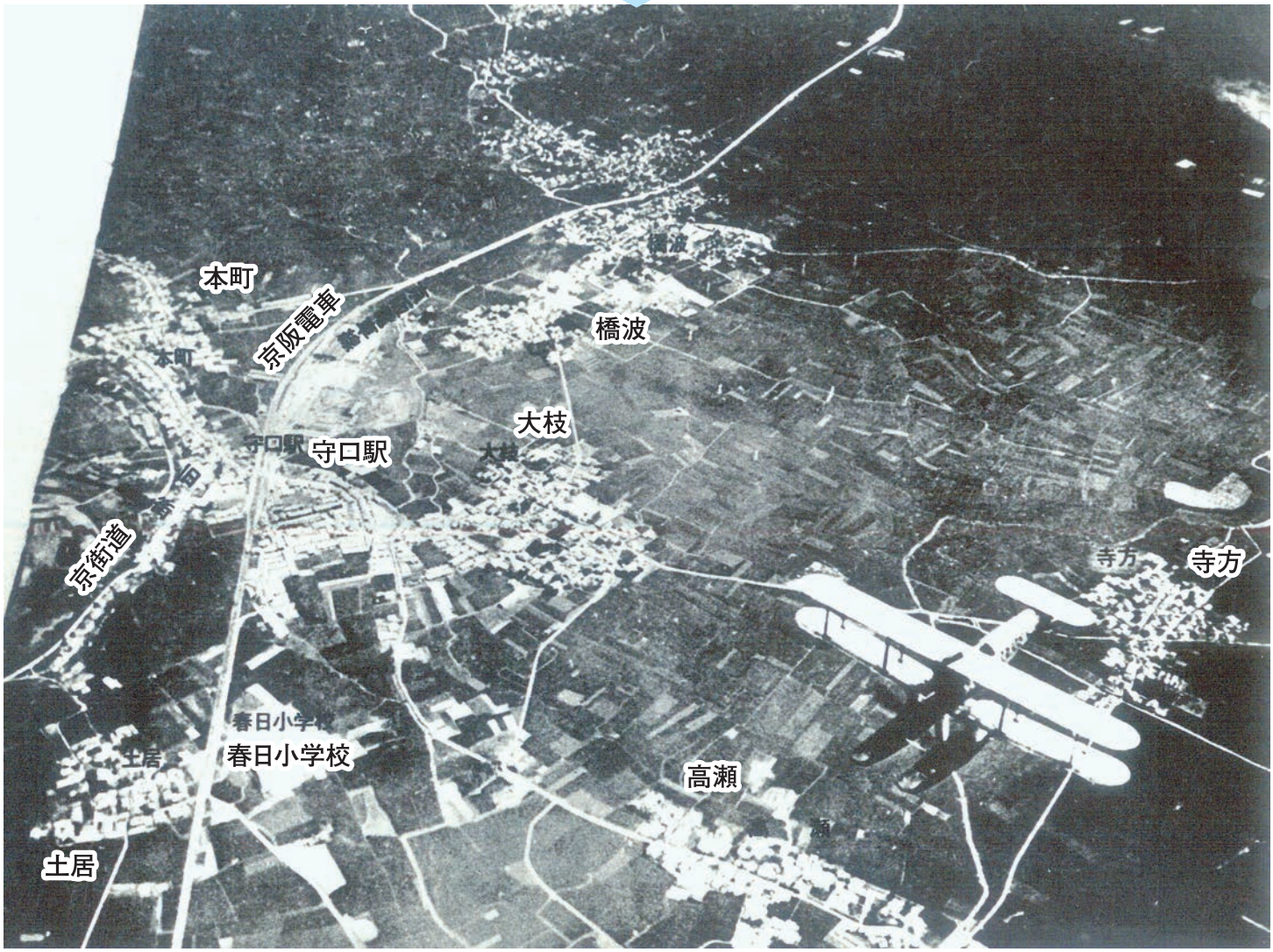
昭和41年（1966年）に京阪本通に市民の交流や文化活動・催し物の場として新しく鉄筋コンクリート造地上4階、地下1階の市民会館「さつきホールもりぐち」が建設され、4月から電算機センターとして活用。その後、名称を変えホテルなどに利用され、現在は高層マンションが建っています。

新しい市民会館は、定員が1008人で期待を裏切ることもなく結婚式場もありました。車28台が収容できる駐車場が併設されていましたが、老朽化や水害などもあり、多くの市民から惜しまれながら平成26年（2014年）3月廃館になりました。

2316

守口町の珍しい航空写真

大正12年ごろ



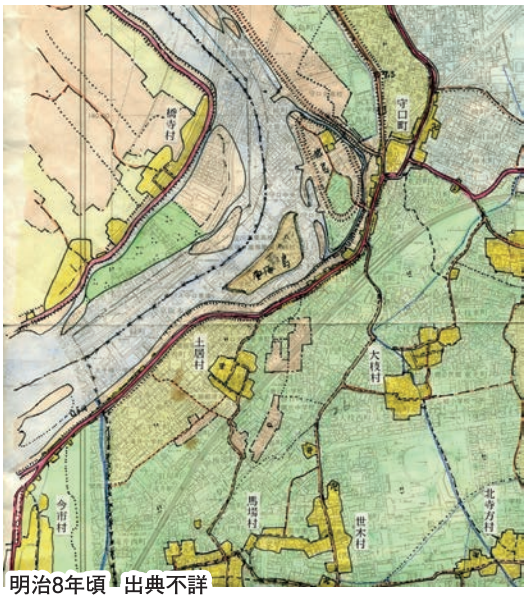
写真は飛行機のさらにその上の飛行機から撮ったもので非常に貴重な写真です。大正12年（1923年）ごろに撮ったもので、今から100年前の守口町・三郷町あたりです。

左端中央が京阪電車の「守口駅」です。その南に春日小学校があります。左側の集落は土居村です。尾翼の下の集落は寺方村です。

写真を見て当時をいろいろ想像してみてください。左下に春日小学校とありますが、春日小学校は昭和32年（1975年）創立です。位置が分かるように記入したものでしょう。

大正4年		大正7年	
守口町			
人口	2,402人	人口	2,575人
男	1,228人	男	1,272人
女	1,174人	女	1,303人
戸数	569戸	戸数	657戸
庭窪村			
人口	4,486人	人口	4,463人
男	2,167人	男	2,134人
女	2,319人	女	2,319人
戸数	791戸	戸数	800戸
三郷町 ※1			
人口	2,592人	人口	2,621人
男	1,274人	男	1,292人
女	1,318人	女	1,329人
戸数	457戸	戸数	458戸

※1 橋波・世木・大枝・馬場・寺方を含む



明治8年頃　出典不詳

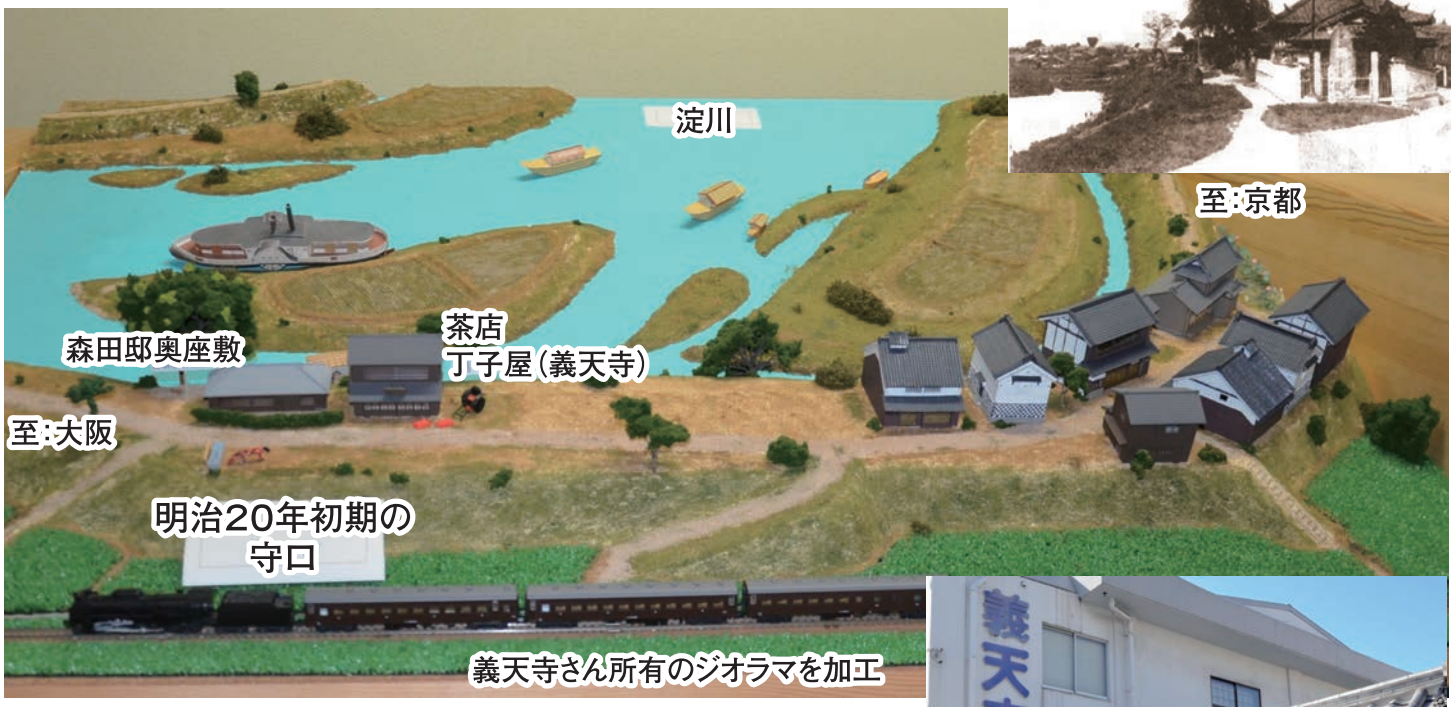
2317

義天寺と淀川

（本町1）

引用（参考）元：Seijun's Blog
守口・義天寺へ







右上の写真は明治30年（1897年）頃の義天寺で、あまり鮮明ではありませんが、大変貴重なものです。

左の白い部分が当時の淀川です。右が東海道、お寺をはさんで淀川におりる細い道がありました。

豊臣秀吉は文禄3年（1594年）に伏見城を築城しましたが、伏見と大坂を結ぶ道がなかったため毛利三家と淀屋に命じて文禄堤を築堤しました。もちろん淀川の洪水や戦略・水運を考え、堤防上を東海道（京街道・大坂街道）としました。

元和元年（1615年）、徳川に政権が移ると街道の整備にかかり、西国大名の行動を監視するために大津から大坂まで東海道を延長しました。

そこで守口は東海道57番目の宿場になり、江戸時代から宿場町として栄えました。

秀吉の時代に築堤された文禄堤もいろいろな事情でとりこわされ、現在720㍍ほどが残っているだけです。

余談ですが、義天寺は明治のころまでは、森田伊六の茶店「丁子屋」でした。明治23年（1890年）7月に佛立宗開祖日扇上人が、新造された三十石船で大坂へ下る途中、茶店の奥座敷で休まれていたところ、急に体調がわるくなり遷化されました。その茶店を買い取り日聞上人によって造られたのが義天寺です。右下の資料は明治18年（1885年）の測量地図と今の地図を重ね合わせたもので、淀川と文禄堤（京街道）、現在の位置関係がよくわかります。左下の赤丸の所に義天寺があります。



引用（参考）元：新之介のBlog
京街道を歩く・守口の文禄堤

2318

カナディアンスクエア

（河原町）



このあたりは河原町と呼ばれ、かつて商店街や京阪電車の車庫があった所です。町名は淀川本流の河原だった所からついています。

守口市駅の拡張工事が昭和30年（1955年）に始まり、商業施設など駅前の再開発事業が昭和60年（1985年）7月に完成しました。

京阪百貨店から旧プリンスホテルやテルプラザへはアポロン橋、クリスタル橋が架かり橋の上には穴があいたパッセージがあります。そのすぐ横にはあいた穴にはまるような丸い石もおかれています。これは「人々の永遠の流れ」を表現しているそうです。

京阪百貨店の駐車場のそばに「愛の鈴モニュメント」があります。ここには子どもを交通事故から守り、すこやかに育つようにと「愛の鈴運動」をしておられた守口青年会議所が埋めたタイムカプセルがありました。

旧三和銀行の前には「人間と光の交流」を表現した石でできたような市民憲章の大きなモニュメントがあります。機会があればぜひ見てください。

また守口文化センター前には34年間市長を務められた木﨑正隆氏像が、優しいまなざしで市民を見守っておられます。

バスターミナルやタクシー乗り場、旧富士銀行、守口文化センター、京阪百貨店で囲まれたカナディアンスクエアはいつもイベントがあり、今では表玄関としての顔をもつ市民の集いの場となっています。



PASSAGE



人間と光の交流

2319

全国自転車平和リレー

（旧庁舎玄関）









昭和30年（1955年）から60年（1985年）代は経済の発展とともに労働組合活動が盛んになり、いたるところでいろいろなイベントが行われました。

市でもシンポジウム、盆おどり、展示会、校区対抗競技会、公民館祭、植木市、非核平和写真展、メーデーや平和行進などいろいろなイベントが開催されていました。

そして被爆国の日本では「核実験反対」の平和運動が積極的に行われるようにもなりました。

当時は世界各国が競って原水爆の実験を行い、昭和29年（1954年）3月1日には第五福龍丸乗組員の久保山愛吉さんら23人がビキニ環礁でのアメリカの水爆実験で被ばくし、久保山さんが死亡する事件がおこりました。

写真は、東京から広島までの全国自転車平和リレーの様子です。原爆投下日までに広島に着くように日程が組まれていたそうです。

私も守口教職員組合員として平和徒歩リレーで枚方から守口まで真夏に歩いたことがあります。旧本庁舎前で多くの人に迎えられ、水やジュースを頂き大歓迎を受けたことを思い出します。

上の写真は、旧庁舎玄関の屋根に登り、平和行進を歓迎している様子です。掲げられた看板には「歓迎　守口市 原水協」とあります。

2320

東海道守口宿「中島屋」

（本町2−5−32）



東海道守口宿の文禄堤上にある「中島屋」
写真は毎日新聞、令和元年（2019年）11月14日より



江戸時代、東海道は幹線街道のひとつで、守口宿は参勤交代の大名行列、伊勢参り、旅行者などで大変賑わっていました。

伏見から大坂へは淀川を三十石舟などで下り、街道を歩く人の多くは京へ向かうのぼりが多く、このことから守口宿から淀宿までを片宿（かたしゅく）と呼んでいます。

江戸時代は守口宿の旅館と言えば、「魚萬」「中島屋」の2軒が代表格でした。昭和10年（1925年）ごろから料理屋専門の許可を取った「太閤温泉」「大喜」「まさや」などが開業しました。

昭和23年（1948年）ごろから府知事の許可制となり、旅館は11～12軒ほどになっていました。大阪市内より郊外で宿泊した方が安いということや松下や三洋、神戸電機、東洋紡など繊維やメリヤス関係の人も多く利用するため最盛期には23軒程になり、結構繁盛しました。

中島屋の奥さんと三洋電機の奥さんが古い知り合いで、三洋電機の奥さんが中島屋を譲りうけ、戦後三洋電機の寮として使用していましたが、現在は小野山診療所になっています。

中島屋前の道標に「右なら、のざきみち」とあります。奈良や野崎への道標に続く坂道は来迎坂と呼ばれ、来迎寺へ繋がっていたのかもしれません。安土桃山、江戸時代は難宗寺へつながる街道です。

2321

佐太天神宮

（佐太中町7－16－25）





祭神は菅原道真です。道真は学者の家に生まれ、早くから父に学問を習い11歳の頃には大人も驚くほどの漢詩を作りました。

大学で文書を学び26歳で朝廷の役人になり、35歳で博士になりました。寛平3年（891年）宇多（うだ）天皇は藤原時平、中平、忠平の3人兄弟の勢力をおさえるために、道真を蔵人頭（くろうどのとう）の役につけるなど、宇多天皇の信頼を得て、とんとん拍子で右大臣まで出世しました。

時平は嫉妬（しっと）や裏切りをおこし、例えば醍醐天皇に時平が「道真が娘婿である皇弟斎世（ときよ）親王を天皇にしようとしている」と告げ口をしたことで天皇の怒りをかい、延喜元年（901年）太宰権師（だざいのごんのそち）（今の福岡県太宰府）に左遷され、その2年後に亡くなりました。

佐太天神について『略史』によると道真公死後、約50年後の天暦年間（947年～57年）里人がその徳をしたって道真公が残した「自作の木像」を御神体としてお祀りしたのが始まりとあります。中世の様子はわかりませんが、河内国茨田郡大庭庄の総社となり、天正8年（1580年）小出播磨守秀政が社殿を再興し、2代目吉政が千花千句の連歌を奉納しています。

慶長期に永井信濃守尚政が天神絵巻を見て、天神をうやまうようになり、本殿、拝殿、神門、鳥居などを造営しています。

ここには、天神絵巻（北野天神縁起絵巻）、菅原伝授手習鏡（すがわらでんじゅてならいかがみ）、白大夫神社、慶安三庚虎歳（かのえとらどし）二月二十五日銘の淀屋右衛門が寄進した石井筒（地上の部分を石で円形に囲った井戸）があり、この他にも刀など多くの宝物があります。

2322

藤田村の弥治右衛門碑

（藤田町3）





藤田村から大久保村を含む旧庭窪の地域一帯16ヶ村は湿地帯で、排水が悪く大雨や長雨になると八雲村以外の村からの水が集まり、水はけが悪く何日も排水せず湖のようになりました。農作物は水腐れや水傷みが毎年のように繰り返され、大きな被害を受けていました。

この地域の最もひどい土地は「樽地」と呼ばれ、酒樽を添えて田んぼを引き取ってもらったからだと言われています。

庄屋の小泉弥治右衛門は、樋（水門）の設置について下流地域とも何度も話し合ったと思われます。

また、代官所へも嘆願もしましたが許可がもらえませんでした。そこでしびれを切らした弥治右衛門は幕府の許可が得られないまま、慶安2年（1649年）に長さ13㍍、径8㍍排水樋を用意していた材料を用いて一夜のうちに設置したと伝えられています。

勿論下流の農民たちは怒り排水樋の撤去をせまりました。代官所も許可をしていないので、すぐに撤去するように命じましたが弥治右衛門は応じませんでした。

14年前、南寺方村の喜左衛門が無許可で排水樋を設置し、処刑されたことはよく知られており、弥治右衛門はよほどの覚悟があったと思われます。樋は残りましたが、代官所は弥治右衛門と妻浪江、16歳の長男源吉ら子ども2人も捕らえられ、慶安2年3月22日に現在の碑のあるあたりで処刑され、家は断絶されました。

幕府も少しは慈悲があったのか弥治右衛門の作った排水樋は撤去されず、樋のお陰で大庭・大窪両庄の560㌶を水害から救い、多くの作物が収穫出来るようになりました。

明治29年（1896年）に大蔵閘碑が建立されました。「閘」は水量を調節するための水門で、「大蔵」というのは樋を設置した「大蔵新田」のことです。碑のすぐ近く古川支流に「大蔵橋」がかかっています。

現在では排水樋は埋め立てられ、遊歩道になっています。

2323

天社宮（てんしゃぐう）

（藤田町２－19－17）





藤田村に藤田天社宮があります。いまは家や公園などができ、府道仁和寺東大阪線からは天社宮は見えませんが、藤田公園の南東の角にある小さな神社です。社殿は、昭和24年（1949年）に建立されたと記されています。

平安時代陰陽寮の天文博士であった安倍晴明を子孫とする土御門神道の祭神である泰山府君（たいさんふくん）、深沙大将（じんじゃたいしょう）、安倍晴明などが祀られています。これらの神を祀る神社を藤田の村民は土御門とのつながりがあり、祝祭典の館具であった関係から陰陽道（おんようどう）歴代組として宮廷へ参任したそうです。

村には近世陰陽師がおり歴代組と言っていました。初期は3家でしたが、のちに65家になりました。

陰陽家土御門家の支配下にあって歴代天皇の大典（国家のたいせつな儀式）をはじめ、各種の祭礼をはじめ天地異変に対する祈祷に従事するなど、代々禁裡（きんり：天皇の住んでおられる所）に奉仕したとも伝えられています。現在はひっそりと藤田地区を見守っているように見えます。

2324

地域総出でザリガニ捕り





アメリカザリガニ

ザリガニは水田が大好きで、田の畦に穴を掘って巣を作ります。水田の水漏れや稲を食べるなどの農業被害をおこすので農民からは嫌われものです。子どもたちは大好きな生き物です。

ザリガニは日本ザリガニや海に住むものもいますが、日本で最も多く繁殖しているはアメリカザリガニです。

アメリカザリガニは、もとはミシシッピ川に住んでいたのですが昭和の初め頃に食用ウシガエルのエサとして20匹ほど輸入されました。その20匹が全国に広まったのです。

ザリガニのふる里のミシシッピ川は、ザリガニを食べるウシガエルやサギ、ワシ、キツネ、ワニなどがいたので日本の田んぼアメリカザリガニにとってはパラダイスなのです。

アメリカザリガニの産卵期は4月から11月頃で、水温14～30℃ぐらいの間で、一度におよそ200～300個の卵を産みます。

孵化したザリガニは4㎜ぐらいの大きさで、7～8回ほど脱皮を繰り返しながら穴に潜って冬眠します。その後、春に目覚めてさらに2～3回脱皮をして成体となります。寿命は長くて3～4年です。

今守口では農業しておられる家がほとんどなく、子どもたちもザリガニ捕りをしないようですが、いくら捕ってもとっても全滅は難しい生き物です。

ある地域では子どもたちに、ザリガニ捕り大会などを開催して駆除していますが、あまり効果はないでしょう。

2325

中国広東省中山（ちゅうざん）市との友好都市調印式

（昭和63年4月）





市史（本文編第五巻）より

中山市と守口市は昭和59年（1984年）から友好交流を始め、以後両市の間で、積極的に相互訪問が行われ、昭和62年（1987年）11月に喜多市長を団長とする守口市友好訪問が中山市を訪問し、中山市側と友好都市締結に関する議定書および調印式の実施要領などを協議し、双方合意に達し、両市にとって記念すべき調印式を迎えることになりました。

昭和63年（1988年）4月18日、守口市と中国広東省の中山市との友好都市締結の調印式が、湯炳権中山市長を団長とする中山市友好訪問団と梁根甫福市長を団長とする同市日本視察団の一行総勢16人を迎えて守口文化センターで行われました。

中山市は偉大な革命家、孫中山（孫文）の故郷で、800年余りの歴史を秘めています。

大正14年（1925年）孫中山を記念して中山県となり、昭和58年（1983年）2月22日、国務院の許可を得て現在の中山市となりました。

珠江デルタの南に位置し、北の広州と80㌔、南のマカオと60㌔、東の香港と50㌔離れたところにあります。人口は108万人で土地は肥沃（ひよく）で、気候も温和で物産に恵まれ、交通至便なころです。

経済開放区にも指定されており、電子、家電、建築材料などの工業の発展はめざましいものがあり、養蚕業や養豚も盛んであるとともに観光地としても有名です。翠亭村、中山温泉長江楽園などは年中観光客で賑わっています。

2326

カナダブリティッシュ・コロンビア州ニューウエストミンスター市との姉妹都市提携

（姉妹都市提携締結 昭和38年4月　親善使節団の公式訪問 昭和62年10月）



守口市とカナダのブリティッシュ・コロンビア州ニューウエストミンスター市とは、昭和38年（1963年）4月10日、守口市市民会館で木﨑市長とベス・ウッドニューウエストミンスター市長が調印。姉妹都市宣言を行いました。

姉妹都市提携締結の年に都市提携協会が発足し、本格的に市民レベルでの国際交流がはじまりました。

昭和62年（1987年）10月6日から4日間にわたってニューウエストミンスター市からトム・ベイカー市長夫妻をはじめ、市の文化・経済・教育・工業の親善使節団15人が守口市を公式訪問されました。

市と市都市提携協会主催の歓迎レセプションでは郷土芸能などを披露し、一行はホームビジット（家庭訪問）などで市民との交流を通して友好を深め合いました。

市から定期的に学生や親善使節団を派遣する一方、ニューウエストミンスター市からも市関係者はもちろん市民や学生、スポーツ団体など多くの人が守口市を訪れ、ホームステイや市民まつりなどの行事などを通じて相互に交流を重ねています。

また、平成5年（1993年）には、姉妹都市提携30周年を記念して「守口・ニューウエストミンスター市姉妹都市提携30周年記念奨学金基金」が設立され、この基金を活用し、毎年守口市民がダグラスカレッジの「夏期英語研修講座」（約7週間）に特別留学生として派遣され、英語や海外の生活を学んでいます。

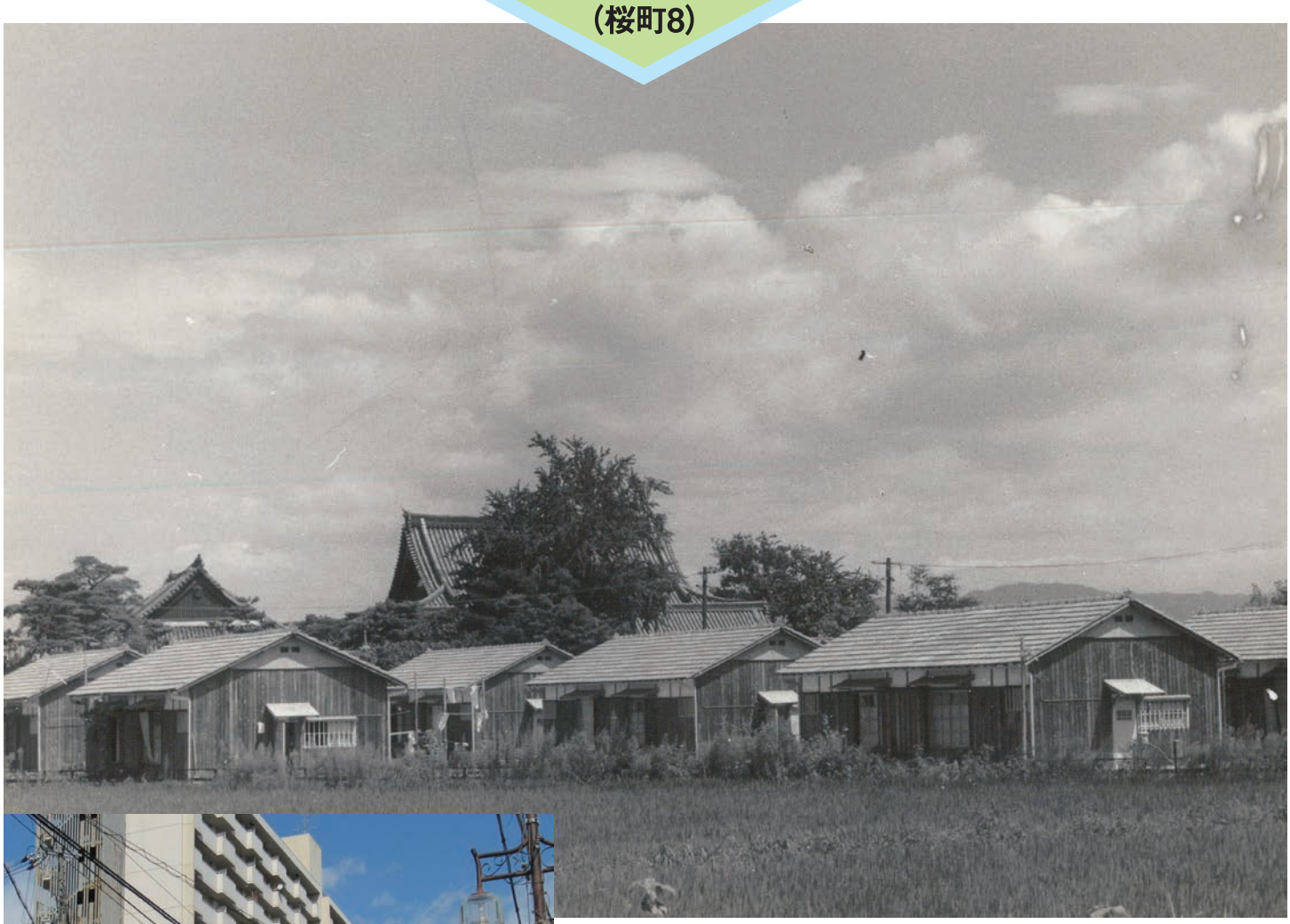




2327

市営桜町団地

（桜町8）





昭和5年（1930年）には守口町、昭和13年（1938年）には三郷町が大阪市への編入を希望してきました。大阪市も災害によって甚大な被害を受けたため、編入されても両町の懸案である諸施設の建設は早急に実現しないとしてみおくられました。

そこで、昭和21年（1946年）11月1日、守口町と三郷町が合併し市名を守口市としました。新生守口市は人口4万7979人で全国207番目の市となりました。

守口市が力を入れたのが市営住宅の建設です。まず昭和23年（1948年）に平屋住宅100戸の寺方団地、続いて五番団地や梶第1団地などがたてられました。

昭和25年（1950年）の国勢調査では、13774世帯、人口5万8053人となりました。人口密度は全国平均が226人、都会1574人、町村の平均が149人の時、守口市の人口密度は1万691人、都市平均の6.8倍で日本一といってもいいくらい過密な状況でした。

その後、昭和31年（1956年）大宮団地30戸など170戸、昭和47年（1972年）、桜町団地54戸など市営、府営住宅が合計約60団地ほど建てられました。人口も昭和49年（1974年）には18万4, 259人とふくれあがりました。

※平成7年（1995年）は、人口密度全国第4位で人口密度は1万2403人です。

写真は2戸1棟の平屋建ての桜町団地です。奥にみえる大きな瓦葺の屋根は手前が浄土真宗本願寺派の難宗寺、左奥は真宗大谷派の盛泉寺のようです。

現在では多くのマンションが建ち並び活気にあふれる街になっています。

今はない建物

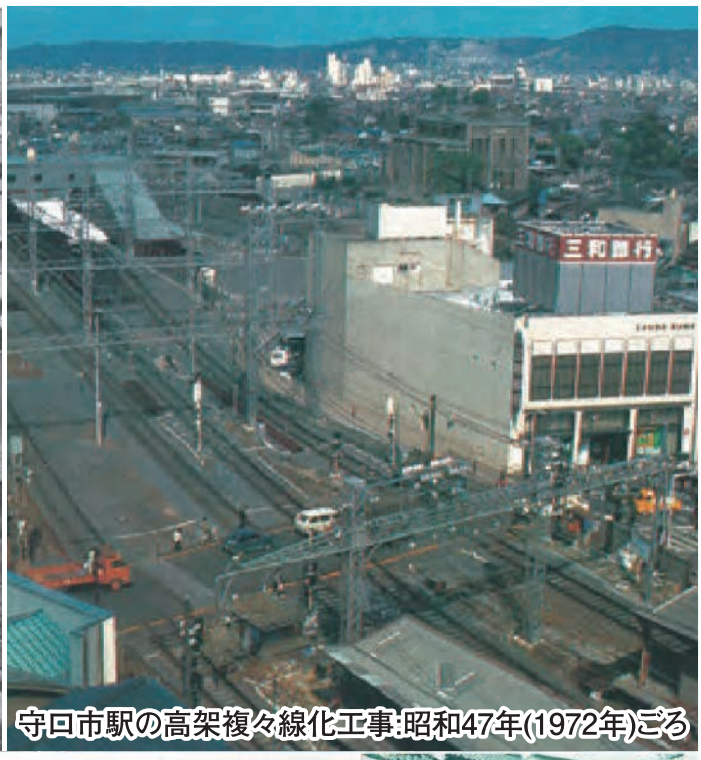


①市民会館　②市役所　③教育文化会館　④八雲バレーボールコート　⑤鎌倉峡キャンプ場　⑥市営プール(日吉・大枝・八雲・橋波・藤田)　⑦青少年センター　⑧保健センター　⑨大枝公園テニスコート　⑩勤労青少年ホーム　⑪消費生活センター　⑫市民球場　⑬老人福祉センター　⑭公設市場　⑮現代南画美術館　⑯コミカ温泉　⑰ゴミ焼却場　⑱ビバスケート

今はない風景



京阪電鉄・守口駅のようす：昭和28年(1953年)ごろ



守口市駅の高架複々線化工事：昭和47年(1972年)ごろ



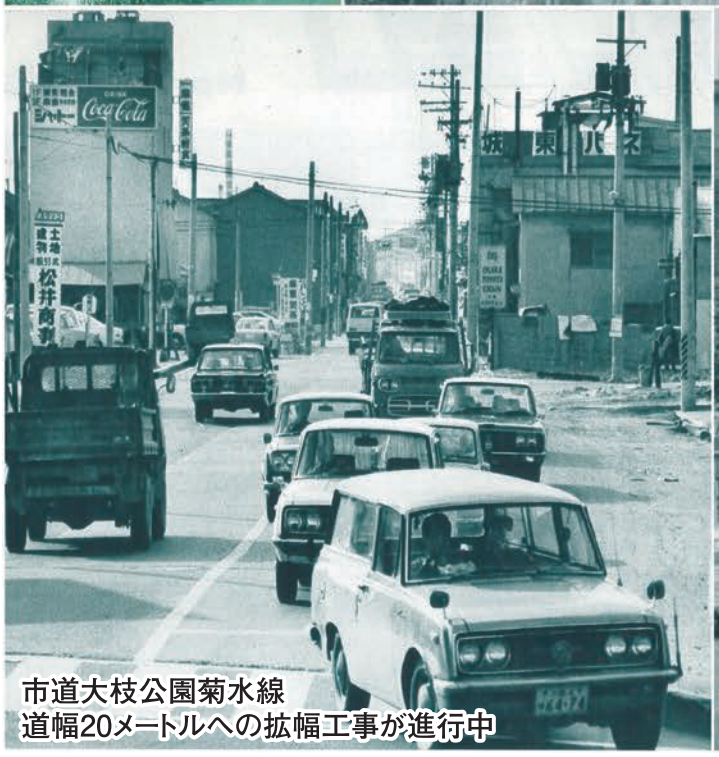




太公望で賑わう京阪池：昭和28年(1953年)ごろ







市道大枝公園菊水線
道幅20メートルへの拡幅工事が進行中

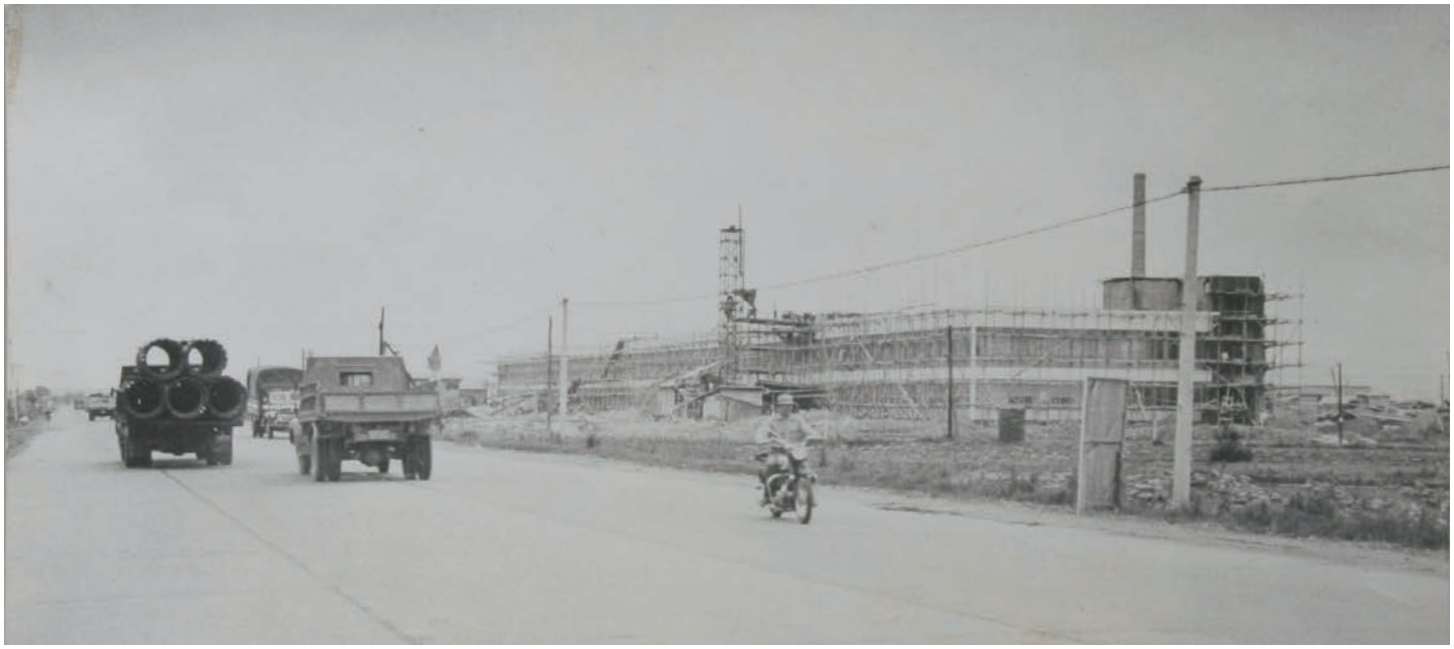


国道1号線
市内を通る大動脈(市民会館付近)

1901

三洋電機 淀川工場（昭和32年ごろ）

（さんようでんき よどがわこうじょう（しょうわ32年ごろ））







昭和8年（1933）、松下電器産業株式会社(当時は松下電気器具製作所)は、本店を大阪市北区西野田大開町（現・大阪市福島区大開二丁目）から大阪府北河内郡門真村大字門真（現・門真市大字門真）に移しました。そして同年にラジオ部門・乾電池・ランプ部門・配線器具・電熱部門を三つの事業所に分け生産し、終戦直後には従業員1万5000人の大会社でした。

その松下電器の専務取締役で松下造船、松下無線、松下飛行機などの軍需関係の責任者であった井植歳男が昭和22年（1947）2月に松下幸之助から自転車用発電ランプの製造権を譲り受け、個人事業「三洋電機製作所」を15人で起こし自転車用ランプの製造をはじめました。昭和25年には従業員が190人になり、守口市日吉町に本社工場を設立しました。

その後、北条工場（兵庫県北条町）、守口工場、庭窪工場を開設。昭和26年（1951）京阪本通2丁目に本社社屋を建設し、総合家電メーカーに発展していきました。

上の写真は電化製品が作っても作っても売れ、日本が急激に豊かになっていく時代の昭和32年（1957）頃のもので、レンコン畑だった所に大ヒットした噴流式洗濯機などの白物家電を生産する三洋電機淀川工場が建設されているようすです。

右下の写真は平成17年（2005）8月のもので、淀川工場の跡地に「大型商業施設イオン大日ショッピングセンター」が建設されるようすで、ショッピングセンターは平成18年9月29日にグランドオープンしました。三洋電機だけの敷地ではありませんが、広さは約10.1ヘクタールで甲子園球場のグランドの約7倍もあるそうです。

右下の工事中の写真には、バスターミナルや大阪モノレールの高架線路と大日駅、近畿自動車道も写っています。

1902

三洋電機 淀川工場（昭和32年ごろ）

（さんようでんき よどがわこうじょう（しょうわ32年ごろ））









昔、大阪の中心から見て、北河内の方角は北東にあたり鬼門とされており、開発が遅れていた地域でした。

しかし昭和8年（1933）に湿地帯で鬼門とされた土地の安い門真村に松下電器が本店を移し、守口町にも東洋紡績や神戸蓄電池工場などが建設されていきました。

三洋電機も次ぎつぎに工場をつくり、右上の写真は昭和32年（1957）ごろで電器釜、テレビ、洗濯機などを生産するために三洋電機淀川工場建設中のようすです。

左上の写真は完成した工場で、サンヨーテレビやサンヨー電気釜の文字が見えています。しかしこの辺りはまだまだ蓮畑が多く残っていました。右側上下の写真は淀川工場の工事中と完成後の写真です。同じ煙突が写っているのがわかります。

左下の写真は国道一号線で車が少なく、二人乗りの単車が走り、のんびりとした時代だったのですね。三洋電機も昭和38年（1963）には従業員も1万名を越え大会社となりました。

翌年には東京三洋電機を設立し、ホンコン、ガーナやアメリカのニューヨークを本拠とするサンヨー・エレクトロリック・インクを設立するなど海外にも進出し、発電ランプやトランジスタラジオ、小型のテレビやテープレコーダーの輸出が増えました。

しかし、平成に入り経営が徐々に不振になり、淀川工場も閉鎖され、平成18年（2006）9月27日には大型複合商業施設イオン大日ショッピングセンターになりました。

1903

守口幼稚園まえでの防火訓練（昭和31年ごろ）

（もりぐちようちえんまえでのぼうかくんれん（しょうわ31年ごろ））







右上の写真は、昭和31年（1956）、市役所前での消防ポンプ車による放水訓練のようすです。

このポンプ車は昭和27年（1952）関西で初めて導入された新鋭装備をもつ消防ポンプ自動車で、約12,000円ほどで購入されたようです。

この消防車には火災の現場に到着すると同時に放水ができように放水銃が取り付けてあります。放水、給水、散水とも運転台からスイッチを切り替えるだけで簡単に操作できる消防車で、特に初期消火に大きな威力が発揮できるとあって、放水訓練には多くの人が見物に来ました。

左上の写真は昭和31年頃、守口幼稚園前で行われた防火訓練のようすで、車はボネット型ポンプです。守口幼稚園は守口市緑町にある幼稚園で、戦前は大阪集成高等女学校でした。

第二次世界大戦中の昭和20年（1945）6月7日11時ごろの空襲で校舎は全焼。防空壕に爆弾が直撃し、先生1人と生徒7人が犠牲になられたと記録されています。その後、女学校は廃校になり、昭和24年に「学校法人大阪集成学園守口幼稚園」が設立されました。

考えすぎでしょうが、そんな歴史もあり消防署が消火訓練の場所として守口幼稚園を選んだのかも知れません。左の写真の左奥に見える煙突は「みどりゆ(温泉)」のものです。

偶然にも河田英子守口幼稚園長のご主人、京都大学名誉教授の河田惠昭さんは、「減災」「縮災」と言う言葉を提起され、災害が起きることを前提として建物の耐震・防火から避難訓練、復興準備までをあらかじめ想定、実施することを広く呼びかけられておられます。

1904

早苗町信号機新設点灯式（昭和39年ごろ）

（さなえちょうしんごうきしんせつてんとうしき（しょうわ39年ごろ））





上の写真は昭和39年（1964）頃の早苗町での信号新設点灯式のようすです。この辺りもお店や建物などはかなり様変わりしています。

写真左の京阪バスの前に移っている階段は、文禄堤に架かる守居橋の西側に上がる階段です。数年前までこの角には早苗幼稚園がありましたが移転し、現在はコンビニになっています。

日本で道路用の信号機は、大正8年（1919）に東京市の上野小路交差点に試験的に設置されたのがはじめと言われています。昭和39年頃は信号機ができると点灯式が行われるほど重要だったのですね。

この場所は結構複雑な交差点で、北から来る道や東から来る道、西から京阪電車高架をくぐって通る道、四国銀行守口支店西側と北側から来る道、さらに守居橋の南側の道との6差路になっている所です。このような交差点には、もう少し早く信号がついてもよかったと思います。

信号機の新設を大勢の人たちが歓迎し、警察官や神主さん、近くの幼稚園児や保護者たちも渡り初めなどをしていたのですね。今の都会では信号がないと生活ができないほど貴重なものです。

1905

寺内保育所（昭和28年ごろ）

（じないほいくしょ（しょうわ28年ごろ））







1906

寺内保育所（昭和28年ごろ）

（じないほいくしょ（しょうわ28年ごろ））









守口最初の保育施設は昭和18年（1943）6月1日に開設され、土居町にある清澤寺が運営に当たられていました。

戦後の日本では戦争の影響で母子家庭が多く、母親も生活のために外へ出て働らかざる得なく、子どもを安心して預けることができる施設の設置要望が強くだされました。

それに応える施設として、昭和22年（1947）7月、清澤寺から市に寄付され、市立の寺内保育所が京阪電車守口市駅近くに開設されました。

保育所は民生委員の前身の「方面委員」が運営の託児所の寄付を受け、発足したものです。



真宗大谷派 清澤寺

左上の写真は昭和28年（1953）頃のものです。もちろん木造の園舎で、一人の保母さんが多くの子どもをみておられ、木造の滑り台にも多くの子どもたちが群がっています。この保育所のあったところは平成16年（2004）4月1日に認可を受け、社会福祉法人恵育会が守口市より委託運営している寺内さくら保育園となりました。

さくら保育園は子どもの人権や主体性を尊重し、生活に必要な基本的慣習にを身につけ、優しい心もてる健やかに成長されることをモットーとしておられます。写真の園児たちも今では古希近くになられ、立派に成長されたことでしょうね。

1907

農業用水路（昭和32年ごろ）

（のうぎょうようすいろ（しょうわ32年ごろ））

守口市の地下水は金気（かなけ・鉄気）が多く、飲料水には利用できず淀川から直接水を引いていました。

上の写真は昭和32年（1957）頃のもので、今の桃町緑道公園のあたりと注記されています。

この辺りは明治時代後半に淀川の改修が行われるまでは淀川に狼島と外島があり、その島の間を通っていた五箇樋川の水路です。

水路は守口荘・橋波荘・高瀬荘・寺方荘・稗島荘の5箇荘への用水路で飲料水や灌漑などの生活用水路で、淀川から水を取り入れ旧京阪電車守口車庫付近を通り、京阪池にもそそいでいました。

幅は2～3㍍ほどで、深さは1㍍ほどあり、朝一番に飲料水を汲み、その後は洗濯をし、川舟が行き交いしていました。夏場になれば子どもたちが水遊びや泳いだり、魚とりをしてそれを豆と一緒に炊く「雑魚豆」が守口の名物の一つになっていました。

もちろんこの水は、灌漑（農業）用水としても利用されていたので、1年に一度は村の人たちが総出で水路を掃除しました。それほど村人たちはこの水路を大切にしていました。

大正14年（1925）4月、大阪市から上水道の配給を受けるようになり、この水路は邪魔者扱いにされ埋め立てられたり暗渠となってしまいました。

昭和40年代までは、水路跡の両側には石垣が残っていました。その後、花が植えられ、今では阪神高速12号守口線高架下の桃町の西端から地下鉄守口駅まで「桃町緑道公園」として美しく整備されました。

緑道公園は面積3,100㎡、長さ450mの細長い公園で「大阪みどりの百選」に選ばれています。公園内にはベンチや遊具もあり、ぜひ春の桜の頃に訪れてみて下さい。とても美しい公園です。

また、桃町緑道公園の南入口（地下鉄守口駅）の北（右）側にあった大野さんの家に、推理小説家の江戸川乱歩、本名平井太郎が大正期に家族とともに住み、『二銭銅貨』や『D坂の殺人事件』などを書いており、乱歩自身も「大守口」と記すほど守口がお気に入りだったのでしょうね。







1908

第一モリウ食堂（八島町）

（だいいちもりうしょくどう（やしまちょう））





守口市の中心部を通る国道1号線の守口一枚方間の工事は昭和27年（1952）に着工されたと『守口市史第五巻』にあります。

上の写真は八島にあった「モリウ食堂」です。国道1号線がない頃からのモリウ食堂はありました。写真にあるように立派な丈夫そうな建物で、昭和8年の室戸台風にも耐えたのでしょうね、

写真正面のお家も立派な家で、風景も広々した道を麦わら帽子をかぶり、自転車に大きな荷物を積みゆうゆうと走っておられます。今から考えると想像もつかないほど当時はのんびりしていたのですね。

「第一モリウ食堂」の縦書き看板と二階の窓横には「食堂」の文字があります。かつてモリウ食堂は外島の南端にありましたが、国道1号線の工事にともない立ち退きになり、江戸時代の京街道（東海道第57次）守口宿の高札場のあった所に移られました。現在の国道1号線の八島交差点に架けられている陸橋の東南かどの安田ビルです。その1階で長い間モリウ食堂を続けておられましたが、現在はその場所は「真鯛らーめんまるさ守口店」になっています。モリウ食堂の経営者の本名が「安田」さんで、自宅も兼ね安田ビルとして建てかえられたそうです。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1909

駅伝大会（国道1号線守口警察署付近）

（えきでんたいかい（こくどういちごうせんもりぐちけいさつしょふきん））







昭和20年（1945）8月、世界大戦で経済的にも物的にも身心共に大きな被害を受け、敗戦と言う形で戦争が終わりました。荒廃した国土で日本国民全員が何とか復興に向け這い上がろうしていました。
守口も昭和21年11月1日に三郷町と合併して新生守口市が誕生し、昭和22年11月には「守口市体育連盟（現NPO法人守口市スポーツ協会）」が結成され、市民の体育振興のため、同年11月には市民体育大会がおこなれました。各種目やレクリエーションに多くの市民が大会に参加しました。

昭和26年（1961）12月12日には守口市駅伝競走が開催されたとの記載が広報27号にあります。しかし、残念ながら上の写真の年代や距離、コースなどは不明です。

上の写真は、建て替えられる前の守口警察署付近で、たすきの引き継ぎをしています。多くの人が応援に駈けつけ、警察署の屋上にも見学人がいます。ジープが選手の後方で誘導しているようにもみえます。右の写真はたすきリレーが終わったあとに多くの三輪トラックが走っています。駅伝のために車の通行止めはしなかったのですね。写真に写っている読売新聞の販売店は、今も営業されています。

写真の看板よく見て下さい。年末なのでしょう、「完全防犯明るいくらし、暴力追放、サンタクロース」などもありますし、国道1号線の上には、万国旗らしいものが渡されています。

1910

守口市立公民館大枝分館（旧三郷町役場）

（もりぐちしりつこうみんかんおおえだぶんかん（きゅうさんごうちょうやくば））





守口町と三郷町は昭和21年（1946）11月1日に合併。市政が施行され市名はよく名が知られている守口、選挙があるまで臨時市長代理に木﨑正隆氏（前三郷町長）、臨時助役に山本宗一氏（前守口町市長）としました。新生守口市は人口4万7979人、全国で207番目で、大阪府11番目の市となりました。

写真は三郷町役場です。しかし、よく見ますと役場の看板がはずされ、「守口市立公民館大枝分館」の名称が掲げられ、昭和25年10月から34年3月までは大枝分館として利用されていたので、その頃のようです。

三郷町は早くから公民館活動が活発で、昭和23年10月に東橋波分館、昭和25年4月喜久の里分館、10月に大枝分館、翌年1月に西橋波分館、昭和29年4月に橋波分館ができ、昭和34年（1959）には社会教育法の改正により市内各地に多くの公民館の分館ができました。

守口市史によると、「三郷地区とは高瀬、橋波、寺方の三地区のことで、この三地区には守口町と合併する以前から大阪市郊外の住宅地として住民が居住していた。つまり戦前から近隣の地域活動が行われていた地区である。この地域の分館は、本館（守口市公民館）からの助成以外に、不足分地域住民からの会費徴収によって分館運営がおこなわれていたのです」。とあり、会費を出し合ってでも活動をするほど、地域住民がとても熱心だったのでしょう。

その後、交番所が設置され、横に三郷公民館ができ地域の文化面や運動会など体育面でも活躍してきましたが、公民館の役目を終えました。

守口市では、コミュニティ施設整備計画について、

「本市では、『もりぐち改革ビジョン（案）』(平成23年12月)において、主な公共施設の整備方針について方向性を定め、コミュニティ施設については、『市内数か所に集約し、社会教育施設（10館1分室）から地域コミュニティの拠点機能を持ち、多様な機能を併せ持つ複合施設に転換』することとしたところです。

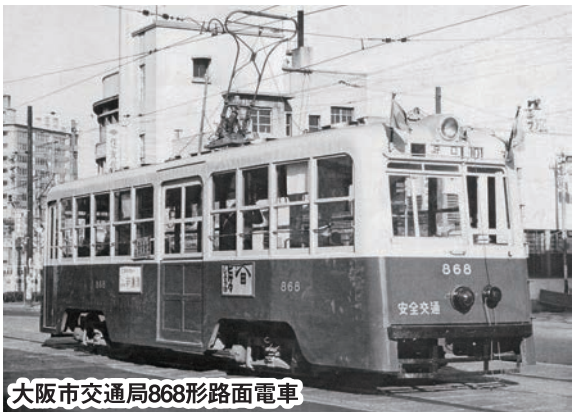
本市の将来都市像を見据えたまちづくりの実現に向け、コミュニティ施設（現在のコミュニティセンター）を地域コミュニティの活性化を図り、地域における活動の場として活用いただける施設となるよう検討を重ね、この度、本市における将来のコミュニティ施設の具体的な配置について取りまとめた計画を策定しました。」とあります。

1911

大阪市電（路面電車）守口

（おおさかしでん（ろめんでんしゃ）もりぐち）





大阪市交通局868形路面電車



写真は昭和28年（1953）ごろの国道1号線京阪本通2丁目交差点付近から内環状線方向にむかって撮ったもので、遠くに電車や市バスが写り右手に多く人がバス待ちをされています。右端にある都島自動車商会さんは現在も営業され、タクシー業務を行っておられます。

大阪市電の守口線の延長には住民の強い陳情があり、寄付者には「本電車線路ノ内旧市部ヲ除キ道路敷地三万三千坪、車庫敷地七千坪ヲ寄付スル」人もいました。

軌道敷地の予定地は淀川の廃川地で、盛り土をする必要があり、特に都島車庫の東は一面の湿地帯で葦が生え茂り水の深い所があり、電車軌道の敷地や金銭面でいろいろ課題があり議会も何度も開かれましたが、昭和6年（1931）についに念願がかない市電が守口町土居まで乗り入れられました。

守口町議会は、さらに京阪電車守口市駅までの延長を全会一致で決議し、大阪市へ陳情書を提出しました。しかし大阪市は費用が25万円もかかるとのことで二の足を踏んでいましたが、守口町では翌年にかけ延長促進の住民運動がおこりました。

特に当時の菊田町長は「市電が町の入口までついただけでは町としては頗（すこぶ）るものたらぬので今度は京阪の停留所前まで乗入方を運動したわけで、僅か7町余のところに市電が延長されるとされぬとでは町の繁栄にも重大な影響があり、その上、京阪電車と市電の連絡は最も必要なことと思ふ。今のところ実現するかどうか判らぬ為、極力市当局に運動して実現に努めるつもりでゐる」語っていた。『大阪朝日新聞、昭和6年1月14日』

京阪国道を東に進み、淀川工科高校のところ（現在の市役所前）を右折して、守居橋をくぐり京阪電車守口市駅に連絡する路線を計画していましたが、実現は叶いませんでした。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1912

大阪市電（路面電車）守口

（おおさかしでん（ろめんでんしゃ）もりぐち）





大阪市電は鶴原定吉大阪市長の時の明治36年（1903）、まず第1期線として花園橋（現九条新道交叉点）―築港桟橋（現在の大阪港/天保山）間の5.1㎞が開業しました。

大阪市議会で幾多の波乱をよんだ都島本通を起点に大宮町を経由、守口町駅に至る都島守口線は、まず昭和4年（1929）8月、赤川町―今市町間が開通しました。

この部分開通に続いて昭和6年10月16日都島守口線の土居町駅までの開通によって、大阪市内に出るのに京阪電車を利用していた森小路から守口町あたりの住民は京阪電車が改良線になって不便を感じていた人も多く、大賑わいのスタートとなりました。

昭和17年11月からは軍需工場の多い大正橋から鶴町方面への路面電車に女子工員の通勤のための婦人専用列車を走らせました。この年の12月から「午後10時以降に警戒警報が発令された場合には、郊外電車・市電・地下鉄で深夜非常運転をする」としました。

また、市電の座席を撤去・供出し、座席のないの市電を走らせたことで乗車定員が倍増し、車内の広告も軍国調一色でした。（『守口市史第四巻』）

この市電が守口町の土居までくることで、多くの人が行き来するため土居商店や旭通商店街、京阪商店街もなかり潤い賑やかな商店街でした。

しかし、車社会になり市電やトロリーバスなどは邪魔者扱いにされ、昭和44年(1969)3月31日をもって阪急東口―都島車庫―守口間も市電最後の区間として全線が廃止されました。トロリーバスも昭和45年に廃止になりました。

看板をちょっと拡大してみてください。懐かしく楽しいものです。「総合ビタミン剤ミネビタール(三共製薬)」の看板や「印刷啓文社、麻雀みどり、質扇屋、市川洋画研究所、貸本朝日書房、粟おこし明月堂」などが読み取れます。

参考資料　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

1913

大阪市営バス

（おおさかしえいばす）





大阪市営バスは、昭和2年（1927）都市計画学者の關一第7代大阪市長により、あべの橋―平野（現在JR平野筋）の間で開業しました。

都市交通ではバスが電車を圧迫していきましたが、戦時体制下、「従来乗合自動車にたよっていた乗客のうち電車の軌道に沿ったものは国策上電車に乗るべきである」という論調や主務省の意向によって、バスは原則として電車との併行線を廃止し、電車のない方面に運転されるようになりました。（『大阪市交通局五十年史』）

やがて大阪市営バス（銀バス）は競争相手の通称青バス（大阪乗合自動車）を買収統合。青バスが営業している乗客密度の高い都心部路線を手に入れ、昭和13年（1938）11月に実質的にすべての路線が大阪市に移ることになりました。

市バスも昭和16年9月にはガソリンの配給停止によりガソリン車の運行が不可能となり、木炭車が中心となりました。しかし木炭バスはガスの発生まで時間がかかるうえ、ガスの調整が難しいことなどエンジンを傷めることが多く、故障の連続であったそうです。

守口町の木炭バス車庫（大阪市営バス守口自動車運輸事務所）は、字土居京阪国道北側にあり、市電都島守口線の車庫として提供されたところです。プラットホーム式の新式設備を誇り、「木炭自動車も安全」といわれた車庫で、バスが背面を合わせて1棟24台を収容し、同時に280台が操作できました。木炭をおこすに30～40分かかったのが僅か10分でガスまで発生させました。（『守口市史第四巻』）

戦前、大阪市営バスは今市駅までで守口町までは延長されなかったのですが、戦後の昭和41年（1966）頃は保有バスは1886台もあり、守口市内の八番まで乗り入れていた時期もありました。

しかし平成12年（2012）年には663台から100台以上も削減されました。写真の正確な年代は分かりませんがボンネット型、服装などからみて昭和30年代のようです。

また看板には「山本たばこ店」「バス大阪駅前行き急行、切符うり場」写真の立て看板には「お好み焼き、氷、うどん、そうめん、丼物、洋食駒鳥」とあります。「山本たばこ店」は休業されていますが、赤いテントに面影が残っています。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1914

大阪府営寺方住宅（寺方本通二丁目3番地付近）

（おおさかふえいてらかたじゅうたく（てらかたほんどうり2ちょうめ3ばんふきん）









左上の写真は大阪府営寺方住宅です。場所は国道163線（通称四日市線）と府道深野南寺方大阪線との交差点の東側です。

この辺りは一面が田圃のところで、昭和39年頃は守口第二中学校などではこの辺りのあぜ道を利用して駅伝や耐寒走をしていました。また免許取りたての時など四日市線で車の運転の練習したり、耐寒遠足で生駒山系に行くときも四日市線を歩きました。今では想像できないくらい交通量が少なかったのでしょうね。

写真は昭和27年に建設された大阪府営寺方住宅です。住宅の人たちが全員で清掃作業をしておられる風景です。お母さんたちの割烹着姿から見て、住宅が出来てほどない頃と考えられます。

守口市は誕生直後の早い時期から市営住宅の公営住宅の建設に力を入れていました。昭和25年（1950）人口密度が10,061.2人になり、昭和27年度に寺方に木造の71戸の住宅が建設されました。応募者が殺到し、入居も大変でした。

その後、老朽化が進み、住宅の面積が小さく浴室もなく、トイレも和式汲み取り式で時代にあわないものになってきました。平成21年1月の調査では管理戸数62戸、入居戸数44戸、全住宅の約59.4%で65歳以上の高齢者を含む世帯が入居され、今後も一層の高齢者化が予想されましたがその対策は十分にはできませんでした。そこで住宅に困窮する低所得者の居住の安定の確保との目的で、大阪府営守口寺方（寺方二丁目、寺方錦通一丁目）の古い住宅を建替えることになりました。

建て替えられた住宅は、バリアフリー化され耐震性のある戸数55戸の構造鉄筋コンクリート造り7階建。住居面積約50㎡～60㎡で、住戸タイプは2DK～3DKです。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1915

守口西郷郵便局

（もりぐちさいごうゆうびんきょく）





守口市西郷通1丁目にある郵便局です。

平成17年（2005）10月21に公布された郵便民営化関連6法の中の郵便局株式会社法で規定されていた、郵便局および郵便窓口業務を活用して行う地域住民の利用の増進に資する業務を営むことを目的とする株式会社として平成19年（2019）10月I日に設立されました。

全国に23977局あった簡易郵便局はここ3年ほどで山間部を中心に299局も減少しました。
現在、守口市には郵便局が守口郵便局を含めて17局あります。

江戸時代には継飛脚制度がありましたが、日本の東海道新式郵便は明治4年（1871）3月1日、現在の太陽暦では4月20日に開設されました。設置された郵便郵便取扱所は、東京・京都・大阪の郵便役所と東海道62駅（東海道53次と京街道の4駅・佐屋路の4駅・美濃路名古屋駅）でした。

もちろん守口も郵便開設と同時に郵便取扱所が設置されました。詳細は複雑で省略しますが、飛脚の話には「賊ノ出ル処ハ、大抵守口付近ノ堤坊ニ限ッタヨウデ、ココヲ無時ニ通レバモウ決シテ妨害ハナカッタ」とあります。郵便になってからも、「淀川堤ではよく強盗事件が起きている」。と『守口市史第4巻』にもあります。

余談ですが、郵政当局に短銃(ピストル)が配備されるようになったのは明治6年からです。「郵便行嚢逓送ノ際郵便物ヲ掠奪シ脚夫ヲ殺傷致候賊徒往々有之」という事で、郵便物の保護のために「短銃取扱規則」という規則を制定し、短銃400丁を購入、携帯しました。

警察官が短銃を携帯したのが大正12年（1923）からですので驚きです。

参考資料 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10

1916

京阪商店街

（けいはんしょうてんがい）





写真は昭和42年（1967）の京阪商店街の東入口を少し入った所から撮影されたものです。

当時の商店街は非常に活気があり、左端の女性は和服のコートにマフラーを身につけています。天井には世界平和と商店街の発展を願ってか、また東京オリンピック開催を祝ってか、万国旗が揚げられており歳末の大売出しでしょうか。

買い物客の服装を見ると、多くは女姓で割烹着姿です。商店街では「昭和43年に嫁にきましたが、嫁入り道具として割烹着を持ってきました」とお聞きしました。この頃はまだ女姓たちは割烹着を身に付けいたようです。その後、大型のスーパーなどの進出と人口の減少、保存食や冷蔵庫などの普及がすすみ、毎日買い物に出かけなくてもよくなりました。

京阪商店街も同様に徐々に買い物客が減り、シッターが閉まっているところが増えてきています。

現在では、写真に写っているお店はほとんどありませんが、写真中央の「つるや時計」と東入口より少し入った「果物屋」さんが営業されています。

懐かしい看板もたくさん写っています。拡大してご覧ください。「まるみや、つるや時計、歳末大売り出し、セントラル毛糸、みどり、倉敷ビニロン学生服」などが読み取れます。

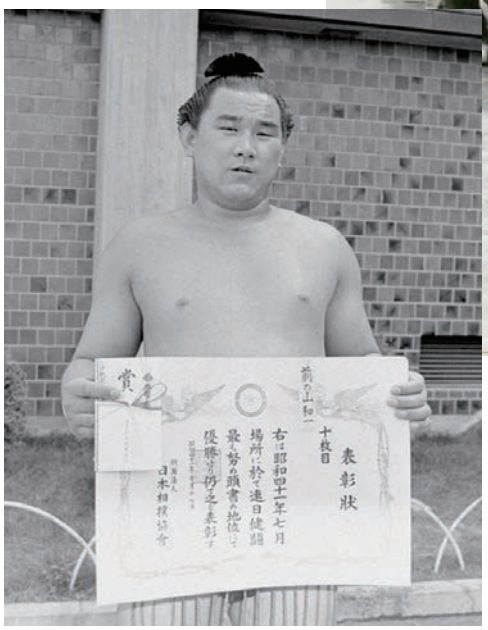
参考資料 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1917

大相撲力士「前の山」母校を訪問（昭和41年）

（おおずもうりきし「まえのやま」ぼこうをほうもん（しょうわ41ねん））





写真は昭和41年（1966）に幕の内に入幕した当時で、母校庭窪小学校を訪問され、前の山を中心に両方に分かれ綱引きをしているようすを多くの児童や保護者、先生たちが見ています。写真中央の右側で綱引きをされているのは校長先生でしょうか。

前の山は高砂部屋所属の元大相撲力士で、最高位は東張出大関。得意手は突っ張り、左四つ寄りで、大阪府北河内郡庭窪村の出身で守口が誇りとする力士です。

昭和20年3月9日生まれで、浪商高校に入学し、野球部に所属していましたが、体格を見込まれ相撲部に入り直し、大阪府の大会に出場するなど活躍しました。高校を1年で中退し、兄とともに高砂部屋に入門しました。

昭和40年11月場所では十両に昇進、翌年11月場所には新入幕を果たしています。昭和43年3月場所に関脇、次の年の5月場所に東前頭で11勝4敗で三役に復帰するなど何度も浮き沈みを経験しました。

昭和45年7月場所では13勝2敗で、横綱北の富士との優勝決定戦で敗れましたが大関に昇進。昭和49年（1974）3月場所を最後に現役を引退し、年寄高田川を襲名、高砂部屋から独立して高田川部屋を立ち上げました。同じ庭窪中学校出身の剣晃（星村敏志）らを育てました。

平成21年8月5に千田川と年寄名跡交換する形で部屋を譲り、翌年3月8日に日本相撲協会を定年退職されました。

1918

守口消防署の望楼（昭和28年頃）

（もりぐちしょうぼうしょのぼうろう（しょうわ28ねんごろ））







写真は昭和28年（1953）頃もので、鉄柱の火の見櫓（ひのみやぐら）に消火ホースが干してあり、出初式（でぞめしき）なんでしょうか、たくさんの消防車が集まっています。今の国道1号線守口消防署のところです。

消防組織は各村ごとに「消防団」がありましたが、昭和22年（1947）12月に消防組織法が公布され、翌昭和23年3月より施行されました。これまでの警察の管理から独立して市町村の自治体消防制度となりました。

守口は守口消防署管内を統合して、守口市ほか門真町・茨田町・庭窪村・大和田村・二島村・四宮村・南郷村の7ヵ町村に消防組合が設立され、消防組合会議は市町村の8人で構成されました。組合管理者には八代智蔵守口市長が就任し、本部と3か所の出張所、署員は43人体制で発足しました。

消防はとても重要であり、同年8月には、守口市・門真町・庭窪町消防組合が設立されました。また、勅令第185号で消防団令が公布制定され、昭和23年（1948）1月15日守口市消防団が4ヵ分団、定員200人をもって結成されました。戦時中に発足し、国土防衛の任に当たった警防団も諸団体の解散に伴い、同日付けで解散しました。

少しでも早く火災を見付けるため、村々には火の見櫓が建っていました。写真の火の見櫓は昭和24年8月頃に出来たもので、当時ではモダンで立派な櫓だったといえます。

この櫓では、昼夜季節を問わず最上階から見張り、冬などは寒くて大変だったと思います。おおさか屋パンの看板や電柱にはサンヨーの看板があり、高い建物は全然ありません。

1919

田園風景（昭和初期）

（でんえんふうけい（しょうわしょき））









写真を見て下さい。池のように見える水路があります。守口や門真はまさしく水郷地帯で、農具や作物等の輸送のため田舟などが行き来していました。水路のところに農具を入れたり、農作業場をするための木屋がありますが、農家のような家は1軒も見えません。一面が田園地帯だったのです。

また、左の写真を見ると上田と下田や畑があり、その田や畑より低いところに水路があります。畑ではネギや山芋、白菜などか作られていました。遠くには生駒山系が見えており、寺方の錦あたりか大久保地域の風景と思われます。どこの地域かは分かりませんが、鉄塔と生駒山地の位置関係から割り出してみてください。中央には、正装した女の人が首に何かをかけ大事そうに物を持ち、三枚板といわれる田舟を竹さおであやつり、農作業に行く姿でもなく、隣の村へでも用事で行くのでしょうか。

この地域は田畑より水路が低く、田畑へ水を引くために羽根車を人が足踏みすることで回転をさせる水車が重宝され、使う時に現場に持っていき、そこで組み立てて使用しました。大変重くて運べない程の灌漑の道具でした。

また、遠くにサイロのように見えているのは稲藁（いなわら）を保存するもので地方よって違いますが、「イナムラとか稲藁ボッチ」と呼んでいました。稲藁は当時は大変貴重なもので、余れば肥料にも使用しました。

写真を見ると今の守口では考えられない、 のんびりとした風景が広がっています。

当時は、田畑の仕事を終え夜になると男性は稲藁でぞうりや俵、むしろなどを作り、女性は機織りなどをしました。守口には京街道がとおり、ぞうりは旅人によく売れたそうです。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1920

西三荘ゆとり道（花のゾーン）

（にしさんそうゆとりみち（はなのぞーん））







右上の写真は西三荘川を鉄塔がまたぎ、左上の写真は水路を暗渠(あんきょ)にする工事のようすです。現在は西三荘駅から天之大橋までが立派な道路になり、先は守口市の遊歩道ができています。西三荘という地名はありませんが、水路を西三荘川と呼んでいました。

戦国時代末期、西三荘あたりには九箇庄（今の寝屋川市）、門真の庄、五箇庄（守口市）がありました。この三つの荘園の西側を流れていたことから西三荘川とよばれていました。源流は淀川で佐太中町あたりを通り、大阪市鶴見区で寝屋川に流れ込む川で、全長約6.6Km程ありました。

この川は灌漑や生活の用水路でもあり、いろいろな魚がいて子どもたちの遊び場でもあり、夏には泳いだりしていました。しかし工業などの発達や生活排水が流れ込むようになり、へどろがたまり水質も良くないのであまり活用されない水路になりました。

平成2年（1990）4月1日から183日間、鶴見緑地で「自然と人間の共生」をテーマに国際花と緑の博覧会（花博）が開かれました。その博覧会に合わせるように、西三荘水路に蓋をして遊び心・花・緑・自然いっぱいの遊歩道が完成しました。

遊歩道は緑と空間のゾーン、文化・教養ゾーン、フィットネスゾーン、水のゾーン、花のゾーンの五つのゾーン分けた遊歩道で約2Kmあります。花博記念公園鶴見緑地にある世木公園には釣り池や吊橋も造られています。沿道には美しい四季折々の花や樹木があります。

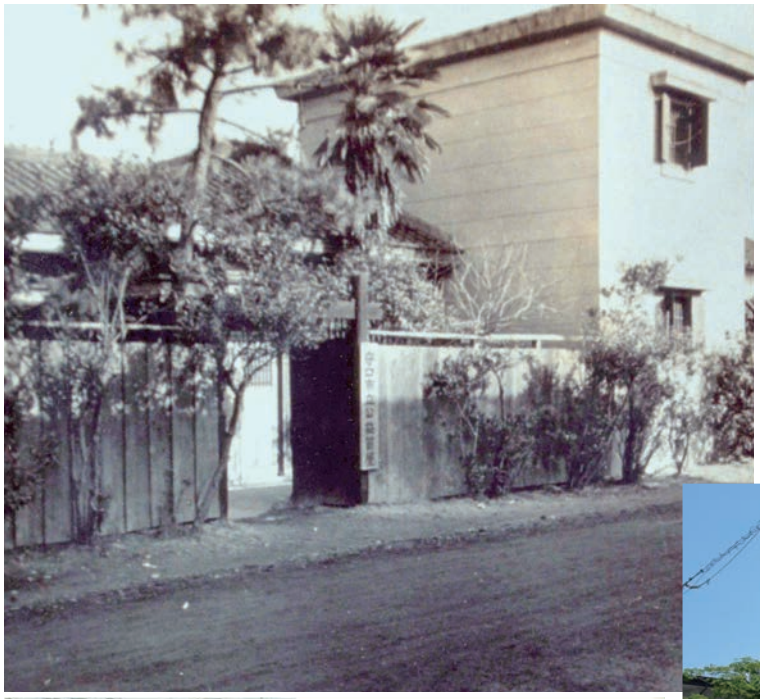
現在では、市民の憩いの遊歩道で子どもやお孫さん、家族やお友だちと一緒にぶらぶら歩いてみて下さい。心も身も和ませてくれ、まったりと時間が流れていきます。郵便ポストも当時と同じ場所にあります。

参考資料 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1921

守口市立公益質店（早苗町12番地付近）

（もりぐちしりつこうえきしちてん（さなえちょう12ばんちふきん））









グラフ守口 No.2（1969.11）

守口市公益質屋は、守口市早苗町にあり、京阪電車守口市駅西出口の北側に出ると左側に四国銀行があり、そのそばに、現在の社会では考えられないでしょうが、 守口市営の質屋さんがありました。

質屋は、「何らかの物品を質（質草、担保）に取り、流質期限までに弁済ができないきとは預かった物品で弁済するのが決まり」で、有担保の消費者ローンとして庶民に広く利用されていました。

昭和7年（1932）守口町時代に創設された公益質屋は、庶民金融として一般の質屋よりかなり良い条件でお金を用立てくれました。

しかし、戦後のインフレなどによって資金が目減りし、庶民金融としての機能を充分に発揮できなくなりました。そこで昭和24年度に100万円、昭和25年度に150万円、さらに昭和26年度には100万円の起債（公債を募集すること、地方公共団体の借金とも言える）をおこない、資金を拡充し公益質屋の役割を果たしました。

『守口市広報』第7号（昭和26年1月1日号）には、・所在地：守口市早苗町12・貸付（その月15日以内に受出された時は半額）・1.一般家庭：5千圓・2.営業資金：壱万円・3.流質期間：4月か月・4.利子：1か月壱千円に付30円☆御利用の方は配給通帳をご持参下さい。との記載があります。

利用者は昭和24年（1949）の利用者は3,096人で、俸給者か1,379人、26年（1951）の利用者は3,855人で、俸給者が1,778人、27年（1952）の利用者は4,354 人で、俸給者が2,354人で、サラリーマンが多く質屋通いをしていたようです。昭和30年代の終わり頃でも、公務員の新卒の1ヶ月の給料では背広一着を買うことができなかったのです。

民間の質屋さんと比べると貸付金や額利率が市の条令で定められ、低利子で半月単位の計算、流質までの期間も4ヶ月と長かったようです。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1922

守口市立土居小学校の運動会（昭和３０年）

（もりぐちしりつどいしょうがっこうのうんどうかい（しょうわ30ねん））





守口市立土居小学校は昭和22年（1947）に、滝井小学校から分離する形で開校した小学校です。 上の写真は昭和30年（1955）、西側から撮ったもので国道1号線側に建っていた一番古い校舎です。 また、文禄堤は義天寺の所から土居小学校の敷地を通り、日吉公園内の北側にあったようです。

土居小学校は739人で開校。1学級50～60人、それ以上のクラスもあり、教室が不足していました。昭和30年（1955）が児童が1441人と非常に多くなりましたが、40年後の平成8年（1996）には児童数は209人となり、平成18年に守口小学校に統合されました。

土居小学校には二つの校歌があり、初代校歌の作詞・作曲をされたのが吉田先生、二代目の校歌は童謡「たきび」を作曲された渡辺茂先生です。

歌詞の中の「ぽっぽろぽー　鳩が鳴く」というフレーズは校歌の特徴の一つとなっています。学校の校章にも鳩がデザインがされており、PTAの会も「親鳩会」と呼ばれていました。

写真は昭和30年の運動会のようすです。運動場では児童が集団演技をしています。土居小学校で一番児童数が多い時で、たくさんの保護者も見学しています。

卒業生のある方は「運動会は地下足袋（じかたび）でした。私が1年生の時の昭和29年でしたでしょうか、当時運動会の時は6年生まで白い地下足袋でした。薄いゴム底で足袋の形です。親指が食い込んでとても痛かった」と思い出に書いておられます。当時の運動会は、このように保護者や地域とが一体になった郷土愛溢れる運動会でした。

1923

国道１号線（旧市役所あたりから八島方面）

（こくどう1ごうせん（きゅうしやくしょあたりからやしまほうめん））









日本の国道は、明治9年（1876）の太政官布告によって全国の道路が国道、県道、（府道）、里道に定められました。道路は一等、二等、三等の三階級にわけられ、全ての国道は東京の日本橋を起点とし、江戸時代の五街道の流れ、道程をそのまま受け継ぎました。

守口市では国道は旧東海道（京街道）が中心で、大阪から東海道を通り八島から守口小学校の前を通り、八雲交差点の所から旧京街道に通じていました。大正8年（1919）に道路の種類、構造・規格、築造基準など一応の基準として「道路法」が制定され、道幅は四間（約7.2㍍）と定められました。

守口地域の国道は特に狭く、守口市は京都−大阪間の交通要衝地であり、東京−大阪−神戸間の東西交通の最も盛んな地域で、自動車が発達し始めると道幅の広い国道の新設が急がれました。

守口—枚方間の工事は昭和27年（1952）に着工され、昭和28年末に枚方大橋—木屋間、昭和29年4月には木屋—庭窪間、昭和30年（1955）4月には守口市八島まで全線開通しました。

枚方市北中振—京都市伏見区大手筋間を結ぶ枚方バイパスは昭和33年着工し、昭和41年3月に全面開通しました。なお、寝屋川バイパスは昭和47年（1972）に全線開通しています。

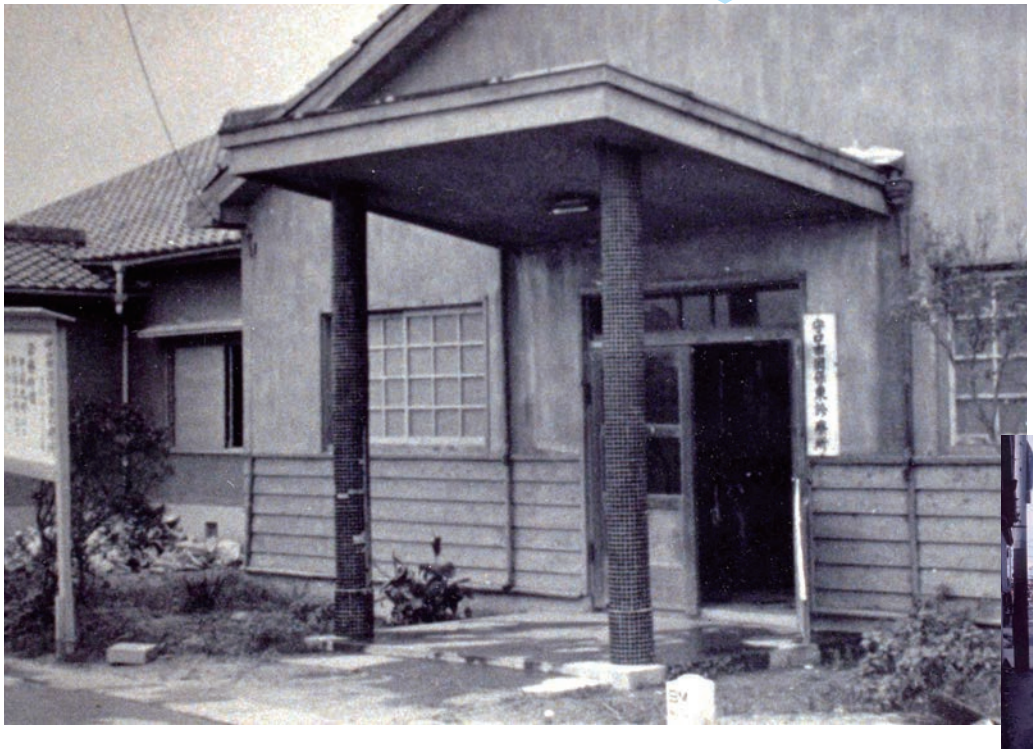
写真を見ると市役所はもちろん、左下のビルには安田生命の看板がかかり、その先には昭和46年（1966）新築された中央公民館があります。好景気と共に車社会がすすみ、国道一号線も車の往来が多いところからそんなに古い時代の写真ではありません。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1924

守口市国保東診療所（昭和30年ごろ）

（もりぐちしこくほひがししんりょうしょ（しょうわ30ねんごろ））







写真は昭和30年（1955）の守口市国保東診療所で、現在の北原病院のあたりです。

国民の疾病、負傷、出産または死亡に関して必要な保険給付を行なう国民健康保険法が実施されたのは、昭和13年（1938）。以降全国に広がり、大阪府下でも昭和26年（1951）11月時点で豊中市、寝屋川市、茨木市、門真町、庭窪町など50市町村で実施されるようになりました。

庭窪町は福祉施策の一環として3ヵ所の国民健康保険直営診療所を設置していました。中央（大字佐太五番341）・東（大字北132番地）・西（大字八雲旧南十番）の各診療所で、診療科目は内科、小児科、婦人科、歯科などがありました。

現在は多くの開業医院や大きな病院ができ、直営診療所はなくなりましたが、当時の庭窪町では守口市との合併後も開業医が少なかったそうです。東診療所の跡あたりには立派な北原医院が開院されています。

昭和33年（1958）頃の国民健康保険の保険料（年間）は4人家族で、世帯が市府民政税所得割200円、固定資産税額1,000円を納税している場合、均等割1,520円、資産税120円、世帯割400円、所得割84円の合計2,124円でした。

昭和34年（1959）には、国民年金法と新国民健康保険法とともに社会保障の二本柱が確立しました。

1925

守口市養老院「菊水園」

（もりぐちしようろういん「きくすいえん」）







グラフ守口 No.9（1972.3）

近年、日本のどこへ行っても立派な建物が目立つのは、高齢者のための社会福祉施設のように思われます。社会全体が細分化され核家族が多くなり、看護、介護ができる家庭が少なくなり、多くの高齢者が老後を過ごすのは施設というのが昨今の実情です。

昭和25年（1950）に生活保護法が制定され、守口市では昭和30年5月に守口市大宮1丁目に総工費85万を投じて守口市養老院「菊水園」が完成しました。

敷地面積682坪、建設面積135坪の木造瓦葺平屋建です。中には診察室や浴室、休憩室、20帖の居室などが整備され定員は50人で、　この菊水園の開所と同時に身寄りのない老人30人が入所しました。当時は身よりのない老人用の施設であったようで、現在の養老院とはかなり様変わりがしていますが、なんといっても「菊水園」はその先駆けの施設だったのです。

しかし菊水園も老朽化に加えて収容人員増をはかるため、昭和49年8月8日に2億2千万円をかけ養護老人ホームとして八雲北町2丁目に新築移転し、跡地に橋波保育所が新設されました。

新しい老人ホームは、全館冷暖房設備がほどこされ、内部には、居室35室のほか、浴室、医務室、理容室、洗濯室、食堂などが設けられ、入居者たちに日常生活を快適に過ごしてもらえるよう配慮されています。ホームの建物は敷地面積2115.69平方㍍、鉄筋コンクリート造2階建てで延べ床面積1986.90平方㍍、収容人員は70人です。安心で快適な老後が過ごせる老人ホームです。

現在は、総合老人福祉施設なずな園として生まれ変わっています。

参考資料 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10

1926

大阪国際大学（藤田町）

（おおさかこくさいだいがく（とうだちょう））





写真提供：大阪国際学園

写真は大阪国際大学・大阪国際大和田中高のもので、昭和37（1962）頃の校舎だとおもいます。京阪大和田駅より歩いて10分程のところにあります。写真を見て下さい学校の北東の寝屋川市方面は家が建ち並んでいます。しかし、西側の守口市は田園風景が広がっています。現在では学校へ通路も周辺も、びっしり家が建ち並んでいます。

この学校は、昭和4年（1929）帝国女子薬学専門学校の姉妹校として帝国高等女学校を滝井に設立。昭和13年（1938）帝国高等女学校創立者は財団法人帝国学園、22年（1947）学制改革により帝国学園中学校を開校。23年（1948）学制改革により帝国学園高等学校を開校。26年（1951）財団法人帝国学園を学校法人帝国学園に改組。37年(1962)帝国女子短期大学を大和田で開学、家政科を設置。38年（1963）英文科を設置。家政科に栄養士課程を付設。40年(1965)帝国女子大学を開学、家政学部家政科を設置。62年（1987）国際化時代の到来に対応する「真の国際人」の育成を理念に大阪国際大学の設置が認可され、翌年に枚方市に開学しました。

枚方市と守口市の2つのキャンパスがありましたが、平成28年（2016）から枚方キャンパスがサブキャンパスとなり、すべての学部は守口キャンパスに統合されました。ただし、人工芝グラウンド、野球場、体育館、テニスコート等の体育施設は、守口キャンパス周辺に代替施設が確保できるまで、当分の間、課外教育活動の拠点として使用されるそうです。

平年4年（1992）4月から大阪国際大和田中学校・高等学校と改称され男女共学の中高一貫の教育校です。大学は人間科学部、国際教養学部、経営経済学部、グローバルビジネス学部、大学院まで備えた大学です。特に高校は歴史も深く、多くの卒業生が社会で活躍されています。

新旧の写真でも送電線の鉄塔は当時のままのようです。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1927

まちなみ（八島町あたり）

（まちなみ（やしまちょうあたり））









左上の写真のお宅は、国道1号線の八島交差点の陸橋のところのコンビニや近藤ビルの後ろ側の道で八島町にあります。西南へ少し歩くと桃町緑道公園の入口へ通じる道にあったKさんのお宅で、今は建て替えられています。

家の塀の左端にふすまと張り紙がありますが、大野さんのふすま屋ではありません。すぐ先の通りを右折して50～60㍍ほど行くと「大野のふすま屋さん」のお家があります。Kさんのお家の貼り紙は、野口表具店の張り紙です。

Kさんのお宅の塀に貼ってある「ふすま」の貼り紙は、5～60㍍程先にある野口表具店さんが貼らしてもらっていたもので、野口さんの奥さんは「うちが頼んで貼らされもらっものです。長い間ふすまや掛け軸の表具店をやっていましたが、主人も年をとり、表具店は平成16年（2004）12月でしめました。」また、「この道を進むと、芦間高校の東側に出る道てすよ」とも、おっしゃっておられました。

2枚の写真の年代は不明ですが左の写真は街並の通りで、左側の樹木のあったところに今は町の説明図があります。通りをまっすぐ行くと芦間高校の北東に出ます。

当時の道路は舗装されていない地道が当たり前で、遠くにはダイハツ乗用車のミゼットや荷台にラビットスクーターと書かれたトラックが止まっています。ミゼットは昭和32年（1957）から昭和47年（1972）まで生産、販売された三輪自動車です。風景からすると昭和30年代の後半と思われます。

この辺りにはお地蔵さんが2ヶ所ありましたが現在はなくなっています。

1928

守居神社の秋祭り（昭和39年ごろ）

（もりいじんじゃのあきまつり（しょうわ39ねんごろ））





写真は昭和39年（1964）守居神社の秋祭りの土居地車曳行（どいだんじりえいこう）のようすで、地車の屋根にも氏子さんが乗っています。国道1号線安田火災守口ビル側から南に2筋入ったあたりで、京阪商店街のアーケードのところです。宵山には夜店も出て大勢の人たちで賑わい、地域の人たちの一番の楽しみです。

守居神社について少しふれますと、社記に「延喜18年（918）秋の大風雨による洪水で淀川が溢れ、湖のような村を舟で行き来していました。ようやく水がひいたとき、南西より夕方に、光か四方に輝き、鈴がなり声がして、「我は天道神なり、この地に来て人民を災害から守ろうと」夢のおつげありました。その神は素戔嗚尊・三輪明神・日吉権現・新羅明神の神様でした。

そこで村人だちが、同年の9月19日に土を盛り神を祀り、村人たちは牛頭天王と呼ぶようになりました。神社には末社としてイナリ神社や賽神社（さいのじんじゃ）があり、特に賽神社は火災の神でなぜか地車中央の提灯の紋様は賽神社のものだとされています。

守居神社の秋祭りは、毎年10月20日・21日に行われています。大人や子どもたちが賽神社の紋の入った地車を曳きます。

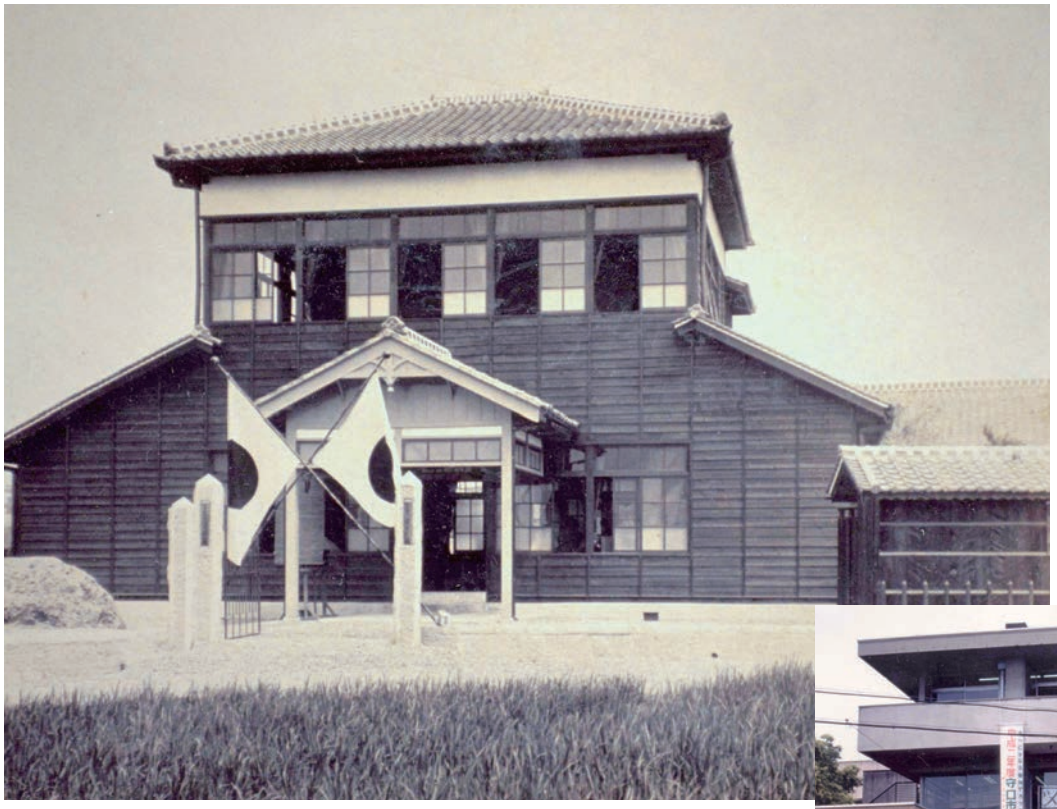
写真を拡大してよく見ますと、「万国旗、1964オリンピック、ほねつぎ、ロース、文具、三優、スポーツウエア、北村氏、」などの文字が見えますが、現在はこれらの商店は見当たりません。しかし右上に写っている屋根瓦が今も残り、場所を特定することができました。

地車を引いている子どもたちは、今も元気に暮らしていることでしょう。

1929

庭窪公民館

（にわくぼこうみんかん）





庭窪町が守口市と合併したのが昭和32年（1957）4月1日で、新生守口市が発足しました。市域13.17平方㌔、人口は8万3490人となり4月5日には大阪府副知事、大阪府議会議長を含む来賓約500人の出席のもとで、合併祝賀会が催されました。

合併条件の一つに、「庁舎は守口市の現庁舎を本庁、庭窪町の庁舎を支所にし、一般窓口事務を扱うものとする。」とあり、上の写真は庭窪町の時から使われていた役場です。

昭和32年には各小学校区に公民館の分館を設置することが決められ地域住民に集いや学習の場を提供しました。昭和34年4月に「公民館分館設置規則」が制定され、新設小学校区について分館設置をしないことが決められました。

庭窪分館は昭和32年4月に開館し、活動していましたが、写真は昭和42年（1967）4月に開館した当時の庭窪公民館です。

公民館には運営委員委員長、副委員長、書記、会計、体育部、文化部、青少年部、婦人部など各部会があり、地域の住民が自主的に運営しています。公民館祭をはじめ地域の行事や各種活動が盛んにおこなわれ、公民館を介して地域の交流や親睦などがおこなわれていました。

現在は守口市役所市民生活部コミュニティ推進課のほか南部コミュニティセンター、東部コミュニティセンター、西部コミュニティセンターなどにその役目を譲りました。

参考資料 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1930

藤田会館（守口市藤田住宅支館）

（とうだかいかん（もりぐちしとうだじゅうたくしかん））







左の写真に守口市公民館藤田支館　藤田会館と書いてありますが、いつごろ出来たものかは分かりませんが、藤田地区の集会場であったと思います。

昭和38年（1963）4月に東分館が開館、昭和46年（1971）藤田地区の運営委員会が生れ、公民館は地域住民に集いや学習の場を提供するようになりました。

今まで地域住民が使用していた藤田会館も新しく公民館ができたことや結婚式、葬式を式場で行うようになり、だんだん集会場も使われなくなりました。

守口市は好景気を背景に地方からの転入で人口が増え、昭和40年（1965）には138,856人、45年には184,466人になりました。人口の急激な増加にともない住宅の不足が続き、特に藤田、梶、大久保では民間のアパートや庶民憧れの文化住宅がどんどん建築されていきました。

守口市も昭和40年、佐太1丁目にコンクリート造り五階建ての市営梶第1団地48戸、つづいて41年には梶町3丁目に梶第2団地62戸が生れました。入居希望者が殺到したのは言うまでもありません。

1931

守口市立母子寮（南寺方北通）

（もりぐちしりつぼしりょう（みなみてらかたきたどうり））









終戦後、守口市も他市と同様に戦争未亡人の家庭や戦災被害者が生まれ、配偶者のいない母子家庭が多くなりました。

そういった女子と児童の自立更生を目指した施設として、総工費150万円をかけて建設されたのが守口市立母子寮で、昭和23年（1948）6月に守口市南寺方北通りに開所されました。

敷地112坪の2階建ての建物で本館のほか32坪のミシン室もあり、母子家庭18世帯が入所されました。

昭和26年（1951）3月に国民の生活を安定させるために「社会福祉法」が制定され、所管区域に福祉に関する事務所を設置することになりましたが、守口市では全国に先駆けて、保育所や母子寮などが建設されていた先進都市であったと言えます。

保健、衛生面には特に注意して嘱託医が年に2回定期診察をしていました。娯楽文化面では、月刊誌や映画会が行われたり、巡回の文庫などもありました。

この社会福祉法の制定により守口市母子福祉会が結成され、昭和31年8月には母子家庭を支援するために守口市母子後援会も結成されました。

教諭時代の私はこの母子寮へ家庭訪問でよく伺いました。「有難い事です。こんな所があり」と感謝されていたお母さんがおられたことを昨日のことのように覚えています。

1932

市制施行5周年商工祭・市民体育大会（昭和26年）

（しせいせこう5しゅうねんしょうこうさい・しみんたいいくたいかい（しょうわ26ねん））









守口市には昭和22年（1947）11月、市民の体育振興の一翼を担うことを目的に守口市体育連盟 現 NPO法人守口市スポーツ協会 が結成されました。同年11月には市主催の「守口市民体育大会」が行われ、上の3枚の写真は、守口市制施行5周年の市民体育大会のものです。

『守口市広報』昭和26年11月1日（第25号）に市制施行5周年事業の一つとして、「3日から4日市民体育大会午前9時京阪高等学校にて、文化の良き日に市民体育大会を開催、陸上競技、野球、庭球、卓球の各種目にわたって老いも若きも入り乱れての熱戦が展開されます。小、中学生の競技や可愛いゝ遊技、広い運動場にくりひろげられるリズム体操など体育の豪華版が展開されます。市民の皆さまの応援に観覧に御来場をお待ちしています」とあります。

私立京阪商業学校、守口市立京阪高等学校、大阪府立京阪高等学校、守口市立春日小学校と学校名は変わりましたが、市民の文化・芸能活動や体育・スポーツの活動の場として校庭が活用されました。

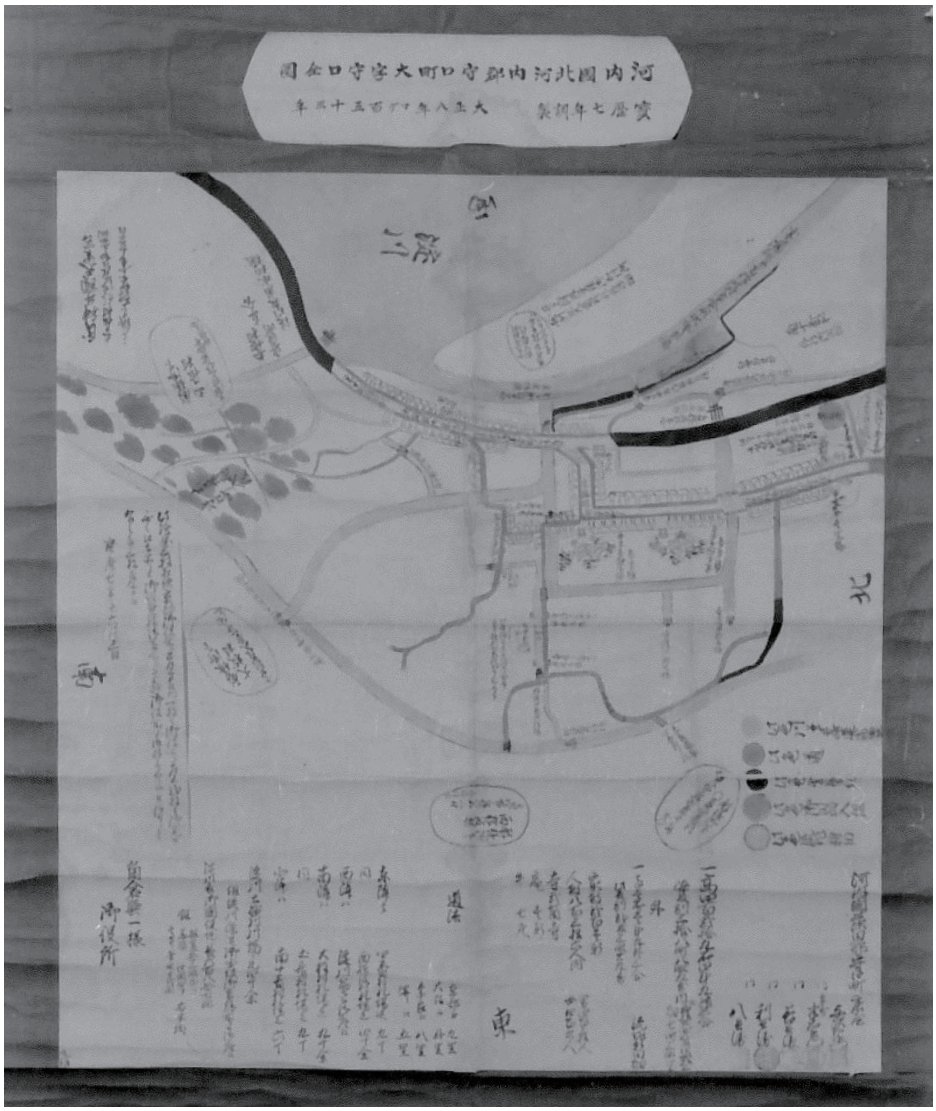
右上の写真は帽子や服装などから想像すると、看護学校の学生さんでしょうか。うしろには京阪電車の架線鉄柱（塔）が写っています。ちょっとわかりにくいですが現在ももちろん、同じところに立っています。

左上の写真は野球の始球式のようすです。左下の写真は徒競走でしょうか、服装はさまざま、足元は地下足袋(じかたび)や裸足の人もいます。雨上がりでしょうか、運動場はあまり整備されていないようです。　「結果は15日発行の第26号の広報にのっています」とあります。

1933

河内国北河内郡守口町大字守口全図

（かわちこくきたかわちぐんもりぐちちょうおおあざもりぐちぜんず）



(出典不詳)

地図の右上に寶暦7年（1757）調製　大正8年（1919）とあります。西側には淀川の中之島の一つの面積約6町2反の摂津国の狼島があり、続いて狼島より大きな守口領の外島があります。その二つの島の間を流れているのが、淀川から五ヶ荘の飲料水(生活用水)をとっていた水路です。

北から西南に伸びる黒い太い線は文禄堤です。北の方の文禄堤の東側が浜町で京街道(東海道)旅籠屋を中心にした町です。浜町に大きく四角か2ヶ所は左が灘宗寺で右が盛泉寺です。この地図には竜田通はありません。難宗寺前を京街道は直角に曲がっていますがこれを桝型といいます。

ここは宿場の中心で「市場町」といって問屋場や本陣、白井家がありました。少し進むと再び直角に曲がり堤の町を通って文禄堤にはいります。両側に家が建ち並び土居村へ向かいます。地図は文禄堤で家屋が多く黒い線は引いていません。文禄堤では商売をしている家がたくさんありました。

堤から下り難宗寺の南側の道が、奈良街道です。守口町「当町用水之儀、多く井路懸りニ而御座候、尤井路懸り無之候分ハ、銘々所々堀池を以御田地養ひ申候」とあるように、守口町は内淀川筋に用水・悪水(排水)樋が数多く造られ、水路が縦横に流れ、淀川や水路に囲まれた環濠集落であった守口町の地形をよくあらわしています。守口村は元禄7年（1694）に守口町となりましたが多くの村民の身分は農民でした。

参考資料 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10

1934

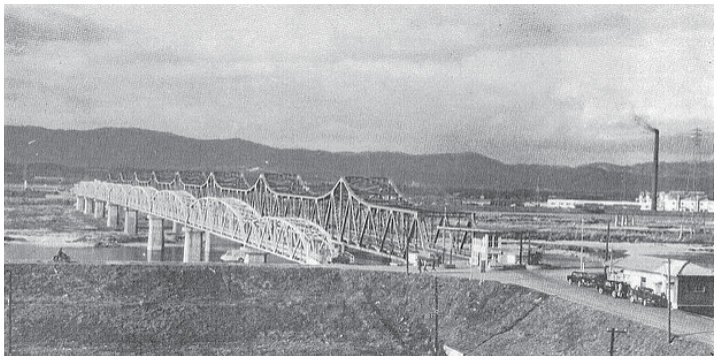
大日交差点から遠く鳥飼大橋を望む

（だいにちこうさてんからとおくとりかいおおはしをのぞむ）





(出典不詳)





左上の写真は昭和41年（1966）頃の大日交差点付近、大阪中央環状線（府道2号線）のようすです。当時はレンコン畑や田畑のあった地域で、自動車が完成したばかりの跨道橋（こどうきょう）を走っています。写真の北側が鳥飼大橋や茨木、摂津方面です。

昭和45年（1970）に「日本万国博覧会(大阪万博)」の開催がきまり、突貫工事で大阪府堺市から池田市に至る府道（主要地方道）の大阪環状道路が造られることになりました。守口地域の幅員60㍍、延長1280㍍の工事区間が昭和44年11月に開通し、翌年45年には中央環状線の全線が開通しました。

近畿自動車道も門真―吹田市間の11.2㎞が部分開通しました。この区間は四車線のうち片側二車線だけが大阪万博に間に合わせるため急ぎ開通しました。

右の写真は交差点東南側点付近です。大阪モノレール(平成9年開通)が引かれていなく、大阪市地下鉄(昭和58年開通)への南東の入口があるところから、昭和58年以降のものと考えられます。

現在は、大型商業施設や高層住宅が建設され、Osaka Metro（大阪メトロ）の大日駅、大阪モノレール線の大日駅があり、守口東部方面のターミナル駅として、とても賑わいのある地域です。

右の写真中央右に写っているトヨタの看板は現在もロゴマークは変わりましたが残っています。

参考資料 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

2018

旧守口市庁舎（昭和26年4月落成記念式）

（きゅうもりぐちちょうしゃ（しょうわ26年4月らくせいきねんしき））









守口市役所は戦時中、学童の集団疎開により、あき教室になった守口小学校の一部を借り執務を行っていましたが、三郷町との合併で市政が施行され、機構が拡充されていきました。そこで市庁舎の新設が必要となり、昭和 26 年 (1951) 4 月 3 日に京阪本通 2 丁目の地に敷地面積 3,100 平方メートル、延べ面積約 2180 平方メートル (660 坪) 鉄筋コンクリート造三階建ての新庁舎が完成しました。

右上の写真は 4 月 4 日に行われた市庁舎落成記念式のようすで、庁舎前の式場には首相代理の押谷冨三代議士をはじめ府・市関係者および諸官庁、各種団体代表者 600 百余名を迎えて盛大に行われました。

午前 10 時 30 分、助役の開会の辞にはじまり、井上七郎市長の近代都市建設への抱負と信念の力強い式辞に続き西明吉之輔議長の挨拶、市庁舎建設工事経過報告、つづいて工事関係者への感謝状贈呈が送られ、来賓祝辞として内閣総理大臣祝辞を押谷代議士 (右上写真) が代読され、12 氏が次々祝賀を述べられ、収入役の閉会の辞をもって式典は終了しました。引き続き記念祝賀が行われました。

この市庁舎も老朽化が進み、執務も増えたことや耐震性の問題などで旧三洋電機の本社社屋を約 62 億円で購入し、平成 28 年 10 月 31 日より新庁舎へ移転しました。

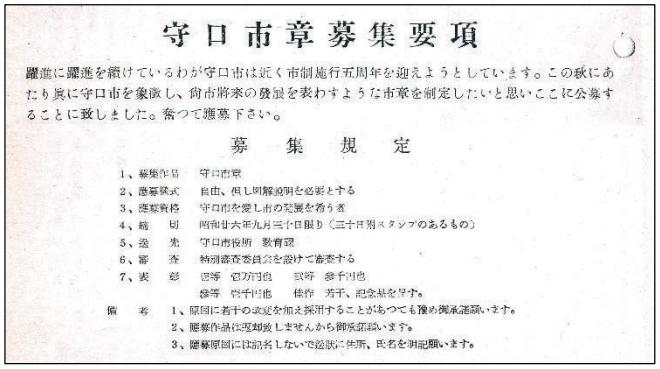
2018

市制5周年素人のど自慢（昭和26年）

（しせい５しゅうねんしろうとのどじまん（しょうわ26年）

市制15周年のど自慢大阪府予選（昭和36年）

（しせい15しゅうねんしろうとのどじまんおおさかふよせん（しょうわ36年）



守口市章募集要項

躍進に躍進を続けているわが守口市は近く市制施行五周年を迎えようとしています。この秋にあたり廣く守口市を象徴し、尚市將來の發展を表わすような市章を制定したいと思いここに公募することに致しました。奮つて應募下さい。

募　集　規　定

1、募集作品　守口市章
2、應募様式　自由、但し図解説明を必要とする
3、應募資格　守口市を愛し市の発展を希う者
4、締　切　昭和廿六年九月三十日限り（三十日附スタンプのあるもの）
5、送　先　守口市役所　教育課
6、審　査　特別審査委員会を設けて審査する
7、表　彰　一等　壹万円也　二等　参千円也
三等　壹千円也　佳作　若干、記念品を贈呈す。

備　考　1、原図に若干の変更を加え採用することがあつても豫め御承諾願います。
2、應募作品は返却致しませんから御承知願います。
3、應募原図には記名しないで封筒に住所、氏名を明記願います。





守口市の市章は公募により昭和26年11月１日に制定され「守口」の２文字を図案化したものです。市制施行５周年の昭和26年に市章を募集し、その結果718点の応募がありました。審査委員は学識者３人、市側から市長、議長、五周年記念事業準備委員長の６氏で、１回目で56点に絞り、２回目の選考で12点が残り最終的には一等に橋波東之町の近藤竜成さんの作品が選ばれ、表彰と賞金１万円が贈られました。

守口市制５周年を記念して、ＮＨＫ素人のど自慢大会が開催されたときの写真です。昭和26年(1951)11月４日日曜日、会場は守口小学校講堂。応募要項には参加資格は16歳以上だれでも参加でき、出演者は必ず当日楽譜を持参し、演目は歌謡曲、歌曲、俗曲、浪曲などで伴奏はアコーディオンとピアノに限り主催者側で準備しますとあります。

参加の申し込みは、守口市立公民館と守口市内のラジオ店と電気店８店となっていました。当日は午前 11 時から始まり、12 時 15 分から１時まで中継放送されました。多くの参加者があり、唄われたのは「長崎の鐘」などで、盛況のうちに午後３時半に終了しました。

現在のＮＨＫのど自慢と違い１等から10等までの方に賞品が贈呈されました。入賞者の第１位は滝井西町の久枝秀雄さん、２位が大阪市の笠井久子さん、３位が橋波西之町の上田保さんでした。

昭和25年頃と言えば電化製品は庶民には高根の花でしたが、松下電器や三洋電機などから蛍光灯スタンド、洗濯機、冷蔵庫、テレビ、電気炊飯器など次々と新製品が発売され始めたころです。

下の写真は昭和36年、市制15周年ＮＨＫのど自慢全国コンクール大阪府予選のものです。会場は守口小学校講堂、あれから10年。出演者や見学者の服装や髪型など随分違いがわかります。

2018

本町橋の歴史-1

（ほんまちばしのれきし－１）









写真は本町橋北側あたりの豊秀松月線で、本町2丁目10番地付近での下水工事のようすです。

ここには文禄堤が築かれ、昭和7年（1932）に文禄堤を切り開き、本町橋が架けられたところです。

両側の石垣は、文禄堤を切り開いた跡に積まれた石垣です。昭和32年に守口町と三郷町は合併しましたが、守口市は低湿地帯で降雨時の浸水対策や人口増加に伴い生活排水の処理が大きな課題となりました。

そこで市は昭和22年に下水道事業に着手し、公共下水道は昭和25年に守口市第1期下水道5ヶ年計画を立て、昭和27年には市域面積577ヘクタールの35%に相当する排水区域面積204ヘクタールが下水道認可を受け築造工事が始まりました。写真のように大がかりな下水工事でした。

京阪池（現在の大枝公園野球場付近）は雨や下水などのため池で、昭和24年に市の所有になりました。27年には京阪池を中心に大枝公園と下水道処理の京阪ポンプ場が築造され、昭和28年4月に併用が開始されました。

守口市は下水道整備を重要な施策とし、昭和25年9月3日のジェーン台風で京阪池護岸の崩壊、日吉劇場と呼ばれていた映画館なども全壊し、市の多くの地域で大きい被害が発生しました。市は被害の程度により家屋・土地・農地などの固定資産税の減免や市民税の減免の措置をとり、復興に必要な資金を貸付けなどが行われました。

2018

本町橋の歴史-2

（ほんまちばしのれきしー２）







写真は本町橋付近で、昭和 37 年1月の第6回参議院議員通常選挙への投票を吹奏楽団の皆さんが呼びかけているようすです。

前回の昭和 34 年の参議院選挙の投票率は、全国投票率 58.75%で大阪府は 48.11%でした。
守口市でも本町橋周辺は京阪電車の乗降者や桜通り商店街の買い物客など人通りの多い所で、このように楽団が演奏で投票を呼びかけ多くの人たちが聞き入っています。

全国の投票率は地域区 68.21%、全国区 68.22%、全国投票率 68.22%、大阪府の 61.33%で前回に比べ全国平均にはとどきませんが、かなり投票率は上がっています。

2018

本町橋の架け替えと豊秀松月線の拡幅工事

（ほんまちばしのかけかえこうじととよひでしょうげつせんのかくふくこうじ）









国道一号線の京阪本通2丁目から本町橋に至る豊秀松月線は、京阪電車の守口市駅や守口市南部地域を結ぶ幹線道路です。

しかし道幅がとても狭く歩道はなく、バスや車がひっきりなしに通り、車が通り過ぎるのを待たねばならない時もあるなど、とても危険な道路でもあります。

そこで守口市は都市計画道路の一つとして、豊秀松月線を道幅 22 メートル、延長 260 メートルへの拡張と本町橋架け替え工事を計画し、平成 27 年 11 月に大阪府から事業施行の許可を受けました。

計画では車道6メートル、両側に 50 センチの路肩、2メートルの植樹帯、2メートルの自転車通行空間、3.5 メートルの歩道のある道路で平成 33 年3月 31 日までに完成する予定になっています。

この本町橋は昭和 11 年 (1936) に架けられ、老朽化していますが文禄堤に架かる守口の顔でもあります。今回の都市計画施行で 22 メートルの道路上に立派な橋として架け替えられます。どんな橋になるのか今から本当に楽しみです。

2018

東京オリンピック出場記念（昭和39年）

（とうきょうオリンピックしゅつじょうきねん（しょうわ39年））



庭窪小学校は、明治5年 (1872) 来迎寺に郷学校が開設されたのがはじまりで、翌年6月堺県第 60 番小学校となりました。

第二次世界大戦中は国民学校と改称されましたが、昭和 22 年 (1947) に庭窪村立小学校に改称。昭和 32 年4月1日には、庭窪町が守口市に編入に伴い、守口市立庭窪小学校となりました。

長い歴史があり、昭和9年 (1934)9月 21 にの室戸台風で校舎は半壊したものの、犠牲者は幸いにして出ませんでした。

戦時中は現守口小学校や滝井小学校校区などは集団疎開の対象になっていましたが、庭窪村は大阪市からの集団疎開の受け入れ地でもありました。

この写真は昭和 39 年 (1964)10 月 10 日の東京オリンピックの開催を祝って、「ニワクボ」の人文字の航空写真です。1964 の東京オリンピックで大松博文監督が率いる「東洋の魔女」が回転レシーブなどのお家芸で、ソビエトを3対0で下し、悲願の金メタルを獲得し、テレビ視聴率は 66.8%を記録しました。

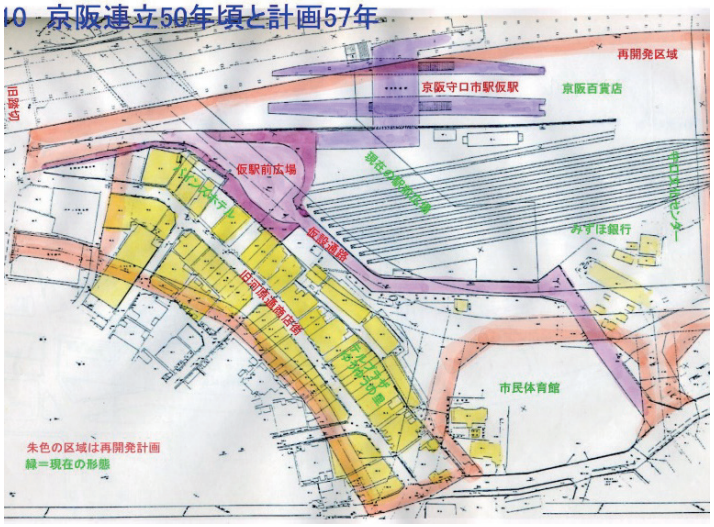
そのメンバーのひとりに庭窪小学校の卒業生の松村好子さんがおられました。松村さんは庭窪小学校、庭窪中学校から四天王寺高校、日紡貝塚に進まれた方です。庭窪小学校は松村さんのオリンピック出場を祝っての人文字で出場をお祝いしました。当時ではかなりの費用のかかるイベントです。

2018

守口市駅前河原通商店街の再開発

(もりぐちしえきまえかわはらどおりしょうてんがいのさいかいはつ)









京阪電車守口市駅再開発以前、京阪電車「守口市駅」西側の東出口を出たところの道路は国道一号線と東光町や寺方元町へと通じる道でした。昔の東出口前の細い道が、写真の商店街です。この細い道は大枝東町に通じる道で、駅前の河原通商店街と呼ばれていました。。

昭和 52 年 (1977) に「交通系統の整備」「建物施設群の整備」「環境および景観の整備」「空間の整備」を基本方針とする河原町地区と京阪電車守口車庫跡地の再開発事業計画が決定されました。

河原通商店街は道幅が狭く短い商店街で、通りも車は西行きの一方通行で通行人も多く、車で通り抜けるのも大変でした。現在、ホテルの駐車場からの一方通行路に当時の面影が残っています。

この商店街は京阪電車守口市駅のすぐ前にあり、守口の中心にある商店街で、入口にはパチンコ屋さんがあり、看板にもあるように不動産屋さんや旅行社、旅館、酒屋さんや勤め帰りに一寸一杯ひっかける飲み屋さんが多くありました。

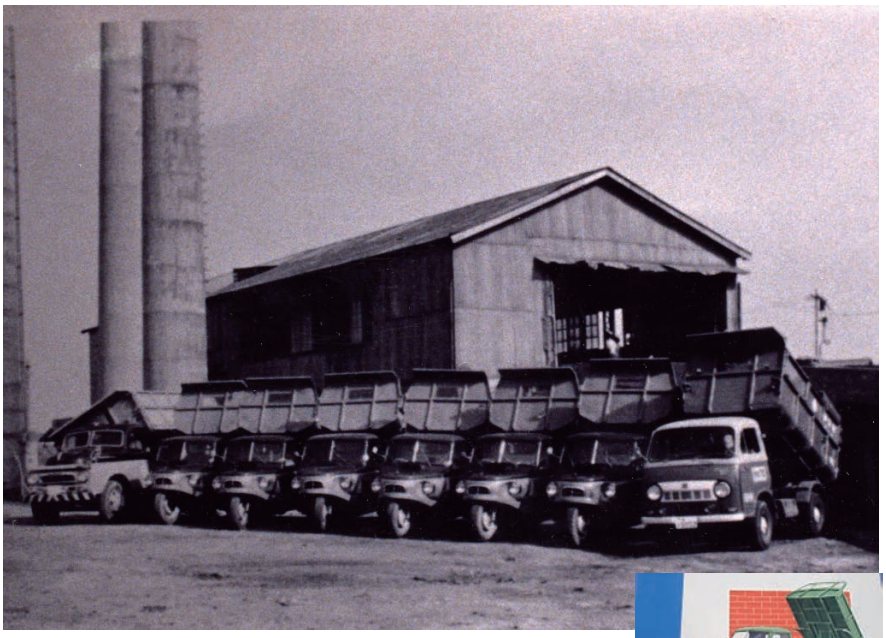
守口市駅前周辺は守口市の玄関口です。しかし再開発に伴い商店街は姿を消し、現在では百貨店の守口店や体育館、文化センター、金融機関、ホテルや老人福祉施設などを結ぶカリオンの鐘のある「アポロン橋」が架かり、バスターミナルが配置された「トークティ守口」呼ばれる立派な駅前に生まれかわりました。

現在、商店街の跡地はホテルやスーパーマーケットや高齢者用施設などになっていますが、写真の丸富商事さんは近くに移り現在も残っています。

2018

守口市クリーンセンター

（もりぐちしクリーンセンター）













昭和 20 年代は守口市でも下水道事業ともに家庭ごみの処理も大きな課題でした。これまではすべて埋立方式により処理されていましたが、昭和25年（1950）10月に橋波2番地あたりに塵芥焼却場ができました。

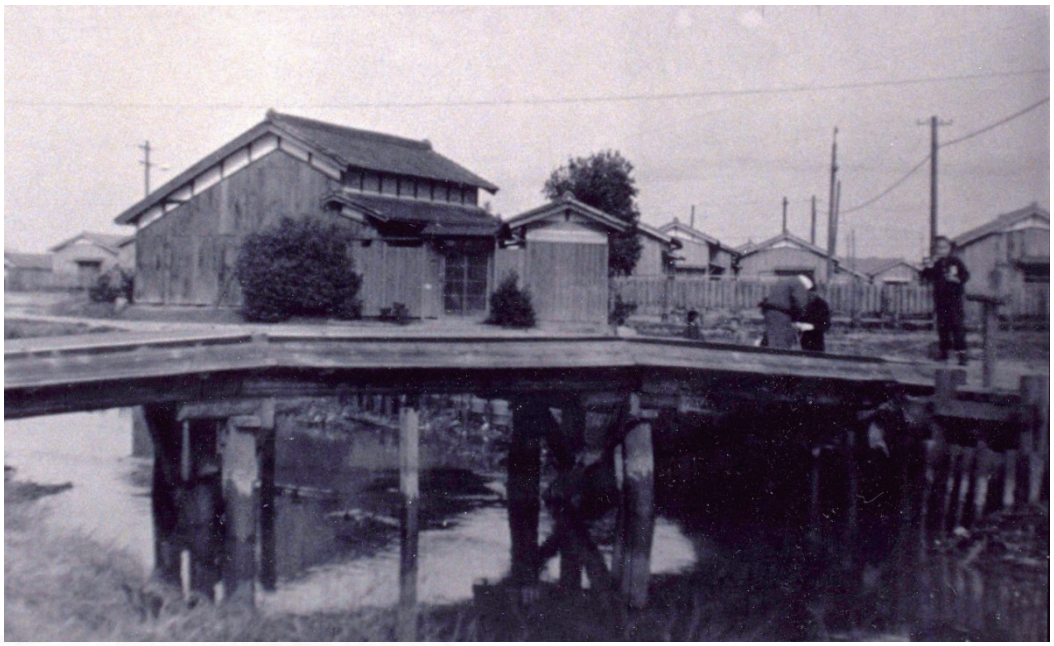
昭和 28 年ごろには人口の増加にともない、ごみの収集をするために機動力として家庭などの一般ごみ収集用に自動三輪車が5地区に5台、市場・事業所などのごみ収集用にトラック1台が投入されました。ところが橋波2番地の焼却炉だけでは処理能力が不足するようになったため、焼却処分できない生ごみは土地の低い南部地域の池や低地などに以前のように埋立処分されました。写真の整列する3輪トラックは、三菱TM8AD型で直列2気筒1276cc、最高出力36ps、定員2名、1台約70万円からの日本初のダンプカーです。当時大卒の初任給は1.1万円程でした。

時代が進むにつれ、蚊やハエなどの有害昆虫の発生や悪臭が大きな問題となり、池や低地などに埋立処分された生ごみによる汚水が農業用水に流れ込み、農業生産の環境が悪くなり、下水道整備が急がれることになりました。

2018

橋波東之町2丁目から門真市をみる

（はしばひがしのまち２ちょうめからかどましをみる）







写真の橋は、橋波東之町2丁目と菊水通1丁目を結ぶ橋で、東（右）側には門真市の本町市営住宅があります。昭和54 年 (1979) まで二戸一の木造住宅でした。現在は鉄筋コンクリートの七階建にかわり 167 戸あります。

橋の架かっている西三荘水路も今では暗渠になり、立派な道路に姿を変えています。西三荘水路は現在、正しくは「西三荘都市下水路」といいます。源流は淀川で大日町の府庭窪浄水場から南下して、大阪市鶴見区を抜け寝屋川と合流する全長6.6㌔の水路です。戦国時代末期に門真庄、九箇庄（寝屋川市）、五箇庄（守口市）の三つの庄に水をうるおし、庄園の西側を流れていたので、西三荘（にしさんしょう）川と呼んでいたようです。昔は農業用水など結構美しい水で夏なると子どもたちが泳いだり、魚とりや水遊びなどなとしていた水路でした。

鶴見緑地では、平成2年 (1990)4月1日から9月 30 日まで 183 日間「国際花と緑の博覧会」が開かれ、テーマは「自然と人間の共生」です。

守口市では平成元年から9年にかけて天乃橋から鶴見緑地までの間、約 1.9 ㌔を暗渠にして、「西三荘ゆとり道」として整備されました。

この写真の風景は守口市史の第五巻 第1節「守口の自然」やグラフ守口№62 にも掲載されています。

2018

第7回大阪府郡市対抗体育大会予選(昭和28年ごろ)

(だい7かいおおさかふぐんしたいこうたいいくたいかいよせん(しょうわ28ねんごろ))







第一中学校校舎から市役所方面(昭和32年ごろ)



上の写真は昭和 28 年 (1953) 第7回大阪府郡市総合体育大会の相撲競技予選のようすです。相撲場のあった場所は平代町です。平代町の西南から大阪内環状線の方向を撮ったもので、当時この辺りは広場がありサーカスが来たこともあったそうてす。現在は大阪内環状線になっており、正面に製パン工場と書かれた看板が上がっていますが、このパン屋さんは、のちに大阪パンとなり学校給食用のパンなども作っていましたが、現在その跡地は大真会館になっています。

戦時中アマチュアスポーツは途絶えていましたが、戦後のすぐの昭和 21 年 (1946) 6月1日大阪府を統括する体育団体として名称を大阪府体育運動連盟と改めて、再発足しました。

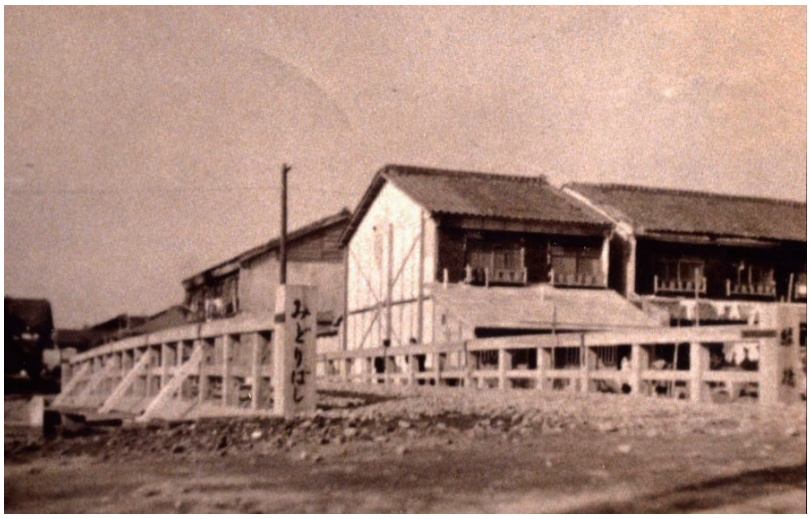
相撲は戦時中はどの小中学校にも校庭の隅に土俵があり、とても盛んでした。現在ではスポーツの多様化で多くの学校では土俵は姿を消しました。いまでは大枝公園に常設土俵が設置されています。守口市ではかつて大関の前ノ山関や最高位関脇の剣晃関などが大相撲で活躍されました。

右上の写真は卓球の市対抗体育大会予選ので、会場は第一中学校体育館です。戦後の日本では、野球、バレーボールとともに卓球も大変盛んになったスポーツです。

2018

みどり橋（昭和38年ごろ）

（みどりばし（しょうわ38年ごろ））









昭和29年ごろに完成した菫(すみれ)橋

左上の写真は、大阪市旭区との市さかいの守口市緑町1丁目に架けられていた「みどり橋」です。下を江野川が流れており、そこに架かっていた橋です。

この地域は戦時中、兵隊さんが淀川で演習時に宿泊するので二階建ての家が多かったのだと聞いたことがあります。戦後は、アパートや住宅が建ち並び、みどり橋が架けられたこによって、守口車庫へ市電やバスに乗りに行くのに大変便利になったと喜ばれた橋です。

しかし、万国博覧会の関連事業として昭和45年3月に豊里大橋が完成し、みどり橋は役目を終えました。その後、阪神高速道路守口線の建設にあたり江野川が埋め立てられ、今では豊里大橋のたもとで阪神高速と交差するところに「緑橋」が架かっていたことを示す銘板があります。

守口市は第二次世界大戦では比較的空襲が少なかった地域で、『平和教育資料』作成の時「集成高等女学校」の卒業生の方よりお聞きしたことがあります。

この学校は昭和14年(1939)、江野川の北側に日本女子専修学校として創建。その後、昭和 20 年4月大阪集成高等女学校となりました。しかし、3ヵ月後の6月7日に空襲にあったのです。「校舎は全焼。爆弾が防空壕を直撃して先生1人、生徒7人が犠牲者なられたそうです。」その後、仮校舎で学習を続けていましが、昭和 24 年3月で廃校にな、9期生まで送り出した短い間の学校でした。卒業生などの強い希望で、校舎はなくなりましたが、「名前だけでも残してほしい」との願いがかなえられ、現在は守口幼稚園になっていますが、正門に「学校法人 大阪集成学園　守口幼稚園」と当時の名前が使われています。

2018

竜田通り-1

（たったどおり－１）





写真は戦後間もないころのでものと思われます。場所は現在の竜田通1丁目5番あたりで難宗寺の裏手東南角です。ホルモン屋さんから難宗寺南側の塀に沿って進むと来迎町や本町に通じます。

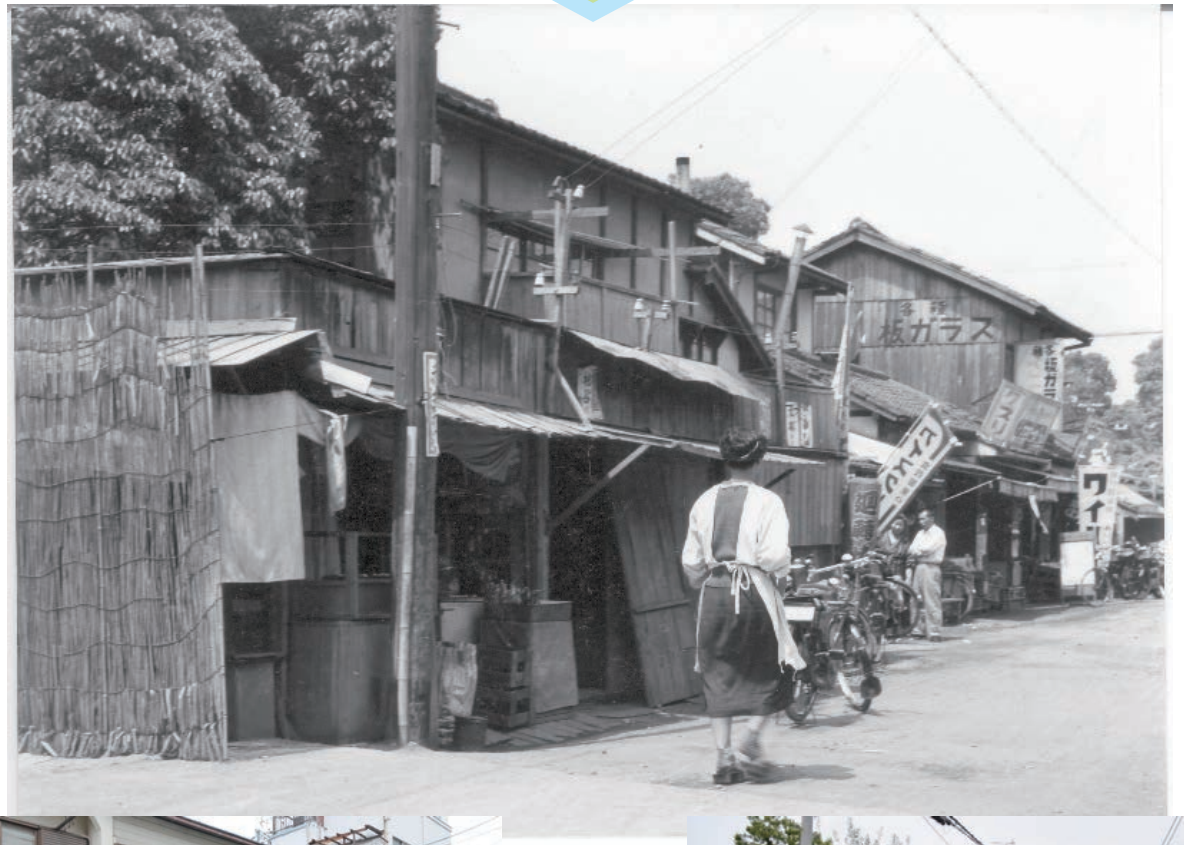
戦時中は国民服や割烹着・事務服・モンペなどの着用が強要されましたが、割烹着は戦後もながく着用されており、この一品料理のホルモン屋さんにも割烹着姿の女性がいます。ホルモン焼きの支度をしておられるのかそれともお客さんなのか分かりませんが、このあたりには数軒のホルモン屋さんがあり、ほかにも飲み屋や子ども相手の駄菓子屋などがありました。女の子がアイスキャンディーを食べながら歩いているようすも写っています。

しかし、近くには松下電器や当時は神戸電機株式の蓄電池工場や守口染色工場（東洋紡）があり、従業員が会社帰りになるとホルモン焼きの臭いにさそわれ、「ちょっと一杯」ひっかけるのが楽しみで、庶民的なホルモン屋や飲み屋さんがたくさんありました。近くには会社の従業員の住宅や社員寮などもあり、また地元の大人たちの憩いの場でもあり、「このようなホンモン屋さんや一杯飲み屋が大変繁盛していた」と地元の人は言っておられました。今ではこの店も廃業され、跡地は難宗寺のコンクリートの塀に囲まれていますが、木々が当時面影を残しています。

2018

竜田通り-2

（たったどおり－２）





現在でも薬局、酒屋さんの面影があります。



戦後間もないころの竜田通1丁目あたりの風景です。難宗寺のまうしろの通りです。この道を南西に進むと桜町商店街から京阪守口市駅へ通じます。

手前の店内には少し高くした台があります。この頃よく売られていた「べた焼き屋さん」のようです。また、1本5円くらいのアップル水やニッキ水、少し高いが三ツ矢サイダーなどを売る子ども相手のお店屋さんのようで、飲み物が入っている木箱が積んであるのが見えます。

隣には回転焼きやアイスークリームを売る店で前には自転車がたくさん止めてあり、板ガラスやクスリ、ワインの看板も見えます。今もお豆腐屋さん、薬局、酒屋さんが同じ場所で商っておられます。この辺りもお店が建ち並び、商店街を形成していたころもあったことがうかがえます。

戦後も、守口町の一大イベントである難宗寺と盛泉寺の報恩講が毎年 11 月 13、14、15、16 の4日間開かれ、露天商などが出てとても賑わった所でした。交通量が増え、報恩講も今ではなくなってしまいました。

写真を見くらべていただくと、戦後は木の電柱ですが現在はコンクリートの電柱が同じ場所に立っています。コンクリートの塀現在は、難宗寺ものです。

参考資料 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

2018

佐太天神宮-1

（さたてんじんぐう－１）











写真は明治ごろのものでないでしょうか。参詣されている人たちを見ると、全員が和服で男性はカンカン帽をかぶっておられます。カンカン帽は麦わらの一種で、発祥は西洋で水兵や船のこぎ手のために作られた男性ようの帽子で日本でも大流行したもので、紳士のシンボルだったのでしょうね。女性は明治期に西洋から輸入された日傘(パラソル)をさされ、和服です。時期は夏のようで全員が正装されていることから佐太天神宮の夏まつりと思われます。

現在、夏祭りは7月24日・25日に開催され、25日には午後2時ごろ、本殿から高張提灯を先頭に子ども神輿や太鼓台が各氏子地域を回わり、午後8時ごろからは大人による平成大神輿が御旅所まで渡御し、伊勢音頭を歌いながら宮入りします。

天神さんの参道は今の淀川の堤防あたりまであり、とても長い参道で、のんびりと穏やかな時代が想像できます。右上の写真のように、かつて本殿の屋根は檜皮葺きでしたが、現在は銅板葺きに代わっています。

写真の右奥に田んぼがありますが、このあたりの参道を横切って、国道一号線（京阪国道）が通っています。昔は長い参道のある、とても大きな敷地であったことがわかります。

2018

佐太天神宮-2

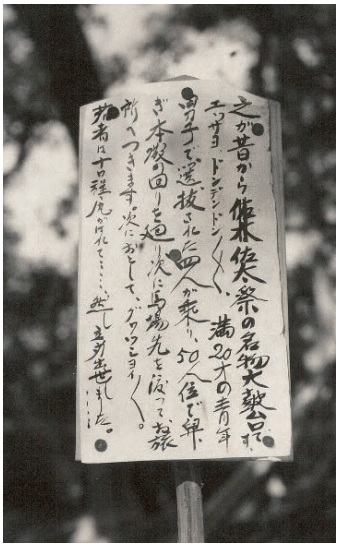
（さたてんじんぐう－２）



左の写真は昭和38年（1963）頃の佐太天神宮夏大祭（夏祭り）の風景です。

もちろん寝屋川バイパスが開通する以前で、正面には淀川左岸幹線用水路にかかっていた参道の木橋があります。その先にあるのが淀川の堤防です。

右は佐太祭りの名物、太鼓台の説明文です。







2枚の写真は夏祭りを村中に触れまわった触れ太鼓の宮入りのようすです。触れ太鼓は一番地区（村）、二番地区（村）、五番地区（村）に各1台あり、伊勢音頭を先頭に若い衆が太鼓をたたきながら、夏祭りを村中くまなく触れまわりました。説明文にある佐太名物で50人ほどが暴れながら担いだ太鼓台は、昭和40年ごろを最後に中止されています。江戸の昔から労を謝す佐太天神手打ち音頭「打ちましょ シャンシャン もひとつせ 祝うてシャンのおしゃかシャンのシャンとこせ ごくろうさま」で渡御を終えました。平成25年の夏祭りでは、伊勢神宮式年遷宮を記念して『伊勢音頭』が復活しました。右の写真には市長を9期連続務められた木﨑正隆守口市長も写っています。

右の写真は、佐太天神宮横の水路に沿って練り歩く稚児参り（行列）のようすです。

稚児とは、神社や寺院の法要などで、決められた衣装で着飾り、化粧をした小学生ほどの子どもたちのことを言います。

穢れのない童子・童女は神霊の懸かる対象や神様に仕える存在として特に尊ばれています。稚児行列に3回出るとしあわせになれるという言い伝えもあります。



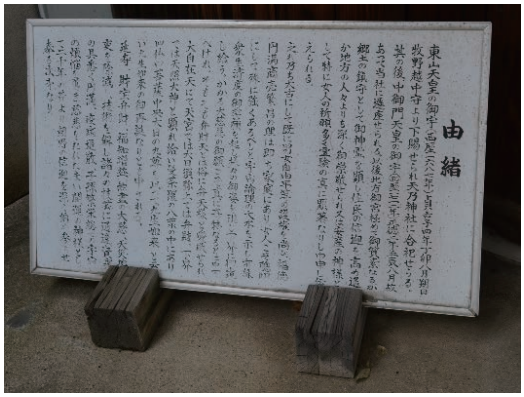
2018

橋波西の弁天さん（昭和10年ごろ）

（はしばにしのべんてんさん（しょうわ１０ねんごろ））







イチキシマ姫命を祀った神社で、市杵島神社（いちきじま）と言い、通称弁天さんと呼ばれています。

弁財天はインドのサラスバニィー河の神で水神・農業神として尊崇されました。そう言った意味から、弁財天の祠の多くは池や川のほとりにあります。

やがて智慧の神と結んで音楽や言語の神とされ、鎌倉以降は衣食住や財宝をもたらす幸福の神とされ、七福神の一つになっています。

弁天さんのお社は、弘化5年（1848）の記録によると2尺（約60センチ）4方の小さな板ぶきの祠でしたが、現在の社殿は昭和37（1962）年に再建されました。境内は美しく整備されていますが、周りはすっかりかわり、住宅の中にひっそりと建っています。残念ながらの写真のように池（田んぼ）の中にある弁財天が祀られていた弁天堂の昔の面影は残っていません。

神社にある小さいながら立派な鳥居には文化15年（1818）に建立とあり、安政6年（1859）の灯籠と狛犬があります。明治28年（1895）と昭和16年（1941）と記載された灯籠もあり、明治百年の祈念碑などが建立されています。このように節目節目に記念になるものが建立され、郷土の人たちの弁天さんへの厚く崇拝されておられることがよくわかります。

2018

室戸台風の被害（昭和9年9月21日）

（むろとたいふうのひがい（しょうわ9年9月21日））



（近畿地方大風水害）　多數死傷者を出した京阪守口小學校

室戸台風は、昭和9年（1934）9月21日、近畿地方を襲った台風は各地で多くの被害をもたらしました。当日の大阪測候所の発表では、午前6時 30 分ごろまでは秒速8㍍以下と発表され、7時には 12.8 ㍍に達し、その後気圧は急に低下し、7時55分に最低気圧 954.4 ㍉バールとなり、東から吹いていた風が、南よりになり、観測所の信号鉄塔が真北に倒れたといわれています。守口の地域では、8時ごろに最も強く吹いたと思われれます。

守口第一小学校（現守口小学校）は、倒壊校舎（二階建て一棟）も東西に建てられた建物で、北側に倒れました。同校の状況を「校庭中央に避難中。二階十二教室倒壊、風上二避難ノ途中、幼学年ハ逃ゲ遅レテ職員以下百五十名下敷トナル」とあります。校舎1棟が全壊しました。

当校ではこの台風により、死亡児童11人（後に1人死亡含む）、給仕1人、重傷、職員2人、児童 23 人、軽傷、児童49人でした。亡くなられた給仕の職員さんは同年春、門真尋常高等小学校を卒業された14歳の中橋好雄さんです。倒壊の危険が迫った校舎から恐怖で校舎外に脱出できない児童を救出するため、教員と共に2度3度、校舎内に駆け込み数人を救出した後、4度校舎内に駆け込み救出しようとしたところ、校舎が倒壊し殉職されました。

遭難25年目の昭和34年9月21日、守口小学校では校庭一隅に同校児童会の手で慰霊塔が建てられました。裏面には守口第一小学校犠牲者十二名の名が刻まれています。

三郷小学校でも校舎の倒壊や児童25名、職員1名の死者が出る大被害を受けています。守口町や三郷町では、この台風で児童は35人が死亡。後に1人、重傷者は43人、軽傷122人。守口署内の被害状況は死者64人、重傷者163人、軽傷者313人、全壊家屋332軒、半壊268軒とあります。

台風で京阪電鉄の守口車庫等50棟以上が全半壊、枚方市牧野付近の浸水や路盤の流失という大きな被害を被り、京阪全線が平常運転に戻ったのは9月27日であったとあります。

2018

ジェーン台風の被害（昭和25年9月3日）

（じぇーんたいふうのひがい（しょうわ25年9月3日））



ジェーン台風の被害(滝井付近)



ジェーン台風の被害日吉劇場



守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編集兼発行人 福原金登
中多順三郎

目次抜萃

ジェーン猛威のあと……1
災害に際して市民の皆さまへ　市長 井上七郎……2
災害御見舞のことば　議長 西村寿之輔……2
新らしい近代家賃はどう算つたか……2
警察より市民の皆様へ……3
中小商工業者の金融には……3
十月一日国勢調査……4
よい子にパンの給食……4
短信……5
民主々義は自主する……5
知つていますか、火災、水防警報……6
選挙の知識……9

ジェーン猛威のあと
台風の季節とは！

市民の皆さまへ災害のお見舞を申上げます

参考資料

台風がよく来る時期のころを、二百十日（9月1日頃）とか二百二十日（9月11日頃）と言います。昭和25年（1950）も例外でなく、9月3日の午後1時10分頃に神戸市に上陸したのがジェーン台風です。市民は大きな被害を与えた昭和9年の室戸台風を思いだし恐怖が高まっていました。この台風は8月30日頃硫黄島付近に発生し、その後北西に進み室戸岬南方 500 ㌔から進路を北北東に変え、9月3日午後1時10分頃に神戸市東方に上陸しました。半径100㌔を暴風域とし、最大瞬間風速45㍍の強風が近畿地方襲いました。

守口市では3日早朝から北東の風が強まり、その後南西風に変わり昼過ぎから夕刻まで暴風雨が吹き荒れました。

前もって雨戸や窓に板を打ち付け台風の準備はしていましたが、風雨のため大きな被害が出ました。守口市では全壊76戸、半壊427戸、一部倒壊3968戸、全家屋瓦や塀を吹き飛ばされるなど被害を蒙りました。上の写真は滝井地域で家屋が倒壊したり、土居にあった日吉劇場という映画館もこの台風で倒壊しました。

この頃はまだ農家も多く、農作物にも大きな被害を与え京阪池の護岸の崩壊もありました。このため、守口市では災害復旧に向けて、復旧資金の貸付け（1世帯2万円以内、総額 1000 万円以内、利用期間6ヵ月以内、日歩2銭6厘）、市民税、固定資産税の軽減などを行ったとあります。

2018

守口市と庭窪町の合併（昭和32年4月）-1

（もりぐちしとにわくぼちょうのがっぺい（しょうわ32年4月））－１



新市の発足を祝う　守口市長 木﨑正隆

永年の理想であり、懸案であった守口市と庭窪町の合併が遂に実現し、輝かしい新市の門出を迎えるに当たりまして一言お欣びのことばを申し上げます。

両自治体が一つになることの利点は、今さら申し上げるまでもありませが、人口、面積ともに理想的な規模をそなえた中都市の態容を整えること、行財政能力が充実し、健全かつ合理的な運営が期し得られること、そして住宅都市、工業都市として時の流れにそった総合的な発展が期されること等に要約されるかと存じます。新市の黎明ともいうべきこの日に当って私どもは、さらに決意をあらたにしてその総合施策実行に励み、この守口市を真に近代的な福祉都市として育成し、合併の意義を高めなければならないと存じます。

終りにこの合併成立について自己の利益得失を超越して尽力された旧町政関係者の各位及び本市議会議員各位のご理解あるご協力に対しまして、この機会に心から感謝を捧げますとともに、今後における市民の皆さんの一層のご支援、ご鞭撻をお願いするものでございます。（『守口市広報』151 号）

2018

守口市と庭窪町の合併（昭和32年4月）-2

（もりぐちしとにわくぼちょうのがっぺい（しょうわ32年4月））－２



守口町と三郷町は大阪市への編入をあきらめ、昭和21年（1946）11月1日に合併し、全国207番目の市、守口市となりました。

一方、庭窪町は昭和29年2月、守口市政調査研究委員会に隣接町村との合併問題についての調査研究会を提案され、同年6月に11人の委員会からなる合併委員会で隣接5町村（門真町・庭窪町・大和田村・二島村・四宮村）の合併が検討されることになりました。

木﨑守口市長を会長とする「守口市ほか5ヵ町村合併促進協議議会」を設立し、合併の基本的な協議を開始しました。

しかし、門真町側の合併反対の動きが強まり、庭窪町を除く3ヵ村は門真町の態度を重視することになり、翌年、協議会活動を打ち切りました。

その後、町村合併促進法の期限切れ寸前の昭和31年9月30日に門真町、大和田村、二島村、四宮村の1町3村が合併しました。

一方守口市は、大阪市との合併を検討していましたが、大阪府は過大都市抑制策により静観するこになりました。昭和32年（1957）1月25日に庭窪町から守口市に合併を申し入れ、「合併の形式は編入合併だが、実質的には対等とする」など 26 項目の合併協定条件が出された。

2月 23 日には両市町で議会が開かれ守口市は満場一致、庭窪町では賛成19票で反対2票の多数決で合併が決議された。昭和32年4月1日に新守口市が発足した。

引き続き守口市、門真町の合併が行われるよう3月30日に両議会に議案が提出されたが、実現しなかった。（『守口市史本文編第5巻』）より

写真は守口市と庭窪町が合併した昭和32年4月5日に行われた合併祝賀会のものです。

大阪府副知事、大阪府議会議長など来賓約500人の出席のもとで合併祝賀会が催されました。

2018

夏季大掃除（昭和26年7月ごろ）

（かきおおそうじ（しょうわ26年7月））









戦後、守口市では赤痢、腸チフスなど伝染病予防のため 7 月の決められた土曜と日曜に地区を決め一斉に大掃除をしました。ゴミやほこりが出るので町内や集落が決まった日に実施したのです。昭和 26 年7月の広報には、一、消石灰 (一等品)20 ㌔袋入り、斡旋価格1袋 95 円。一、申込方法 それぞれの清掃予定日の5日前までに旧隣組又は個人宅寄りの出張事務所又は市役所衛生課へ申込むこと。一、申込の分に対しては市役所からお宅まで配達します。と掲載されています。

消石灰は乾燥剤や殺菌剤になり大掃除のあとに床下や家の廻り下水道などにまくなど大掃除での必需品でした。

この大掃除を機に畳や家具などを入れ替えたり、粗大ゴミなどを捨てました。13 日間の期間中に捨てられるゴミの量はトラック1千台分にのぼり、処分地にショベルカーで積みげました。焼却灰や燃えないゴミは埋め立て処分地として、四条畷市の山中に約3万平方㍍の谷間を市が買収していました。大掃除の日に休暇をくれた職場もあったそうです。

左上の写真に写っている栗原歯科さん (金下町1−9)は、内環状線側に 3 軒ほど移られたそうですが、現在でも開院されています。

守口百景

守口市役所付近

（もりぐちしやくしょふきん）











守口市役所を構図の中心においた国道一号線の風景です。守口・三郷両町は大阪市への編入を希望していましたが、紆余曲折を経て昭和21年（1946）11月1日に守口町と三郷町が合併し、人口47979人、大阪府下11番目、全国で207番目の市制がひかれました。

守口市は戦時中から守口小学校の一部に市庁舎を移し利用していましたが、昭和26年（1951）に現在地に新庁舎が完成し移りました。

市役所の前を通る広い道路は国道一号線で、守口一枚方間の工事は昭和27年に着工され、昭和30年4月には守口市から枚方までの全線が開通しました。

国道一号線の測量に携わった人に50年ほど前にお聞きした話ですが「こんな阿呆みたいに広い道をつくってどうすんのやと思いながら測量した」と言っておられました。写真は昭和28年～30年頃のものです。

守口百景

八島交差点付近

（やしまこうさてんふきん）











守口市の中心地といわれる八島交差点周辺は、明治の淀川改修まで文禄堤と淀川の中ノ島の外島に接していたところです。江戸の昔は高札場のあったところで、京街道は難宗寺の方へ向い、文禄堤は八島から守口小学校、八雲へと続いていました。

淀川改修後の大正9年（1920）に京街道が二級国道二号線と改称され、八島より京街道から離れ守口小学校前の前を通る道が国道二号線です。

上の写真は、国道一号線ができた当時のようすで、右上の写真には「交通安全祈願大聖像」が建てられています。

これは地元浜町の石橋繁氏が、成田山大阪別院の管長に「交通安全の目標になるものがほしい」と願いでて、石橋さんの土地に昭和33年（1958）に建立されました。現在でも5差路になっていて自動車が頻繁に往来しています。

守口百景

大阪市営バス守口車庫前付近

（おおさかしえいバスもりぐちしゃこまえふきん）













この写真は、昭和32年（1957）頃の京阪本通りの大阪市営バス守口車庫前付近です。
市電が守口まで乗り入れられるのにはいろいろと課題がありましたが、昭和4年（1929）に赤川町−今市間が開通し、昭和6年10月に守口町字土居まで延長され開通しました。

昭和32年4月にはトロリーバスが今里−守口車庫間に開通しました。右の写真は車庫前付近ものですが、昭和40年代に入り自動車が増加し、昭和44年4月1日に市電、翌年の10月4日にトロリーバスが廃止になり、バス運行に切り替えられました。

戦後の軽三輪ブームの火付け役「ミゼット」が走っています。最初は250ccで昭和34年に丸ハンドル、2人乗り、積載量は350㎏。荷物の運搬に大活躍しました。価格は当時で22万8千円ほどでした。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

守口百景

国道一号線

（こくどういちごうせん）











守口百景

京阪池（大枝公園・市民球場）付近

（けいはんいけ（おおえだこうえん・しみんきゅうじょう）ふきん）











大枝公園の市民球場あたりには、京阪電鉄の京橋（現在の蒲生）から守口までの区間4220㍍を直線・高架複々線化にするよう改良計画が起案され、軌道を高架にかさ上げするための土が掘り出され、跡地にできたのが京阪池で東西約250㍍、南北約250㍍ありました。

複々線化は私鉄では初めてで、土を運び出すために、守口第三中学校・春日小学校の前の道に線路がひかれました。

蒸気機関車が十数台の台車を牽引し、旧私立京阪業高校（守口三中、さつき小）の所から高架にして現在の土居駅あたりから登り、線路に土を運びました。工事は昭和3年（1928）に着工し、昭和8年12月に完成しました。京阪池には付近の多くの用水路から淀川の水が流入し、魚貝類や水性植物も生息していました。池の水は農業用水に用いたり、できた当初には泳いだりもしたそうです。

右上の写真は昭和25年頃ものです。このように多くの舟を出して釣りや投網で魚を捕ったりして楽しんでいました。周辺には松下電池工業の工場があり、散歩道などが整備されました。

守口百景

京阪池と松下電池工業

（けいはんいけとまつしたでんちこうぎょう）











京阪池には地下水や雨水、下水などがたまり、雨水調整池として利用していました。
戦後、池の周辺に住宅や工場が増え、排水施設が不十分なために蚊や蠅の発生源となりました。雨期には水があふれ、周辺に床上浸水など大きな被害をもたらせました。

この京阪池はのちに工事残土の捨て場となり、昭和38年（1963）頃にはすでに30％くらいは埋めたてられ、守口市では昭和37年に揚水ポンプ場と排水口を設置して寺方排水路に水を流しながら埋立を進めていきました。

昭和43年（1968）10月にはスコアボードやスタンドを設けた本格的市民球場やテニスコートがつくられました。

京阪池の残りの5000平方メートルは、昭和60年（1985）から工期約8年、工費100億円をかけ雨水調整池としての配管や機能を地下に埋設し、上部を公園として整備しました。

右上の写真は昭和30年ごろのもので、かなり水質の悪化した京阪池と、現在のテニス場西側の道路が写り、右2枚の写真は松下電池工業の工場群です。

守口百景

京阪電車「守口市駅」

（けいはんでんしゃ「もりぐちしえき」）













京阪電車は明治43年（1910）4月（大阪・天満橋−京都・五条間46.57km）に、開業しました。

当初の京阪電車は軌道条例で軌道（営業を目的とし道路に敷設できる鉄道）として認可されていました。路線は蒲生（現京橋）から国道1号線を北上して野江付近から京街道の七曲がりを通り、現在の163号線の関目交差点付近から1号線と離れ、森小路、千林商店街の中を横切り守口市内に入り、紅屋町付近から現在の線路に沿って走っていました。

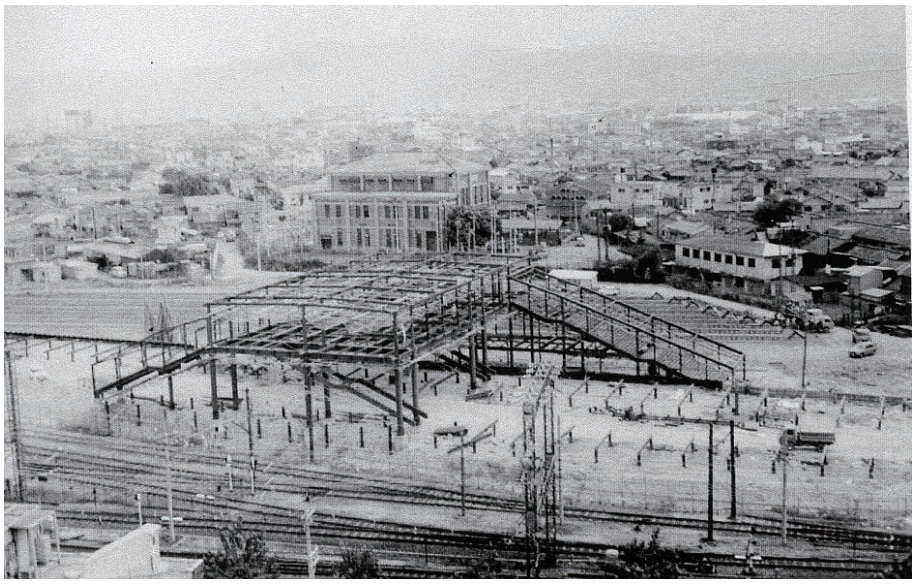
乗降客は年々増え続け、輸送力アップのため蒲生駅−守口駅間の直線・高架複々線化の工事が始まり、昭和8年（1933）に完成しました。昭和24年11月に京阪電鉄と阪急電鉄が分離し、12月1日に現在の京阪電気鉄道株式会社が発足しました。

上の写真は昭和28年（1953）ごろの大阪−守口間の通勤通学風景です。右下の写真は同じ年代のもので乗降客がかなり増えているのがわかります。

守口百景

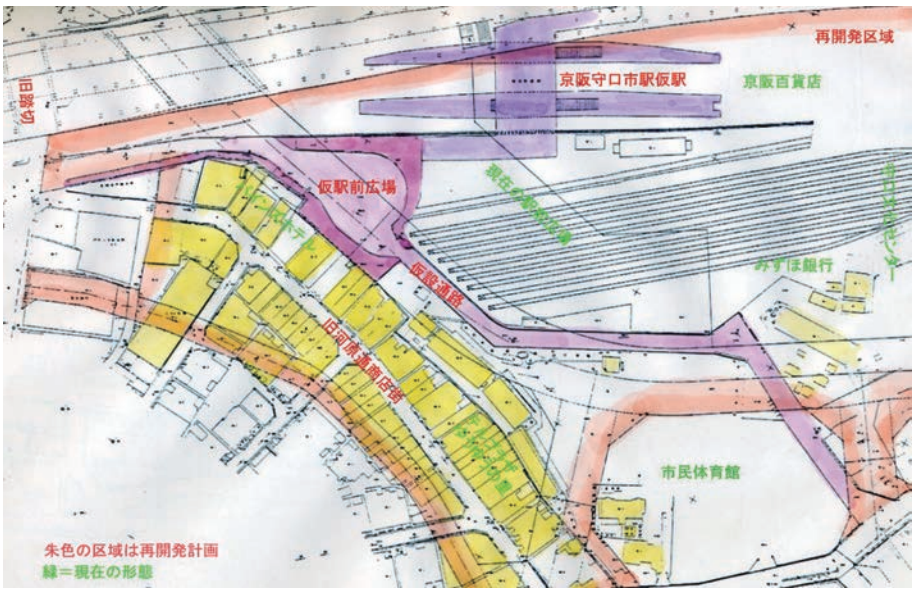
京阪電車仮駅舎と踏切

（けいはんでんしゃかりえきしゃとふみきり）













上の写真は昭和48年(1973)頃の守口仮駅舎の鉄骨骨組み工事のようすで、正面にある建物は関西電力です。

下段の図面は「京阪連立50年と計画57」の設計図で駅前の再開発計画表です。右の3枚の写真は昭和28年ごろのもので、右上2枚の写真は昭和48年ごろのものです。

守口市駅の東側にある踏切は、乗降客の増加で電車が増発され「開かずの踏切」と言われていました。道路も地道で舗装されいていません。昭和30年代の高度経済成長で、大都市や周辺都市への人口集中が急激におこり、乗降客が増加したことで「高架計画」がもちあがり、昭和49年に門真-守口市間が高架になり開通しました。

昭和50年７月の守口市議会京阪電鉄高架対策特別委員会で「昭和52年度にも完成が予定されている土居-寝屋川車庫間の高架・複々線化の時には準急か急行ぐらい停車させるべきだ」との結論になりました。昭和55年には複々線の完成にともない守口市駅に急行と準急が停車するようになり「開かずの踏切」も解消されました。

守口百景

守口市駅北側ロータリー

（もりぐちしえききたがわロータリー）















上の写真は昭和28年頃の守口市駅の北側（国道1号線側）のようすです。
掲示板を中心に円形ロータリーがつくられ、掲示板のうしろには本町橋が見えます。

右上2枚の写真は本町橋が正面にみえています。2枚目の写真は、本町橋の欄干に桜で型どった花びらの中に「桜通商店街」と書いてあるのがわかります。

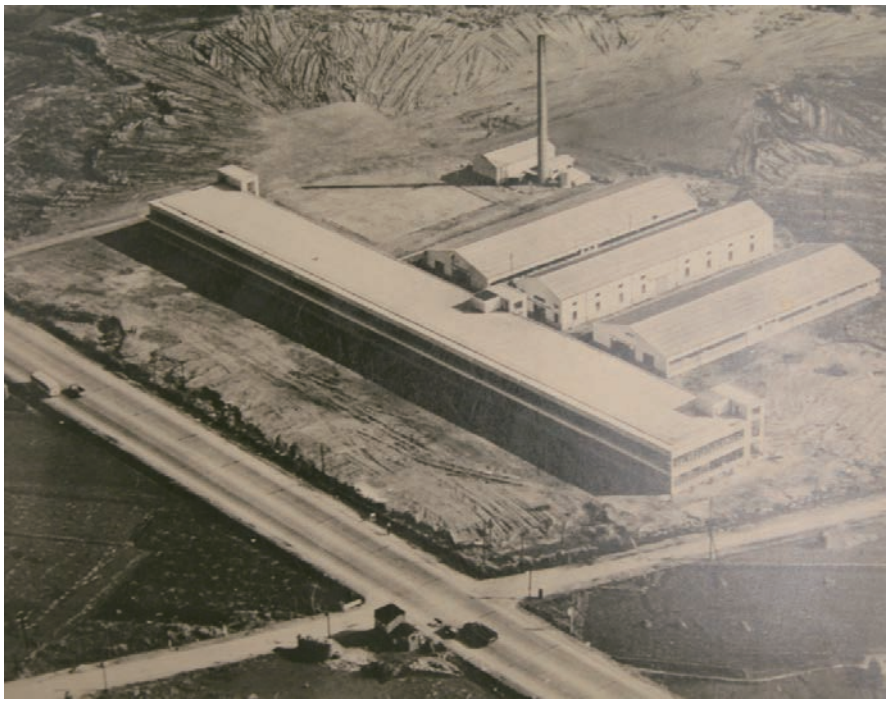
3枚目の写真は、昭和29年ごろのもので今の桜町商店街の入口付近です。

4枚目の写真は、ロータリー広場の植木がおおきくなり整備も進み、本町橋には三洋電機の看板がかかっているのがわかります。

守口百景

三洋電機 淀川工場

（さんようでんき　よどがわこうじょう）











松下電器の専務取締役であった井植歳男氏が、昭和22年（1947）1月に個人企業としての三洋電機製作所を守口市日吉町に設立し、兵庫県の北条工場、守口工場、庭窪工場で自転車用発電ランプなどを生産していました。

事業の発展に従い、昭和25年（1950）4月に三洋電機株式会社となり、1年後の昭和26年5月に京阪本通2丁目に本社新社屋が建設されました。

当初、売上高は半年で約3億円でしたが、昭和30年11月には約44億円に増え、従業員も約3000人になりました。神武景気やオリンピック景気と呼ばれた昭和38年から39年頃には生活様式も大きく変化しました。電気炊飯器、電気洗濯機、電気冷蔵庫などの家庭電気製品が次々と登場し、これらを生産するために現在のイオンモール大日の場所に三洋電機淀川工場が建設されました。

左上、右上の写真は昭和32年頃のもので、国道一号線もこんなに空いていました。左下写真は、昭和40年頃で近畿自動車道はまだ建設中のようです。

三洋電機はこのようにして家電製品の大企業へと成長を遂げ、守口市に大きな影響をもたらしました。右下の写真は平成17年頃のもので、淀川工場が解体され、イオンモール大日建築中です。

守口百景

京阪商店街

（けいはんしょうてんがい）







上の写真は昭和28年(1953)頃の京阪商店街の北の入口で、しっかりしたアーケードがあり、入口には「京阪商店街」と看板があがっています。　入口の辺りは広々としています。当時は左手前から守居神社のあたりまでが児童公園になっていたからです。

写真の場所は京阪土居駅からガードをくぐり、守居神社のすぐ先の京阪商店街、旭通商店街、東通商店街などの四辻になっているところです。

京阪商店街はこのあたりから次の三差路までをいっていましたが、現在は内環状線までを京阪商店街と呼んでいます。

商店はかなり様変わりしており、開設当時のお店屋さんは少なくなりましたが、入口の北側にあるお茶屋さんが残っているお店の一軒です。

守口百景

桜通商店街

（さくらどおりしょうてんがい）







桜通り商店街は昭和9年（1934）に河原町の市場が火災にあい、昭和10年7月1日に桜町に新築移転して開業しました。

戦時中は配給制度で販売する商品も少なくなり、多くの店は閉っていましたが、戦後の昭和21年に25店舗で再開されました。

昭和24年9月3日には京阪電車守口市駅前や本町橋の両側と桜町の商店で、桜町商店街が誕生しました。

土居嘉吉初代会長らが27万余円を出し合い、写真にあるような鈴蘭灯（鈴蘭の花をかたどった装飾電灯）を設置し、大売出しや優良店員を表彰するなど様々なイベントを企画し、盛り上げていきました。

写真は昭和28年（1953）頃のようすで、買い物客も多くとても繁栄していたことがよく伺えます。

司馬遼太郎は産経新聞に勤めていたころ桜通りの薬局に住んでいて、昭和35年の第42回直木賞「梟（ふくろう）の城」は守口時代に書かれました。

その後、街道を題材に紀行を執筆するようになったのも、京街道のそばに住んでいたことが影響したのかもしれません。

参考資料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

守口百景

旭通り商店街

（あさひどおりしょうてんがい）







旭通り商店街は土居商店街を通り、京阪商店街と東通商店街の分岐点(十字路)から北へ国道一号線までの、距離的には比較的短い商店街です。

この商店街は旭通商店会によって構成され、昭和10年(1935)6月に森安仁七氏を会長として親和会が発足したことが始まりです。

昭和21年1月と翌年に鈴蘭燈アーチ2柱を設け、昭和29年(1954)9月1日には工費150万円を投じてネオン燈16本、アーチ1柱を設置しました。早くから充実した美しい商店街です。

近くには大阪市電やトロリーバス、市バス、京阪バスなどの停留所があり、繁昌した商店街のひとつです。

河野宝槌翁氏の『守口というところ』よると、「昭和25年1月に稲荷講が結成され、その人たちを中心に、毎年初午大祭に大護摩供養、餅まき演芸大会などを催し、寄進による大小数百本の幟（のぼり）が守居神社の境内に立ち並び、旭商店会を中心として付近の商店は、協賛大売出しを行うなど年々歳々盛況を呈している」と書かれています。

守口百景

京阪本通商店街

（けいはんほんどおりしょうてんがい）

京阪電車の土居駅をおり、北に向かうと土居商店街に入ります。守居神社少し先の十字路が旭商店街と東通商店街、京阪商店街の分岐点でここから西が京阪商店街です。

以前は次の三差路路までを京阪商店街、内環状線までの商店街を京阪本通商店街と呼んでいましたが数十年前に統合され、現在では京阪商店街と呼んでいます。この地域では一番長い商店街です。

商店街には昭和19年(1944)9月に木造スレート葺き、一部2階建の公設市場ができました。

公設市場は戦時中には配給所として使われていましたが、徐々に統制が解除されるにつれて市場本来の姿にもどり始めました。公設市場を中心に商店街が生まれ、市場との関係から生鮮食品などを売る店が多くなっていきました。

昭和50年頃まではアーケードはなく、通りの中央に自転車が規則正しく置かれ、買い物客であふれかえっていました。

現在はカラー舗装がされ、立派なアーケードもありますが、シャッターの閉まった店舗が目につきます。





この写真は昭和30年代の後半のように思われます。アーケードはテント地で開閉のできるものでした。割烹着姿の店番の方がおられ、左側には多くの買い物客であふれています。

守口百景

土居駅前通商店街

（どいえきまえどおりしょうてんがい）







京阪土居駅から高瀬川跡碑の斜め先のたばこ屋さんまでが土居駅前通商店街です。正面に見える森は高瀬神社のあたりです。
守口では最も古い商店街で、店も60軒ほどあり、市場も中央市場と土居市場の2ヵ所ありました。
商店街は駅に近く、松下電池などの工場があり、飲食店や居酒屋などが軒を並べ、日用品などを売る店がたくさんありました。

この商店街はバス通りで、三ツ島や寺方からバスで買い物に来られていました。駅前には協和銀行や保健所があり、土居公園の周りでは夏には夜店などもあり、大変賑わっていました。

一時はアーケードの設置を検討しましたが、必要ないと言う人も多く頓挫しました。店を継がない人もあり店が減り、また馬場菊水通りの道幅が拡張され、内環状線に通じたことで商店街が分断され、現在は2つあった市場も閉店し寂しくなっています。

守口百景

三和商店街

（さんわしょうてんがい）





上の写真は昭和39年（1964）ごろのものです。戦時中から女性は、炊事をしたり冠婚葬祭などの手伝いには必ずと言っていいほどこの「割烹前垂れ（割烹着）」を着用していました。

写真の人は買い物客か店番をしておられるのかわかりませんが、この頃は大変繁昌し、活気ある商店街でした。

しかし、橋波市場・三和市場を中心に、万來・三和・新開地・新開地中央・西郷通の各商店街は「昭和60年（1985）の完成を目標に進められている河原地区再開発事業が完成すると百貨店やスーパーに顧客を奪われ商店街が衰退するのは必至である」との思いから、商店主200人以上が集結し、昭和55年4月に「橋波駅前対策委員会」を結成しました。

都市問題に詳しい大学の教授や市の幹部らを招き「共存の振興策を探る協議会」を立ち上げ、利用者の安全と憩いに寄与する「コミュニティ型商店街」のコンセプトで「ララはしば」が誕生しました。橋波商店連合会は、万來、三和、新開地、新開地中央の4商店街と橋波、三和の2つの市場が集まり昭和55年4月に設置されました。「ララはしば」誕生時の店舗数は約140軒、現在も地域の人々に愛され大変頑張っておられます。

第１集

モノレール大日駅

（モノレールだいにちえき）



絵：上住　寿夫



大阪モノレール（大阪高速鉄道株式会社）は、大阪中央環状線の上を走る鉄道で、平成2年（1990）6月1日に千里中央と南茨木間が開通し阪急京都線と連絡しました。

続いて平成9年8月22日に門真市まで開通し、北大阪急行電鉄・阪急千里線・阪急京都線・大阪地下鉄・京阪本線と連絡し、通勤ラッシュも緩和され、大阪国際空港（伊丹空港）と門真市を21.1㌔で結ばれました。

これまで空港へは大きな荷物を持ち、梅田に出てバスに乗り換え1時間以上かかり、道路が混んだり、雨の日などは大変でした。

しかし、このモノレールのおかげで門真市や大日から大阪国際空港まで40分ほどで行くことができ、大変便利になりました。
大日駅前にはイオン大日ショッピングセンターができ、大変賑わっています。

モノレールは門真市の先、鴻池新田・荒本・瓜生堂まで8.7㌔延長されることになり、近鉄奈良線と結ばれる予定です。

第１集

カナディアンスクウェア



絵：水谷　喜美子



守口は江戸時代には東海道57番目の宿駅として栄え、明治のはじめには現在のJRが淀川の右岸に開通しました。左岸の守口には明治の終わりごろに待望の京阪電車と二級国道（現国道一号線）が開通しました。

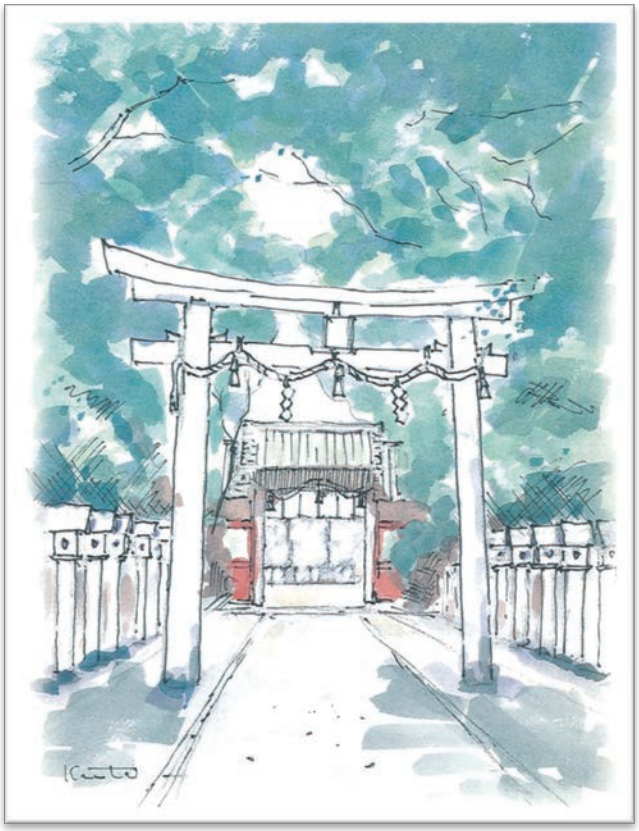
産業でも明治中期から家内工業のメリヤス工場や昭和8年（1933）には東洋紡、翌年には松下乾電池工場や昭和17年には神戸電機、昭和22年には三洋電機が出進してきました。

そのため通勤・通学など京阪守口市駅の乗降客が増加し、昭和52年（1977）に河原町地区街開発事業により守口市駅の改修や京阪百貨店、プリンスホテル、ゆうゆうの里や文化センター、市民体育館やバスロータリーなどが整備され、昔を知る人は想像もつかないほど整備され、立派な守口市の玄関口になっています。

第１集

佐太天神宮

（さたてんじんぐう）



絵：上住　寿夫



菅原道真は藤原時平の政略により延喜元年（901）に九州の太宰府へ左遷されました。その途中、守口の佐太に滞在し、水鏡の池に自分の姿を映し自作の木像や自画像を残していきした。その後、大宰府へ旅立ち、2年後の延喜3年に亡くなります。

佐太天神宮の略史よると道真公死後、約50年のちの天暦年間（947～57）、里人がその徳を慕って道真公の残した自作の木像を御神体とし、お祀りしたのが佐太天神の始まりと言われています。

中世の頃のことはあまり資料がなくわかりませんが、天正8年（1580）小出播磨守秀政が社殿を再興し、2代目吉政が千花千句の連歌を奉納して慶長年間（1596～1614）に永井信濃守尚政が天神絵巻を見て、天神をうやまうようになり本殿、拝殿、神門、鳥居などを造営したり、また淀屋右衛門が寄進した石井筒があります。天神絵巻や菅原伝授手習の白太夫の神社などもあります。

また、神社参道入口の燈籠に「河陽佐太宮」とあり、このあたりで遠い昔、淀川が分かれ古川の方へ流れていたとも考えられます。

第１集

段　　蔵
（だんぐら）



絵：菊池　郁子



守口あたりは低湿地で水害が多く、昔から水との戦いで自分たちの生命や財産、農作物などを守るためにいろいろと水害対策にとり組んできました。

堤防はもちろんのこと、内水対策にも悩まされました。そのため村全体を守るために「環濠集落」といわれる集落の周囲に堤防を造り、屋敷を高くました。

大切な物を入れる蔵は屋敷の北西側に母屋より高く土を盛り、東から西へ順次高く石垣を築き、その上に土蔵造りの蔵を建てます。蔵は冬の北西（乾）の季節風から母屋を守り、母屋への日当りをさまたげず、鬼門にも当たりません。この蔵を乾蔵と呼ぶところもあり、西南の角に土蔵を作ることもありました。これらを総称して段蔵と呼んでいます。蔵を階段状に作り、高い蔵には最も大事な米などの食料を入れ、低い蔵には水に浸かってもいかたない物を入れたりしました。蔵の名も米を入れる蔵を米蔵、衣裳を入れる蔵を衣裳蔵などと言っていました。

第１集

桃町緑道公園

（ももまちりょくどうこうえん）



絵：上住　寿夫



守口あたりの地下水には金気が多く、井戸を掘っても飲料水には適さず、多くの村は淀川から水路を引き、飲料水や灌漑用水などの生活用水としていました。

桃町緑道公園も五ヶ荘(守口・小高瀬・寺方・橋波稗島の各荘)水路の跡で、文禄堤の隧道をぬけた所に「五ヶ荘水路跡」があります。

しかし、淀川改良工事が明治43年(1910)に竣工し、淀川から直接取水ができなくなり、枚方町上庄樋管より統一水路をつくり取水しました。

昭和11年(1936)には念願の三郷・守口上水道総合浄水場ができ、水道を利用するようになりました。

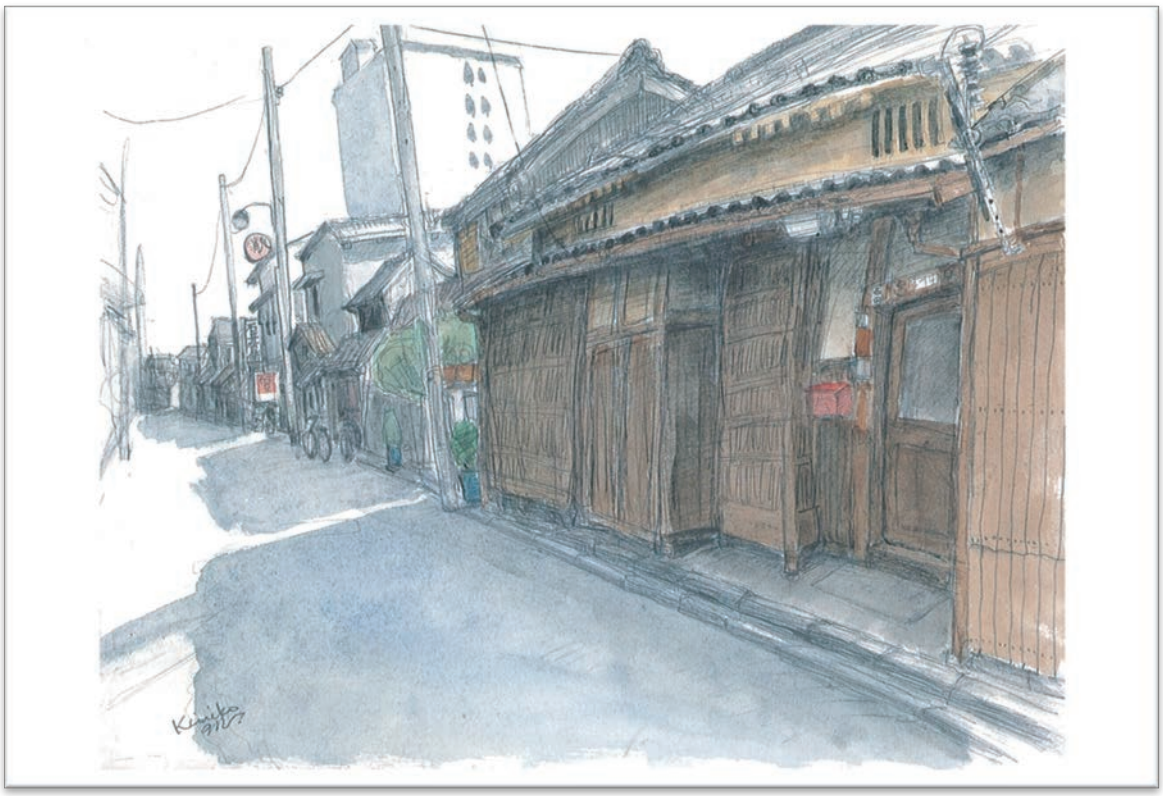
もちろん外島と狼島の間を通っていた水路は不用になり、長い間水路の跡は残っていましたが、今では桃町緑道公園になっています。

細長い300㍍ほどの公園で、桜の木や花が多く市民憩いの場になっています。

第１集

文　禄　堤

（ぶんろくづつみ）



絵：水谷　喜美子



文禄堤は豊臣秀吉が文禄3年（1594）毛利三家（毛利・小早川・吉川）に命じ、淀屋の協力を得て、伏見と大坂を結ぶ延長1万5.281間（約27.8km）の堤防が淀川に築堤されましたが、現在は本町あたりに720㍍だけで残っている大変貴重な文化財です。この堤防は淀川からの洪水を防ぎ、伏見−大坂間を結ぶ最短距離の街道になりました。守口の宿場は半分ほどは文禄堤の上にあり、主に商家でした。

上の絵の建物は以前「あかねや」と呼ばれ、呉服商を営んでおられたところです。築180年ほどで大塩平八郎の乱よりも前のものだとされています。

文禄堤の街道筋には虫籠窓や成功者であることを誇示した袖壁の卯（宇：う）建が上がり、古い建物が比較的残る宿場町時代の面影の多い町並みです。
平成になり、新しい建物に建て替えられるなど大きく様変わりしています。

第１集

京阪電車守口市駅周辺

（けいはんでんしゃもりぐちしえきしゅうへん）



絵：上住　寿夫



昭和52年（1977）に河原地区の再開発事業が計画され、京阪駅前は駅前商店街と京阪電鉄守口車庫跡地（4万平方㍍）を中心に都市計画が決定されました。

整備の基本方針は「交通系統の整備」「建物施設群の整備」「施設艦橋および景観の整備」「空間の整備」を有意義かつ総合的に組み合わせて整備することになりました。

たくさんの商店のほかに、京阪百貨店、三和銀行、守口プリンスホテル、ゆうゆうの里、富士銀行の施設や2660㎡の駅前広場（カナディアンスクエア）、障害者用エレベーターなどが設置されました。

京阪電車守口市駅からゆうゆうの里やプリンスホテルへはアポロン橋（理性・調和による世界）が架けられ、「カリオン（希望の鐘）」の音が市民を和ませてくれています。

駅前の利便性を考慮し市民が利用しやすく、文化センターや小体育館、武道室、トレーニング室、サウナ室、会議室、走路1周200㍍などが設置されている大体育館も建設されました。工期約2年6ヶ月で昭和60年（1985）9月に総事業費360億円で完成しました。

完成した街は「トークティ守口」と名付けられました。

第２集

春の大枝公園

（はるのおおえだこうえん）



絵：奥田　喜一



大枝公園は昭和27年（1952）守口市で3番目にできた公園で、現在では広さは6.30ヘクタールもある大きな公園です。

昭和30年代は京阪池の埋め立て工事の途中であり荒れ地が広がっていました。しかし徐々に整備され、野球場、テニスコート、相撲場、遊具も砂場・シーソー・滑り台・ブランコ・アニマル・ラダー・スプリング遊具・鉄棒・健康遊具・コンビネーション・ジャングルジムなどがあります。

園内には休憩所、ベンチ、手洗い場・駐車場などを完備した公園で、木々や四季の花が咲き、子どもから大人まで楽しめる公園です。

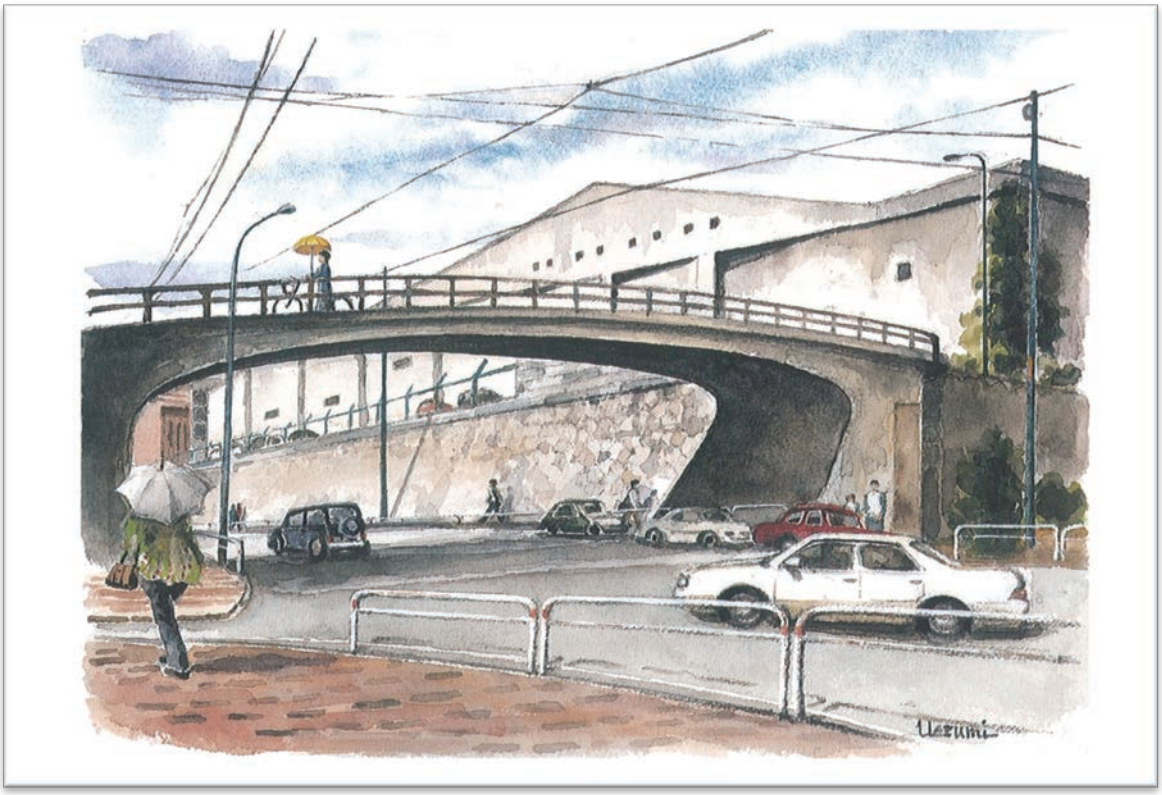
平成3年には市制施行45年を記念して公園北入口に、永遠の平和、市民の希望、連帯、限りない発展をイメージしたモニメントが設置されました。

春には花見客が大勢訪れる、押しかける公園です。

第２集

本町橋

（ほんまちばし）



絵：上住　寿夫



「こんな所に橋があるわ。川もないのに」と娘さんたちが話されているのを耳にしたことがあります。きっと初めて守口へ来られた方でしょう。この橋は豊臣秀吉が築堤した文禄堤（京街道）に架かっている本町橋です。

明治の末期に淀川の掛替えで文禄堤は堤防としての役割はなくなりましたが、昭和7年（1932）に改修された国道二号線（現国道一号線）と守口駅や三郷、寺方、世木などと結ぶために本町付近が昭和11年に区画整理され、文禄堤を道路幅分だけ切り取り、堤防に陸橋を架けたのが本町橋です。

橋をくぐると、かっての堤防の高さや幅が確認できます。この橋の欄干には、三洋電機や桜通り商店街の広告や市の行事などの横断幕がかけられていました。

第２集

守口小学校

（もりぐちしょうがっこう）



絵：水谷　喜美子



明治5年（1872）6月22日「河内国9区郷学校」として難宗寺を仮校舎に発足しました。
守口で最初にできた学校で歴史と伝統のある学校です。

明治14年2月「守口小学校」となり、明治20年（1889）には「守口尋常小学校」「守口高等小学校」とあわせてよばれていました。

大正4年（1915）には現在地に校舎が建設され、児童数は約300人、昭和22年（1947）には守口市立の小学校となり、平成18年守口市立土居小学校を統合。現在の児童数は約1,500人です。

なお、守口小学校は守口市では珍しく、京阪北本通側から階段で上る少し高い所にあります。
これは文禄堤跡と淀川の中の島の外島に出来たからです。

第２集

花図かん

（はなずかん）



絵：澤井　あさみ



花図かんは八雲北町の下島公園の中にあります。緑・花推進に関する事業を行い、人々の緑・花に対する愛護精神の涵養（かんよう）向上を図ることで地球環境の保全や自然環境の保護や整備、並びに高齢者の福祉の増進や障害者の支援に役立てることを目的として設立された一般財団法人もりぐち緑・花協会が運営しています。

活動としては市内の公園、緑道、歩道などにボランティアで草花を植えている団体などに花の苗や肥料、土などの支援や必要な費用の助成、講演会・講習会の開催などを行っています。

入口では花博のマスコット「花ずきんちゃん」が迎えてくれ、公園の入り口には八雲遺跡の説明板もあります。

第２集

西三荘ゆとり道 水のゾーン

（にしさんそうゆとりみち　みずのゾーン）



絵：菊池　郁子



西三荘ゆとり道は西三荘水路を暗渠にし、その上を平成元年から10年ほどかけて整備された、遊び心と花・緑、自然あふれる遊歩道です。

南は花博記念鶴見緑地公園から北は京阪電車西三荘駅の手前まで守口市のほぼ中央部を南北に貫く、全長約2キロメートルにわたる散歩道です。

四季折々に花や樹が心を和ませてくれ、南の端には釣り池のある公園「世木公園」もあります。「緑と空間」「文化・教養」「フィットネス」「水」「花」など5つのゾーンにわかれ、ぶらぶら歩いていくとそれぞれに違った表情を見せてくれます。ゆっくりと家族や友達と一緒に歩くのもよし、一人で観察しながら歩くのもいいですよ。

6月10日「時の記念日」午後3時には、文化・教養ゾーンにある日時計の影が守口市の形を浮かびあがらせ感動ものです。

第２集

守居神社

（もりいじんじゃ）



絵：上住　寿夫



守居神社の祭神は、素戔嗚大神（すさのおのおおかみ・牛頭天皇）と賀茂別雷神（かもわけいかづちのかみ）です。

社記に「延喜18年（918年)の秋に暴風雨による洪水で淀川の水があふれ湖のようになり、ようやく水が引いたころ西南の方の淵になったところから、夕方赤い光が四方に輝き、鈴が鳴り人の声がして『われは天道神なり、この地に来て人民を災害から守ろう』という夢のお告げがあった」とあります。その神は素戔嗚大神（すさのおのおおかみ）・三輪明神・日吉権現・新羅明神の神々でした。土地の人たちはさっそく土を高く築き、素戔嗚大神を祀り「土居牛頭さん」と呼び、これが当社のはじまりとされています。「土居」とは「土を盛り上げた土手（どて）」を意味します。

明治40年（1907）10月守口町字狼島の大隅神社（賀茂別雷神）とか渦神社とも呼ばれていた社を合祀してから守口の総氏神となっています。守居神社の名の由来は、いつ頃からかわかりませんが守口と土居の神社という意味です。今も初詣や宮参り、七五三、厄除けなどでにぎわい、参拝者が絶えません。

応永の乱について『長興宿禰紀』に、「文明十五年(1483)九月二日、今日、聞く一両日中に河内において合戦あり、森口城没落、敵味方打死に五十六人有り」と書いてあり、森口城は守居神社の辺りにあったのではないかと思われています。

第２集

来迎坂

（らいごうざか）



絵：上住　寿夫



京街道のまさに生き証人ともいえる来迎坂です。堤ノ町を京へ向かう途中、本町2丁目、西側に「右ならのざきみち」の道標があります。そこにある幅1㍍ほどの石畳の階段が400年以上も経つ来迎坂で、宿場時代からの貴重な遺物で文化財です。

この階段を下ると、行基（ぎょうき：奈良時代の僧）が開いた直道（奈良街道）に出て、四条畷の中野から奈良や野崎へと通じていました。

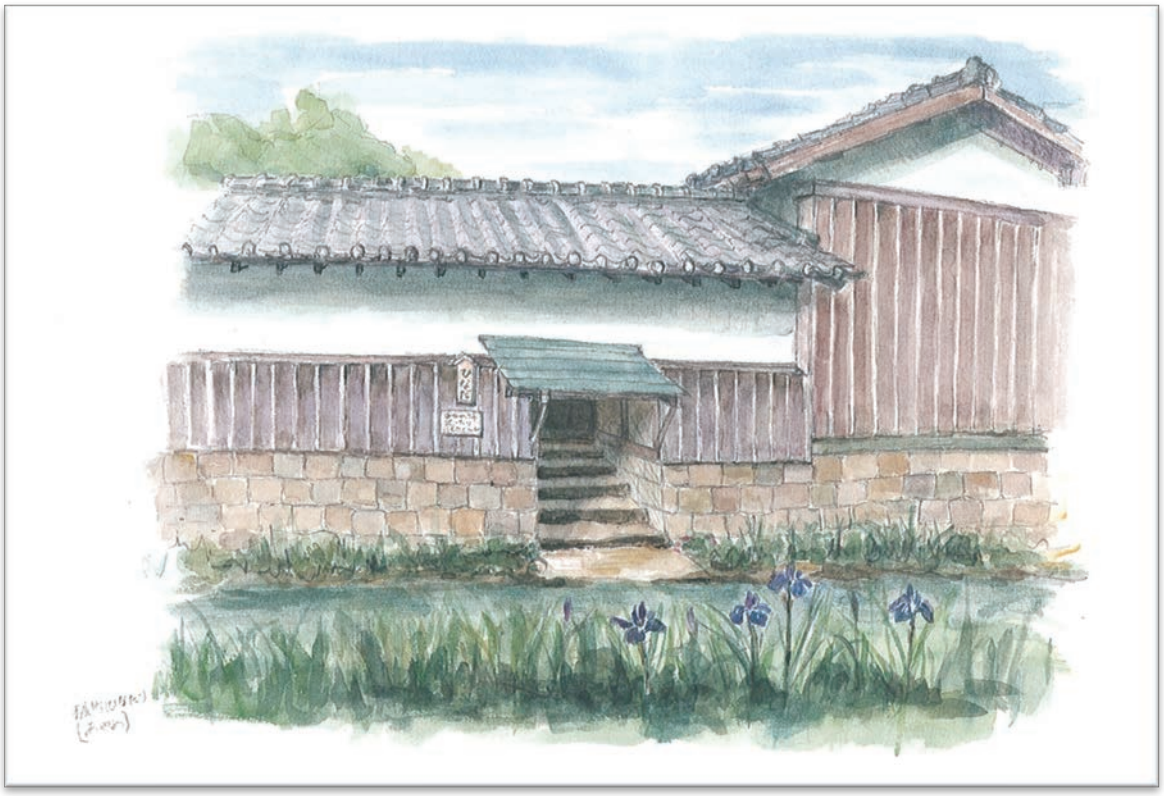
また江戸時代には、参勤交代の大名たちが鉢合わせを避けるために、相手より位の低い大名などがこの来迎坂を下り、難宗寺などに入り、大名行列が通過するまで避難しました。

坂の名は、佐太にある来迎寺が最初このあたりにあったことからその名が付いたようです。

第２集

梶町のひなだ

（かじまちのひなだ）



絵：菊池　郁子



門真市と守口市の境界のところに水路があり、板戸橋とか月出橋と呼ばれる橋が架かっていました。このあたりは蓮の名所だったところです。

この地域の水も金気が多く生活用水としては適さず、生活用水は淀川から取り入れた水路があり、家々もその水路に沿って建てられました。

上や左の写真は梶町4丁目あたりで、階段のところを「ひなだ」とよび、洗い場のことです。

現在は暗渠になっていますが、家の裏側から階段をおりて朝早く飲料水を汲んだり、米を洗ったり、その後は洗濯物を洗ったりした所です。

ひなだの名は、雛壇に似ているところから「ひなだん」がなまって「ひなだ」となったと言われています。

またこの水路は子どもたちが魚を捕ったり、泳いだりする遊び場でもあり、農業用水にも使われており、舟なども行き来していました。

第４集

東橋波の小路

（ひがしはしばのこみち）



絵：水谷　喜美子



橋波の地名は奈良時代の僧行基が高瀬橋を架け、直道（後の奈良街道）を造ったとき「橋の場」「橋場」が橋波になったとも言われています。
橋波の記述は、鎌倉時代初期の『華頂要略』に「波志葉庄」が出てきます。橋波庄橋波村が東・西橋波村に分離したのは寛文3年（1663）で、村は二分されましたが田畑は入り交じっていました。

寛文5年（1665）12月東橋波村は天領と養源院領（京都・淀殿が父浅井長政を弔って創建）に分かれていました。

橋波村は、800年から900年ほど前からある古い歴史を持つ村で、環濠集落を形成しています。村中の道は狭いですが、裕福だったのでしょうか大きな家には高い土塀があり、大きな蔵があります。

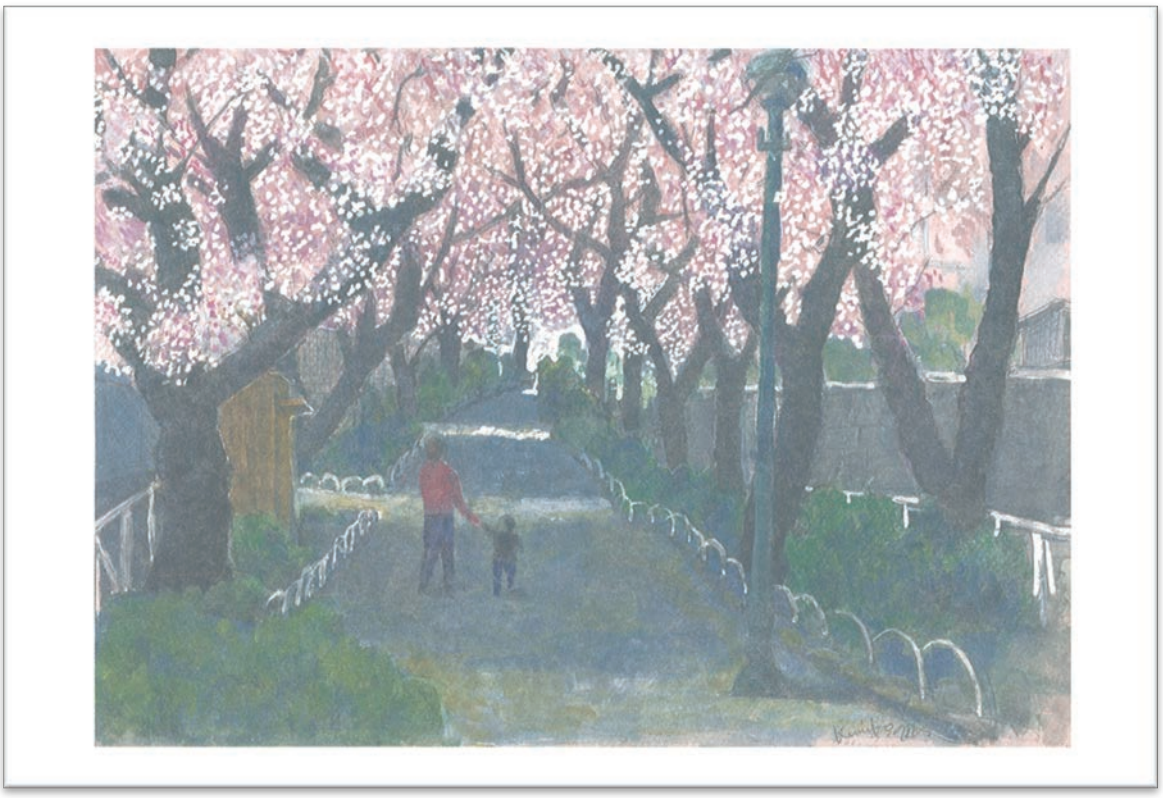
お寺をはじめ多くの家に大きな楠が茂っていて、知らない人が一度入り込むとなかなか出られないところです。

守口にはまだこのような歴史のある家並みが残っています。住んでおられる方にご迷惑にならないよう、一度訪れられてはいかがでしょう。

第４集

春の桃町緑道公園

（はるのももまちりょくどうこうえん）



絵：水谷　喜美子



この公園は「大阪みどりの百選」に選ばれた遊歩道公園で、淀川から外島と狼島の間を通り、五ヵ所樋まで生活用水を引いていた500㍍ほどの水路跡に緑や桜を植え緑道公園に整備されました。

水路跡の幅3㍍ほどの細長い公園ではシシガシラ、ヒイラギモクセイ、ドウダンツツジ、ハクチョウゲ、ヤブツバキ、ユキヤナギなどが四季折々に花を咲かせてくれます。また、木や花にはプレートが付けられ、美しい花や木々の緑を楽しみながらの勉強になります。

このあたりは明治の末期に淀川の掛け替えがあり、中の島などが整備され松町、梅町、桃町、新橋寺町と名付けられた地域で、この緑道公園が桃町にある所から「桃町緑道公園」と名付けられました。

この公園には桜の大木が多く、春になると桜並木の通り抜けが満喫できます。公園の入口右側には江戸川乱歩の住んでいた家がありましたが、今は残念ながら建て替えられています。

第４集

大塩平八郎ゆかりの書院

（おおしおへいはちろうゆかりのしょいん）



絵：水谷　喜美子



写真は大塩平八朗の乱ののちの白井家で、ゆかりの書院と共に平成22年（2010）に解体され、その跡がマクドナルドの店になり、片隅に白井家と大塩平八郎に関する説明板と瓦があります。

白井家は村役人を勤める名家で、赤川や門真などに田畑があり、門真だけでも良田が20町歩もありました。

主人の白井孝右衛門は大坂町奉行の与力で、陽明学者の大塩平八郎が屋敷に洗心洞という私塾を開き、師弟の間柄で経済援助などしていました。そこでは守口の農民たちに陽明学の講義もしていましたが、天保の飢餓での被害で米などが値上がりし、たまりかねた大塩は天保8年（1837）2月19日に乱を起こしました。孝右衛門は500両程の経済援助を行い、守口町の成人男子の多くが参加した反乱はわずか半日で鎮圧されました。

白井家一家に処罰が下され、参加した農民たちも刑罰の重軽はありますが193人が罰せされました。闕所（けっしょ、死罪・遠島・追放などの付加刑で田畑・家屋敷・家財などが没収されること）となった白井家は漬物小屋で居住していましたが、ゆかりの書院は近くから移され写真のような立派な家になっていました。

八雲のだんじり
（やぐものだんじり）



※この『百景絵はがき』は権利作品のため掲載できません。

八雲神社は旧八雲村字寺西にあり、素戔嗚尊・誉田別尊・菅原道真の3神を祭り、三社権現と言われ旧八番村・北十番村・下島村・南十番村の氏神です。創立などについては記録が残ってないので詳しいことは分かりません。

現在の建物は天保11年（1840）よりあまり下らぬ頃の建立と思われます。当神社は光明寺の宮寺です。

八雲神社の秋祭りは10月19日が宵宮、20日が本祭りでしたが、今では10月の第三土日におこなわれます。

旧八番・北十番・南十番・下島から1台ずつ八雲中町から1台、計5台の山車（だし）が宵宮の午後から町々を錬り歩き、夕方には争って宮入します。

本祭りではパレードもあり、5台の山車が一列に並ぶようすは豪華絢爛で、地域の人たちはこの伝統の祭りに心を一つにして参加されています。貴重な民俗文化財です。

市指定無形民俗文化財 寺方提灯踊り

（ししていむけいみんぞくぶんかざい　てらかたちょうちんおどり）



南寺方周辺下流14ヶ村は、長雨が続くと米は言うまでなく、ひどい年には野菜もできないほどでした。南寺方村の庄屋喜左衛門は何度も樋を造ってほしいと幕府に願いでましたが許可は出ません。喜左衛門は許可が得られないまま寛永11年(634)焼野村の北方に樋を設置しました。喜左衛門は幕府を無視した事で翌年処刑されました。

喜左衛門は身を犠牲にして樋を造り、村人を守った義民ですが政治犯は墓をつくることも許されません。そこで地元の農民たちが喜左衛門の恩と霊を弔うために踊られたのが提灯踊りになったとて伝えられています。

保存会の西村誠氏は「踊りは手踊りで始まり、途中から紅提灯を左手に持ち、高くかざしながら乱舞させ、その提灯の灯を消さないところに踊りの特徴があります。素手は霊を拝む、または提灯は霊を送ることを表現したものと」と言っておられます。

昭和47年10月「ふるさとの歌まつり」のＮＨＫテレビでも紹介され、一躍有名になりました。

平成12年12月19日守口市無形民俗文化財に指定されました。

淀川 わんど
（よどがわ　わんど）



江戸時代は三十石船などの小型船が主役で、淀川の水量が少なくても航行には余り問題はありませんでした。

しかし、朝鮮通信使は300石ほどの大きな船で航行するため、毎回航行の2～3日前に沿岸の農民たちが淀川に入り、川底を浚（さら）えして、大きな船を通してきました。

江戸時代末期から明治時代にかけ、より大きな蒸気船が航行するようになり、航路を確保するために低水路の幅を狭くし、水深を保ち流速を落とす工事（両岸から木の枝のように張り出した土塁を築き、水が平行に流れるようにする工事）が行われてきました。

その結果、窪んだ所のわんど（湾処）は魚たちの絶好の産卵場所で、多種多様の魚類が生息していました。

わんどは昭和43年頃には約500個程ありましたが、淀川の改修工事や洪水などで今はほとんどなくなり、庭窪や鳥飼大橋の下流にわずかに残っているだけです。

守口市民体育館

（もりぐちしみんたいいくかん）



河原地区市街開発事業の一貫として、昭和59年（1984）9月に京阪守口市駅前に延べ床面積8160平方㍍の総合的な体育スポーツ施設「守口市民体育館」が完成しました。

市民の健康づくりやコミュニティスポーツの振興は高齢社会を迎へ、ますます必要性が認められ、市民体育館はその役割を担う中心施設として大きな期待が寄せられています。

体育館1階に小体育室、2階には武道室、3階には大体育室があり、観覧席は固定席1100席、電動移動式2500席が備えられています。

また、専門的な指導員が配置されトレーニングルームや卓球室などがあり、大阪府下トップクラスの体育館です。なみはや国体やバレーボールのVリーグ、ボクシングの世界タイトル戦なども行われました。

春の淀川わんど

（はるのよどがわわんど）



今では淀川の水質もよくなり、絵のように春の日射しのなか、のんびりと釣り人が楽しんでおられます。うららかでのどかな風景です。

しかし、このわんどは大変な工事であったことが記されています。

オランダ人技師のヨハネ・デ・レイケは、明治初期に日本に招かれ、護岸工事や大型船航行のために水深を確保する工事を全国の河川で行いました。

粗朶沈床（そだちんしょう）と言われる工事で粗朶とはクリ・ナラ・カシ・クヌギなどの木の枝のことです。

粗朶沈床とは、木の枝を束ねマットレスのように格子状に組んだものです。

これを川岸から川の中心部にむかって設置する工法で、粗朶を沈めることで川幅が狭くなり、川の中心部では流れが速くなます。その力で川底の土砂が押し流され水深の確保ができ、蒸気船のような大型船も通れるようになりました。

淀川を渡るモノレール

（よどがわをわたるモノレール）



以前は河内国と摂津国を往来するには、佐太天神の前にある佐太の渡しや七番の渡し、平田の渡しなどがありました。

昭和22年（1947）に木造橋の鳥飼橋が完成しましたが、それでも渡しを利用していました。
その橋も木造のため水害などによる破損を繰り返し、昭和29年に11月に日本最初の有料鉄骨橋に架け替えられました。その後、渡しは次々と廃止されていきました。

昭和45年（1970）の大阪万博に間に合うように近畿自動車道の工事を突貫ですすめ、何とか門真ー吹田間11.2㌔が完成しましたが、鳥飼大橋は四車線のうち片側2車線だけで工事を急ぎ、完成させました。

モノレールが淀川を渡ったのが平成9年8月22日で、門真市駅まで開通しました。伊丹空港から北大阪急行・阪急千里線・阪急京都線・大阪地下鉄・京阪本線を結び、さらに瓜生堂まで延長されることになっており、各線と結ぶ外環状線となっています。

守口市役所
（もりぐちしやくしょ）



守口町の役場はかって本町の文禄堤のところにありました。
昭和21年（1946）11月1日に守口町と三郷町が合併し、大阪府11番目の市になり、市庁舎の一部は守口小学校の鉄筋校舎におかれました。
合併5年後の昭和46年4月に敷地面積3100平方メートル、延べ面積約2180平方メートル、鉄筋コンクリート造り三階建ての現庁舎ができました。当時は市民の目をひくモダンな建物でした。
現在は庁舎、2号別館、1号別館、3号別館と順次増築され、渡り廊下などでつながれ、行きたい部署には誰かに聞くか、案内が必要なほど迷路のような庁舎でしたが、平成19年(2007)に三洋電機本社ビルを買い取り移転しました。

大阪府立守口高等学校

（おおさかふりつもりぐちこうとうがっこう）



守口高等学校は、大正12年に私立京阪商業学校として開校し、学制改革を機会に財団法人松下学園と改称。

昭和23年に財団法人京阪高等学校、京阪中学校を守口市に移管し、守口市立京阪高等学校併設の中学校となりました。昭和38年4月には大阪府に移管され、大阪府立京阪高等学校となり、商業科の生徒募集を停止し、昭和41年に大阪府立守口高等学校と改称されました。

その永い歴史をもつ学校も、府立学校再編整備により平成15年度末（2004年）に守口北高等学校と統合され、芦間高等学校となりました。

統合後の校舎は北高校校舎が利用されることになり、守口高校の校舎は取り壊わされました。

その跡地には平成27年4月に樟風中学校が新しく開校し、第二中学校区、第四中学校区が統合されました。

難宗寺のいちょう
（なんしゅうじのいちょう）



浄土真宗の寺で文明7年（1475）戦乱の越前の吉崎御坊から河内国茨田郡中振郷出口（枚方市出口）に移り、光善寺を創建して3年間在住した蓮如上人が、文明9年（1477）に創立した守口坊が難宗寺の始まりと伝えられています。

本願寺掛所（法主が巡化の時、休憩や宿泊する所）になり、慶長16年（1611）には本願寺御坊に昇格しましたが、明治5年（1872）に中本山制度が廃止され、浄土真宗本願寺派の寺となっています。

難宗寺はたびたび兵火や風水害などに見舞われ、現在の本堂は文化7年（1810）に再建されたものです。

境内には大きなイチョウの木があります。高さは25㍍を超え、直径1.5㍍、南の方向へ15㍍、北へ13㍍あり樹齢約500年と説明板にあり、昭和50年（1975）3月31日に大阪府指定天然記念物に指定されました。

三郷小学校
（さんごうしょうがっこう）



三郷小学校は明治7年（1874）に堺県第133番小学校として創立されました。
明治26年（1893）茨田郡村立三郷尋常小学校になり、明治43年高等小学校を増設し、三郷尋常高等小学校と改め尋常科6年、高等科2年となりました。

昭和9年（1934）9月21日朝、室戸台風が直撃し、南側8教室、北側10教室が倒壊、児童25名と教師1名が殉難されました。

昭和22年（1947）には守口市立三郷小学校と改称され、平成26年（2014）創立140周年を迎えた歴史と伝統のある小学校です。

「学ぶ喜びに満ちた子どもたちが自ら成長していく学校」をめざしています。
この学校にはいまでは珍しくなった、二宮金次郎の像があります。

府天然記念物 妙楽寺のつつじ

（ふてんねんきねんぶつ みょうらくのつつじ）



撮影：三宅奈緒子さん

妙楽寺は天台宗の寺したが、延宝年間(1673～1680)に洪水で本堂・庫裏などが流され全滅しました。その後、天台宗融通派の「僧一空あるいは唱阿上人（一空と唱阿上人は2人は同一人物と考えられています）が、檀家の有志たちの協力をえて、天和2年(1683)に今の寺を再建されました。
もともと天台宗の寺であったので、妙楽の号が与えられました。しかし、後に浄土宗の寺となっています。

妙楽寺の裏庭には樹齢約300年、樹高3.　5メートル、樹周りは根元から30センチ上で20～40センチ前後、根分け支幹は16本、枝張り東西約4.8メートル、南北約7メートルの「オオムラサキ」俗称「ヒラドツツジ」があり、4月末から5月上旬に赤い花を咲かせます。今ではいろいろな地方から見学にこられる人もあります。このツツジは、昭和58年に大阪府の天然記念物に指定されています。(守口市教育委員会の説明板を参考)

もりぐち歴史館「旧中西家住宅」

（もりぐちれきしかん「きゅうなかにしけじゅうたく」）



中西家は徳川家康の第9子尾張藩祖徳川義直の母、お亀方の姉にあたるお鶴の家で、主人は中西要保。代々大坂の尾洲邸令を勤める名家です。 中西家の大門は近世の大名や身分の高い武士の邸宅にみられた様式門で、両袖が長屋になっており門は高く両開きで扉は高く、扉は横板門扉で騎馬のまま門を出入りできるものです。
門の長屋には家臣が住んでいて、中西邸でも長屋門には番人や男衆が住み厩舎（きゅうしゃ・馬小屋）にもなっていました。この大門は、棟木にある主屋棟札から元和～寛永期（1615～1643）に存在していたことが資料に残っています。

しかし、金銭的な面で修復できず160年あまり放置され、茅は延び放題で屋根は雨漏り、壁は傾き破損していました。
8代目の一右衛門が明和3年（1688）大坂尾張藩邸に勤めることが決まり、30人扶持となり金策の目途がつき、長屋門、石垣、横板門扉を以前のように再建し、子孫がこれを永く引き継いできました。

現在の大門は、平成11年（1999）から13年にかけて修復されたものです。

七番の渡し（昭和15年ごろ）

（しちばんのわたし（しょうわ15ねんごろ））



淀川は琵琶湖や桂川、木津川を源流とする川で、水量が多く川幅も広く、河内国と摂津国に分ける国境の川です。

豊な水量でゆっくり流れていますが、たびたび洪水がおこり橋を架けることが困難で昔から渡しが多くありました。

守口周辺でも佐太の渡し、七番の渡し、下島の渡しや平田の渡しがありました。

この七番の渡しは、大庭の庄七番村の八坂瓊神社のところから摂津国一津屋と結ぶ渡し場です。

川幅は現在の鳥飼大橋でも540㍍ありますから、かなり長い渡しであったと思われます。上流の佐太の渡しの碑に「出水十二尺（約3.7㍍）以上暴風雨渡船止」とあり、船止めは同じようであったと考えられます。

河内国と摂津国との間の鳥飼に、昭和17年（1942）に木造の仮橋ができ、昭和23年（1948）に有料橋が完成し、昭和29年（1954）に鉄筋コンクリートの橋になり、渡しも廃止されました。

滝井小学校
（たきいしょうがっこう）



滝井小学校は大正11年（1923）守口尋常高等小学校（現守口小学校）の分教場として開校されました。昭和6年（1931）守口第二尋常小学校として独立し、昭和20年（1945）土居小学校を分離。昭和22年に守口市立滝井小学校となりました。

昭和9年の室戸台風のとき河野宝槌視氏著『郷土史守口というところ』で「校庭に出した児童は順々に滝井病院の地下室に避難するように手配し、児童全部が校舎を出きったと思う瞬間、両建物が相前後して濛々たる土煙と共に倒壊した。児童の数は356名だったと記憶するが瓦の破片に打たれて軽傷を負ったもの以外死者のなかったことは全く天祐であった。」とあります。

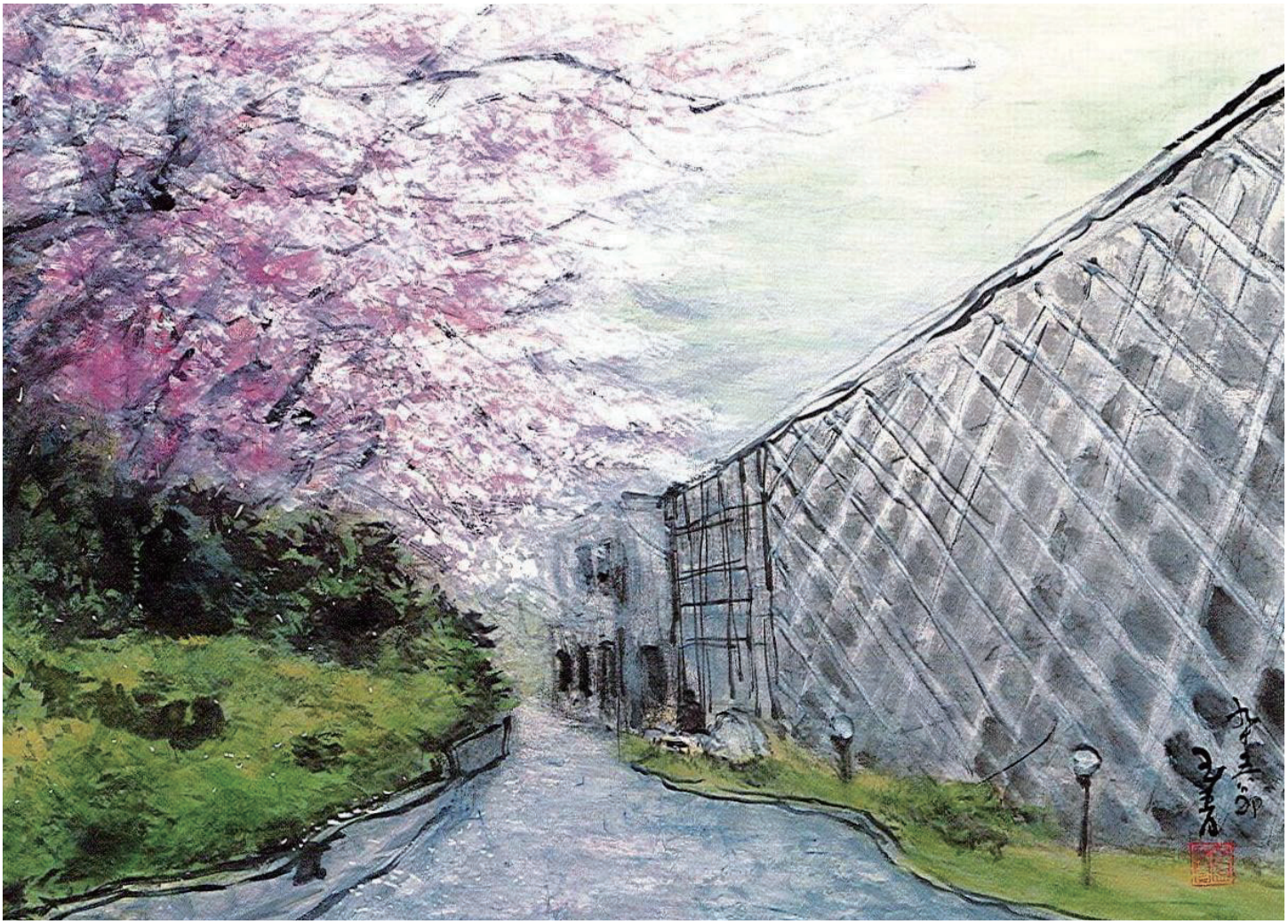
9月30日、府下の被災校を視察した松田源治文相は守口第二小学校を訪れ、死者を出さなかった同校の労をねぎらった。（「大阪毎日新聞」昭和9年9月30日）

滝井小学校は昭和11年（1936）に建設され、校舎はどこかギリシャ神殿を思いおこさせる建物で校舎が解体されるのは残念です。

現在は春日小学校と統合され、さつき小学校として再出発しています。

守口市現代南画美術館

（もりぐちしげんだいなんがびじゅつかん）



南画美術館の春　直原玉青

守口市名誉市民の南画家直原玉青画伯は昭和50年(1975)に紺綬褒賞、昭和52年には勲四等旭日章などを受章された南画の巨匠で、多くの作品を残され学校や公共施設へ数多く寄贈されています。

南画の作品を常設展示できる施設の整備を願い、南画院(会長兼理事長 直原玉青)から現代南画を寄贈したい旨の申し出と現代南画を専門に常設展示する施設が全国になかったことから、平成8年(1996)2月1日に現代南画美術館が開館しました。

鉄筋コンクリート造2階建で、1階は展示室・事務所・準備室、2階は展示室・資料室となっていました。

外観はナマコ壁風に仕上げられ、春には桜に映えて美しく市民向けに南画講座なども開かれていましたが、惜しまれながら平成25年12月に閉館しました。

世木公園 釣り池

（せぎこうえん　つりいけ）



花博記念公園の北側にある池は平成9年（1997）に世木公園内にある下水処理水と地下水を利用した「へらぶな」専用の有料釣り池です。

広さ1400平方㍍の円形の池で、座席は60席ほどと小規模で、使用できる竿は12尺以下です。

ここは日本でも珍しい市営の釣り池です。ウッドデッキの固定桟橋は広々としていてテントの設営もでき、鶴見緑地をながめながらのんびり釣りができます。駐車場はありませんが、男女別々の水洗トイレが設置されています。

この池には2300㌔、約3000匹のフナが放流され、大きいものは体長50㌢近くもあると言われています。

守口町や三郷町で幼少期からすごされた、現在ご高齢方で京阪池で釣りなどされており、京阪池がなくなり近くには釣り池もなく寂しく思っておられた方にとっては、待ちに待った釣り池ができ大喜びです。

「こんな所に釣り池ができなど夢にも思っていなかったよ。花博はいいみやげを残してくれました。」と言って喜んでおられる方にもお会いしました。

佐太小学校
（さたしょうがっこう）



佐太小学校は昭和48年（1973）4月に守口市立庭窪小学校から分離、開校しました。守口市で最も北に位置し、淀川の近く国道一号線沿いにあります。最寄り駅は地下鉄とモノレール「大日駅」です。公立の小学校で標準服が採用されています。

「開かれた特色ある学校づくり」を目指し、地域の人や守口市人材バンクから紹介された人を特別講師として招いています。

また、校区内の老人施設との交流などもおこなっており「よく考え、心豊かな元気な子」の育成を目標とされています。学校や地域、各種団体とPTAが一体になった活動に数多く取り組んでいることも大きな特色です。

大久保小学校
（おおくぼしょうがっこう）



大久保小学校は昭和46年（1971）守口東小学校から分離する形で開校しました。当初は東小学校内に仮校舎を設置して開校しました。
同年11月6日に現在の新校舎へ完全移転しました。

現在は校舎の老朽化にともない、守口市立東小学校と大久保小学校の統合校を新設することになり、平成28年4月に東小学校にいったん統合し、大久保小学校の校舎を解体。新校舎の整備に向けて実施設計に着手し、平成30年4月によつば小学校として開校予定です。

来迎寺の松
（らいごうじのまつ）



来迎寺は紫雲山聖衆院来迎寺といい、現在浄土宗知恩院派の末寺で、もとは大念仏宗佐太派の本山でした。創建は大念仏宗中興法明上人の弟子実尊上人が、貞和3年（1347）に下仁和寺守口村に一宇を建立したのがはじまりです。この寺は住職が代わるたびに本尊を移し、332年間に26回も場所が代わり、延宝6年（1678）に現在地に定着しました。「ゆうれいの足跡」のある寺としても知られています。

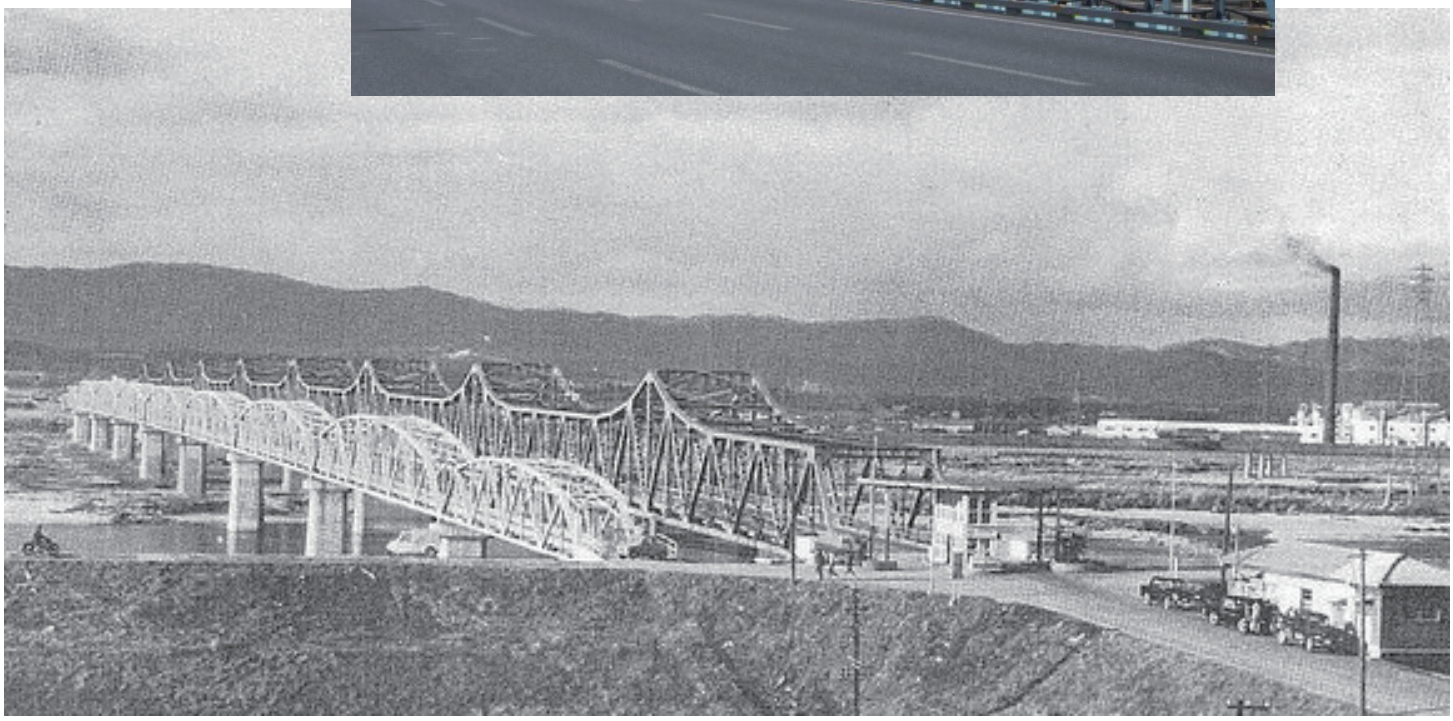
門をくぐると正面の庫裏の横に樹齢500年～600年ともいわれる松の木が横たわっています。来迎寺が移って来る以前からあったか、それとも寺の移転と同時期に大きな松の木を移植したものでしょうか。とにかく堂々とした立派な松の木です。

松の皮が亀甲のような形になっているのが特徴で、このような形になるのは非常に古い証拠だそうです。この松は幹の中ががらんどうになっているようで、お寺の方も幹が腐らないように穴をふさいだり、肥やしをやったりお酒をかけたりして手入れをされているそうです。

鳥飼大橋料金所（昭和３０年ごろ）

（とりかいおおはしりょうきんしょ（しょうわ 30 ねんごろ））





（出典不詳）

淀川に橋が架けられるまでは、守口と北摂方面を行き来するためには七番の渡しや佐太の渡し、下島の渡し、平田の渡しなどを利用していました。

鳥飼には、昭和22年（1947）に木造の小さな橋が架けられましたが、木造であるため水害などにより破損を繰り返していました。

車両の通行には荷物の量限やスピード制限などしていましたがやはり痛みが激しく、昭和26年（1951）1月に2年2ヶ月工事費3億3千万円をかけ、昭和29年（1954）11月に鉄骨の橋（ゲルバートラス橋）が完成しました。全長540㍍道幅7.5㍍で全国初の有料橋です。通行料は特殊自動車250円、普通車100円、軽自動車30円でした。

昭和39年3月16日に無料開放され、永久橋などと言っていましたが老朽化が進み、平成22年に新しい橋の架け替えがはじまり旧橋の撤去後、新橋の拡幅が行われ平成25年に全面開通しました。

現在では鳥飼大橋の他に近畿自動車道、モノレールなどが通る重要幹線です。

平田の渡しは昭和45年（1970）の千里万博開催にあたり豊里大橋が開通したことで廃止され、佐太の渡しも乗客が減少しつつも続けていましたが、昭和49年（1974）9月、淀川新橋の開通にともない廃止されました。

橋波小学校
（はしばしょうがっこう）



橋波小学校は昭和28年（1953）守口市立三郷小学校から分離し、開校しました。
昭和40年（1965）守口市立錦小学校の開校に伴い、従来の校区の一部が錦小学校校区へ分離されました。

小学校の教育目標は「すべての子どもたちにとって安全で安心できる快適な場であり、学ぶ喜びを感じ、明日への希望を持つところである」とあります。そのために「知・徳・体」をバランスよく育てることに努力しています。

学校の目標は「元気でなかよく、よく勉強し、夢や志を持つ、自主的な人間」で、めざす学校像は「美しく、温かい雰囲気のある学校」でしたが、やはり少子化を影響を受け、平成30年(2018)に守口市立三郷小学校と統合して橋波小学校は廃校になりました。橋波小学校の跡地は公園整備されました。

余談ですが、歴史ある橋波小学校出身者には有名人が多くおられます。
アニメ監督の神戸守さん、てっちゃんさん、俳優の森本克冶さん、ペロ愛男爵さん、元阪神の岩田稔さんや俳優の木村恵二などがよく知られています。

鶴見緑地公園 国際庭園

（つるみりょくちこうえん　こくさいていえん）



平成2年（1990）4月1日から9月30日まで183日間の日程で「国際花と緑の博覧会」が大阪鶴見緑地で開催されました。この国際博覧会は、日本で4番目の国際博覧会条約に基づく国際博覧会です。会場の面積は約105㌶でそのうちの約半分の50㌶が守口市の行政区域になっていました。

珍しい植物や新品種、日本で関心の高い花・木などが出展され、風景などを再現してつくられた55の庭園の多くが今も残っています。

季節の花に彩られた風車の丘やバラ園、本格茶室のある日本庭園、国際庭園、自然体験監察園などがあるエリアもあります。

この公園では朝早くからランニングをしたり、ラジオ体操のグループ、カメラを持った人たちも多く見受けられます。

平日は小学生や園児たちが遠足に来たり、休日になると子どもから大人まで楽しんでおられます。

西橋波ひなだ
（にしはしばひなだ）



守口あたりの地下水は井戸をよほど深く掘らない限り金気が多く、飲料水や生活用水として使えず、この橋波あたりも淀川の五箇樋（新橋寺町の堤防に跡碑）から守口・小高瀬・寺方・橋波・ひえ島の各荘に水路がひかれ、家々は用水路に沿って建てられていました。

かつて洗い場の事を守口周辺では「ひなだ」と呼び、食器や野菜を洗う場所として利用しました。雛壇がなまって「ひなだ」となったと言われています。

ひなだは守口や門真地方の家にはたくさんありましたが、昭和11年頃（1936）から上水道を利用するようになり次第に減少していきました。

用水路の水は飲料水・炊事洗濯・潅漑用水などに使われ、飲料水に使わない時には「ひなだ」へ下りて洗濯などをした洗い場だったのです。

また、水路では「三枚板」と呼ばれる小舟が利用され、牛なども運ばれ、ひなだでは農作物の積み下ろしなどもされていました。

上の絵は使わなくなったひなだに板が張り付けてあります。

大日会館とひのみやぐら

（だいにちかいかんとひのみやぐら）



大日会館は大庭旧六番村にあり、この地域はメリヤス産業が大変盛んで、大正10年（1921）にメリヤス工場の経営者たちが協力して建てたのが大日会館です。メリヤス工場の従業員の慰安会などにもに使われたりしましたが、今では、寄り合いや何かあるごとに集会所として使われ、少し前までは子どもたちも楽しく集まった場所でもありました。また昔は、会館の前でおじさんが紙芝居をやっていました。

この大庭旧六番村、四番村、三番村は家が密集しており、村のなかは車がやっと通れる程度の狭い道です。火災がおこると大被害になってしまうので、一刻でも早く見つけて村人に知らせるために火の見櫓（ひのみやぐら）ができました。

今ではかなりいたみが激しく登るのも危険な火の見櫓（ひのみやぐら）ですが、かっては高いところから大日地域を暖かく見守ってくれていました。

高瀬の旧家
（たかせのきゅうけ）



昔、大和川(河内川)が北流していたころ、その川がもたらした堆積土でできたところが高瀬となったと言われています。守口地域で最も早くから開けたところです。

高瀬公園のあたりには大きな旧家が建ち並んでいます。絵や左の写真のような大邸宅があり、白い漆喰と板囲い壁になっています。これは火災からの類焼を防いだり暴風雨に絶えるためです。

守口地域は底湿地でたびたび洪水にあい、少しでも水害から我が家を守るために、母屋は石垣で一段と高くして建てられています。

また蔵はもう一段高いところに建てられ、少し見えにくいですが蔵の敷地を二段、三段と高く連立させた蔵が見えます。これが段蔵です。

一番高い所の蔵は、淀川の水が氾濫しても水には浸からない高さだそうで、一番大事な米や家財などを入れ保存していました。

高いところに蔵が一つしかなくても段蔵と呼んでいます。

大久保の農家
（おおくぼののうか）



写真の家屋は金田3丁目あたりにあり、低湿地帯で樽地と呼ばれた地形でした。

周辺には現金収入を得るための商品作物として菜種畑があり、綿の栽培や菜種の栽培が盛んでした。しかし、誰でも菜種を栽培できたのではなく、1町までは米をつくり、それ以上の田畑には綿花や菜種の栽培が許されていました。

また江戸時代、東海道などの街道筋では、本陣や脇本陣だけが屋敷の門を造る事が許されていました。ところが江戸末期になると街道から離れた交野などでは農家が「交野の三石門」といわれるような立派な門を造りました。写真の大きな門のある家は、当地の大地主で庄屋さんだったのでしょう。

この地域は交通的に少し不便で開発がおくれていましたが、昭和40年頃から急激に発展し、梶中学や大久保中学、藤田中学校が建設されるほど人口が増加しました。

今ではこのあたりでも田畑は少なくなりました。現在、藤田中学校は廃校になり、跡地には住宅の建設がはじまっています。

昔の金田 田園風景

（むかしのきんだ　でんえんふうけい）



金田地域は大窪庄（大久保町、東町、藤田町、金田町、梶町）の一つです。
大窪の地名の由来は明白ではありませんが、一番考えられるのは「くぼんだ地」かもしれません。
もう一つ考えられるのは、奈良時代この地が奈良の大窪寺の荘園のようになっていたことからかも知れません。

この地域には式内社の津嶋部神社や金龍寺があり、高瀬神社とおなじく守口でも最も早くから開かれていたところです。

金田2丁目には弥生後期の金田遺跡があり、一帯は古墳時代から鎌倉時代にかけての複合遺跡があります。
文久3年（1863）には家数43軒、そのうち高持23軒・無高20軒で人口は200人前後だったと思われます。大正時代まで規模の変動はあまりなかったと思われます。

上の絵は昭和30年頃のものではないかと思われます。家を探すのが大変で一面に田園が広がり、下の写真は何の作物かわかりませんが、広範囲にわたり同じ作物であるので商品作物の近郊農業地帯だったのでしょう。

唯　称　寺
（ゆいしょうじ）



唯称寺は西橋波にある真宗大谷派の寺で、創立については詳らかでありませんが、唯称寺の寺号は明和2年(1765)に許されています。
本尊の阿弥陀如来立像は江戸時代初期とみられ、もし当初からの本尊であったとすれば、市内の浄土真宗の寺院では最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つと思われます。
寺は農民たちの道場から発展したもので、藁葺きの屋根で民家となんら変わらない集会場のような建物で、道路から本堂へ直接あがる事ができるようになっています。。
寛政7年(1795)喚鐘(半鐘)が寄進された時の木札があり、それによるとこの頃に建立でないかと考えられます。
その後、僧恵明が天保14年(1846)に天井を寄進。弘化3年(1846)には親鸞上人の御影寄進。嘉永3年(1850)には安永3年(1774)と裏書のある聖徳太子画像、七高僧画画像が寄進されています。
過去帳や詞堂御経からみてこの頃に内陣のまわりを整え、本堂を新しくしたと思われます。
真宗寺院の始まりの多くは農民たちの集会道場からです。唯称寺もおそらく開基は農民だと思われます。

佐太アヒルの居る運河

（さたあひるのいるうんが）



明治43年（1910）淀川に新しい堤防ができるまでは、佐太西町2丁目に佐太樋があり、大庭のあたり一帯と門真の地域へ取水をしていました。
しかし、堤防ができると取水ができず、淀川用水樋水利組合が結成され、枚方町上荘樋管から統一水路の取水口として、出口・二十箇・茨田・佐太・八雲・五箇所の用水路を横断し、榎並用水路に連絡させました。延長は12.310㌔あり、以前からあった樋の所に分水門を設けました。

上の絵のあひるのいる運河は、佐太樋跡の所から佐太中町5丁目から南流して1丁目へと流れていた水路です。

水路にあひる小屋をつくり、あひるが泳いでいる風景は本当にのんびりしてのどかな景色です。
しかし最近は農業用水も減り、あまり水が流れず、場所によっては電器製品やごみなどが沈んだままになっているところがあります。
この水路に魚やアヒルも安心して住め、春には桜まつりができる憩いの広場をみんなでつくりたいものです。

守口市生涯学習情報センター

（もりぐちししょうがいがくしゅうじょうほうセンター）



平成5年（1993）8月28日に地下鉄大日駅北すぐのところに、総事業56億円、延べ7000平方㍍の守口市生涯学習情報センター（ムーブ21）が建設されました。

市民の生涯学習を支える中心施設で、生涯学習に関する情報を集め発信しています。

図書フロアのほかプラネタリウム、同時通訳のできる会議室、イベントホールなどを備え、楽しみながら知識や情報が得られる「知的遊空間」です。

プラネタリウムは直径18㍍、167席あり、番組は星関連だけでなくアニメ仕立ての特別編も放映しています。

毎月1、3土曜日は幼児を対象に絵本の読み聞かせ会が開催されたり、毎週土曜日にはアマチュア音楽サークルによる土曜ステージなども開催されています。もちろん守口市外の方も利用できます。

文禄堤 うだつのある家

（ぶんろくづつみ　うだつのあるいえ）



文禄堤は豊臣秀吉が文禄3年（1594）から慶長元年（1596）にかけ、毛利三家などの大名に命じて伏見城と大坂城を結ぶ長さ15281間（約27.8キロ）の淀川左岸に築堤された堤防道です。
文禄堤が現存しているのは、守口の宿場跡の720メートルだけで貴重な文化財です。 江戸の昔、守口宿の半分は文禄堤の上にあり、今は本町ですが土地の人は「つつみの町」と呼んでおれます。

宿場時代は虫籠窓に漆喰を塗り込こみ、庇屋根の両側に袖壁が上がった多くの商家が建ち並んでいましたが、今はそのような面影を残しているのは5、6軒だけです。

卯建（うだつ）とは絵にあるように、二階の両側にある袖壁で家紋の入った卯建もあります。本来の目的は、防災や隣家との目隠しや風雨除けです。
卯建は一般には借家は上げることができず、一人前の成功者だけが上げました。成功者を顕示した象徴とも言えます。

本来、卯（宇）建は、梁（はり）の上にあり、棟木（むなぎ）をささえる短い柱で、いつも上から押さえつけられ動けないことから、なかなか出世できないことを「うだつが上がらない」と言われるようになりました。

弥治右衛門樋跡

（やじえもんひのあと）



藤田村から大久保町を含む旧庭窪の地域一帯は、低湿地で排水が悪く大雨や長雨になると一面湖のようになり、農作物は水腐れや水痛みが毎年のように繰り返していました。それでこの辺りの土地は、酒樽を添えて受け取ってもらっていたようで、樽地（たるち）とよばれていました。

弥治右衛門は何度も排水をよくする水門を造ってほしいと代官所へ願い出ましたが、許可が下りないまま古川から少し離れた所に一夜のうちに樋を設置しました。水は音をたてて流れ出し大庭・大久保両庄560ヘクタールを水害から救いました。幕府や下流の農民は水門を撤去するように迫りましたが、よほどの覚悟があったのでしょう聞き入れませんでした。

代官所は弥治右衛門と妻浪江、16歳の長男源吉とその外2人の子どもらを捕らえ、慶安2年（1649）現在、義民弥治右衛門樋が建っている公園あたりで処刑されました。南寺方村の喜左衛門が処刑されて14年後のことです。

スルッとKANSAI



守口を走る市電
（昭和 44 年まで活躍）

大阪市電が守口に乗り入れられたのは昭和6年（1931）10月今市町駅−守口町駅（守口町字土居）間です。
その前年の11月に守口町議会で市電を京阪守口駅まで延長するよう決議し、町民らも猛運動しましたが、費用が約25万円と見込まれ実現しませんでした。
市電は昭和20年（1945）3月から7月1日まで戦災のため全線運休しましたが、大阪大空襲以降休止に追い込まれていた路線のうち守口線が最も早く復旧しました。
カードと写真は昭和40年（1965）頃のようすです。左のビルに大和銀行とあるので守口車庫前の駅です。乗降場所は道の真ん中にあり、すぐうしろをトラックが走っています。
そんな中、たくさんの人が乗り込もうとしていますが男性客が多いのが目立ちます。
このように多くの守口市民を運んでくれた大阪市電も、車社会に入り邪魔物扱いにされ、昭和44年（1969）4月1日に全線が廃止されましたが、市電都島守口線は最後の最後まで残った路線の一つです。



七番の渡し

淀川に橋が架けられたのは明治後期から戦後にかけてのことで、橋のなかった時代は淀川の両岸を結んでいたのは渡し舟です。
この七番の渡しは大庭の庄七番村の八坂瓊神社のところから摂津の国一津屋と結ぶ渡しでした。
旧淀川や淀川筋には源八渡しのほかに毛馬・赤川・平太・阪巻・八番・七番・佐田（佐太）・仁和寺（鳥飼）・出口（三島江）・枚方（郵便屋）・磯島・前島・楠葉・橋本（広瀬）など、主だった集落ごとに約20ケ所前後の渡し場がありました。
渡し賃は明治40年頃で大人2銭・子ども1銭でしたが、道路法が施行され、水上路として公道に指定されてからは無料で利用できるようになりなした。
渡し舟には、昭和30年代の中頃まで手漕ぎの和舟が用いられ、船頭が竿と艪（ろ）を操って上流に漕ぎあがり岸までの距離を見計らってうまく流れにのり、対岸の船着き場につけたといわれています。当時の和舟は20人乗りで、広い淀川を渡りきるのに片道20分程かかりました。

スルッとKANSAI



京阪電車守口市駅
（昭和 28 年ごろ）

京阪電鉄は昭和18年（1943）10月1日阪神急行電鉄（現阪急）と合併してできた京阪神急行電鉄が前身です。

乗客が徐々に増加し、昭和22年4月、ラッシュ時には天満－枚方東口間に区間急行電車を走らせていました。

京阪電鉄は阪急電鉄から昭和24年11月に分離・独立し、同年12月1日に現在の京阪電気鉄道株式会社が発足しました。

昭和25年9月1日には初めて特急電車を運行しました。カードと写真は昭和28年頃のものでホームも乗降客であふれています。守口には松下電器や三洋電機があり、ベッドタウンとしても発展していきました。

守口市駅の1日平均乗降人数は、昭和21年（1946）1万9千人、昭和30年（1955）2万8千人、40年には6万5千人と増加しています。

まだ一般家庭ではテレビが普及していない時期の昭和29年9月3日には、特急テレビカーが走りました。



来迎寺の松

門をくぐると正面の庫裏の横に、樹齢500年～600年ともいわれる松の木が横たわっています。来迎寺が当地に移って来たのが延宝６年(1678)です。

この松の木は当地に初めからあったものか、後に大木を移植したものかはわかりませんが、紫雲山聖聚院佐太本山来迎寺といい、浄土宗一派の本山にふさわしい立派な松の古木です。

徳川の時代に入り将軍家が浄土宗であった関係で、ますます栄えていましたが、享保3年(1718)建立の本堂が昭和40年に火災で全焼し、昭和45年に鉄筋の本堂に改築されました。

松の木は、火災にも耐え、今では、この松は幹の中が空洞になっていて、お寺の方も幹が腐らないようにいろいろと手入れをされています。私たちが、寺を訪問すると堂々した姿で迎えてくれています。

スルッとKANSAI



足踏み水車

（高瀬付近大正12年ごろ）

守口地域は、大阪平野でも最も底湿地で作物の栽培にもいろいろ工夫が必要でした。

田畑には高田と下田があり稲作は特に水が必要で、下田は水路をせき止めると水が入りますが、高田は水路より高く自然には水は入りません。

高田に水を入れるために羽根車（水車）を回すために人が足踏みして水を入れていました。大きさによって違いますが、一つの田に水を入れるのに3時間もかかりました。

しかし3～4日もすれば田んぼが乾くので、水を入れるために子どもたちも立派な働き手になりました。

暑いときなどは日傘を付けて踏んでいました。カードは大正12年（1923）頃の風景だと思われます。発動機で動くポンプが使われるまで続いていました。

蓮池にメダカもいて 糸トンボも飛んでいた

昔、守口や門真は底湿地で、くわいや蓮（はす）の栽培が盛んな地域で、幕府は蓮根に蓮年貢と言って税をかけていました。

しかし、河内のレンコンは細く貧弱で、商売人は「穴があく」と言ってあまり買ってくれなかったとも伝えられてします。

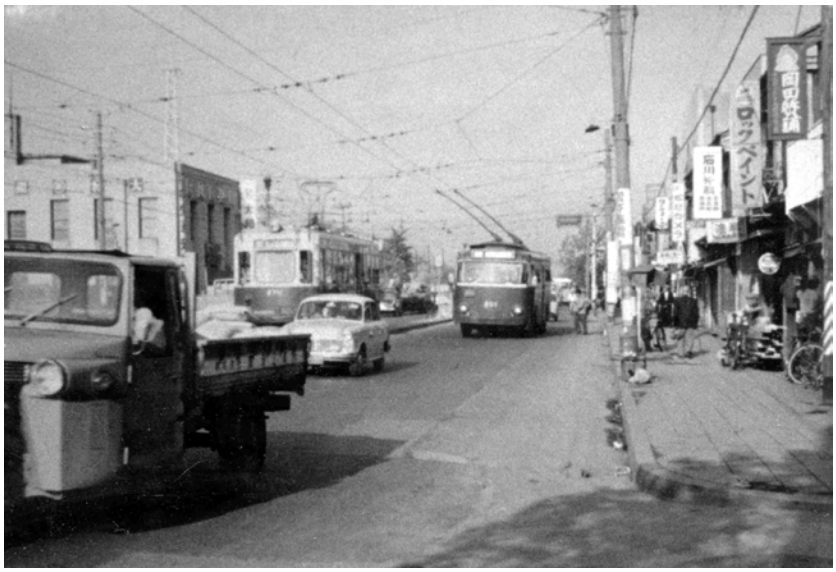
そこで大正時代に石川県から「加賀蓮」や岡山県から「備中蓮」を取り入れ、栽培するようになりました。

蓮は水を浄化してくれるので、水路や池の水もきれいになりメダカやほかの魚も多く住みました。

蓮池にはいろいろな種類のトンボや蝶が飛びまわり、子どもたちには魚捕りやトンボをつかまえたりして楽しい遊び場でもあったのです。



守口を走るトロリーバス
（昭和 32 年～昭和 45 年頃）



昭和30年頃はガソリン不足でバスも満足に走らせることができなかったため、昭和32年4月にバスとの振り替え交通手段として守口−今里間に建設費が少ないトロリーバスの運行が計画され、昭和35年9月には大阪駅−守口車庫間でも運行されるようになりました。

しかし道路網の発達で自動車が増え、市内交通機関の渋滞が恒常化し、昭和44年（1969）4月1日に大阪市電が全廃されました。

トロリーバスは全盛期の昭和37年には11系統37.9キロ、車両は134両に増え、1日平均約18万人も運んでいましたが、ノロノロ運転がつづき、ついに市電より少し遅れて昭和45年6月14日に廃止されました。

わんどと鳥飼大橋

わんど（湾処）は明治の初め大阪から伏見までの淀川に、オランダ人技師ヨネス・デ・レースの指導で蒸気船などの大きな船が航行できるように確保工事に付随してできました。

しかし、たび重なる洪水や淀川の改修などで減少し、昭和43年（1968）に約500個ほど残っていましたが、現在は庭窪あたりと鳥飼大橋の下流などに50個ほど残っているだけのようです。

わんどは写真のように淀川の中に池のような形で増水すると本流とつながります。

わんど内にはさまざまな稀少な生きものや植物がみられ、休みの日など親子や友だち同士、一人でのんびりと釣りをされている姿を見受けます。ぜひ、わんどを残して欲しいものです。



1885年
明治18年頃

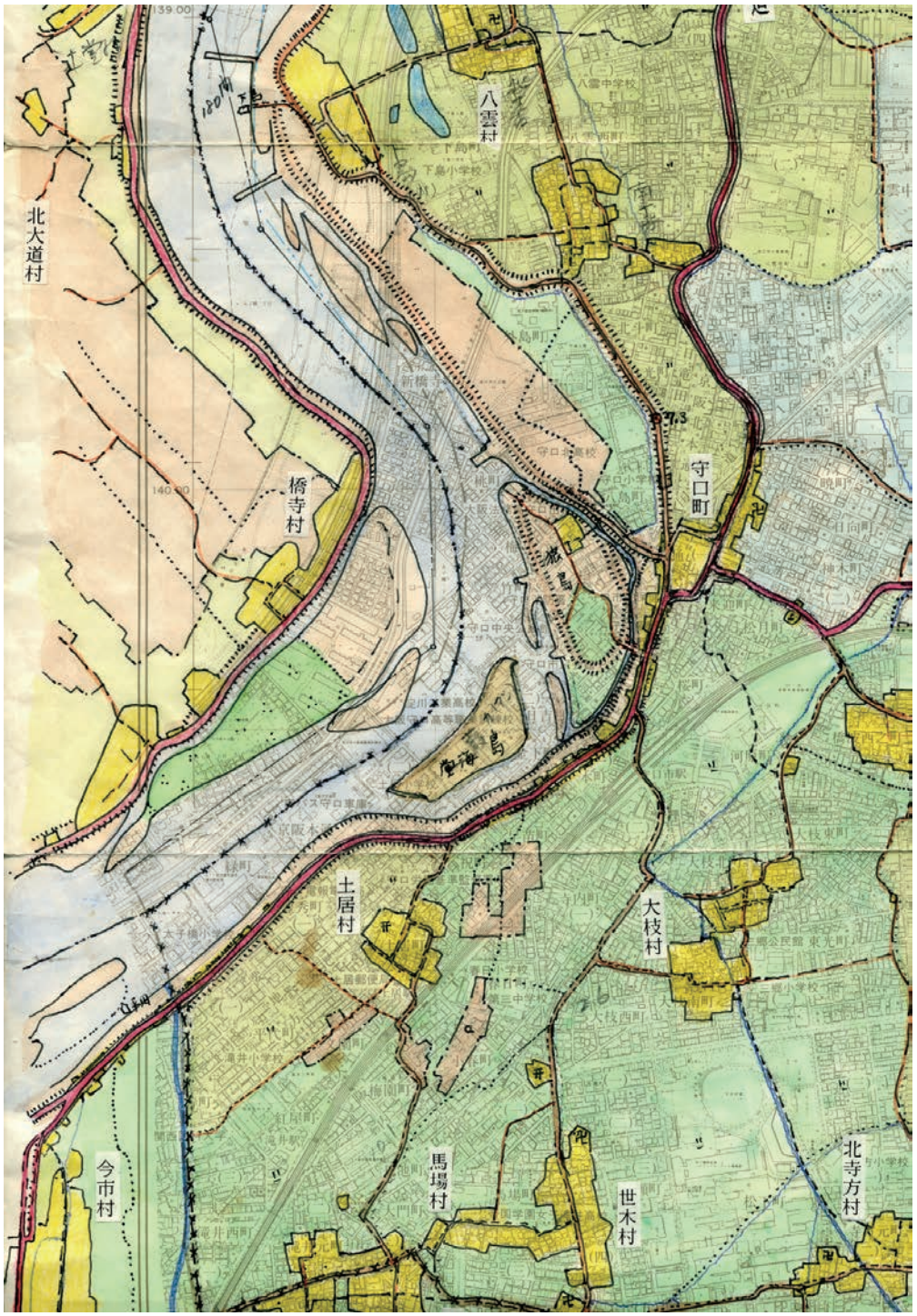
右の地図は淀川の流れや集落の形から判断すると、明治18年(1885)頃に測量されたものだと思います。

もちろん淀川の改修はできておらず、守口のところでふくらみ、外島、狼島、葭島があり文禄堤も「守口町」と書いてある所から北に延びて外島に沿っています。

「守口町」と書いてある下の所を枡型に赤色の道が少し東に曲がり、再度枡型の所を北に延びているのが旧京街道です。

守口町は明治9年1月の人口が1237人、三郷村は852人で、明治22年には守口町の人口が1375人。三郷村は2017人、庭窪村は4080人と明治9年の人口と明治22年人口を比べても大きくは変動していません。それは、多く人が農業に従事していたからだと思います。

淀川の中の島の一つの狼島は、明治7年(1874)まで摂津国西成郡南大道、北大道、橋寺3ヶ村の属地で、当時の公簿面積は6町1反7畝20歩2厘ありました。
明治7年に旧守口町に編入され、島内の大隅神社の分社は現在守居神社に合祀され旧守口町などの氏神になっています。



(出典不詳)

また、この地図では確認することは困難ですが、村ごとに自分たちの生命や財産を水害や賊から守るための環濠集落になっていました。

1924年 大正13年

地図を見ると守口地域では田畑の中に集落が点在し農業地帯です。

明治44年(1911)守口町の人口2041人。三郷村は2526人。庭窪村4391人、合計8858人。

大正9年(1920)守口町3253人。三郷村は2974人、庭窪村で4452人、合計10678人で10年間ほどで1820人しか増加していません。

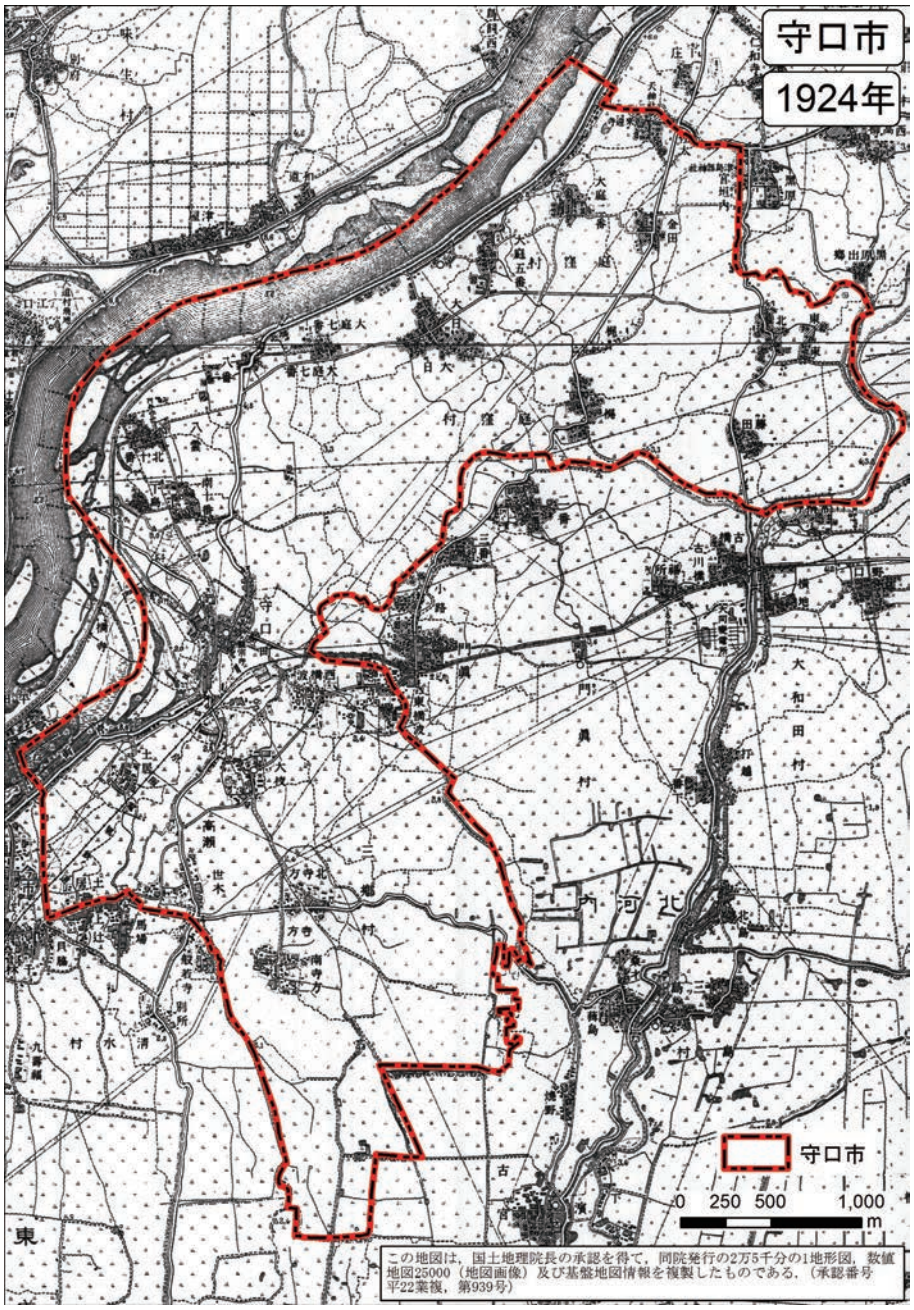
しかし、京阪電車の通っている守口町の人口が増加していることがわかります。

守口では大正のはじめに旧国道二号線が開通し、大正9年(1920)には二級国道二号線と呼ばれました。当時の国道は旧京街道が基準で、旧守口では八島から守口小学校の前を通り八雲の方に延び、旧京街道に交わっていました。

第一次世界大戦が勃発し、工業生産関係は経済発展をとげましたが、守口などの農業地域では米騒動や小作争議がおこりました。

大正12年(1923)4月には守口町土居で田地36町歩を所有する地主4人に対して小作人28人が小作料4割5歩減を要求し、地主側もこれに対して田地返還を求めて紛議中と新聞に報じられています。

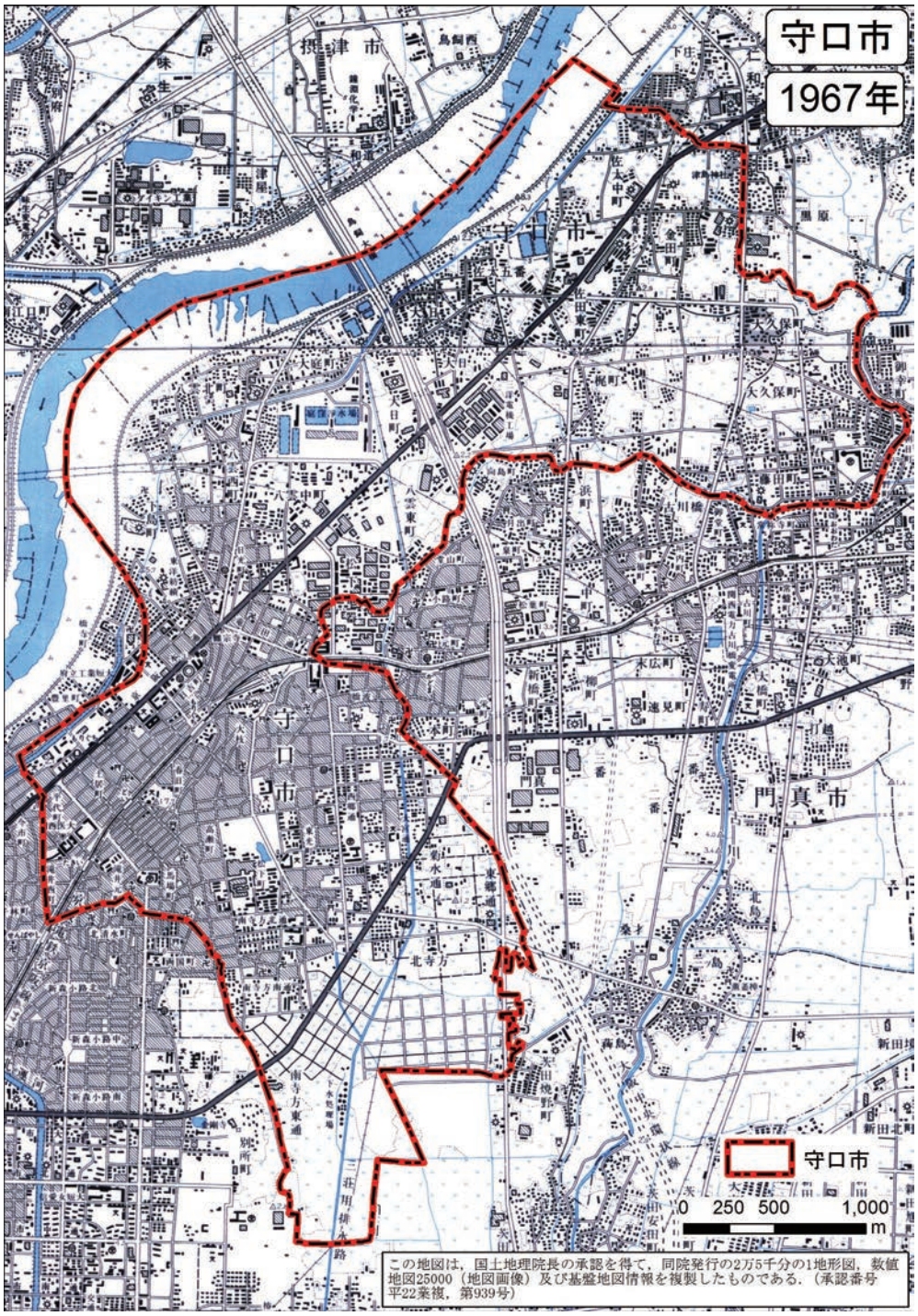
また12月には庭窪村金田・大日の小作人98人が地主23人に対して小作料の「永久三割減」を要求しており、このような小作争議が守口でも各地でおこりました。



守口の大正9年1月1日現在の職工10人以上の工場は織物業3、染色整理その他加工業2、組物網もの業7、機械製造業1の合計13を数え、地域別ではメリヤス工場が庭窪村5のほか三郷村5、守口町3で、職工277人で、職工30人規模工場は3を数えるだけで小規模でした。明治18年の地図と大正13年の地図を比較しても、守口の地域はあまり変貌がしていないことがよく分かります。

昭和4年に世界大恐慌が起こり、大きな不景気に巻き込まれることになります。

1967年
昭和42年



この地図は昭和42年もので、淀川旧河床には鐘紡紡績や東洋染色工場があり、湿地帯の守口や門真には松下電器の関連工場が建ちならび、国道一号線と中央環状線の交差する所に三洋電機の工場があります。京阪池の埋め立て地の南側に松下町ができています。

また、道路を見ると昭和30年新国道一号線が八島から枚方まで開通しています。昭和41年（1966）に中央環状線が一部開通しているようすが地図でよくわかります。

昭和32年（1957）1月25日庭窪町から守口市へ合併が申し入れられ、それぞれ議会で採決され、守口市は満場一致、庭窪町は賛成18、反対2で合併が進み、この年の4月1日に新守口市が発足しました。市域は1317平方$^{キ}_{ロ}$。人口83490人になりました。

所得倍増計画が発表された昭和35年（1960）から第一次オイルショックまで10数年間は高度経済成長期と呼ばれ、日本人の生活や意識は大きく変わっていきました。

技術革新が進み、生産力の向上による雇用の増加で農村から都会へと移動するようになり、農村の過疎化や核家族化も進みました。

守口でも第一次産業から第二次産業へと労働者も変貌し、昭和40年（1965）10月1日には人口138856人、昭和45年10月1日では184466人となり、文化住宅がたくさん建設されました。

昭和40年代は人口が集中するようになり、小学校や中学校の建築ラッシュが始まりました。

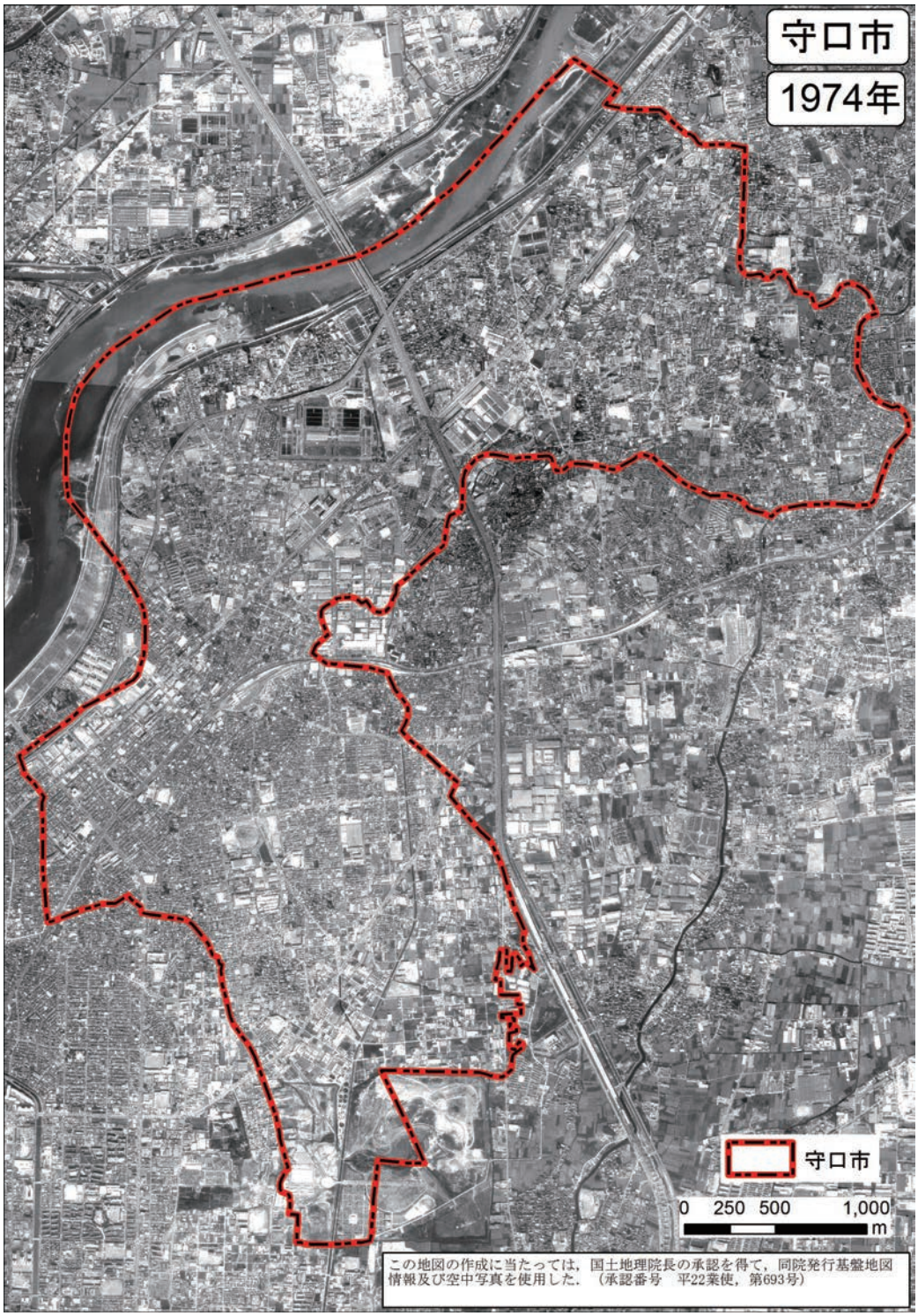
1974年
昭和49年

守口市の人口も急増してきましたが、昭和46年（1971）の187791人をピークに減少するようになります。
昭和49年（1974）の人口は184206人で減少が続きます。

しかし、世帯数は核家族化により昭和46年の60912世帯から昭和49年の61774世帯へと増加し、それ以後は減少に転じていきます。
この時期は社会が過密化し、工場や車の増加などによる大気汚染や交通公害、自然破壊などの問題がクローズアップされ、地域社会での連帯意識が薄れ、疎外感など社会情勢が大きく変化しかけた時期です。

土地利用の面では、昭和48年から昭和53年は水面面積が昭和48年150.3ヘクタールから昭和53年には87.2ヘクタールへと約63ヘクタールと大幅に減少しています。
主に住宅地の一般市街地は535.5ヘクタールから594.3ヘクタールへと約60ヘクタール増加し、工業地は約14ヘクタール増加、商業地はわずか2ヘクタール程の増加です。

開発で特に目に付くのが公園の増加で約58ヘクタールときわだっています。
松下電器や三洋電機の工場や鶴見緑地公園、市民球場もはっきり見えますし、田畑が少なくなっているのがわかります。



1999年
平成11年



地図は平成11年(1999)頃のものです。すでにほとんど田畑や空き地はなく、びっしりと詰まっています。

大阪では平成2年(1990)4月1日から9月30日までの183日間「国際花と緑の博覧会」があり、会場の約半分の50ヘクタールが守口市の行政区域となっていることから、守口市側に北ゲートが設けられました。

守口市内も歓迎するかのように花々で一杯になっていました。

航空写真の南下の中央部に花博記念公園鶴見緑地がはっきりと写っています。花博の会場がどれほど広かったか右端の縮尺で測ってみてください。

平成5年(1993)には生涯学習情報センター、平成6年には総工費4億5000万円で国際交流センター・教育センターが建設されました。

平成8年(1996)に守口市は市制施行50周年を迎えました。人口も平成元年には161156人、この航空写真撮られた平成11年1月1日の人口は155849人(男性76906人、女性76943人)10年間で少子化もあるかと思いますが、約5000人減っています。

この年の新成人は2066人(男性1069人、女性997人)です。

旧国道一号線や中央環状線沿いに松下電器や三洋電機などの工場が多くあります。京阪守口市駅周辺が再開発されたのが見えます。

守口市ではこの年の1月1日からゴミの収集袋が色付き不透明から透明袋にかわった年です。

また地方選挙の年で、4月に大阪府議会議員、府知事、守口市会議員、9月には市長選挙があり、あわただしい1年でもありました。

守口市広報1号

昭和25年9月1日発行

(1)　昭和25年9月1日發行　毎月1日1回發行

MORIGUTISI - KŌHŌ　1

守口市廣報

發行所
大阪府守口市役所
編集兼發行人
中多彌三郎

創刊の辭

守口市長　井上七郎



市民の皆様に新しい市條例、規則、告示の類をお知らせしたり、また市政の重要事案をお知らせする、所謂廣報については從來は余り顧みられなかつたのでありますが、市政の民主化を圖る上にこれ程大切なことはないと存ずるのであります。即ち市民の皆様が常に市政に對して關心を持たれ、市政運營の實狀をよく把握認識されますことが、皆様の市政に對する正しい批判の基礎になるのでありまして、これに立脚してこそ初めて正當な權利の行使と義務の履行が生れてくるのであります。從つて先づ皆様が市政について、よく豊富な智識をもたれ、深い認識をおもちになることが、民主々義を培養する基本條件となるものと存ずるのであります。それ故廣報はあくまでありのまゝの事實を、素早且つ正確にお知らせいたさなければならないことはもとより、こゝに申上げるまでもありません。このように廣報は市政を民主化し、發展向上せしめる上に重要な意義と使命を持つものでありまして近時國や府縣の廣報活動は、連合軍當局の御指導を得て、めざましく上進歩いたしたのであります。

わが守口市の民主化も着々推進しつゝありまして、期間變に堪えない次第でありますが、まだまだ理想的な状態には達しておりません。そこで今回「守口市廣報」を發刊いたしまして、市の條例、規則等に止まらず政府の諸法律、府の條例等公民として御承知置き願わねばならないことを御報いたしますとともに、これらの題目、内容、目的等をおかかりあく、市民生活に對しどんな影響があるかを解説したり、或は守口市と關係の深い事柄についての、中央の政情をお知らせすることにいたしたのであります。どうか市民の皆様には右の趣旨をよく御諒承下さいましてこれを十分御活用願い、もつて市政の民主化發展に一層の御協力を賜りますよう切に念願して已まない次第であります。

以上誠に簡單で要を得ませんが、一言所信を述べて創刊の挨拶といたします。

廣報の發刊によせて

守口市議會議長　西明吉之輔



久しく市民待望の守口市廣報を發刊するに當つて一言御祝辭を述べたいと思います。われわれ市民にとつてもつとも關心のもたれる、守口市の市政が、どのようにいとなまれているか、ということでありましょう。何故かと申しますと、凡ての政治は直接市民生活に結びついていないものはないからであります。新しい地方自治法では再建日本の民主化のために、あらゆる面で市民の利益と、幸福をもたらす政治を行うように規定しているのでありますが、明るい政治は市民の協力なしには成し得ないものではありません。從つてわれわれ市民は市政の全般に渉つて知つていることが望ましいし、これを知ることによつて、市政への理解をより以上に深めて行くことが出來るのでありましょう。斯ういう見地から今度創刊されることになつた市の廣報は市政の担當者である市の理事者の廣告書でもあり、市民との連絡機關という役目をも持つているのであります。市の理事者としては廣報の精神に則つて、今後毎月二回發行の紙面に、市民各位の聲を盛り込んで市政に對する御理解と、御認識を深めて頂きたいと切望しておりますので、尚一層の御協力と御支援をお願いする次第であります。

華抜次目

創刊の辭　市長　井上七郎……1
廣報の發刊に寄せて
市議會議長　西明吉之輔……1
公民館の使命　中央公民館長　藤川榮三……2
地方稅法はどう改正されたか……2
街の小交差小型標識燈……3
上水道の工事計畫はどうなつているか……4
苦しい地方稅は地方與論への裏づけ……5
身心の疲勞につけこむ日本脳炎……6
市民の聲……6
あなたの人達は拉致されていますか……10
生活保護法のお知らせ……10

守口市広報2号

昭和25年9月15日発行

（1）　昭和25年9月15日發行　　毎月1日15日發行

MORIGUTISI－KŌHŌ　2

守口市廣報

發行所
大阪府守口市役所
編集兼發行人
中多彌三郎

目次抜萃

ジエーン猛威のあと……1
災害に際して市民の皆さまへ　市長 井上七郎……2
災害御見舞のことば　議長 西村吉之輔……2
新らしい地代家賃はどう變つたか……2
警察より市民の皆様へ……3
中小商工業者の金融には……3
十月一日國勢調査……4
よい子にパンの壜食……4
短信……5
民主々義は前進する……5
知つていますか、火災、水防警報……6
選擧の知識……9



ジエーン猛威のあと

台風の季節とは！

去る三日來襲したジエーン台風は同日室戸岬を通過後、突如として北々東に進路を轉じ同日午後一時十五分頃神戸市の東方に上陸阪神地方は半徑百粁にわたる暴風圏の中心となり最大瞬間秒速四五メートルの猛威にはかりしれない惨禍の記錄を地上に印して去つた。

これは昭和九年九月の世界最大といわれる室戸台風につぐ災害をもたらしたが本邦では特に九月上旬頃から台風シーズンとなり、今秋は例年より一週間ほど早くその狀態に入つている。どうして台風シーズンがあるかというとわが國では例年二百二十日前後から台風が本邦に接近しやすく、そのエネルギーを著しく增大しやすい氣壓配置となるからである。大陸高氣壓の先端にある溫度の低い高氣壓の氣流すなわち寒冷前線と台風が合流すると猛烈なエネル※



市民の皆さまへ災害のお見舞を申上げます



※ギーを發揮するのである。この寒冷前線自体は二〇エルグぐらいのエネルギーを有しておりあたかも水爆のエネルギーと匹敵しており台風自体も同程度のエネルギーがあるから結局倍加され想像できないくらい猛烈な台風となり悲慘な被害をもたらすのである。ジエーン台風は水洛的な台風シーズンの急先鋒であつて、今後十月末頃まで續くが台風の辿るコースは一定していないので今後に備えて警戒が必要である。

（室戸（上）は瀧井地區の全壞家屋（中）は京阪池鯉鮒の崩壞（下）は日吉劇場）

守口市広報3号

昭和25年10月1日発行



(1)　昭和25年10月1日發行　毎月1日15日發行

MORIGUTISI－KŌHŌ　3

守口市廣報

發行所
大阪府守口市役所
編集兼發行人
中多彌三郎

頒價一部金四圓

季節の手帖

いわし雲、うろこ雲、
秋は雲のコンクール

窓を展くと　きびの風の聴こえる家

水が美しい　素麺が浸けてある

いなごを焼いてゐる庭　夕べ

厠のなかで秋の風が廻つている

マンホールの中でこおろぎが啼いている

廳内電話案内

新らしく廳内電話が拵えられました。交換室が出ましたらあなたの必要な課、係の名又は廳内番號を言つて下さい。退廳後はどの番號をお呼びになつても宿直室に通じるようになつています。

0	市長	役室
1	助役	役室
2	收入役	室
3	議會	局
4	總務課	課
5	庶務	係
	議事	係
6	廣報	係
7	庶務	係
8	建築	課
9	道路	課
10	木土	課
11	衛生	課
12	民生	課
13	教育	課
14	守口校	教員室
15	同分校	長
16	經濟課	商工係
17	同	農務係
18	戸籍	課
19	稅務課	第一係
20	同	第二、三係
21	同	分室

目次抜萃

1　市稅にも減免を……2
2　市政の一端から……總務課長 中多彌三郎 2
3　復舊に必要な資金を貸付……3
4　大阪府でも被災者に聚資……4
5　市民の聲……4
6　短信……5
7　全市の低地帶を救う排水……6
8　補充選擧人名簿登錄申請について……6
9　保母試驗施行について……6

みんなで仲よく廣報の回讀を!!

廣報が創れてからようやく三號が出ました。市民の皆さまに御回覽頂つておりますが未だお讀みになつたことのない方が澤山ありますみんなの家へ一軒洩らさず回覽できますよう何とぞお力添え下さい。仲よく一人洩れなく「廣報」を讀むことができるためにどうしたらよいか、適當な方法がありましたら皆さまのお考えを廣報係までお知かせ下さい。一番よい方法ですべての人に讀んでいただきたいと願つております。また「廣報」でどんなことが知りたいかについてもお教え下さい。

守口市広報4号

昭和25年10月15日発行

(1)　昭和25年10月15日發行　毎月1日15日發行
MORIGUTISI - KŌHŌ
4
守口市廣報
發行所 大阪府守口市役所 編輯兼發行人 中尋弥三郎
圖四金 部一 價頒

11月10日は大阪府教育委員選舉

一人殘らず投票を

守口市選舉管理委員會

菊の香高き十一月十日には大阪府教育委員會委員の選舉が行われます。皆樣も御承知のように去る十月十一日に告示された通りでありますが、あらためて云うまでもなく、「民主教育が不當な支配に服することなく。國民全体がその責任を負うてよき教育行政が行われなければならない」と言う主旨により昭和二十三年度に初の教育委員會委員の選舉が執行されたのであります。本市におきましては他の選舉に比較して甚だしく芳わず投票成績が惡かつたのであります。私たちが考えなければならないことは組織や制度がどんなに民主化され立派でありましても、私たち國民が嚴肅な氣持ちにならずかるがるしく代表を選出するようなことになりますと決してよい代表者は得られません。

特に教育行政はその特殊性と重要性を考慮されまして一般の政治面から切離され、その影響を受けることなく教育の自主性を確立するために教育委員會という制度がつくられたので、それだけ同委員會委員の選舉ということは教育行政を左右する大きな力をもつているのであります。

自分の政治を委ねる代表者の選出に眞劍さを欠くということは自分を無視することであり、また自ら政治の利益と幸福を放棄するものであつて、よく考えればあり得ないことであります。

いま私たちはこの大切な選舉の前に立つております。

今回の選舉には一人も棄權することなく、よりよき立派な委員を選んで教育行政の實をあげたいものであります。



季節の手帳

柿によせて

碧い空の開けざをあつめ
風のようにひかる
これらの果實は
この實(みのり)は
確かつた日の嬉い出ほどに
揺れながら

その制度と精神

あなたの選ぶ人は！

教育委員會の

守口市の人口は約五万七千人で、小中学校に通う生徒数は一万人余です。平均しますと大体一世帯から一人宛の生徒を學校に出しているわけです。

この子供達は家庭に於いては両親や、家族の皆樣が目に入れても痛くない程可愛いい子供さん達ですが、守口市にとつても次の時代の「市の擔い手」として何物にも代える事の出來ない最も尊い子供達であります。

ですから吾々市民は稅金を出し合つたり、それでも足らぬ分は國庫からの借金、即ち起債等によつてまで、學校を建て子供達が立派な教育をうけられる樣に心を配つているわけです。

子供の教育は両親の責任だとか、先生と學校の仕事だとか、學校を建てるのは市の役人の仕事である等と考える事がいけないのは分りきつた事で、教育こそ市民全体、國民凡ての問題なのです。

こう考えて、両親や家族の方は勿論、先生も、學校も市民も、社會全体が一つになつて深い愛情を生徒に注ぎ、自分の責任に於いて教育を考える所に眞の教育が

新

らしい憲法が出來てから日本の政治や、行政の根本的な考え方が變り、教育行政の上にも教育委員制度という革命的な大變革がなされました。

この教育委員會制度の根本となつています精神は左の三つです。

1　教育についての國民の公正な意見を尊重する。

2　教育が他の權力によつて不當に支配されない樣に自立性を確保する。

3　教育が地方の實情に應じ得る樣にする。

右の三つの精神を簡單に說明してみましよう。

第

一はこれまでの地方の教育行政は、一般地方行政の一部門として行われていましたし、またその責任もひとりの行政官に屬していたのです。過去の姿をふりかえつてみると、この制度のもとで地方の教育はかなりゆがめられ、おさえられていましたし、特に過去十年程の間は、いわゆる官僚的または集權的といわれる傾向が强くて、いはゆる少數の人

守口市広報5号

昭和25年11月1日発行

（1）　昭和25年11月1日發行　毎月1日15日發行
MORIGUTISI - KŌHŌ
5
第三種郵便物認可 昭和二十五年十月十七日
守口市廣報
發行所 大阪府守口市役所 編輯兼發行人 中尋弥三郎
圓四金部一一圓領

秋晴れの街行く人の胸に赤い羽根　さわやかな秋風にもまして温いまごころを通わせる赤い羽根の色！

今年も守口の市中が國民一人一人のたすけあいのまごころのシンボルである赤い羽根であふれますよう。十一月から始まるこの國民運動に御協力下さい。今年の目標額は府下で六千五百万圓、本市においての目標額は八拾八万八千圓、市民一人當りにしますと六十圓になります

目標額と云うのはこれらの資金で行われている社會事業の經營にどうしても必要な金額であります。たとえば孤兒、浮浪兒など、不幸な子供たちの養育と教化のために――身寄りのない氣の毒な老人のための養老施設に――夫に死別して生活に喘ぐ母と子のために――からだの不具に泣く人々の保護のために――手に職をつけて再起させるために――引揚同胞の援護のためにいろ〳〵な活動をしますが、たとえば直接社會事業を行うことは配分委員會の場合に公明を缺くおそれもあり、嚴しくこれを禁じて社會事業そのものにその道の專門家によつてお當りいることとなつています

全國が協調して一齊に

この運動は毎年一回、十月を中心として全國一齊に行われる事になつています。



あなたの胸に　赤い羽根を

あなたの心に　温い同情を

共同募金は

その地域の住民が　その地域の民間社會事業のために

らゆる不幸な人々をたすけいたわり励まして再起させるために使用されます。これらの薄幸な人のために幸福をおくり、明るい社會生活をきずくための運動に今年も、あなたの變らぬお力添えを重ねてお願いいたします。

その地域の住民の中から委員を選んで相談し合いその地域の住民の意見に基いて

その地域の住民の責任において

運動は地域を中心で

この運動によつて集められた寄附金はその金額が寄いことになります。

寄附者は平等に扱う

寄附者の住んでいる地域（都道府縣と運營經緯の單位としての）の民間社會事業のために役に割當られるもので施府う心もちを尊重する建前で額のことに限られることは寄附金の多少で差別的な扱いをしないことになつています。

委員會は募金に專念

この運動の委員會は募金のための色々な活動を

一切が公表される原則

この運動が皆さんに信頼されるには運動に異面のない事が大切です。

みなさんの自由な意志で

この運動は、もともと自發的なたすけあいの心から生れたもので強制されたものではありません。この運動によつて寄附するもしないも皆さんの自由な考えにまつのです。

運動のすべてが奉仕で

この運動は寄附者と社會事業とその中間の世話役をする委員會とのこの三つの性格の協力活動で出來上つているもので、そのすべてが奉仕の精神で貫かれています。專任の事務局職員の外はすべてが奉仕で

配分の後に監査

共同募金の配分を受ける團体や施設は共同募金委員會に對して經營の全体にわたる報告をし、委員會によつて監査を受けなければなりません。それは共同募金委員會が寄附した大衆に對して「その寄附金が正しく有効に使われたかどうか」を説明しなければならない義務があるからです。

年に一度の寄附

この運動によつて配分金を受取る團体や施設は各自が勝手に募金しない約束になつています。そこで年一度歩調を募金に應じた人は翌年の運動期まで、これらの社會事業に寄附しなくともよいことになります。

赤い羽根の歌

サトウハチロー作詞

A

小雨の日暮れの　赤い羽根
燈りと雨に　ゆれていた
からかさまわして　くる人の
襟にもゆれてた　同じ羽根
いろはにほへと　アイウエオ
ABCD　赤い羽根

B

小山羊の角にも　赤い羽根
どのよな人が　つけたやら
可愛い仔馬の　たて髪に
小犬の首輪に　子うさぎに
いろはにほへと　アイウエオ
ABCD　赤い羽根

守口市広報6号

昭和25年12月1日発行

(1)　昭和25年12月1日發行　毎月1日15日發行
MORIGUTISI-KŌHŌ
6
守口市廣報
發行所 大阪府守口市役所 編輯兼發行人 中尾弥三郎
第三種郵便物認可 昭和二十五年十月十七日
頒價一部金四圓



竣工された新市廳舍

位　置　守口市京阪本通二丁目三二番地外五筆
敷地面積　941.2坪
建築面積　934.5平方米
總延坪　2180.5平方米（約660坪）外にポンプ室3坪
高　さ　地盤面より正面扶壁上端迄13米10、塔屋扶壁上端16米60
階　數　地上3階　他に塔屋1階
樣　式　近世復興式

本市の人口57,974人

—國勢調査結果—

10月1日午前0時現在で行われた國勢調査の結果、その總數は常住人口57,974人で、うち男28,356人、女29,618人で、女の方が男より1,262人多く、これを昭和25年4月1日現在の本市推定人口56,496人に比べると6カ月間に1,478人增加したことになる。男女比では女100に對し男95.3となつており、世帶數は13,779世帶である。

お年玉つき賀狀を赤い羽根運動に協力

街頭に、家庭に、オフイスにくり展げられている"赤い羽根運動"に協力して郵政省が發行する「お年玉つき年賀はがき」は去る11月15日から全國いつせいに賣出されているが、この年賀はがきは1圓の共募金を附加し、一枚3圓で賣出される。賀狀交換により親交を温めるばか、抽せんにより貯金ス・官眞機以下のお年玉がつき、さらにその寄附金でお正月のよろこびを不幸な人達にも分たんとする……まさに一石三鳥の意義をもつもので、この賣捌きには郵便局の窓口に協力し共募委員會が活躍する。この寄附金は來年度の共同募金に繰入れられるが、本年度の發行枚數は昨年の約二倍であるから昭和26年の新春は街にも、村にも久しぶりに賀狀が氾濫し正月風景を彩ることとなる。發賣期間は明年1月10日まで、お年玉抽せんは同15日に行われる。

むかしなつかしサービスの米屋さん

日常生活に最も關係の深いお米の配給機構が變り、10年ぶりで昔なつかしい民營米屋さんが復活しました。

當市にはこれまで食糧配給公團の配給所として19の配給所がありましたが、今回全部個人店舗に切替えられ更に2店舗が新らしく開業し21店舗のお米屋さんができましたが、唯今のところお米の販賣については實質的にこれまでと違わず消費者の皆さまは決められた販賣店で購入しなければなりません。實質に昔のまゝのお米屋さんが出現するのは來年1月米屋さんを投票で決めてからで、消費者の皆さんは自分の好きな店に登錄して買うことができ、食糧統制は變りませんがその枠の内で自由に買えることになります。

米屋さんの選舉は新しく立候補する業者を加えて消費者の皆さんから選ばれることになり、この選舉は毎年一回行われることになりますので、お米屋さんも落選しては大變ですからサービスは相當改善されることが期待されます。

全守口歲末大賣出し

守口市商業者の市民の皆さまに對するサービス週間として、全守口歲末大賣出しを市後援にて行います。

期間12月20日—25日
6日間

守口市広報7号

昭和26年1月15日発行


(1)　昭和26年1月1日發行　毎月1日15日發行

MORIGUTISI - KŌHŌ

7

守口市廣報

發行所 大阪府守口市役所
編輯兼發行人 中尋弥三郎
頒價一部金五圓

あけましておめでとうございます

新春特集號　目次

年頭のことば……3
住民うたの住民の政治……3
教育誌の出発……4
民生課に於ける時勤の行政機関……4
県予、退産について……6
上水道導管の増設工事……8
水害さんの被害……8
水害の修理申込は……9
五市議会を開催……5
話の泉……6
陳情と請願について……8
土地利用計画……9
新く選定される検察審査員……10
選挙の知識（二）……10
選挙人名簿の確定……10
市民の声……6
学童の作品……6
俳句……4
成人の日……8
こどもの市役所の巻……10
廃物利用……12
廃物は宝……6
写真説明……12
2

本號に限り各戸に一部宛配布しますから回覧の必要はございません





上の絵は京阪電車守口市駅東側の踏切で昭和28年（1953）頃のものだと思われます。

この頃は改札口が踏切の所にあり、通勤・通学時間にはごった返しており、乗客をさばくため電車も増発されていました。この踏切は誰が言うともなく「開かずの踏切」と呼ばれていました。

この絵を見ると通勤・通学と言うよりも、寒い時期なのでしょうか子どもを背負い、ねんねん（寝なさいの意で子供を寝かしつけるときのことば）を着ているお母さんや襟巻き、帽子をかぶっている人も多くみられます。

右下の写真は高架になった守口市駅と「開かずの踏切」のあったところで、現在は京阪電車のガードになっています。

守口市広報8号

昭和26年1月15日発行


(1)　昭和26年1月15日發行　毎月1日15日發行

MORIGUTISI - KŌHŌ　8

守口市廣報

發行所　大阪府守口市役所
編輯兼發行人　中屋弥三郎
價金一部五圓

高瀬神社　延喜式に見えている千百餘年を經た所謂式内の古社で天御中主命を祀る。附近十七村の崇敬するところであつたが、天正年間兵火にかつて焼失した。その後小高瀬荘世木村馬場村の氏子が社殿の造營をなし、又改築を重ねて現在に及んでいる「今八幡」とも呼稱したことが河内誌にしるされている。

就學期の春はちかづく

ママ父兄心得帳△△





高瀬神社

延喜式に見えている千百余年を経た所謂式内の古社で天御中主命を祀る。附近十七村の崇敬するところであったが、天正年間兵火にかつて焼失した。その後小高瀬荘世木村馬場村の氏子は社殿の造営をなし、又改築を重ねて現在に及んでいる「今八幡」とも呼称したことが河内誌にしるされている。

高瀬神社は延喜式神名帳に記載されている式内社で、守口には津嶋部神社と二社しかありません。

社伝によると、「聖武天皇の勅願により高瀬里、高瀬川のほとりに天御中主命をお祀りした」とあります。

社殿は天正年間(1573～91)の織田・三好の兵火で焼失し、現在の社殿は江戸中期初め頃の建立と推察されます。

本殿前の燈籠には貞享４年(1687)の銘があるので、この頃再建されたと思われます。本殿の身舎蟇(もやがま)や身舎外陣(もやげじん:外側)などは見応えがあります。

高瀬・世木や馬場などの氏神で、昭和のはじめごろまでは、鳥居前の橋を渡りお参りしていました。

高瀬の里は、守口では最も早くから開かれた地域で、行基の開基と伝えられる高瀬橋院・高瀬尼寺があり、高瀬神社は、当院(寺)の宮寺であったと推測されます。

守口市広報9号

昭和26年2月1日発行


MORIGUTISI-KŌHŌ

守口市廣報

短信





蓮根掘り

昔から北河内郡は蓮根の名産地として知られ、特に本市（寺方、橋波方面）の蓮根は良質をもって有名で他の追随をゆるさず、約八町歩のうち五町歩は府から特産地として指定されており、年産額は二五〇〇貫に達する。

河内でも守口や門真は河内レンコンの本場でした。
大正時代から加賀蓮や備中蓮を栽培しています。戦時中は食料不足で「よく守口へレンコン買いに行ったわ」と大阪市内の人から聞いたことがあります。

戦後、開発が進み河内名物のレンコンも守口から姿を消してしまいました。
昭和30年頃までは専業農家もありましたが、専業から兼業へ、水稲から野菜、商品作物へと代わり、だんだん農業をする人が少なくなりました。
蓮の花は数日で散りますが、花托（かたく）と呼ばれる実は子どもたちのおやつ、またレンコンの穴に餅米をつめて蒸した「蓮根餅（れんこんもち）」は、戦前までは農家で冠婚葬祭のときに客をもてなしました。蓮根餅を食べることのできるお店が今でも門真にあります。

写真はレンコン掘りのようすですが、泥の中に入りとても重労働の作業で、専門家に頼んで掘ってもらう農家もありました。

守口市広報10号

昭和26年2月15日発行


MORIGUTISI - KŌHŌ

10

守口市廣報

喜左衛門記念碑

國民の基本的人權





喜左衛門記念碑

喜左衛門の記念碑は現在南寺方市営住宅南側にのこっている。むかし附近一帯は排水極めて悪く降雨の際はしばしば農作物の被害甚大にして開閘を官に願い出たが許されず、橋波南方に設けられることとなったので被害は以前に倍増し移転の願いも許されず、寛永十一年時の庄屋喜左衛門意を決し独断を以つて現在の所に開閘したため被害は一掃され附近十二の村々を救ったが、官威を無視し秩序を破つた罪によって翌十二年三月十五日処刑せられた。樋はその儘許され、現存の南寺方が二島村に接するところに喜左衛門樋としてのこされている。

喜左衛門は南寺方村の人で、このあたり一帯は低湿地で泥水がたまり、長雨になると田畑が水に浸かり農作物は水腐れし、困り果てていました。

喜左衛門は幕府の許可を得て橋波村の南方に水門（樋）を移し、水はけをよくしようとしましたがあまり効果がなく、相変わらず下流の14ヶ村は水害はを受けていました。

そこで喜左衛門は上流下流の農民たちと話し合ったり、代官所にも水門を造ることを願い出ましたが聞き入れられません。しびれを切らした喜左衛門は、許可なく焼野村北方の自分の所有地に水門を造りました。14ヶ村の農民は喜び、感謝しましたが上流の農民たちは激怒し、喜左衛門宅へ押しかけ、役人も樋を撤去するようせまりました。

しかし撤去を拒んだことで農民の犠牲になり、寛永12年2月15日に枚方の出口付近で処刑されました。政治犯はお墓を作ることも許されません。やっと明治15年（1882）に喜左衛門の遺徳をしのんで、関係有志の発起で喜左衛門碑が建立されました。

守口市広報11号

昭和26年3月1日発行


昭和26年3月1日發行　毎月1日15日發行

MORIGUTISI - KŌHŌ

11

守口市廣報

發行所　大阪府守口市役所
編輯兼發行人　中身弥三郎

定價一部金五圓

京阪池

昭和の初めまでこの附近は下田であったが京阪電鐵の守口―京橋間を高架にするため土を採取した跡が京阪池として殘った。昭和二十四年市有となりこの池を中心とする大枝公園建設計畫もすゝめられている。また本市下水全体計畫に基き池の南端にポンプ場を設置されることになっており、下水改良に大きな役割を果たすことになっている。

ふな、こい、もろこなど年中大公望の絶えることもなく釣魚シーズンともなれば連日近隣より押しかけ人で賑わっている。

特別貯蓄運動

3月1日～31日

なぜ貯蓄しなければならないか

本年度第三・四半期の成績からみると貯蓄成績は甚だしく不振で、本年度目標額達成にはみなさんの非常な協力を得なければ困難であるため三月一日より同月末まで全國的に貯蓄運動が展開される。

なぜこんなに貯蓄が奨励されるのでしょうか。これまでインフレを抑えるために貯蓄がすゝめられていましたが、インフレが收まった今日ではもう貯蓄の必要な意味もありません。

日本人はむかしから勤勉で儉約な國民であったのですが終戰後のインフレ時代を經驗してから、貯蓄する心を失ってしまったように見えます。すべての收入を使い果したにしなければなりません。このために是非必要なのは資本であります。資本を蓄えさえすれば産業が活發になりますんので何んとかして資本を蓄積しようと言うことが考えられているのです。

資本蓄積の方法については強制貯蓄と言って政府などによって政府が稅金を資本の方へ廻す方法と、自由蓄積といって國民が各自の生活に余裕を考え、みずからすすんで貯蓄して資本を作る方法とがあります。戰爭で失った過去の富力をとりもどすためにはこれから相當永い間耐乏して貯蓄をつゞけて行かなければならないという事は皆さんよく御存じのことゝおもいます。みなさんが儉約と耐乏の生活を乘りこえて貯蓄をぐん／＼增やして下さるならば稅金も次第に下ってくるわけですが、貯蓄が少くても資本蓄積がみなさんの力に期待できないとすれば政府はどうしても國債などのかたちで國民から借りうけることになります。

日本人はむかしから勤勉で儉約な國民であったのですが終戰後のインフレ時代を經驗してから、貯蓄する心を失ってしまったように見えます。すべての收入を使い果したにしなければなりません。このために是非必要なのは資本であります。資本を蓄えさえすれば産業が活發になりますんので何んとかして資本を蓄積しようと言うことが考えられているのです。

資本蓄積の方法については強制貯蓄と言って政府などによって政府が稅金を資本の方へ廻す方法と、自由蓄積といって國民が各自の生活に余裕を考え、みずからすすんで貯蓄して資本を作る方法とがあります。戰爭で失った過去の富力をとりもどすためにはこれから相當永い間耐乏して貯蓄をつゞけて行かなければならないという事は皆さんよく御存じのことゝおもいます。みなさんが儉約と耐乏の生活を乘りこえて貯蓄をぐん／＼增やして下さるならば稅金も次第に下ってくるわけですが、貯蓄が少く





京阪池

昭和の初めまでこの附近は下田であったが京阪電鉄の守口―京阪間を高架にするため土を採取した跡が京阪池として残った。昭和二十四年市有となりこの池を中心とする大枝公園建設計画もすすめられている。また本市下水全体計画に基づき池の南端にポンプ場を設置されることになっており、下水改良に大きな役割を果たすことになっている。

ふな、こい、もろこなど年中大公望の絶えることもなく釣魚シーズンともなれば連日近隣から押しかけ人で賑わっている。

京阪池は京阪電鉄が昭和3年(1928)から京橋から守口間を高架にするために土を取った跡にできた人工の池です。

絵は京阪池での釣りをしている風景です。服装をみると寒い時期のようで一番手前の方は頭から防寒着を着て釣りをしています。

ほかの人たちも同じような服装で同じような間隔で竿をたらしています。手前の人は釣れた魚を入れる網を竿の横に吊しています。寒い時期にこれほど多くの人が釣りをしているのは、よほどよく釣れたのでしょう。

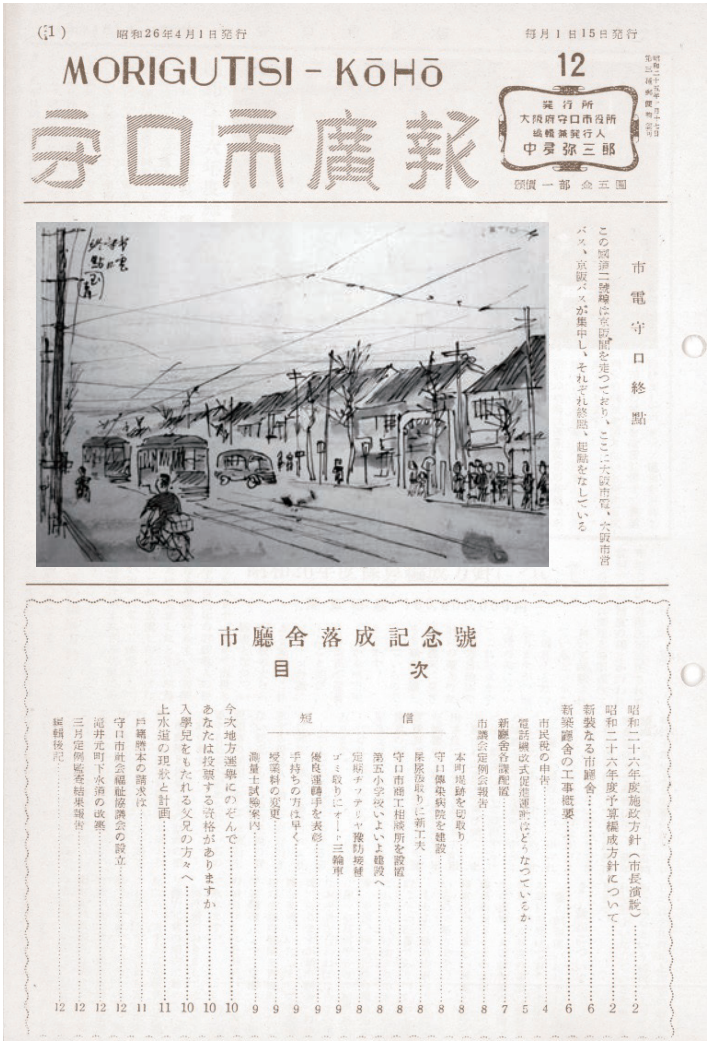
絵の上の方に煙突から煙が出ている工場は、昭和9年(1934)にできた松下の乾電池工場です。

下の写真は京阪池跡に昭和44年(1969)に本格的な守口市民球場が完成し、記念して「第1回守口こどもまつり」が開催されました。

この球場のお陰もあり、中体連の準硬式野球大阪大会でたびたび守口市の中学校が優勝をしています。

守口市広報12号

昭和26年4月1日発行


(1)　昭和26年4月1日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　12

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 中尋弥三郎
頒価一部 金五圓

市電守口終點

この國道二號線は京阪間を走つており、ここに大阪市電、大阪市営バス、京阪バスが集中し、それぞれ終點、起點をなしている

市廳舍落成記念號

目　次

昭和二十六年度施政方針（市長演說）……2
昭和二十六年度予算編成方針について……2
新築なる市廳舍……6
新築廳舍の工事概要……6
市民稅の申告……4
電話機改式促進運動にどうなつているか……5
新廳舍竣工記念……7
市議會定例會報告……8
本町現跡を切取り……8
守口傷痍病院を建設……8
屎尿汲取りに新工夫……8
守口市廳工相撲所を設置……8
第五小學校いよいよ建設へ……8
短信……8
定期チケット發行……8
ゴミ取りにオート三輪車……9
優良運轉手を表彰……9
手持ちの方は早く……9
受驗料の變更……9
測量士試驗案內……9
今次地方選舉にのぞんで……10
あなたは投票する資格がありますか……10
入學兒をもたれる父兄の方々へ……10
上水道の現狀と計畫……11
戸籍謄本の請求は……12
守口市社會福祉協議會の設立……12
淀井元町下水溝の改善……12
三月定例議會結果報告……12
編輯後記……12





市電守口終点

この国道二号線は京阪間を走っており、ここに大阪市電、大阪市営バス、京阪バスが集中し、それぞれ終点、起点をなしている

上の絵は、大阪市電車の守口車庫前のあたりで、現在の守口市京阪本通1丁目です。
都島から守口の土居までの守口線は昭和6年（1931）に開通しました。
昭和11年（1936）9月には午前と午後のラッシュアワーに、守口から大阪市中心部へ直接運転が行われることになりました。
上の絵は、右側にたくさんの人が市電に乗るのか並んで待っています。そのすぐ左にアーケードが見えますがこれは旭通商店街のものです。
その後、市電もトロリーバスも廃止になり、市バスや京阪バスが通っています。いま市バスで一番の人気系統は、大阪駅から守口車庫行きのバスだそうです。

守口市広報14号

昭和26年5月15日発行


(1)　昭和26年5月15日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　14

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 中尋弥三郎

頒価 一部金五圓

難宗寺と盛泉寺

難宗寺は文明九年蓮如上人の創設にかゝる西本願寺に属する寺院で、盛泉寺は慶長十一年教如上人が創建せられた東本願寺派の寺院で共に眞宗の由緒深き古刹である。

参議院議員補欠選擧に棄權すな

こんどは國民としての一票を

わが守口市がこの度の市会議員選擧において投票率九割余、大阪府知事及び府会議員選擧において同八割余の好成績を擧げたことは全く有權者各位の自覺と一般有識民諸氏の選擧に対する協力のたまものであつて誠に御同慶に堪えないところであります。しかも單に投票率ばかりでなく、その内容においても四年前のそれに比較して無効投票の數も著しく減少し圓に隔世の感があるのであります。

われわれは守口市民として守口市の健全なる発展のために正しき一票を行使した。その一票を打立てて立派な大阪府政を打立てるために府民としての清き一票を投じたのであるが、こんどは日本國民としての貴重なる一票を持ち寄つてわれわれの代表として直接送つている議員の欠員を補うための國政議席に送らなければならないのであります。申すまでもなく時局極めて重大なる今日國家としても大きな欠陥でありますので、あの地方選擧の最中である四月十六日に早くも告示を行い、これが補欠選擧を要請しているのであります。

もとより守口市三万有余の有權者の中には今回の五名の候補者を全然知らない人も多數あることと思いますが、それは皆さまの家庭へお配りしてある各候補者の経歴公報をよく読んでたゞくなり、ラヂオなどで政見をお聞きになり、どうか来る十六日の参議院議員補欠選擧に正しき一票を行使し文化守口の面目にかけて一人の棄權者もなく國民としての一票の權利を行使し義務を果していただきたいものであります。時に今日の國際狀勢は皆さまの一票が大きな意味をもつていることでもありますので、有權者の皆さま、市民の皆さま切に各位の御協力をお願い申上げます。

守口市選擧管理委員會







難宗寺と盛泉寺

難宗寺は文明九年蓮如上人の創設にかゝる西本願寺に属する寺院で、盛泉寺は慶長十一年教如上人が創建せられた東本願寺派の寺院で共に真宗の由緒深き古刹である。

上の絵は右側に大きく描かれているのが難宗寺で、左側が盛泉寺の本堂です。右中の写真は難宗寺の鼓楼、下の写真は盛泉寺の四脚門です。 難宗寺は浄土真宗本願寺派の末寺です。寺は文明7年(1475)枚方出口に光善寺を創建して3年間在住した蓮如上人が文明9年に創建したのが守口坊の始まりと伝えられています。
本願寺の東西分派に際して守口村200軒余の門徒は両寺に二分され、慶長11年(1606)本堂を西派の難宗寺に残し、東は本尊の阿弥陀仏を持って新しく盛泉寺を創建しました。

難宗寺は慶長16年に本願寺御坊に昇格、西の御坊・本願寺の掛所でした。盛泉寺も東の御坊となっていました。難宗寺は明治天皇の大阪行幸(慶応4年3月22日)の時、天皇の御行在所となり、盛泉寺は明治天皇の三種の神器を祭る賢所(かしこどころ)になった寺院です。

守口市広報15号

昭和26年6月1日発行

（1）　昭和26年6月1日発行　　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ

15

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 中尋弥三郎

頒価 金五圓 一部一圓

市議會正・副議長

監査委員もきまる

改選後初の市議会は去る五月十一日より二十二日にわたり開会されたが、正・副議長選挙を行つた結果次の通り決定した。

議長　石橋繁次
副議長　西口豊司

なお議員より選出の監査委員は次の通り選任されました。

市議会議員　竹岡敬一
同　中西浚孝

市議會常任委員決定

新陣容の八委員會

市議会常任委員会委員はそれぞれ次の通り決定しました。

財政総務委員会（長）熊野勇夫
（副）阪本傳吉、竹岡敬一、坂口正義、森本伊作、田代通、八代隆、浅井秀雄、尾田丈太郎、西口豊司、中西浚孝

教育委員会（長）竹内政一、
（副）辻本友次郎、八代隆、浅井秀雄、青柳廣吉、船本丈夫、伊藤保信

経済委員会（長）田代通、
（副）稲葉久一郎、池田香、金星清一、石橋勘三郎、尾田丈太郎、阪本傳吉

都市計画委員会（長）山口久五郎、（副）森本伊作、熊野勇、稲葉久一郎、船本丈夫

建設委員会（長）岩本松太郎
（副）池田香、山口久五郎、井植祐郎、青柳廣吉、寺沢耐三、津田次一郎

水道委員会（長）寺沢耐三、
（副）岸イト、辻本友次郎、西明吉之輔、岩本松太郎、

厚生委員会（長）西明吉之輔、
（副）奥平辰雄、竹岡敬一、岸イト、井植祐郎、寺沢壯太郎、中西浚孝

警察消防委員会（長）寺沢壯太郎、（副）金星清一、坂口正義、石橋勘三郎、西口豊司、伊藤保信

大阪府下市町村においては、民事部よりの示唆もあり現在ではすでに四九の自治振興委員会が発足しています。市民の手によつて市民のためのよりよき自治をつくる会がつぎつぎと誕れているということは地方自治に対する関心が高まつていると考えられ、「地方自治こそ、民主々義の保障である」という意味からすれば民主々義がようやくその根を張りつつあるとも言えましょう。

しかし今までのような一般市民からかけ離れた雛しい、肩のこるような会であつては本当の民主的な発展を期待することはできません。市民一人一人のもり上つた意志と実質のこもつた会であつて市会議員や市吏員は介入せず、あくまで市民のための会であることが円滑に行われるようなことが円滑に行われなかつたようであります。

守口市においても近くこの「よりよき自治をつくる会」を発足したいと考えておりますので市民のみなさんの積極的な活動によつて一日も早くできあがることをお希いしています。

× ×

しても一方的な活動となりやすく、市民の方々は知らず〳〵受身の立場になりやすいようであります。

市政に対する積極的な意見や不審な點を質すというようなことが円滑に行われなかつたようであります。

守口市においても近くこの「よりよき自治をつくる会」を発足したいと考えておりますので市民のみなさんの積極的な活動によつて一日も早くできあがることをお希いしています。

× ×

よりよき自治をつくる會

政の向上と協力をはかるものでなければなりません。

これは廣報活動の発展してゆく必然の趨勢であつてこれまで行われてきた「市廣報」による活動や廣報車による市民への傳達はどうしているわけでこれはひとえに市民各位の御協力の賜物であります。

参議院議員補選了る

投票率は衛星都市中第二位

去る五月十六日執行された参議院地方選出議員補欠選挙の投票は地方選挙に比し低調であることは免れなかつたが守口市では

投票総数　一四、〇六八票
有効投票　一三、九五七票
無効投票　一一一票
無効投票率　〇・七九%

であつて、各候補者の得票数は次の通りである

川上貫一（共）三、〇四二票
小田俊興（社民）一六一票
佐野茂（無）一四二票

守口市における有権者総数に対する投票数の割合は四五%七であつて、府下全体の投票率平均三八%二に比較すればこれを遙かに上廻るばかりでなく衛生都市中四九%九の員塚市につぐ第二位の好成績であつた。選挙に対する関心の度合が文化のバロメーターであるとすれば守口市は高い文化水準をもつていることを示すのである。

村中收入役退職

村中米三郎氏は去る五月十二日收入役の任期満了に伴い退職された。

同氏は昭和十五年三月旧三郷町收入役就任以来十一ヶ年余、その間旧守口三郷両町合併にともない昭和二十二年五月十三日本市初代收入役として就任せられ今日に至つたものである。

守口市広報16号

昭和26年6月15日発行


(1)　昭和26年6月15日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ

16

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所 編輯兼発行人 中尾弥三郎

別購一部金五圓

守居橋　昭和十一年区劃整理によつて架けられた陸橋で、上の街道は守口の宿場時代の街道筋であり、旧淀川の堤防であつた。橋の北側は明治十八年の洪水までは淀の流れが三十石船の面影を湛えてながれていた。

今年も國際傳染病！

日本腦炎の流行に備えて

昨年は日本腦炎が大流行して守口市でも六名の患者が発生し、四名まで死亡しました。市役所では早くから日本腦炎の豫防対策を講じ現在鋭意策励的に防疫工作を行つておりますが、ついてはこの恐ろしい病魔を守口市から追放するために市民の皆さんはお互いに次の事柄を守つて下さるよう御協力下さい。

1、蚊を撲滅すること、つまりボーフラを退治すること。

2、家のまわりの水溜りをなくし、用水に七一〇日くらいで捕魚を放れぬよう、下水溝はさらえて排水をよくすること。

3、家のまわりの掃除を行つて蚊の隠れ家をなくすること。

等であります。このほか日本腦炎の豫防法としては御存知のことと思いますが、特に炎天下の過労は本病の誘因になりやすいから注意しなければなりません。

日本腦炎の治療的な療法としては安静、冷しい湿布、全身保温、食餌不良、脱水をふせぐことが必要であります。

赤痢、腸チブスも

これが一週間つづいてから高熱を発し昏睡状態におちいるが小兒の場合はヒキツケをともなうことも少くない。

罹患するこれら伝染病の症状から考えて注意が必要であり、おかしいと思うときは早目にお医者さんに診ていただくようおすすめ致します。

1、手洗いの励行

2、蠅の撲滅

3、飲食物、飲用水に対する注意

4、安静、下痢などをした時は早目に受診、消毒。

これらのことに注意して夏期傳染病の予防に努力しないよう御協力をお願いいたします。





守居橋

昭和十一年区画整理によつて架けられた陸橋で、上の街道は守口の宿場時代の街道筋であり、旧淀川の堤防であった。橋の北側は明治十八年の洪水までは淀の流れが三十石船の面影を湛えてながれていた。

昭和11年(1936)8月28日、守口土地区画整理組合が京阪国道と京阪守口市駅を結ぶ近道として文禄堤を切り開き、そこに陸橋をかけ守口と土居を結ぶ橋であるところから守居橋と名付けられました。

渡り初め式には、守口第一小学校(現守口小学校)と第二小学校(前滝井小学校)の児童たちが参加しました。守居橋をくぐる道は国道から京阪守口市駅に通じる道で、市電が守口市駅まで乗り入れる事を期待して造られたものだと思います。

下の写真は、豊臣秀吉が造った文禄堤を切り開き大枝や寺方方面へ通じる道ができたところです。文禄堤の高さや幅を知ることができます。

守居橋の下を軽自動車通っており、その高さから見て3.4メートル程あります。

文禄堤は全てこれだけの高さがあったのではなく、最初のころの堤の高さは1メートルほどだったとの記録があります。

守口市広報17号

昭和26年7月1日発行


昭和26年7月1日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ

17

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 中尋弥三郎

頒価一部金五圓

猿島

旧淀川の中央にあつた一孤島で猿島とも中の島とも呼んでいた。現在の竹町、松町、桃町の附近である。攝津國西成郡南大道、北大道、橋寺三カ村の属地であつたが、明治七年八月四日、南大道村所属の五町五反六畝二十五歩二厘、橋寺村所属の五反三畝二十五歩、計六町一反七畝二十歩二厘が守口町に合併された。

本市推定人口

すでに六万台を突破

本市の五月末現在の推定人口は60,442人であつて昨年10月1日の国勢調査人口58,053人に比べると8ヵ月間に2,389人の増加となつており、毎月約300人が増加してゆくことを示している。この内訳を詳しくみると社会増（転出入の移動による）の面では1,748人の増加で、これは増加人口の約75%を占めており、特に3.4両月の動きの多いのは入学期を迎えての現象であろうか。

自然増の面では死亡数に上廻る出生数で月60人から100人ぐらいの増で、増加人口の約25%を占めており、社会増が自然増の約3倍もあるのは本市が大大阪の活動と密接な関係にある衛星都市としての動きをみることができる。





狼島

旧淀川の中央にあった一孤島で猿島とも中の島とも呼んでいた。現在の竹町、松町、桃町の附近である。摂津國西成郡南大道、北大道、橋寺三カ村の属地であったが、明治七年八月四日、南大道村所属の五町五反六畝二十五歩二厘、橋寺村所属の五反三畝二十五歩、計六町一反七畝二十歩二厘が守口町に合併された。

絵は淀川の中の島の狼島と外島の間を流れている五ヶ荘水路あたりのようです。
狼島の所有は西成郡北大道村領でしたが、明治7年（1874）に守口領となり明治末期に淀川の掛け替えで陸地化しました。現在の市役所や警察署あたり、町名で言えば竹町・松町・桃町付近です。

狼島はこの島民の氏神である大隅神社（祭神賀茂別雷神で昔は渦神社とも呼ばれていた）があり、神社には上賀茂の大神がお祀りしてあったことから、大神島が狼島となったのであろうと言われています。明治40年（1907）10月に守居神社に合祀され、守口の総氏神となりました。写真は狼島の跡にできた町並です。

守口市広報18号

昭和26年7月15日発行


昭和26年7月15日発行　毎月1日15日発行

18

MORIGUTISI - KŌHŌ

守口市廣報

発行所
大阪府守口市役所
編集兼発行人
須磨岡　薫

北の口　むかしこの附近一帯を北の口と呼び、守口の宿場時代は京街道の北の入口であつた。今もなお街並はそのかみの面影をとゞめている。

大むかしの守口

古代の守口附近はどのような有様であつたろうか。山城からは淀川、大和河内からは大和川、石川その他の諸川が次第に注ぐところ、そこは河内の山麓まで深く入り込んだ湖沼としたた江湖であつた。その中に南から北に突出した岬があり、河内の水の出口を遮つていて、わずかにこの岬と北方千里山との間に一條の水道が開いていた。この江湖地帯に注ぐ諸川は年を経ると流砂を漸積する活動をつづけ徐々に干潟を形ずくつて行つた。

神武天皇は御東征の時「浅れを遡つて草香津まで来られ龍駒山を越えて」大和に入り橿原の宮に即位され、また仲哀天皇が新羅征伐のために軍旅を整えられ「長柄に泊つ」とあるから、難波崎を過り、江湖地帯に入り、須を大庭、尚願にとられたものと考えられている。

行基年譜をみると行基が息願から生駒山道を作つたことが出ており、尚願に上陸して生駒山に向うコースがあつたと考えられ、また住吉神社記によると遣唐使の出発地を「長柄船瀬とし」とあるので当時守口附近は大和方面からの交通の要地として往来があつたことが想像される。万葉集に「直越のこの道にしておし照るや難波の海となづけゝらしも」とあるのはこの日下越を経て難波に向つた時書詠しく生い茂つた生駒山の樹木地帯を通りぬけ、ひとたび峠の両側に展み出すと眼界がひらけ湖面の展々とした景色に富も心もはればれとしたさまが想われる。





北の口

むかしこの付近一帯を北の口と呼び、守口の宿場時代は京街道の北の入口であった。今もなお街並はそのかみの面影をとゞめている。

旧京街道（東海道）を京に向かって進むと、浜町と国道一号線が交差するすぐ手前の十字路のところが瓶（亀）橋があった所です。
この瓶橋までが宿場になった頃までにできた町で、その先は出屋舗（敷）と言って、それ以後にできた町だと考えられます。
現在は「かめばし」「大正四年瓶橋」と書かれた橋柱が道脇に立っています。
瓶橋は東の方から淀川へ流れ込んでいた小さな川に架かっていた公儀橋で、工事は幕府の手で行う国役普請（こくえきぶしん）で費用は国単位で国銀を取り立てました。
瓶橋の由来は、当時、守口を支配していた代官の竹垣三右衛門直道が、朱熹『敬斎箴』の「守口如瓶」「口を守ること亀のごとし」を引用してつけたものだと思います。
これは「亀はもらさぬように口を固く閉じて水を飲みます。発言は慎重に」と言う意味です。初めは土橋でしたが、大正時代に石橋が架けられていましたが、現在は暗渠（あんきょ）になり橋はありません。

守口市広報19号

昭和26年8月1日発行


昭和26年8月1日発行　　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　19

守口市廣報

発行所　大阪府守口市役所
編輯兼発行人　須磨岡薫

守口本陣址（守口市車庫）

龍田通り。吉田八兵衛家が代々本陣を勤役した所である。規模は小さいが、門・玄関・上段間等整い、道順の関係上紀州候の宿泊が多かった。維新後、警察分署・町役場となり、勝手のみ略々旧態のままである。

夏季移動公民館

〝市民の憩いの家〟としての公民館を一人でも多くの市民の方々に利用してもらいたいと考え夏季休暇公民館の計画をいたしました。小さい方は言うまでもなく御主人から奥さん方も、御家族のみんなで盛夏の一日を楽んでいただけるようにと、講書（移動文庫）幻燈、紙芝居、家庭会、ゲーム、体操、唱の指導など、そのほか雄藩座談会、ポケット講座と多彩なプログラムを用意しております。雄藩座談会には市理事者、市議会議員も臨時に参加して市政に関する質疑応答なども行います。毎日朝九時より午後五時まで開設いたしますが、その日割と開設場所は次のとおりです。

雨天の際は中止となります。追つて開催日をお知らせします。

日	曜	地区（小学校区）場所
2	木	守口	市立公民館
4	土	土居	守居神社境内
6	月	三郷	高瀬神社
8	水	寺方	寺方校
10	金	滝井	守居神社
12	日	守口	守口市立保育所
14	火	三郷	橋波東分館（元青年会館）
16	木	滝井	藤ベビーパーク
18	土	土居	土居校
20	月	寺方	護念寺
22	水	守口	守口分館（盛泉寺）
24	金	三郷	喜入の里広場
26	日	滝井	滝井校
28	火	三郷	三郷小学校
30	木	土居	土居分館（清寺）





守口本陣址（守口市車庫）

龍田通り。吉田八兵衛家が代々本陣を勤役した所である。規模は小さいが、門・玄関・上段間等整い、道順の関係上紀州候の宿泊が多かった。維新後、警察分署・町役場となり、勝手のみ略々旧態のままである。

守口宿の本陣は竜田通り、現在のマクドナルドの西側にありました。
宿場には吉田八兵衛の一軒だけがあり、脇本陣はありません。本陣は敷地300坪、建坪150坪で平均よりもやや小さい方です。

本陣は幕府の役人や参勤交代の大名、公家などが公用の旅で利用する宿舎です。地元の名家や裕福な家の家屋があてられました。

本陣や脇本陣は玄関、門、書院を設けることが許されていました。一般の旅人は利用することはできません。大名の休泊が決まるとその数日前から大名の逗留（とうりゅう：旅先などに一定期間とどまること。滞在。）を示す関札が立てられ、宿場はきれいに掃除され、到着をまちました。

本陣のあったところは、問屋場の前で街道は2間半ぐらいの道幅ですが、本陣の前の道は市場町と言って８間（約15㍍）ほどありました。
これは旅人の荷物の引き継ぎをしたり、参勤交代の時などの行列を整えるために広くなっていました。

守口市広報20号

昭和26年8月15日発行


昭和26年8月15日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　20

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨岡業

義天寺

本門佛立講の開開祖日扇上人が明治二十三年この地において入寂された因縁によって二世日聞上人が明治二十九年開祖の御還化地道場として建立された由緒寺院である。日扇上人御還化の座敷は今も境内に残っている。

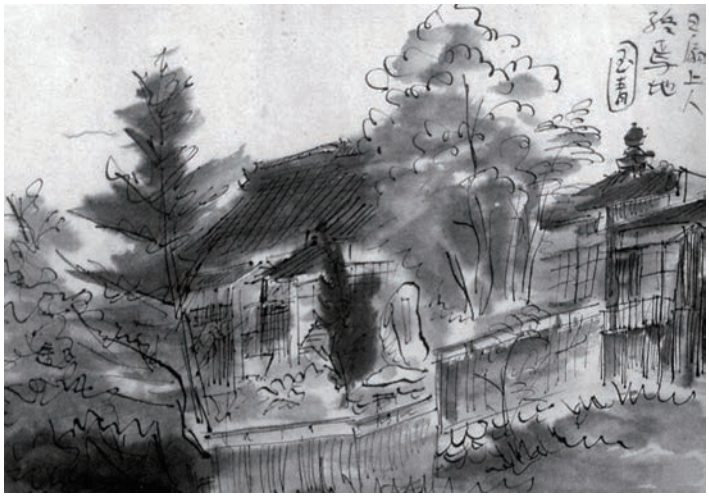
守口市章募集要項

躍進に躍進を續けているわが守口市は近く市制施行五周年を迎えようとしています。この秋にあたり眞に守口市を象徴し、尚市將來の發展を表わすような市章を制定したいと思いここに公募することに致しました。奮つて應募下さい。

募集規定

1、募集作品　守口市章
2、應募様式　自由、但し図解説明を必要とする
3、應募資格　守口市を愛し市の発展を希う者
4、締切　昭和廿六年九月三十日限り（三十日消スタンプのあるもの）
5、送先　守口市役所 教育課
6、審査　特別審査委員会を設けて審査する
7、表彰　壹等 壹万円也　貳等 參千円也
參等 壹千円也　佳作 若干、記念品を呈す。

備考　1、原図に若干の改変を加え採用することがあつても豫め御承諾願います。
2、應募作品は返却致しませんから御承諾願います。
3、應募原図に住記名しないで適当に住所、氏名を明記願います。





義天寺

本門佛立講の開開祖日扇上人が明治二十三年にこの地において入寂された因縁によって二世日聞上人が明治二十九年開祖の御還化地道場として建立された由緒寺院である。
日扇上人御還化の座敷は今も境内に残っている。

義天寺は守口宿場の下（しも）の見付けの北側にあり、本門仏立宗鶴林山義天寺と言います。
開祖の日扇上人が、明治23年（1890）7月17日大坂の秦氏の招きで京都麩屋町（現、長松寺）の館を早朝に出て、伏見から新造の屋形船で大阪へ下る途中体調が悪くなり、守口宿の堤上の茶店で休憩されていましたが息を引き取りました。後に日聞上人がこの茶店を買い取り、この地で明治29年七回忌講の時に法要を営み「御遷化道場」を建てたのが義天寺の始まりです。

旧京街道に向って南無妙法蓮華経のお題目の石碑があります。これは大阪野江の処刑場から移されたものです。また、寺には義天閣や当時の羽織や扇子、法衣、袈裟などの遺物が保存されています。

守口市広報21号

昭和26年9月15日発行


昭和26年9月1日発行　毎月1日15日発行

MORIGUTISI-KOHO　21

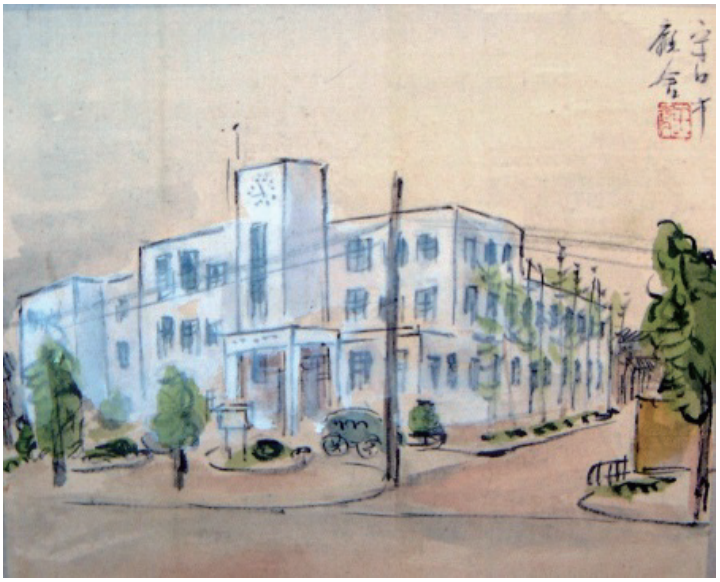
守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨園義

市廳舍

憶いおこす九月三日

台風に備えて





守口町の役場は、かって本町の文禄堤のところにありました。
昭和21年(1946)11月1日に守口町と三郷町が合併し大阪府11番目の市になり、市庁舎の一部は守口小学校の鉄筋校舎におかれました。

合併5年後の昭和46年4月に敷地面積3100平方メートル、延べ面積約2180平方メートル、鉄筋コンクリート造り三階建ての現庁舎ができました。

写真や絵では立派な庁舎にみえますが、建物も2号別館、1号別館、3号別館と順次増築され、渡り廊下などでつながっています。いつの間にか庁舎内部は迷路のような複雑な構造になり、老朽化も進んでいます。平成28年の秋には、かっての三洋電機本社ビルに移転することになりました。

守口市広報23号

昭和26年10月1日発行


昭和26年10月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　23

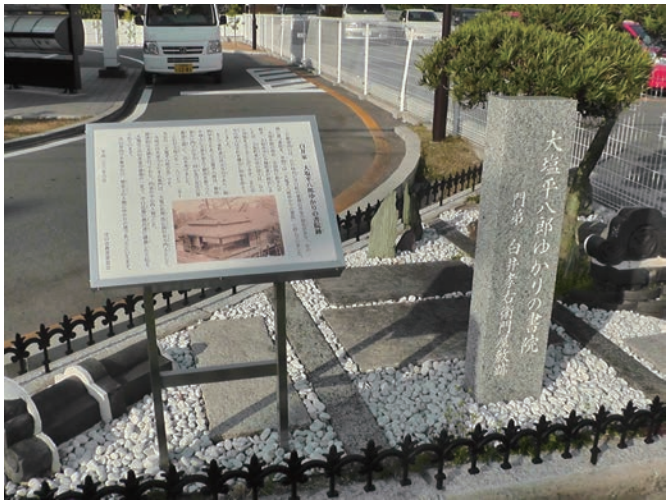
守口市廣報

大塩講学所

固定資産課税台帳の縦覧

10月1日から10日まで（10日間）





大塩講学所

天保八年大塩の乱の当時、守口村の百姓兼質屋であった白井孝右衛門は大塩平八郎の高弟であり、現在の薫氏の祖先であった。いまでも同邸には平八郎陽明学を講学するため騎馬で通ってきた書院座敷が残っている。

上の絵は大塩平八郎が守口近辺の農民に陽明学の講義をしていた大塩ゆかりの書院です。書院は江戸時代の豪農白井家の邸宅の近くにありましたが、のちに白井家の一画に移築されました。

天保年間の初め、全国的に飢饉が続き大坂市中にも犠牲者が続出しましたが、大坂町奉行所の役人はなんら対策を取らず、また市中の商人はそれを機会に利益を得ようとしました。

大塩は反乱前年の天保7年（1836）には挙兵を決意し、同士たちがこの書院に何度も集まり、準備をしたといわれています。大塩平八郎の乱発祥の地といえます。

書院は平成22年に解体され、その跡にはマクドナルド1号線守口店になり、往時を偲ぶ石碑が立っています。

守口市広報24号

昭和26年10月15日発行


昭和26年10月15日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　24

守口市廣報

堂脇橋大正天皇降車地

明治四十三年十月、大正天皇はまだ東宮であった時、工兵特別大演習御見学のため当市に行啓、京阪電車でこの地に降車せられたので、これを記念したものである。

市章の制定





堂脇橋大正天皇降車地

明治四十三年十月、大正天皇はまだ東宮であった時、工兵特別大演習御見学のため当市に行啓、京阪電車でこの地に降車せられたので、これを記念したものである。

難宗寺の西の角地に「御行在所」と「御仮泊所」と道標の碑が建っています。
「御行在所」とは明治天皇が慶応4年大阪行幸の時にお泊まりなった所のことです。
「御仮泊所」は大正天皇が皇太子時代に摂津・河内で陸軍特別大演習があり、工兵隊の架橋演習を淀川でご覧になるため明治43年10月3日に難宗寺でお泊まりになられたところです。

京阪電車五条ー天満橋間が同年4月開通、京阪電車で皇太子が来られることになり、堂脇橋（現、電通高校）に臨時停留所を設け、ここから難宗寺まで人力車でこられ、4日の架橋演習をご覧になられました。その時にできたのが竜田通りです。

以前は電車に向かって記念碑が建っていましたが、現在は写真のように京阪電車の高架化で橋波の方へ向かうガードの下に建てられています。

守口市広報25号

昭和26年11月1日発行



守口市広報26号

昭和26年11月15日発行


昭和26年11月15日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　26

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所 編輯兼発行人 須磨 勇

問屋場趾

徳川時代、幕府が人馬取継立を行っていたところ、明治五年六月二十三日守口小学校開校に伴いその校舎となる。

國民健康保險制度

病氣や怪我のときにも安心

「国民の健康を保障する制度として国民健康保険法が実施されたのは昭和十三年七月で、以来この制度が全国にひろがり、昭和二十五年六月には市町村の大部分がこれを実施するに至りました。現在では全国市町村の大部分がこの事業を行っています。大阪府下でも市として豊中、池田、吹田、茨木、守口、枚方、寝屋川、四條畷、門真、藤井寺、富田林、河内長野、岸和田、貝塚、泉佐野、泉南、阪南、泉大津、和泉、高石、忠岡、岬、熊取、田尻

守口市広報27号

昭和26年12月5日発行


昭和26年12月5日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　27

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所　編輯兼発行人 須磨岡義

守口宿高札場

徳川時代重要な法令を民衆に知らしめるため　高札に記して交通の最も頻繁な街路に掲示した。俗に札場といった。守口は宿駅であったから普通の高札場より立派で、交通統制、公定人馬賃銭に関するものも含み札数も多かった。

歳末防犯運動

市警では特別警戒





守口宿高札場

徳川時代重要な法令を民衆に知らしめるため　高札に記して交通の最も頻繁な街路に掲示した。俗に札場といった。守口は宿駅であったから普通の高札場より立派で、交通統制、公定人馬賃銭に関するものも含み札数も多かった。

上の絵の左下のあたりが八島で、守口宿の高札が立っていた所です。高札場とか札ノ辻などと呼ばれていました。

八島のあたりは宿場のあった頃はもちろん国道一号線はなく、京へ上るときは堤ノ町を下り、枡形になった街道を東に向かって問屋場のある方へ進みました。

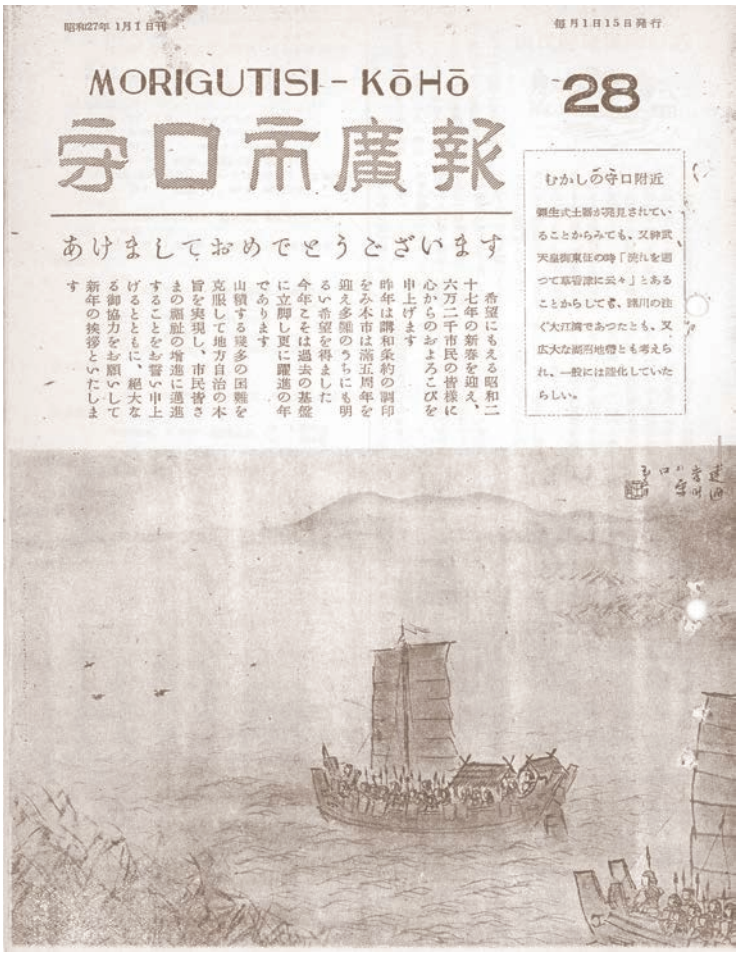
逆に京から大坂へ向かう時は問屋場の前を通り、枡形になったところを左折して南西の文禄堤を行きます。ここは旅人たちのよく目につく場所で、高札は人のよく目のつく所にありました。

高札とは「立札」のことで、木板に御法度（禁則）や掟などが墨書きにしたものが上がっていました。地域によって文言も多少違っていました。

守口の高札場には長さ2間1尺5寸、横幅5尺5寸で札が6枚かかり、五条目御礼・切支丹御礼・毒薬御礼・人馬賃御礼・上下人足賃御礼・火付御礼がありました。人々はここで幕府からのさまざまな情報を得たのです。

守口市広報28号

昭和27年1月1日発行


昭和27年 1月1日刊　　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　28

守口市廣報

あけましておめでとうございます

希望にもえる昭和二十七年の新春を迎え、六万二千市民の皆様に心からのおよろこびを申上げます

昨年は講和条約の調印をみ本市は市政五周年を迎え多端のうちにも明るい希望を得ました

今年こそは過去の基盤に立脚し更に躍進の年であります

山積する幾多の国難を克服して地方自治の本旨を実現し、市民皆さまの福祉の増進に邁進することをお誓い申上げるとともに、絶大なる御協力をお願いして新年の挨拶といたします

むかしの守口附近

弥生式土器が発見されていることからみても、又神武天皇御東征の時「流れを遡つて草香津に云々」とあることからしても、諸川の注ぐ大江湾であつたとも、又広大な湖沼地帯とも考えられ、一般には陸化していたらしい。





出展：朝日百科「日本の歴史」２古代

むかしの守口附近

弥生式土器が発見されていることからみても、又神武天皇御東征の時「流れを遡って草香津に云々」とあることからしても、諸川の注ぐ大江湾であったとも、また広大な湖沼地帯とも考えられ、一般には陸化していたらしい。

大阪平野は昔、一面海でした。淀川や大和川などの堆積物などで徐々に陸地化し、約3000年ほど前に人々が住むようになったといわれています。

大和朝廷は大阪平野を経済の基盤に位置づけ、仁徳天皇が淀川の氾濫を防ぎ多く耕地を得るために茨田堤を築き、日本初の輪中が造られ、大和朝廷の直轄地とした重要な地としました。

大陸から多くの渡来人がやってきて、日本に機織りや土木工事、農業生産の技術などをもたらしました。朝鮮半島から来る時は船で釜山から対馬に着き、瀬戸内海を東に向かい、難波津から奈良大和に入りました。またある時は、瀬戸内海から淀川を上り、佐太の東にある対馬・津嶋に着き、ここから大和田（津のこと）まで行き、行基が造った直道（後の清滝街道・奈良街道）を通り、奈良の都へと向ったと思われます。

守口市広報30号

昭和27年2月1日発行


昭和27年2月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　30

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
昭和廿七年二月一日印刷納本
昭和廿七年二月一日発行
印刷人 須磨留雄
編集人

聖徳太子と茨田寺

聖徳太子と茨田寺

聖徳太子創建の寺院には7大寺と、49院がある。この49院中の一に茨田寺がある。その位置については確実な記録がなく異論があるけれども、「市内の旧馬場地区説」が有力である。徳川初期の「河内名所記」にも「茨田寺太子49院の内伽藍、本尊は薬師、いつの頃にかありけん焼失し、石づへばかり残る旧蹟なり、小高瀬というところにがらんの跡あり、高瀬このあたりや……」とある、近年現在の旧小高瀬辺の地中から、礎石や瓦を掘り出し結審としていたが、この茨田寺の跡であろう。又、大門、寺道、釣鐘堂などの地名が現在なお存するところからみても想像される。

○　申告書を提出されない方は、後日の調査で所得税に応じた過料を加算されることになりますから期限に遅れないように必ず提出して下さい

市民税の申告

○　この申告書は課税の対象にならない方（例えば寡婦、老年者、未成年等）であつても一応提出して下さい。



聖徳太子と茨田寺

聖徳太子創建の院には7大寺と、49院がある。この49院中の一に茨田寺がある。その位置については確実な記録がなく異論があるけれども、「市内の旧馬場地区説」が有力である。徳川初期の『河内名所記』にも「茨田寺太子49院の内伽藍、本尊は薬師、いつの頃にかありけん焼失し、石づへばかり残る旧蹟なり、小高瀬というところにがらんの跡あり、高瀬このあたりや……」とある、近年現在の旧小高瀬辺の地中から、礎石や瓦を掘り出し結審としていたが、この茨田寺の跡であろう。又、大門、寺道、釣鐘堂などの地名が現在なお存するところからみても想像される。

聖徳太子は四天王寺を建立するためにいろいろな所を見て回りました。
大阪の旭区に太子橋という地名がありますが、これは聖徳太子が四天王寺を建立する適地を探すため、この地にこられたので太子橋の地名が付いたと言われています。

寝屋川にある高柳廃寺が聖徳太子が建立した茨田寺（まったでら）ではないかと思われていましたが、文安4年（1447）頃に僧訓海が聖徳太子伝の注釈『玉林抄』に茨田寺のことがあります。「口云々、茨田寺四十六ヶ伽藍内也、茨田者郡名也、上茨田同郡也、私伝或人云茨田寺者、彼寺ヲ守口ト云処引之云々、茨田寺は守口に移転し、旧跡ばかり残っていた」とあります。

寝屋川の茨田寺跡に現在の長栄寺が建立されたのは、同寺の過去帳によれば寛永8年（1631）遷化の秀円法院によるものとあります。守口の高瀬橋院跡と思われるものより古い瓦が出土としたとあるので、このあたりに聖徳太子の茨田寺があったのではないかと推定されます。

守口市広報32号

昭和27年3月1日発行


昭和27年3月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　32

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所 編輯兼発行人 須磨留業

大陸交通の重要門戸であった旧守口町（長柄船瀬）

奈良朝から平安朝の初期、大陸との交通が盛んであった時代、守口市の内、旧守口町は長柄船瀬と称して、大陸交通のための重要港湾及びその付属地域であった。この事実は船瀬が住吉大社の所領だったこと、並びに、後、朝廷に奉還されたことと共に、住吉神代記、延喜式で知られ、殊に、神代記には、東が高瀬、大庭と境するものであったことを明記している。

守口市歌「長柄船瀬の昔より、……」

父兄の皆さんへ

新一年入学までの手つづき

○ 入学通知書と一緒にお渡けしました健康書は必ず学校の方に提出して下さい。
○ 入学該当者で未だ入学通知書を受取つておられない方は至急学校に連絡して下さい。
○ 私立学校又はその他の学校に入学を許可された方は至急に学校と市役所にその旨申して下さい。
○ 新入学者の種痘と結核予防の通知が参りますから是非受けて下さい、もし通知もれがありましても該当者は受けて下さい。



大陸交通の重要門戸であった旧守口町
（長柄船瀬）

奈良朝から平安朝の初期、大陸との交通が盛んであった時代、守口市の内、旧守口町は長柄船瀬と称して、大陸交通のための重要港湾及びその付属地域であった。この事実は船瀬が住吉大社の所領だったこと、並びに、後、朝廷に奉還されたことと共に、住吉神代記、延喜式で知られ、殊に、神代記には、東が高瀬、大庭と境するものであったことを明記している。守口市歌「長柄船瀬の昔より、……」

奈良時代から平安時代にかけて西国や大陸との交通の起点となった難波の港は、長柄船瀬で、その位置は住吉大社の社記によると、本市の守口辺りであったことがわかります。
住吉神社記中の延暦8年（789）の『住吉大社解状』に「長柄船瀬の四至は、東限･･･高瀬・大庭。南限･･･大江。西限･･･鞆渕。北限･･･川岸」とあります。

遣唐使は舒欽明天皇2年（630）から承和5年（838）の間に14～15回派遣されています。
一行は大使、副使、判官、録事から成り、留学生、留学僧を伴い4、5百人になり、2隻～4隻に分乗しました。
奈良時代になると行基の直道（清滝道、奈良道）を通り、奈良の都から長柄船瀬に着き、この港を出発し住吉大社で祈祷して大陸へ向かいました。

『守口市史』に平安初期の守口関係の史実として、「長柄船瀬が住吉社から朝廷に奉献された事と長柄船瀬が遣唐使関係の祈祷を殆ど独占した事である。」とあります。

また、中国や朝鮮国の人が渡来し、土木・養蚕・機織・陶器など各方面にすぐれた知識や技術を伝来しました。
枚方には日本に漢字を伝えたとする「王仁の墓」や百済王敬福の「百済寺跡」などがあります。寝屋川や枚方、交野などにも多くの大陸関係の遺跡があります。

特に、朝鮮国からの渡来人は対馬に着き、瀬戸内海から長柄船瀬の高瀬、大庭を発着起点とする重要な港であったのです。

守口市広報34号

昭和27年4月1日発行


昭和27年4月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　34

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨岡藏

僧行基土木事業を起す

行基菩薩は、その名からも知られるように、奈良朝佛教界特異の存在で、當時普通の官僧と異り、民衆の中に生活し、民衆のため、民衆を動員して、多くの寺院、道路、橋梁、溝渠を築造した。かの奈良の大佛のごときも、行基とその民衆動員力によって、始めて完成し得たのである。守口市とその附近は行基活動の一焦点でその事業には野崎街道、高瀬樋、大庭堀川があり、市内高瀬の常称寺は行基建立四十九院の一と伝えられる。

飽和状態

人口密度とは一平方粁を單位として人口を算出したものですが、これを昭和二十五年の國勢調査人口によつてみると、日本全國の人口密度（一方粁當り人口）は二三六人となり、全國都市の人口密度は一、五七四人、町村のそれは一四九人となります。

守口市の人口密度は一、〇六九人であつて、全國人口密度に比べて約四三倍、都市のそれに比して約六・八倍という高率を示しています。

人口密度

わが國で最も繁華な國際都市大阪市の人口密度は一、〇、四三六人で、これよりもなお僅かに上廻つている本市は殆んど全國第一位と言つてもいいほどの高い人口密度をもつており、しかも昭和二十六年末の推計人口による密度は一一、四〇七人と激増の一途を辿つている有様であります。



僧行基土木事業を起す

行基菩薩は、その名からも知られるように、奈良朝佛教界特異の存在で、当時普通の官僧と異り、民衆の中に生活し、民衆のため、民衆を動員して、多くの寺院、道路、橋梁、溝渠を築造した。かの奈良の大佛のごときも、行基とその民衆動員力によって、始めて完成し得たのである。守口市とその附近は行基活動の一焦点でその事業には野崎街道、高瀬樋、大庭堀川があり、市内高瀬の常称寺は行基建立四十九院の一と伝えられる。

行基は天智天皇元年（668）堺の家原で生まれ、父は高志才智、母は蜂田首虎身の娘で両親とも渡来人です。15歳で出家し仏法を説くかたわら、民間伝道や社会事業に活動する道昭（河内国丹比郡船連（ふねのむらじ）（現、大阪府堺市）出身の法相宗の僧）と関係があり、民衆に目を向けることになります。仏法を説きながら貧民救済のためにも農業を盛んにしなければならないので、潅漑用水確保のために農民を指導して池を掘り水路を開き橋を架けました。

また、伝道のため和泉・河内・摂津・大和・山城を行脚して49ヶ寺を建てたとされています。

守口でも天平2年（730）に高瀬橋院と高瀬尼院を建立し、高瀬大橋、高瀬堤樋、直道、大庭堀川などを建設しています。民衆も多いに感謝して、行基を菩薩と呼びたたえました。

直道は今の清滝峠を越えて奈良につづく道です。ほかの遺跡は開発が進み、どこにあったか明確ではありません。

昭和32年（1957）6月に下水工事のため高瀬付近を掘っていると、古墳時代末期から室町時代の土器や瓦が出土し、このあたりに寺院があったと思われます。その寺と関係しているのが現在の高瀬寺（尼寺）と常称寺ではないかと言われています。

特に古墳時代末期から飛鳥時代の出土品があり、高瀬橋院より以前に寺があったのでないかと考えられ、聖徳太子建立の茨田寺の可能性もあります。

守口市広報36号

昭和27年5月1日発行


昭和27年5月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　36

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨勘藏

下仁和寺荘の政所と鎮守

平安時代の始め住吉大社から朝廷に献納されたと考えられる旧守口町は、宇多法皇が京都郊外に仁和寺を創建された時、その寺領となり、後に妙心寺領と変つても、戦国時代に荘園制度が崩壊するまで、下仁和寺荘と呼称された。（現在もその名を残す寝屋川市の上仁和寺荘に対し）荘園には、行政や貢租収納の行われる政所があり、又、鎮守が奉祀された。今妙心寺の傍にやはり素戔嗚尊を祀る神社があること、和泉府中その他における配置、藪が開かれる前の神社東側の状況等から見て、守居神社は荘園の鎮守であり、政所は現石井氏邸一帯にあつたかと推定される。

就職

今春の市立中学卒業生は七四六名（一中二五五、二中二八三、三中二〇八）で、うち男四一五名、女三三一名であるがこれらの新卒業生たちは何処へ巣立つて行つたか。就職を希望した七〇七名は完全就職という嬉しい成績、工業部門に進出したものが圧倒的に多く、男一一二名、女一五六名、計二七八名で就職者の約七〇%に達している。続いて商業、運輸、金融、サービスの順となつている。このうち夜間の高校へ通つているものが七三名であるその他の三三九名はそれぞれ高校（夜間）へ進学しており、この卒業生に対する割合は四・五%で、府下平均四五・九%よりやや下回つている。入学した学校は寝屋川高が一番多く、ついで四条畷、京阪、大阪市立の順になつている。

進學



下仁和寺荘の政所と鎮守

平安時代の始め住吉大社から朝廷に献納されたと考えられる旧守口町は、宇多法皇が京都郊外に仁和寺を創建された時、その寺領となり、後に妙心寺領と変っても、戦国時代に荘園制度が崩壊するまで、下仁和寺荘と呼称された。（現在もその名を残す寝屋川市の上仁和寺荘に対し）荘園には、行政や貢租収納の行われる政所があり、又、鎮守が奉祀された。今妙心寺の傍にやはり素戔嗚尊を祀る神社があること、和泉府中その他における配置、藪が開かれる前の神社東側の状況等から見て、守居神社は荘園の鎮守であり、政所は現石井氏邸一帯にあったかと推定される。

仁和寺は光孝天皇の勅願によって仁和2年（886）起工し、宇多天皇が仁和4年に完成させました。天皇は譲位の後上皇となり、延喜4年（904）ここに御所を建てて住まわれ御室御所と呼ばれるようになりました。

仁和寺の創建にあたり、その御造営料にあてられたのが平安時代のはじめ住吉大社から朝廷に献納されたとされる、旧守口町や寝屋川などの地域と言われています。その範囲についてはっきりはしませんが、寝屋川市仁和寺本町のあたりから守口を含む大阪市の一部が入っており、広範囲なため、上仁和寺庄と下仁和寺庄に分けていました。

仁和寺の地名は、仁和寺の御造営料であったところから付いた地名で寝屋川市に仁和寺の地名が現存しています。

その後、南北時代に花園天皇は上皇となり美濃国から恵玄を招き、京都花園御所跡に北朝の暦応年間（1336～1341）南朝は延元～興国の頃）建立したのが妙心寺です。

仁和寺の庄は妙心寺の菩提料所となり、その地頭職には慧心があたりました。戦国時代に荘園制度が崩壊するまで仁和寺荘と呼称されました。

上の絵のように荘園には行政や貢租収納が行われる政所（まんどころ）がありました。

また、境内には白山権現があり、観音寺なども創建されていました。妙心寺の傍には素戔嗚尊（すさのおのみこと）を祀る神社があります。

守口市広報38号

昭和27年6月1日発行


昭和27年6月1日刊　　毎月1日15日発行

MORIGUTISI-KŌHŌ　38

守口市廣報

竹間江大治江の河魚貢進

平安時代前期には、摂河泉に亘り、若干の御厨があった。御厨とは、皇室御料の魚類を貢進した所をいう。その内の竹間江は守口の土居、大治江は大枝であったと伝えられる。延喜式によると。貢進物は魚鮨、塩魚等である。御厨は後、普通の荘園に似た私領となり、更に下っては、地域団体としての性質が稀薄化し、漁獲貢進の権利者たる供御人が座人に似た一種の特権階級となる。

寄留にかわって

住民登録

7月1日から實施

○いよいよ住民登録の届出も近ずいてきました。
○守口市に住んでいられる方（外国人、朝鮮人、台湾人は除く）は一人残らず登録していただきます。
○本籍地の地番、戸籍筆頭者、生年月日などはっきりしない方は今から謄本なり、戸籍記載事項證明を取りよせておいて下さい。
○氏名や続柄は、戸籍の通り記入して下さい。



竹間江大治江の河魚貢進

平安時代前期には、摂河泉に亘り、若干の御厨があった。御厨とは、魚類を貢進した所をいう。その内の竹間江は守口の土居、大治江は大枝であったと伝えられる。延喜式によると。貢進物は魚鮨、塩魚等である。御厨は後、普通の荘園に似た私領となり、更に下っては、地域団体としての性質が稀薄化し、漁獲貢進の権利者たる供御人が座人に似た一種の特権階級となる。

御厨（みくりや）とは古代・中世の神領で、主として供膳・供祭の魚介などを献納する農民以外を支配していく過程で成立したものです。
元来、供物を調進する屋舎をさしましたが、のちにその神領を意味するようになりました。
『類聚国史』（るいじゅこくし）は菅原道真が『六国史』（りっこくし）の内容を編纂したものですが、その中の巻33の「御厨」の項によれば、平安時代の初期、天長8年（831）それまで河内国2箇所の御厨が停止され「竹門江」・「大治江」など3ヵ所が新たに御厨として指定されています。
竹門江（たかどえ）とは守口市の土居村で大治江（おおはりえ）とはこれがなまって大枝村になったものと言われています。
この頃は両村とも大阪湾の一部で、入江になっていたところです。魚介類が豊富でハマグリやナガガキの化石などが多数出土していることからも、このあたりが御厨であったことが裏付けられます。

守口市広報40号

昭和27年7月1日発行


昭和27年7月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　40

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨留重

来迎寺の開山実尊、剣畷で襲撃さる

実尊は庭窪町大庭の人、南朝のために盡力した勤王僧としても有力である。摂津深江の法明房良尊に従って大念佛義を学び、師の入寂の際、本尊天得如来を授けられ、郷里大庭に帰る。その途中、現在の剣畷で、嫉妬せる同門の要撃を受けたが、旭区北清水町の八幡宮の社殿に隠れて僅かに難を免かれる。後、守口市に来たので、守口市には来迎なる地名を残している。

くどいようですが
お済みになりましたか
「住民登録」の届出は
7月1日から5日まで

○「住民登録票」の用紙は6月中に皆さんのお手許にお届けしたはずですが、万一もれている世帯があれば、調査員か、市役所戸籍課に申出て下さい。
○7月1日から5日までの間に調査員が参りますから、必ず御記入の上お渡し下さい。
○日本に国籍のない人は届の必要はありません。



来迎寺の開山実尊、剣畷で襲撃さる

実尊は庭窪町大庭の人、南朝のために盡力した勤王僧としても有力である。摂津深江の法明房良尊に従って大念佛義を学び、師の入寂の際、本尊天得如来を授けられ、郷里大庭に帰る。その途中、現在の剣畷で、嫉妬せる同門の要撃を受けたが、旭区北清水町の八幡宮の社殿に隠れて僅かに難を免かれる。後、守口市に来たので、守口市には来迎なる地名を残している。

清和天皇の貞観元年(859)奈良大安寺の行教上人が授かった天筆如来(阿弥陀三尊)を都の近辺に移って国家を守らんという男山八幡宮の御神体として祀られました。

その後、宇多天皇の皇子敦実親王が大菩薩御像(僧形八幡増)をつくり、八幡宮の御神体としたので天筆如来は八幡宮の神庫にしまってありました。

康永元年(北朝年号、1342)4月15日夜、石清水八幡宮の宮司に夢のお告げあり、また、今の大阪市東成区深江の法明上人(融通念仏宗の僧)にも天筆如来を授けるというお告げがあり、枚方茄子作りのところで宮司から法明上人にわたされました。

実尊が法明上人から天筆如来の本尊や宝物を授けられ、自分の生国河内の大庭荘に持ち帰り一寺を建立し、これを本尊や宝物を納めようと思いました。

実尊は深江より摂河の国境の剣縄手の堤防を北上して、目的地に向かいました。これを知った法明上人の他の弟子たちは、何故実尊が授かるのかと言って追いかけました。

実尊もいそぎましたがついに追いつかれ、とっさに眼前にあった古堂(八幡大神宮)に逃げ込んでひたすらに本尊に祈願をこめました。追いかけて来た弟子たちは、これを見い出し中に入ろうとしましたが扉が固くて開かず、怒って火を放ち堂と共に焼かんとしましたがどうしても焼けません。追いかけてきた弟子たちも本尊の霊妙な威力と実尊の有徳に感じ、ついに本尊と宝物を取り戻すことを残念しました。

実尊はこれを持ち帰り、正平2年(1349)8月、郷里大庭の里に近い河内国茨田郡下仁和寺庄守口村に、紫雲山来迎寺を創立し浄土依準大念仏宗の本山としました。

上の絵は、来迎寺の開祖実尊上人が本尊天筆如来を持って走り、うしろから平野の僧たちが追いかけている場面です。

守口市広報42号

昭和27年8月1日発行


昭和27年8月1日刊　　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　42

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨圀雄

市民の皆さまに

暑中お見舞申し上げます

守口市長 井上七郎　　守口市議会議長 山口久五郎

大内氏の部將守口城を守る

室町時代は、幕府の名分が立たず、諸將の実力が強いので戦乱が絶えず、従来の荘園制は郷村制に変化する。戦乱は尊氏の時から絶えないが、南北両朝合一後の応永六年（1399年）には、合一の殊勲者大内義弘が堺に拠って叛する。このとき討伐軍の主力は東高野街道を今川総入道、結城越後入道らのひきいる別軍は淀川左岸を進む。それで義弘は後者を防ぐべく杉九朗以下二百余人に守口城をまもらしめたという（鷹永記、堺市史）下仁和寺荘でなしに守口と呼ばれていることが注意を引く、また城の位置は旧部落名「西の丸」という小字名からみて旧荘衛の跡、現在の守居神社及び、石井氏邸のあたりであったと思われる。



大内氏の部将守口城を守る

室町時代は、幕府の名分が立たず、諸将の実力が強いので戦乱が絶えず、従来の荘園制は郷村制に変化する。戦乱は尊氏の時から絶えないが、南北　両朝合一後の応永六年（1399年）には、合一の殊勲者大内義弘が堺に拠って叛する。このとき討伐軍の主力は東高野街道を今川総入道、結城越後入道らのひきいる別軍は淀川左岸を進む。それで義弘は後者を防ぐべく杉九朗以下二百余人に守口城をまもらしめたという（鷹永記、堺市史）下仁和寺荘でなしに守口と呼ばれていることが注意を引く、また城の位置は旧部落名「西の丸」という小字名からみて旧荘衛の跡、現在の守居神社及び、石井氏邸のあたりであったと思われる。

大内義弘は足利義満に忠実で、山名氏清を滅ぼした時にも戦功が大きく、南北朝統一の仲介人でもあり、周防・長門・豊前・筑前のほか和泉・紀伊を合わせて7ヶ国の守護として善政をを敷いていました。

住民の信頼はすこぶる大きく、義満はそれをねたみました。また、金閣寺造営に反対した義弘に対する義満の反感はいよいよ高まり、自筆自判の教書で義弘追討を下しました。

これに対し義弘も意を決し、義満に反感をもっている関東管領をはじめ今川・山名・土岐などの大名によびかけ反義満の軍をおこしました。

応永6年（1399）九州・四国をあわせて軍艦300余艘をひきいて堺に上陸しました。堺の住民が義弘に好意を寄せてくれていたことと、堺をはなれて敵に堺を占領された時のことを考え籠城することに決めました。

この時、大内義弘は「二百余騎をひきいて森口城によれる杉九郎を召しかえして、敵のいたるを待った」と、『堺市史』には応永の乱についてこう記されています。

また、『長興宿禰記』（ながおき すくねき）には「九月二日（文明15年＝1483）今日、聞く一両日中に河内において合戦あり、森口城没落、敵味方打死五十六人有り」と記されています。

この時代の城は山の上にある山城で、木で囲いをした砦のようなものでした。この森口のような平地に城を構えたのは、淀川などの重要な場所だったのでしょう。土居の地名は、森口（守口）城の周囲に土垣で囲んだところから出たのかもしれません。

守口市広報44号

昭和27年9月1日発行


昭和27年9月1日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI-KŌHŌ　44

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨岡薫

戦国時代本願寺領寺内の田苅

大谷派分立以前の本願寺守口坊舎は、蓮如上人の遺跡を偲び、実如上人の子息実円が建立した所、伽藍は現在の難宗寺として残り、当時の本尊は現在の盛泉寺に安置されている。寺内という地名は、殆ど浄土真宗関係に限られ、信長公記に、元亀元年（382年前）石山合戦に際し、大阪石山の本願寺から、五、六千人が打って出て、森口辺で田苅したのを、信長側から襲撃し激闘となつたと記すこと等に徴し、守口の寺内も、本願寺の所領であつたのであろう

九月十五日現在で
基本選挙人名簿の調整

年令は二十才以上の者
引続き三カ月居住の者

基本選挙人名簿は毎年九月十五日現在で資格調査を行い十二月二十日で確定し、翌年十二月十九日まで有効でその間に行われる選挙の基本になる名簿であります。

本年も九月十五日より五日間にわたつて昭和二十七年度基本選挙人名簿の調査を行います。

この調査に洩れますと今後一年間行われる選挙に貴重な権利を行使できないということにもなりますから調査洩れのないよう特に御注意下さい。

調査については従来の方法と異り調査員が原本により直接口頭で調査いたしますから期間中はできるだけ不在にならないように御願します。

なお基本選挙人名簿に登載される資格のある方は次の通りであります。

一、日本国民（戸籍法の適用を受ける者）であること

二、本年十二月二十日現在で満二十才以上の者、即ち昭和七年十二月二十一日以前に生れた者

三、本年九月十五日現在で三ヵ月以上即ち本年六月十六日以前より引続き守口市に住所を有する者

以上の条件を備えた方であつて入院、出稼等のため一時守口市からはなれている者、衆復員者、学生で守口市に下宿或は寄宿している者も含まれます。



戦国時代本願寺領寺内の田苅

大谷派分立以前の本願寺守口坊舎は、蓮如上人の追跡を偲び、実如上人が建立した所、伽藍は現在の難宗寺として残り、当時の本尊は現在の盛泉寺に安置されている。寺内という地名は、殆ど浄土真宗関係に限られ、信長公記に、元亀元年（382年前）石山合戦に際し、大阪石山の本願寺から、五、六千人が打って出て、森口辺で田苅したのを、信長側から襲撃し、激闘となったと記すこと等に徴し、守口の寺内も、本願寺の所領であったのであろう。

本願寺第8世蓮如上人が越前吉崎御坊を出て枚方に光善寺を建立し、文明9年（1477）に守口御坊の難宗寺を創設しました。

織田信長が元亀元年（1470）に本願寺攻めをはじめ、本願寺11世顕如が諸国の門徒に信長に対して反抗を呼びかけました。しかしこのあたりには難宗寺、門真に願得寺があり浄土真宗関係の寺が強い地域で、大坂石山本願寺にも近く信長の標的になった地域です。

当時の合戦について『足利季世記』に「二十日（元亀元年9月）大坂本願寺から5、6千人打って出て、森口辺りの田苅（刈）（相手の田畑の作物を刈取り、打撃を与えること）したのを信長側から襲撃し、激闘となった」とあります。

１回目の戦闘の経過をみると、大坂を離れると先ず守口が要地であり、旧大庭6番村にある藤森社が本願寺の支城で、守口あたりが戦場であったとされています。

守口あたりで刈田をすることは、当時の城塞攻防戦の定石であり、守口寺内町が本願寺領の耕地であったようです。また、多くの真宗寺院が焼失しています。

守口市広報47号

昭和27年10月15日発行


昭和27年10月15日刊　毎月1日15日発行

MORIGUTISI－KŌHŌ　47

守口市廣報

発行所 大阪府守口市役所
編輯兼発行人 須磨岡薫
印刷所 龍盛堂印刷所

豊臣秀吉と守口の街並

豊臣秀吉が大阪、伏見に築城し、こゝで天下の政治を行い、朝鮮、中国南洋の使者を引見するに及び、淀川の大堤防が出来（文禄堤）京都、伏見大阪間の街道が旧国道に定まり、今に御幸道の名を残す。旧大字守口が街道に沿って人家が櫛比し、住宅の裏は菜園となりその後に水路があってこれが全町を囲繞し、堺、平野などと等しく、一箇の整然たる環濠市街となったのも、秀吉時代のことであろう。

火の始末

火の用心

建てるよりやさしいはずだ

全国火災予防週間は十月十二日から十八日までで、全国の皆さんに「火の用心」を呼びかけています。然し「火の用心」は一週間だけで足りるのではなく、年中常に心掛けていなければならないことであります。幸い守口市は火災の発生も少く、又大火に見舞われたこともありませんがこれは皆さまが日頃火に対して御注意願っている結果に外なりません。生活に欠くことの出来ない大切な火、愛すべき火を、にくむべき火、恐ろしい火としないように、お互いに火の用心に勉めて火災の予防につとめましょう。

一日の最後のつとめ火の始末



豊臣秀吉と守口の街並

豊臣秀吉が大阪、伏見に築城し、こゝで天下の政治を行い、朝鮮、中国南洋の使者を引見するに及び、淀川の大堤防が出来（文禄堤）京都、伏見大阪間の街道が旧国道に定まり、今に御幸道の名を残す。旧大字守口が街道に沿って人家が櫛比し、住宅の裏は菜園となりその後に水路があってこれが全町を囲繞し、堺、平野などと等しく、一箇の整然たる環濠市街となったのも、秀吉時代のことであろう。

豊臣秀吉は天正10年（1582）明智光秀と山崎（天王山）の戦いで勝利おさめ、天下を取る足固めをしました。浄土真宗の本山石山本願寺跡に天正11年（1583）大坂城を修築し、難攻不落の城をつくりあげ天下統一をなしとげ、伏見には城を築き城下町にしました。

しかし伏見と大坂を結ぶ道がなく、八幡から東高野街道を通り四条畷の中野から奈良街道（清滝街道）を通り守口に出たり、大東より古堤街道を通り京橋へ行きました。

秀吉は文禄3年（1594）に毛利三家に命じて文禄堤を築かせ、その堤防上に15281間（約27.8㌔）の伏見−大坂間の最短距離の京街道を整備しました。

工事は駄賃や食べ物も十分与える秀吉主義で人夫を集め、寝屋川の秦氏の供養塔の周りの石まで持ち出しているので、石と言う石は総て集められたと思われます。秀吉は天正13年（1585）3月、守口宿の本陣、吉田八郎兵衛方に宿泊した時、大根の粕漬けを食前に出すと、秀吉はこれを珍味して大いに喜び守口漬の名を与えたといわれています。

守口市広報49号

昭和27年11月15日発行


昭和27年11月15日㊐　毎月1日15日発行

MORIGUTISI - KŌHŌ　49

守口市廣報

発行所　大阪府守口市役所
編輯兼発行人　須磨留雄
印刷所　龍盛堂印刷所

大阪夏の陣に際し、守口市の社寺民家兵火に焼く

関ケ原の役で、天下の政権が徳川氏の手に帰し、守口市の各町村は、殆んど總べて、依然として豊臣氏の所領であつた。それで、徳川氏が豊臣氏を絶滅しようとして大阪両度の戦争を起すや、守口は兵乱の巷となり、冬の陣には水攻が、夏の陣には火攻が行はれた。中でも後者の戦火は大きく、京橋波の天農神社を始め、社寺民家悉く焼け、市内濱町盛泉寺の本尊は奈良県大宇陀郡へ疎開して僅かに難を免れた。

昭和28年度寄附金つき
お年玉年賀はがき
一枚 5圓
11月15日 発賣
郵便局又は市役所庶務係事務所でお買い求め下さい

「文楽の夕」を開く

秋爽に薄かおる文化の月間をあげて、芸術祭典の幕ひらげられるとき、大阪府教育委員会と日ツ橋文楽座の好意により、逆境文革の時であるが文楽人形浄瑠璃を当地に迎えることになりました。天高く心澄む秋のひと夜をこの世界的芸術の香気に指しみなき御鑑賞を賜り度く、皆さんのお越しをお待ち申します。

とき　十一月二十四日　午後六時開演
ところ　滝井小学校講堂
入場　整理券所持者に限る、整理券は左記場所で二十一日午前十時より先着一〇〇名に賣します
順序　市立公民館、滝井出張事務所、土居出張事務所、大枝出張事務所、佐木出張事務所
演　第一、新曲国売、第二、人形解説、第三、菅坂霊験記沢市内より御寺迄、第四取、関取千両役者名川内の段



大阪夏の陣に際し、守口市の社寺民家兵火に焼く

関が原の役で、天下の政権が徳川氏の手に帰し、豊臣氏が一大名の地位に転落しても、守口市の各町村は、ほとんど總べて、依然として豊臣氏の所領であった。それで徳川氏が豊臣氏を絶滅しようとして大阪両度（領土）の戦争を起すや、守口は兵乱の巷となり、冬の陣には水攻が、夏の陣には火攻が行はれた。中でも後者の戦火は大きく、京橋波の天農神社を始め、社寺民家悉く焼け、市内濱町盛泉寺の本尊は奈良県大宇陀郡へ疎開して僅かに難を免れた。

大坂の陣と天農神社

天乃神社の祭神は、須佐之男命（すさのおのみこと）・誉田別命（ほんたわけのみこと）・菅原道真ほか2柱で橋波地域の氏神です。

社は、正平3年(1348)1月に楠木正行が率いる四條畷の戦いで社殿が焼失し、寛文10年(1670)領主の竹内門主良尚王から菅原道真の木像を頂き再建されたと言われています。

本殿は桧皮葺（ひわだぶき）の春日造りで、桃山時代の特徴がある貴重な建造物です。元和元年(1615)の大坂夏の陣では、守口地域の多くの寺社が兵火で焼失する被害を受けています。

守口市広報50号

昭和27年12月1日発行


MORIGUTISI－KŌHŌ

50

守口市廣報

毎月1日15日発行

朝鮮信徒の淀川遡江

鎖国の徳川時代に外国人が公式に国内を通行するのは、朝鮮・琉球・和蘭の使節のみであった。中でも、朝鮮の信使が、天下一統或いは将軍襲職を賀して来朝するや、これに対する幕府の待遇は極めて厚く、後には余り鄭重過ぎると新井白石の建議により、簡素化した位である。厚遇の外、日本の大を示す意味もあって、木曽街道、朝鮮人街道（滋賀県）をも通行せしめ、また、淀川を多数の船で遡江せしめた。それがため、沿岸各村は、綱引役とし、多数の曳船人夫を提供する義務を負うたし、美しい行列、夥しい人出に基き、「上り唐人（とうじん：外国人）、下り門跡（もんせき：両本願寺法主）」なる成語があった。

婦人團体の指導者講習會

一般婦人も歓迎

婦人団体の指導者と一般婦人との直接向上並に団体相互の連絡、提携を図る目的で大阪府、守口市、枚方市、寝屋川市、北河内各町村教育委員会の共同主催で講習会が次の通り開かれます。

対象は婦人團体、PTA婦人会員その他の一般婦人でありますから奮って御参加下さるようおすすめします

日時　十二月十二日（金）
午前十時から午後三時半

場所　三郷小学校

参加申込　十二月九日までに住所、氏名、希望分科を記入の上市役所教育委員会事務局へ

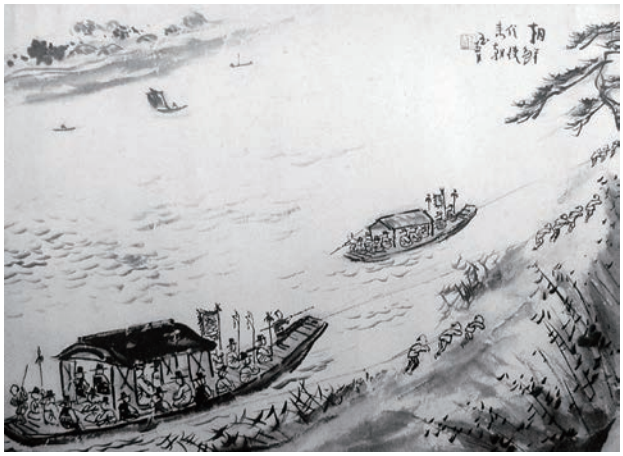
プログラム

講演　午前十時から
1．兒童読書について
2．ユネスコについて
3．婦人団体の意義

パネル　午前十一時から
1．地域婦人団体のあり方

分科会　午後一時から
第一分科　単位団体における行事計画・運営について
第二分科　地域社会と婦人団体の活動について
第三分科　新しい家庭教育のあり方について

報告　午後三時
分科会報告



朝鮮通信使は江戸時代に12回来朝しました。
修好回答兼刷還使といって豊臣秀吉が朝鮮侵略で日本に連れ帰った人を連れ戻す目的が3回、4回目は泰平之祝賀、あとの7回は将軍が新しく襲職（将軍につく）の祝いの来朝、最後の12回目は対馬止まりです。

朝鮮通信使は正使、副使、従事使、製述官を中心に300～500人が朝鮮王の書面を持って来朝し往来と滞在で8ヶ月余りもかかりました。

大坂で川船に乗り替え、正使は西国大名の300石ほどの船で淀の納所まで向かいます。

守口では朝鮮通信使に関することは、佐太陣屋の指示で動きました。100隻ほどの船が航行するので、農民たちは航行に障害が起きないよう、航行する2～3前に川底さらえをさせられ、当日は船を曳っ張りあげる人夫に駆り出されました。淀川には船を曳きあげる所が9箇所で、44㌔㍍の道程で約30㌔㍍もあり人足も大変でした。

将軍への土産や荷物は陸路です、これらを運ぶ人夫や沿線の住民には清掃はもちろん「朝鮮人通行道筋、乞食、非人払い候様先達而相触れ候」などのお触れが出ました。

この朝鮮通信使を一目見ようと近隣の農民はいうまでもなく、遠方からも大勢押し寄せ、両岸の土手は見物人であふれていたと言われます。

大庭の農民たちは、見物人がお尻に敷く藁を売ってひと儲けし、見物人が帰ったあとの藁を集めて売り、ぼろ儲けしたそうです。

南画作品古今東西



直原 玉青 プロフィール：じきはら ぎょくせい

明治37年（1904）8月1日岡山県赤磐郡（現：赤磐市）生まれ、日本の画家、禅僧、俳人。兵庫県の淡路島で育つ。

本名は正。大阪美術学校卒業。帝国美術展に初入選後、日展に16回入選。南画の第一人者。

社団法人日本南画院会長・理事長、現代南画協会理事長、財団法人青少年文化研修道場理事、守口市美術協会会長、青玲社主宰。黄檗宗国清寺住職、俳誌「早春」選者などを務める。

洲本市名誉市民、守口市名誉市民、南あわじ市名誉市民。

平成17年（2005年）9月30日、心不全のため逝去。享年101歳。

★襖絵の梅に蝶がとまる(ビデオ映像)

島田市の民家の襖絵に、現代南画(水墨画)の大家 直原玉青画伯の水墨画が描かれています。この襖絵にはびっくりするようなエピソードがあります。

大阪の守口市から南画の第一人者が来られるというので、静岡放送局のテレビカメラが襖絵制作の様子を撮影していた時の、信じ難い映像です。

直原画伯が水墨画を描いているその襖に季節外れの蝶が突然舞い込んできて、描かれている梅の花に「花から花へ」の歌詞のように梅の花の蜜を求めるがごとく蝶が花から花へと、とまっていく映像です。

直原画伯は映像の中で「自然と対話して一つの自然をつくる」とおっしゃっています。奇跡のようなこの映像は、JNNの映像大賞を受賞したそうです。



守口大根

守口大根の原産地は中近東あたりといわれ、中国から渡来し日本では当時大坂天満宮のあたりで栽培されていたことから宮前大根と呼ばれていました。

守口で栽培されるようになり守口大根と呼ばれ、長い物は1.5㍍以上になりました。これを粕漬けにしたものが守口漬けです。

現在では淀川の付け替え改修で砂地がなくなり、栽培地域も岐阜の長柄川流域にかわってしまいました。

最近、守口での栽培が復活し年に1度、品評会が行われています。守口漬けの名称は豊臣秀吉の命名とも言われています。



佐太の風景

淀川は三十石船を中心に多い時には200隻ほどの船が行き来していました。

佐太には佐太神社があり、道真信仰や梅の名所で淀川の中の島には牧場や貴族たちの狩場もありました。

南側の梶地区のあたりはハスの名所で、月出橋や迎橋などがあり、京や大坂からの日帰りの圏内でした。

淀川はこのあたりから水量が多く、流れも緩やかになり、帆掛け船で船遊びに出かけた場所とされています。

蓮如上人も、何度か家族でハスの見物にきています。

南画作品古今東西



問屋場の風景

守口宿には古くから問屋場が1ヶ所あり、このあたりの道幅は15㍍と広くなっていました。

問屋場は宿場で最も大切な施設で、参勤交代や旅人の荷物や人馬の引継ぎ宿泊、飛脚の管理など宿場は公用事務を行う最も大事な施設です。

宿場の役人は、絵のように武士から馬に乗ったまま用事を申し付けたりするので、それにこたえられるよう一段高くなった所に座っていました。

大塩平八郎の乱ののち、白井家が闕所（けっしょ：死罪・遠島・追放などの付加刑で、田畑・家屋敷・家財などを没収されること）になり、その跡に問屋場が造られました。



大塩平八郎

大塩平八郎：寛政5年(1793)～天保8年(1837)は、大坂町奉行の与力で陽明学を学んだ人です。
守口の白井孝右衛門とは師弟関係で、白井邸に書院を開き、守口近在の農民たちに陽明学を教えていました。

各地の飢餓や米の値上がりに対して、奉行所の無為無策に檄文をしたため配布し、ついに天保8年2月19日に挙兵し、守口町やその近在の農民たちが加わりました。守口から乱に加わった200人近くが刑の重軽は別として罰せされました。



似雲法師

弘川寺の似雲墳

似雲（じうん、寛文13年1月2日（1673年2月18日）– 宝暦3年7月8日（1753年8月6日））は、江戸時代中期の浄土真宗の僧・歌人。俗姓は河村氏。通称は金屋吉右衛門。安芸国の出身。

略歴

1709年（宝永6年）安芸宮島の浄土真宗光明院で出家し、法号は初め如雲と称したが、のちに似雲（西行の好んだ桜のことか）に改めている。翌1710年（宝永7年）上洛して、歌道を公家の武者小路実陰に学び、実陰の歌論を書き取って『詞林拾集』と著している。公家の実陰を通し公家や皇族とも親交があり、とくに歌人である一乗院宮尊賞親王とは親しかった。

平安時代後期の歌僧である西行を慕って諸国をめぐり、河内国の弘川寺に西行塚があるのを見つけ、西行堂を建立している。また、似雲も西行と同じく、弘川寺に葬られている。

西行法師の墓（左）と似雲法師の墓（右）。1732年(享保17年）似雲法師は、西行の墓をこの寺に尋ね当て、当山の境内に「花の庵」を建てて住み、自らも81歳でここに没した。



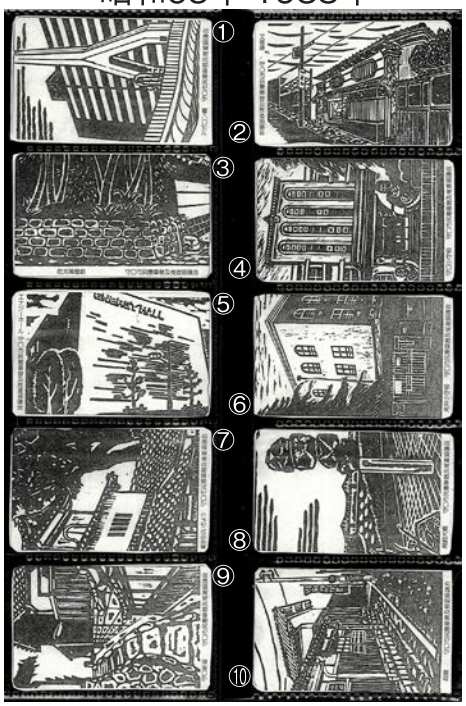
千利休

千利休：大永元年(1521)～天正19年(1591)の茶人で『守口市史』に一つの逸話が載っています。
「彼（千利休）が急用で大坂から上洛する時、夜明け方に守口に着き不意に茶人某の家に立ち寄った。その時、後園の柚子をとってもてなしたので、利休はその好意を当意即妙として賞した。ところが蒲鉾その他の用意の品を取り出してもてなした。」利休が立ち寄ることを予知されていたのではないでしょうか。これは伝説にすぎないかもしれませんが、当時の守口の住民の文化水準が伺えます。

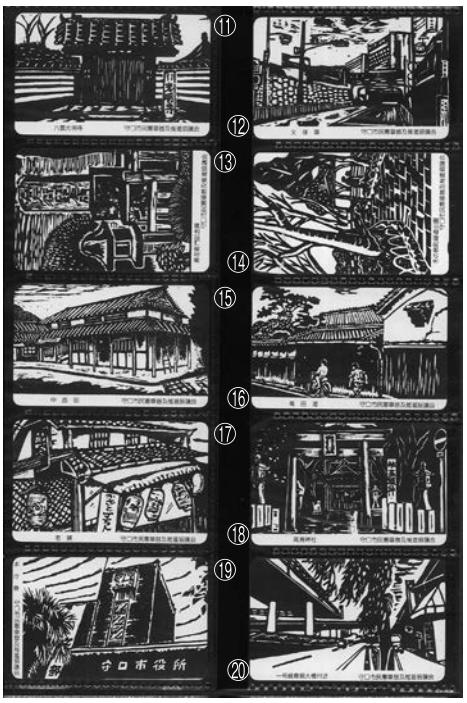
守口百景 テレフォンカード

(協力：木版画同好会 ばれんの会)

昭和63年 1988年



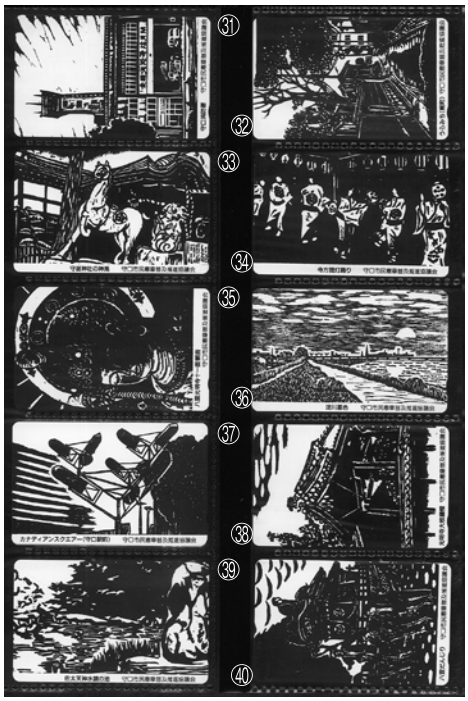
昭和64年 1989年



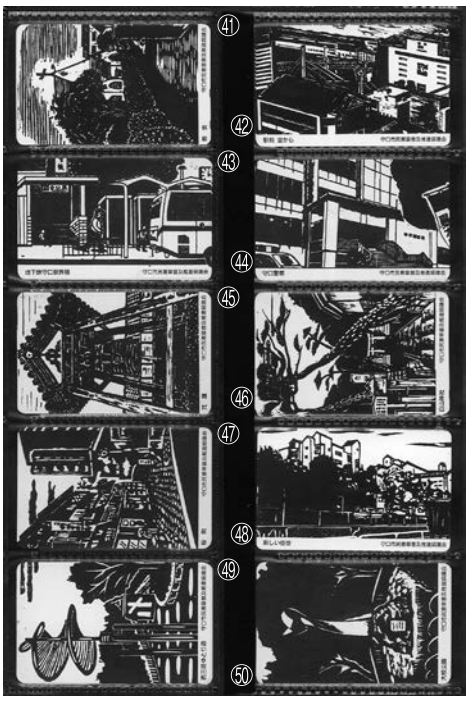
平成2年 1990年



平成3年 1991年



平成4年 1992年



昭和63年/1988年　①アポロン橋(河原町)土田博　②文禄堤(本町2)井野次正　③佐太陣屋跡(佐太中町1)蔵本きみ子　④守口小学校(八島町13)種池博　⑤エナジーホール(河原町8)山田耕治　⑥滝井小学校(文園町9)種池博　⑦難宗寺の大銀杏(竜田通1)清田義雄　⑧鳥飼風見石(大庭町2)土田博　⑨来迎坂(本町2)清田初美　⑩段蔵(佐太中町6)南部一郎

昭和64年/1989年　⑪光明寺(八雲北町2)服部昌之　⑫文禄堤(本町1)清田義雄　⑬喜左衛門記念碑(南寺方中通1)岩見正行　⑭冬の桃町緑道公園(桃町)伊峯広行　⑮旧中西家(大久保4)高松真澄　⑯竜田通(竜田通1)南部一郎　⑰老舗(竜田通1)清田義雄　⑱髙瀬神社(馬場町1)高松真澄　⑲本庁舎(京阪本通2)南部一郎　⑳201号線鳥飼大橋付近(大日町2)清田初美

平成2年/1990年　㉑町から街へ(外島町)笹井修　㉒佐太天神宮(佐太中町7)高松真澄　㉓テルプラザ(河原町)吉川サチ子　㉔西三荘水路(菊水通1)田中靖治　㉕八雲小学校(八雲西町4)岩見正行　㉖福田邸(高瀬町4)笹本忠雄　㉗大枝公園(東光町)熊谷寿子　㉘花図かん(八雲北町1)　㉙天乃神社(橋波東町2)岡野達四郎　㉚庭窪小学校(佐太中町1)種池博

平成3年/1991年　㉛守口消防署(京阪本通2)南部一郎　㉜うらみち(梶町2)笹井修　㉝守居神社の神馬(土居町2)清田義雄　㉞寺方提灯踊り(寺方地区)高松真澄　㉟光明寺十一面観音(八雲北町2)高松真澄　㊱淀川暮色(新橋寺町)田中靖治　㊲カナディアンスクエア(河原町)山田耕治　㊳光明寺鐘楼(大枝北町)駒井峯子　㊴佐太天神宮水鏡の池(佐太中町1)清田初美　㊵八雲だんじり(八雲地区)武田敏夫

平成4年/1992年　㊶教会(土居町6)笹井修　㊷駅前(河原町)山田耕治　㊸地下鉄守口駅界隈(京阪本通2)泉谷鈴雄　㊹守口警察署(京阪本通2)河田能行　㊺梵鐘(竜田通1)清田義雄　㊻46白山神社(大日町2)蔵本きみ子　㊼十三夜坂(桜町)岩見正行　㊽新しい街並(外島町)清田初美　㊾西三荘ゆとり道(南寺方東通4)土田博　㊿大枝公園(東光町3)山中淑詠

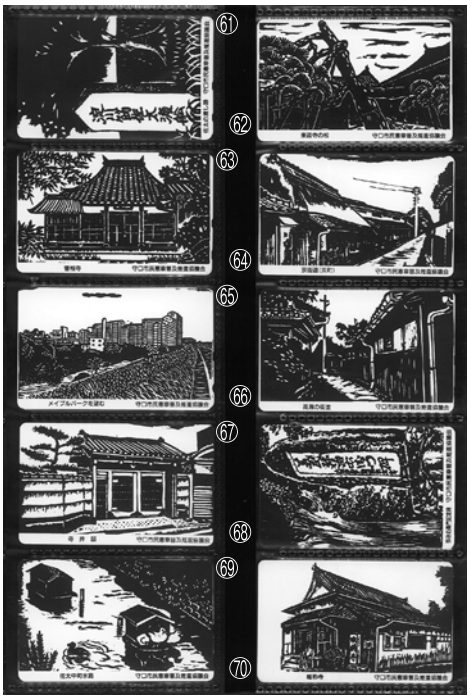
守口百景 テレフォンカード

（協力：木版画同好会 ばれんの会）

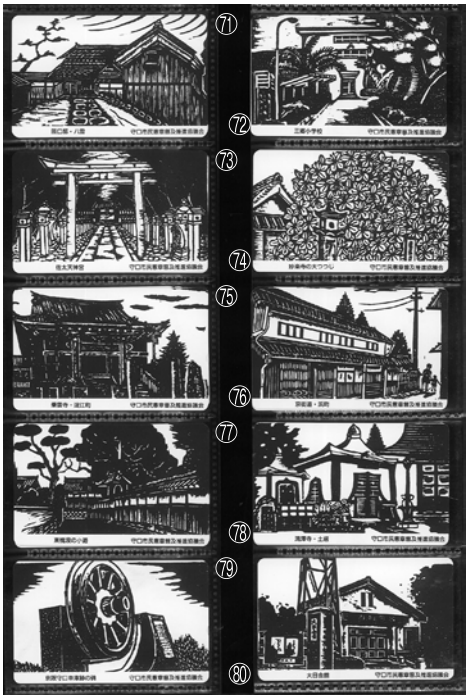
平成5年 1993年



平成6年 1994年



平成7年 1995年



平成8年 1996年



平成9年 1997年



平成5年/1993年　㊿さつきホールもりぐち(京阪本通2)高松真澄　㊿本町水路(梶町2)蔵本きみ子　㊿産須那神社(寺方元町2)高松真澄　㊿ムーブ21(大日町2)吉川サチ　㊿守口東高校(八雲中町2)熊谷寿子　㊿春日小学校(春日町13)駒井峯子　㊿盛泉寺(浜町1)清田義雄　㊿大久保町(大久保町2)田中靖治　㊿津島部神社(金田町6)高松真澄　㊿専隆寺(佐太中町5)服部昌之

平成6年/1994年　㊶佐太の渡し跡(佐太西町2)　㊷来迎時の松(佐太中町7)服部昌之　㊸管相寺(佐太中町7)三垣博美　㊹京街道(浜町1)三垣博美　㊺メイプルパークを望む(八雲北町1)田中靖治　㊻高瀬の街並み(高瀬町4)駒井峯子　㊼寺井邸(寺方元町3)南部一郎　㊽弥治右衛門記念碑(藤田町3)山田耕治　㊾佐太中町水路(佐太中町1)蔵本きみ子　㊿唯称寺(橋波西之町3)熊谷寿子

平成7年/1995年　㊶阪口邸(八雲西町1)清田義雄　㊷三郷小学校(東光町2)駒井峯子　㊸佐太天神宮(佐太中町7)服部昌之　㊹妙楽寺の大つつじ(大久保町2)山田耕治　㊺乗雲寺(淀江町1)吉川サチ子　㊻京街道(浜町2)高松真澄　㊼東橋波の小路(橋波東之町4)三垣博美　㊽清澤寺(土居町7)山元尚子　㊾京阪守口車庫跡の碑(河原町8)吉川サチ子　㊿大日会館(大日町2)蔵本きみ子

平成8年/1996年　㊶大枝神社(大枝東町2)高松真澄　㊷常称寺(高瀬町2)服部昌之　㊸守口市現代南画美術館(大宮通1)吉川サチ子　㊹FM−HANAKO(河原町10)田中靖治　㊺三郷街道(橋波東之町1)山中淑詠　㊻浄宗寺(金田町2)山田耕治　㊼蕪村の碑(佐太中町7)泉谷鈴雄　㊽高瀬川跡(馬場町1)山田耕治　㊾大阪国際滝井高校(馬場町2)熊谷寿子　㊿道しるべ(八島町)山元尚子

平成9年/1997年　㊶佐太村(佐太中町7)高松真澄　㊷西三荘ゆとり道の滝(菊水通3)南部一郎　㊸世木公園釣り池(南寺方東通4)南部一郎　㊹世木公園つり橋(南寺方東通4)山田耕治　㊺護念寺(高瀬町5)清田初美　㊻市杵島神社(橋波西之町3)高松真澄　㊼モノレール大日駅(大日東町117)　㊽守口市市民保健センター(大宮通1)　㊾西三荘ゆとり道(菊水通3)清田義雄　㊿守口市民体育館(河原町9)蔵本きみ子

守口市歌



一、
のぼる高瀬の　東雲(しののめ)に
なりわいしげく　人さわに
輝く甍(いらか)　はてしなく
生産日々に　溌溂(はつらつ)と
賑い日々に　守口市
見よ守口の　この力

二、
長柄船瀬の　昔より
驛古(うまやじふる)く　道ひろく
開けし都　新らしく
京阪一路　颯爽(さっそう)と
躍進(やくしん)一路　守口市
ああ守口の　このすがた

三、
梅に櫻に　木犀(もくせい)に
正しきゆかり　伝統(でんとう)の
ゆかしき馨(かおり)　かぎりなく
文化を四方に　絢爛(けんらん)と
平和を四方に　守口市
おお守口の　この誇(ほこり)

四、
淀の川瀬は　かわれども
かわらぬいのち　うけつぎて
礎固(いしずえかた)く　とこしえに
光を代々に　燦然(さんぜん)と
榮を代々に　守口市
いざ守口の　この希望(のぞみ)

守口市民憲章音頭

橋本 隆司　作　詞
キダ・タロー　作　曲
金田 たつえ　　歌



守口市民憲章音頭踊り方図解　振付守口市日本民謡研究会　酒井英治



守口市民憲章音頭

橋本隆司　作詞
キダ・タロー　作曲
金田たつえ　歌

一、ハー　さつき　くすの木
ゆたかな緑
なくす公害　住みよい町よ
あなたとわたし
力を合わせ
チョイト
集う広場に　とけ合う心
憲章音頭で　トトントトナ
憲章音頭で　トトントトナ
ソレ　ソレ　守口市

二、ハー　今日も　明日も
笑顔で明ける
交わすあいさつ　楽しい町よ
となり近所に
町から町へ　チョイト
老いも若きも　ふれ合う心
憲章音頭で　トトントトナ
憲章音頭で　トトントトナ
ソレ　ソレ　守口市

三、ハー　佐太の天神
高瀬の里や
淀の流れに　栄える町よ
市民の英知
みなぎる郷土
チョイト
自然と文化を　育てる心
憲章音頭で　トトントトナ
憲章音頭で　トトントトナ
ソレ　ソレ　守口市

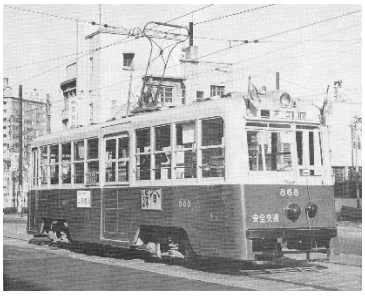
四、ハー　お年寄りやら
不自由な方に
実る善意の　広がる町よ
伸びる若い芽
希望に燃えて
チョイト
祈るしあわせ　福祉の心
憲章音頭で　トトントトナ
憲章音頭で　トトンノナ
ソレ　ソレ　守口市

五、ハー　のぼる朝日に
明るいくらし
ゆたかな未来　伸びゆく町よ
みんな仲良く
腕組み合って
チョイト
自由と平和を　愛する心
憲章音頭で　トトントトナ
憲章音頭で　トトントトナ
ソレ　ソレ　守口市

守口市の公共施設等の変遷と市民憲章のあゆみ(抜粋)

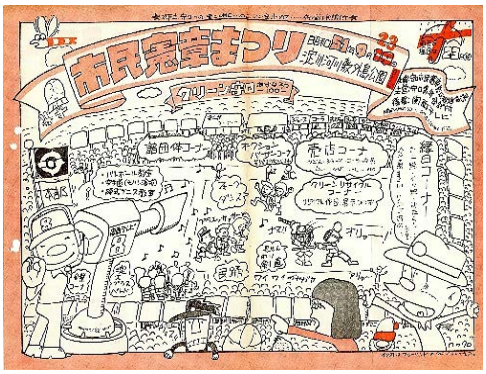
出典：守口市史付録など

1872 年　明治５年６月 守口小学校創立(河内国第九区郷学校)
1874 年　明治７年11月 三郷小学校創立(堺県第133番小学校)
1908 年　明治41年11月 庭窪小学校創立(北河内郡庭窪尋常小学校)
1874 年　明治43年４月 京阪電車天満橋駅 から五条駅間が開業
1923 年　大正12年３月 私立京阪商業学校創立
1929 年　昭和４年５月 滝井小学校創立
1945 年　昭和20年４月 土居小学校創立
1946 年　昭和21年11月 北河内郡守口町と三郷町が合併し、市制施行
1947 年　昭和22年４月 第一中学校・第二中学校創立
　　７月 寺内保育所開設
1948 年　昭和23年６月 母子寮開設：南寺方北通1
　　11月 庭窪中学校創立
　　12月 私立京阪高等学校改め守口市立京阪高等学校
1949 年　昭和24年３月 初の市営住宅が南寺方に完成
　　４月 第三中学校創立
　　８月 大阪市バス守口車庫前まで延伸
1950 年　昭和25年５月 守口市立公民館開設（旧中央公民館）：京阪本通2
　　９月 ジェーン台風襲来
1951 年　昭和26年４月 守口小学校から市庁舎現在地に移転
　　７月 寺方小学校創立
　　10月 市制施行５周年事業の一環として市章と守口市歌を制定
1952 年　昭和27年４月 八雲小学校創立
1953 年　昭和28年６月 橋波小学校創立
1955 年　昭和30年４月 新国道1号線開通(八島～枚方間)、淀川堤防上区間は廃道
　　５月 養老院完成：大宮通1
1956 年　昭和31年７月 市営プール日吉公園に完成：日吉町2
　　10月 第四中学校創立
1957 年　昭和32年４月 庭窪町と合併
　　９月 春日小学校創立
1958 年　昭和33年８月 市民会館完成（旧電子計算センター）：本町2
1962 年　昭和37年４月 東小学校創立
1963 年　昭和38年４月 カナダ・ニューウエストミンスター市から
　　ベス・ウッド市長が来守、姉妹都市提携の調印
　　昭和38年４月 守口市立京阪高等学校改め大阪府立京阪高等学校
1965 年　昭和40年３月 市営テニスコート開設（大枝公園）：東光町3
　　６月 錦小学校創立
1966 年　昭和41年４月 大阪府立京阪高等学校改め大阪府立守口高等学校
　　11月 新市民会館さつきホール完成
1967 年　昭和42年４月 電子計算センター設置（旧市民会館）：本町2
　　５月 南小学校創立
1968 年　昭和43年10月 市民球場完成（大枝公園）：松下町1
　　10月 八雲中学校創立
　　12月 京阪公設市場開設：金下町1
1969 年　昭和44年３月 大阪市電守口線廃止
　　４月 金田小学校・梶小学校創立
　　６月 勤労青少年ホーム開設：菊水通4





1970 年　昭和45年４月 老人福祉センター開設：佐太中町7
　　通園施設わかくさ園開設：佐太中町7
1970 年　昭和45年４月 梶中学校創立
　　７月 市民保健センター開設：京阪本通2
　　10月 八雲バレーボールコート開設：八雲北町3
1971 年　昭和46年２月 中央公民館、教育文化会館完成：京阪本通2
　　４月 大久保小学校・藤田小学校創立
　　８月 市民憲章制定発起人会発足
　　９月 市民憲章制定協議会発足
1972 年　昭和47年４月 八雲東小学校創立
1973 年　昭和48年４月 佐太小学校創立
　　第三中学校夜間学級開設
　　大久保中学校創立
　　通園施設わかすぎ園開設
　　：南寺方東通5

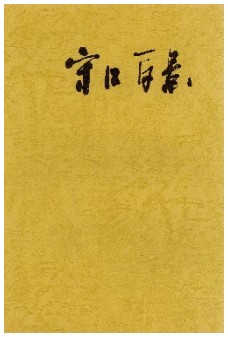


　　５月 守口市民憲章制定(５月３日憲法記念日)
1974 年　昭和49年７月 市民憲章普及推進協議会発足
1975 年　昭和50年４月 下島小学校創立
1976 年　昭和51年９月 市民憲章まつり「クリーン守口」淀川河川敷外島公園で開催
1977 年　昭和52年４月 藤田中学校創立
　　養護学校創立：(寺方小学校分校)南寺方東通５
　　地下鉄谷町線（都島～守口間）開通
　　10月 市民憲章まつりを市民会館で開催



1978 年　昭和53年４月 府立守口北高等学校創立
1979 年　昭和54年11月 旧守口社会保険事務所跡に
　　消費生活センター開設：寺内町1
1980 年　昭和55年４月 錦中学校創立
1981 年　昭和56年５月 東洋町・花園村と友好提携
　　６月 安曇川町と友好提携
　　10月 歯科休日応急診療所開設：京阪本通2
1982 年　昭和57年３月 京阪電車高架複々線化事業完成
　　４月 通所更生施設わかたけ園開設：菊水通2
1983 年　昭和58年２月 地下鉄谷町線（守口駅～大日駅間）開通
　　昭和58年３月 幼稚園13園のうち６園が廃園
　　（みなみ・かじ・はしば・ひがし・さた・きた）
　　４月 府立守口東高等学校創立
1984 年　昭和59年４月 児童センター：金田町1、菊水老人福祉センター：菊水通2 開設
　　６月 八雲バレーボールコートをテニスコートに改装
　　９月 市民体育館開設
1985 年　昭和60年５月 守口文化センター完成
　　10月 京阪電車守口市駅前開発事業竣工、「トークティ守口」完成
1986 年　昭和61年11月 市制施行４０周年記念　第1回守口市民まつり開催
1987 年　昭和62年10月 姉妹都市提携25周年を記念して、カナダ ニューウエスト
　　ミンスター市から親善使節団、トム・ベイカー市長が来守
1988 年　昭和63年４月 中国広東省中山市と友好都市提携
1990 年　平成２年４月 国際花と緑の博覧会が市域鶴見緑地で開催
1992 年　平成４年９月 学校週５日制がスタート
1993 年　平成５年７月 コミュニティ放送局ＦＭもりぐち開局

1993 年　平成５年10月 生涯学習情報センター（ムーブ21）オープン：大日町2
1994 年　平成６年４月 国際交流センター・教育センターオープン：京阪本通2
1996 年　平成８年２月 現代南画美術館開館：大宮通1
　　４月 西三荘ゆとり道水のゾーン完成
1997 年　平成９年５月 世木公園釣り池オープン：南寺方東通4
1997 年　平成９年７月 新市民保健センターオープン
　　８月 大阪モノレール大日、門真市まで延伸
1998 年　平成10年10月 市民憲章制定25周年記念「守口百景原画展」開催
　　市民憲章制定25周年記念冊子『守口百景』発刊



2001 年　平成13年７月 もりぐち歴史館「旧中西家住宅」開館
2003 年　平成15年６月 市民憲章制定30周年記念式典・講演会・スタンプラリー開催
2004 年　平成16年４月 大日駅前整備事業完了
　　寺内・東・高瀬の３保育所を民間移管
　　11月 財政危機対策室設置



2005 年　平成17年４月 市営プール廃止
2006 年　平成18年３月 土居小学校・藤田中学校閉校
　　12月 地下鉄今里筋線開通
2012 年　平成24年１月 消費生活センター本庁内へ移転
　　３月 ふみぞの幼稚園・やくもひがし幼稚園廃園
2013 年　平成25年12月 青少年センター・現代南画美術館閉館
2014 年　平成26年３月 さつきホールもりぐち（市民会館）閉館
　　春日小学校・滝井小学校閉校
　　４月 さつき小学校開校



2015 年　平成27年３月 第二中学校・四中学校閉校
　　４月 樟風中学校開校
　　５月 南保育所・寺方保育所閉所
　　６月 守口市立あおぞら保育所開所
　　11月 第30回市民まつりでパレード復活
2016 年　平成28年３月 東小学校・大久保小学校・第3中学校閉校
　　４月 よつば小学校開校
　　夜間学級併設義務教育学校さつき学園開校
　　公民館が地区コミュニティセンターへ
　　８月 市制施行70周年記念事業「花火大会」開催
　　10月 市役所庁舎旧三洋電機本社に移転
　　11月 『守口百景古今東西ＤＶＤ版第1集』を小･中学校に寄贈



2018 年　平成30年３月 三郷小学校・橋波小学校・寺方小学校・南小学校閉校
　　大久保・梶・金田・佐太・藤田西・八雲東・大宮
　　４月 さくら小学校・寺方南小学校開校、にじいろ認定こども園開園
　　11月 『守口百景 古今東西ＤＶＤ版第2集』を小･中学校に寄贈
2019 年　平成31年４月 大枝公園グランドオープン
　　令和元年７月 子育て世代包括支援センター「あえる」開設
2020 年　令和２年６月 守口市立図書館開館(生涯学習情報センター内部を大規模改修)
2021 年　令和３年６月 世木公園釣り池廃止
2022 年　令和４年４月 大阪国際中学校高等学校開校
2023 年　令和５年３月 憲章制定50周年記念誌『守口百景 古今東西』(解散記念品)を
　　小学校･中学校に寄贈
　　市民憲章普及推進協議会解散(解散式：３月23日)

守口市民憲章
５０年のあしあと

市 民 憲 章 50年 の あ し あ と

★昭和46年（1971年）8月5日

・市民憲章準備会（守口青年会議所）の発足

　守口青年会議所福田廣儀理事長から市民憲章制定についての趣旨説明があり、出席者全員の賛同を得て、発起人会を開催することを決定

プロジェクト風

「創れ！市民憲章」
～格闘の8ヶ月間～

　福田・森河・尾寺・田代は目を合わせた。

　昭和４６年８月１７日、守口市民憲章制定発起人会議での守口青年会議所のメンバーはこの４人だった。

　当時、人口約１８万８千人、隣人関係が希薄化し、公害が進むという社会情勢が「守口市にも市民憲章を」という動きの大きなきっかけであった。

　この年の１１月１日が守口市制２５周年の記念日に当たるというのも、また、別な理由のひとつでもあった。

　協議員は３３名。幅広い諸団体から集まった。

　会長１名と副会長３名の内、福田（当時、守口青年会議所理事長）は、仮座長として入った。



　会議は、緊張と静けさの中、誰もが始めての作業に戸惑った。

　市民憲章などは、公的な行政組織で作られるものだと思っていた。

　北海道の稚内市から鹿児島の名瀬市まで幅広い市民憲章が集められ、そして配布された。

　協議員が各所属団体に持ち帰り検討することになった。



　結果、第１回目は顔合わせに終わった。

　各自、仕事が多忙の中、２回目が召集された。

　福田が言った。「正式に会長・副会長を決めよう」役員選出の運びとなった。

　市内在住学者として入っていた中澤が会長に選ばれた。

　副会長は２名という予定だったが、多数の協議員から３名ということに修正された。

　同時に「守口市民憲章制定協議会運営要綱」も作られた。

　次第に議論は、活発になってきた。

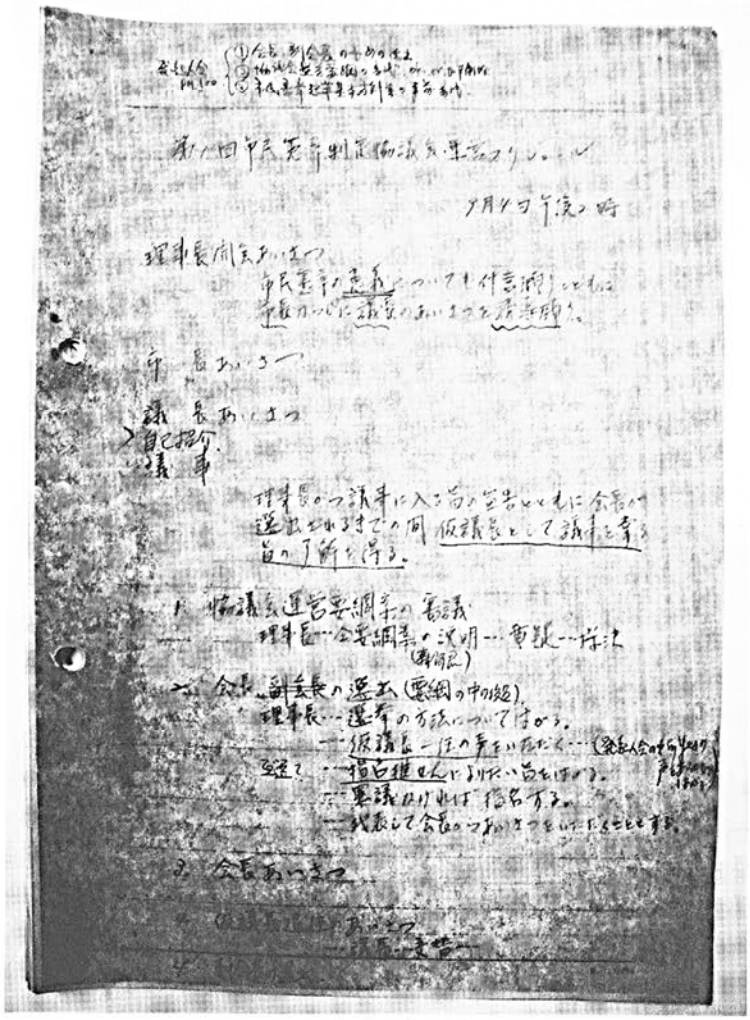
　守口を愛し、そして将来の守口に、みんな熱くなった。

　決定事項は出席委員の２／３をもって可決とする。

　ただし協議会は、委員の２／３の出席がなければ成立しないといった内容が盛り込まれた。

　しかし、意見は対立した。成立規定の「２／３の出席をもって成立」というのは厳しい。

　ある委員が言う。仕事との狭間で現実が壁になった。



当時の式次第

また、「この協議会の事務局を当分の間、守口青年会議所の事務所に置く」という規定が同運営要綱に盛り込まれた。

福田は嬉しかった。守口ＪＣの存在が大きくなった。

しかし、責任の大きさに身が震えた。

第３回、草案作りが本格化する中、福田が言った。

「副会長を決めよう！」

これから、重要な決定事項も増えてくる。協議会の組織を強固なのものにしたかった。

そして福田、大隈、八代の３人が選ばれた。

当時の社会情勢から考えると女性の八代が選ばれたのも画期的だった。

八代は言った。女性の代表としても頑張りたい。

協議会も和やかになった。

仮座長だった福田も挨拶をした。

また、あわせてＪＣでも市民会会館で「守口の未来について」というテーマで

討論会をすることも発表し　配布予定のアンケートを見てもらった。

多くの市民を巻き込み、そして協力してもらう事が市民憲章制定の成功に繋がると思った。

その流れで、ＰＲの重要性が議論された。しかしなかなか意見はまとまらない。

市民意識としては関心が薄い。どうすれば盛り上がるか。

「郷土愛」この基本的な考えがなかなか浸透していないのが原因だった。

まちを愛する気持ちがあれば、ＰＲの必要もなく、自然に関心が高まるというのが根底にあった。

結論はでなかった･･･。

第４回、前回の「郷土愛」に続き、環境問題も大きな話題となった。

高度経済成長期の真っ只中、「性能のよいものをより多く作り儲ける！」

環境に配慮した工場運営や製品販売といった考えは、ほとんどなかった。

「環境を守ろう！」ということを市民憲章にうたうのはいかがなものか？

といった反論も少なくはなかった。

環境問題への意識がまだまだ低い時代であった。なかなか意見がまとまらない。

結局、起草委員会を作ることとなった。

メンバーは７人。少数精鋭で基礎を作り、それを協議会にかける。

新しい展開になった。

第５回、前回の起草委員から提出された草案は６つ。

やはり、環境問題を取り入れるかで意見は分かれた。

守口には、大きな企業の本社工場もある。関連企業やそれらに従事する人も多かった。

複雑な地域性に、なかなか進まなかった。

また議論は持ち越された…。

会は６回目を数えた。

ＰＲの方法や文言に対する意見が出るが、まとまるには、まだまだ議論は熟していなかった。

期日が迫ってくる中、焦りと不安で、皆戸惑った。

いよいよ年末の最終回、月１回で開催されてきた会合も年内最終の回を向えた。

来年１月の最終的な発表の前に、熱が入った。

ひとつの言葉に於いても「漢字」を使うか、「仮名」で表現するか等、細かな点にまで議論は白熱した。そして議論はくいちがってきた。

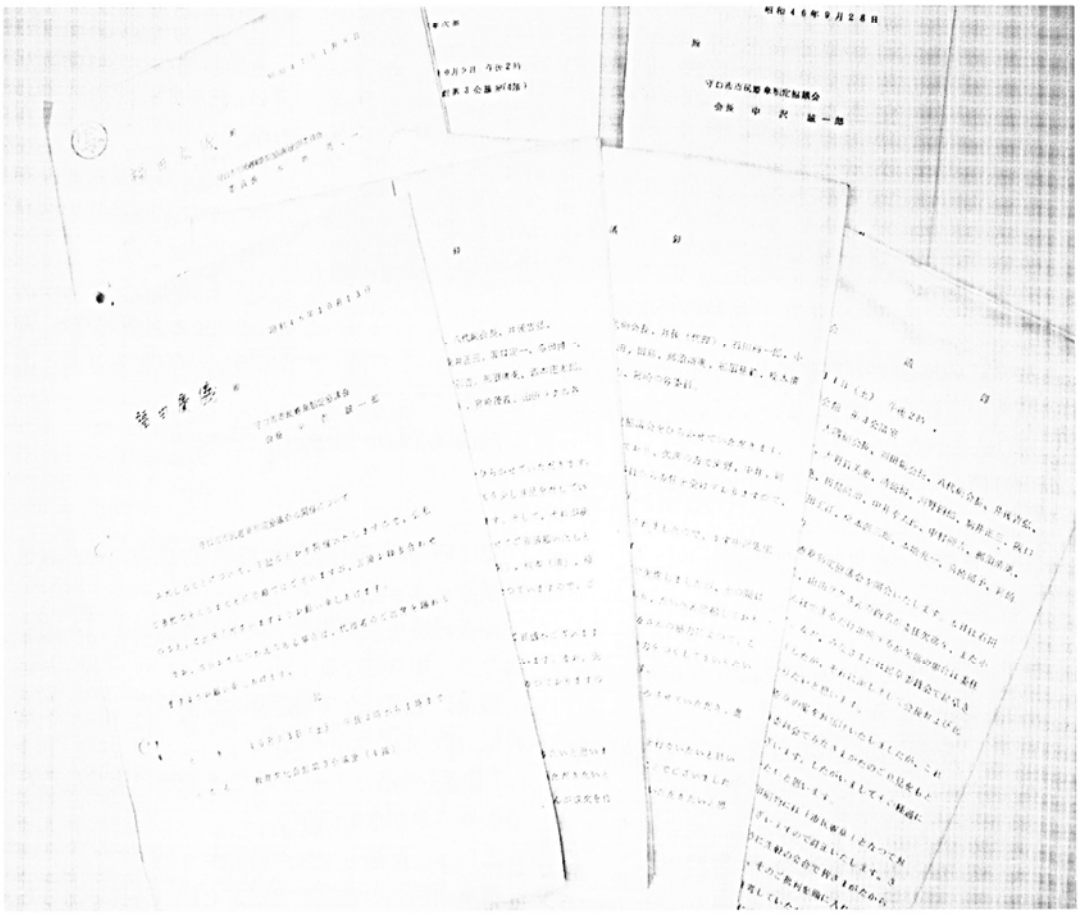
発言をしなければという気持ちが、原案の否定にとエスカレートする場面もあった。

沈黙を続けていた起草委員の１人が言った。

「このままだと議論は進まない。委員を辞めさして下さい。」

表現の細かな指摘に、嫌気がさした。協議会以外にも起草委員会で集まり、時間を費やしているにもかかわらず、その苦労を分かってもらえないような気がした。

来月には発表という時期に来て、協議会は静まり返った。



399

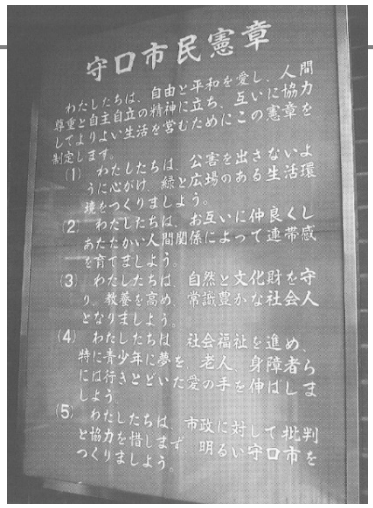
女性副会長の八代がすかさず言った。
「是非、最後まで頑張ってほしい。」
福田も「一緒に頑張りましょう。」と団結を求めた。

結果、会長の仲裁で、再度この協議会で出た議論を元に、起草委員会で練り直し、来月の発表ということになった。

ようやく辿り着いた。

１年近くかけて、それぞれの団体から出し合って、市民の力で作り上げた。

この守口を心から愛し、そして未来のこども達に、この守口で生まれ育つことに誇りと自覚をもってもらおうという強い気持ちからこの市民憲章を作り上げた。





（出典：２００４年度守口 JC 魂）

★昭和46年（1971年）8月17日
・市民憲章制定発起人会の発足
構成員として菊田太郎、中澤誠一郎の2人の学識経験者と、市内31の団体代表者に参加を呼びかけ、市民自らの手で作り、制定することを確認。以降、この2人の学識経験者と31団体の代表が中心となり検討を開始

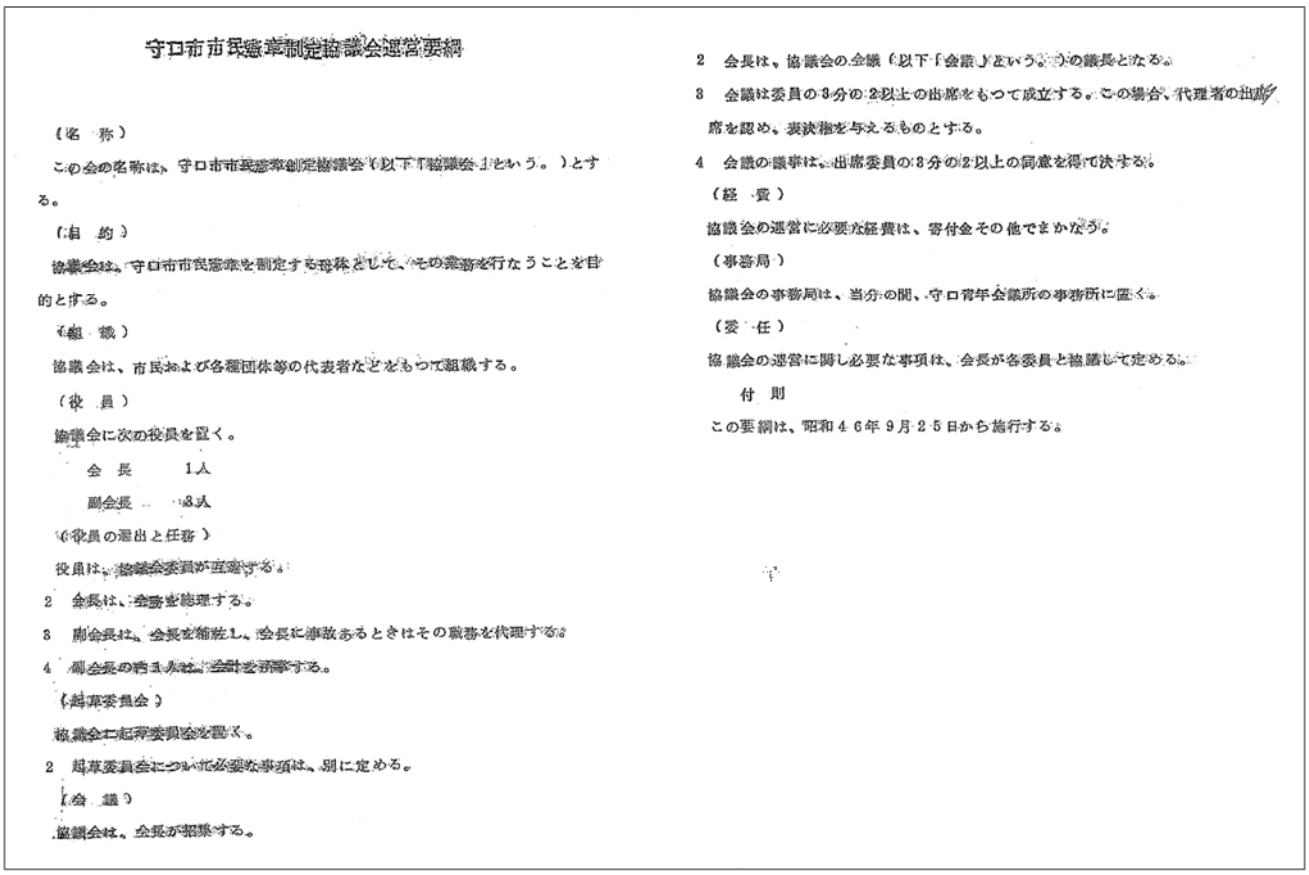
守口市民憲章普及推進協議会加盟団体等名簿

守口市衛生婦人奉仕会
守口市教育委員会
守口市教育研究会
守口市立校園長会
守口市公民館運営審議会
守口市公民館地区運営委員長連絡会
守口市社会教育委員会議
守口市社会福祉協議会
守口門真商工会議所
守口市新生活運動推進協議会
守口市身体障害者福祉会
守口地区人権擁護委員会
守口市青少年グループ連絡協議会
守口市青少年指導員連絡協議会
守口青年会議所
守口市総合美術協会
守口市体育連盟
守口市日本赤十字奉仕団
守口市農業委員会
守口市ＰＴＡ協議会
守口市婦人団体連合協議会
守口市文化協会
守口市文化財研究会
守口地区保護司会
守口市母子福祉会
守口市民生委員協議会
守口ライオンズクラブ
守口ロータリークラブ
守口市老人クラブ連合会
守口市労働組合協議会

学識経験者
菊田太郎（元大阪経済大学教授）
中澤誠一郎（元大阪市立大学教授）

昭和４９年設立当時の加盟団体等名簿
（守口 JC シニアクラブを加え３１団体）50 音順

★昭和46年（1971年）9月25日
・市民憲章制定協議会の発足
　運営要綱を定め憲章にうたうべき事項や基本方針などを毎月のように検討

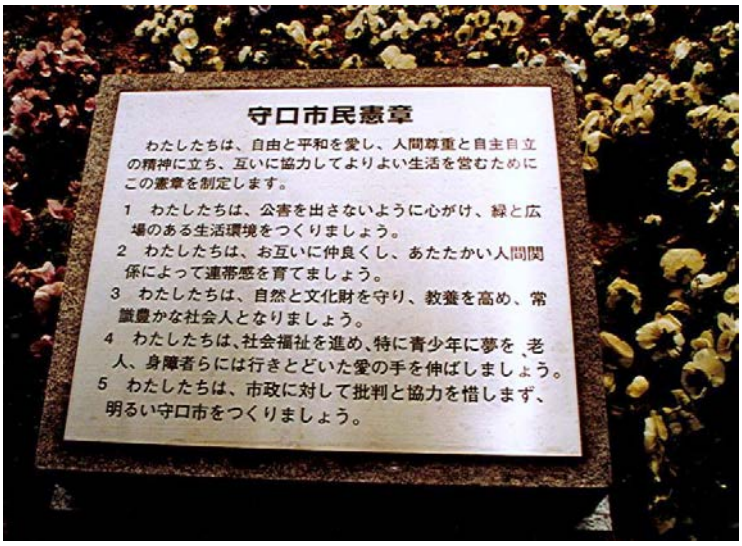


守口市市民憲章制定協議会運営要綱

（名　称）
この会の名称は、守口市市民憲章制定協議会（以下「協議会」という。）とする。
（目　的）
協議会は、守口市市民憲章を制定する母体として、その業務を行なうことを目的とする。
（組　織）
協議会は、市民および各種団体等の代表者などをもって組織する。
（役　員）
協議会に次の役員を置く。
　会　長　　1人
　副会長　　3人
（役員の選出と任務）
役員は、協議会委員が互選する。
2　会長は、会務を総理する。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。
4　副会長の1人は、会計を担当する。
（起草委員会）
協議会に起草委員会を置く。
2　起草委員会について必要な事項は、別に定める。
（会　議）
協議会は、会長が招集する。
2　会長は、協議会の会議（以下「会議」という。）の議長となる。
3　会議は委員の3分の2以上の出席をもって成立する。この場合、代理者の出席を認め、表決権を与えるものとする。
4　会議の議事は、出席委員の3分の2以上の同意を得て決する。
（経　費）
協議会の運営に必要な経費は、寄付金その他でまかなう。
（事務局）
協議会の事務局は、当分の間、守口青年会議所の事務所に置く。
（委　任）
協議会の運営に関し必要な事項は、会長が各委員と協議して定める。
　付　則
この要綱は、昭和46年9月25日から施行する。

★昭和46年（1971年）10月26日
・起草委員会（分科会）の設置
　協議会メンバー7人で起草の方法、草案の形式などを協議し、起草した草案をまとめるための委員会を設置

★昭和47年（1972年）2月
　木﨑正隆市長、今西良一議長が協議会に出席され、草案を報告。広報に草案を掲載し、広く市民の意見を聞き、一部修正のうえ市民憲章の原案を作成



★昭和48年（1973年）2月
　木﨑市長・今西議長に原案を報告。市の公示手続きののち、市と議会の承認を得て昭和48年5月3日憲法記念日に制定することを決定

★昭和48年（1973年）4月26日
・市民憲章推進懇談会の発足
　運営要綱のとりまとめと憲章を実践するための組織・団体の構成を協議



守口市民憲章推進懇談会運営要綱（案）

（名称）
この会の名称は、守口市民憲章推進懇談会（以下「懇談会」という。）とする。
（目的）
懇談会は、守口市民憲章（以下「憲章」という。）の意義の普及およびその推進に関する諸問題を研究するとともに、その実践を推進するための協議会をつくることを目的とする。
（組織）
懇談会は、前守口市市民憲章制定協議会委員全員および守口青年会議所から推せんされたプロジェクトチームをもつて組織する。
（役員）
懇談会に次の役員を置く。
会　長　　1人
副会長　　3人
（役員の選出と任務）
役員は懇談会会員のなかから互選する。
2　会長は、会務を総理する。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
（任期）
役員の任期は、懇談会の設置目的を達成するときまでとする。
（会議）
懇談会は、会長が招集する。
2　会長は、懇談会の会議（以下「会議」という。）の議長となる。
3　会議は、会員の半数以上の出席をもつて成立する。
この場合、代理者の出席を認め、表決権を与えるものとする。
4　会議の議事は、出席会員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
5　会議には、憲章の推進に関係する市の関係者がオブザーバーとして出席することができる。
（事務局）
懇談会の事務局は、守口市役所内に置く。
附　則
この要綱は、昭和48年4月26日から施行する。

★昭和48年（1973年）5月3日
・市民憲章制定





市の木：くすのき　　市の花：さつき
昭和４８年５月、市の木・市の花を選定

★昭和49年（1974年）7月11日
・市民憲章普及推進協議会発足
　推進協議会発起人会の2人の学識経験者と守口市内31の団体代表者で構成
　基本的な事業
　　1.緑化推進事業（大枝公園「記念の森」の整備、記念植樹、愛樹運動など）
　　2.あいさつ運動（人間関係の向上、社会福祉の増進など）
　　3.普及推進月間（9月15日～10月15日）を設定し、憲章まつりの開催、憲章の普及と推進運動を展開

★昭和50年度（1975年度）
・大枝公園記念の森に「さつき」を植樹（9月24日137本、28日110本、合計247本）
・4公民館を中心に普及推進月間の街頭普及活動の実施
・憲章普及推進啓発ポスター、作文を募集

（応募数：ポスター1507点、作文88点、優秀作品を教育文化会館に展示）
・緑化推進事業として市民会館の敷地に「くすのき」を植樹

★昭和51年度（1976年度）
・市内の中学生から「あいさつ運動」の標語を募集
（応募：136点、優秀作品に選ばれた八雲中学校室井久恵さんの標語を啓発ポスターに掲載）
・緑化推進事業として大枝公園記念の森の周囲約300mに「さつき」830本を植樹
・憲章普及推進啓発ポスターを作成し、市内各所に掲示
・「憲章まつり」を開催（9月23日）-「クリーン守口」あすなろう100リサイクルコンテスト、バザーコーナーなど







・昭和５１年９月23日(19日が雨天のため順延)、憲章まつりの一環として守口青年会議所と共催で「クリーン守口」（あすなろう１００）を淀川河川敷外島公園で開催

★郷土守口への愛と明日へのロマンを求めて……守口青年会議所★

市民憲章まつり

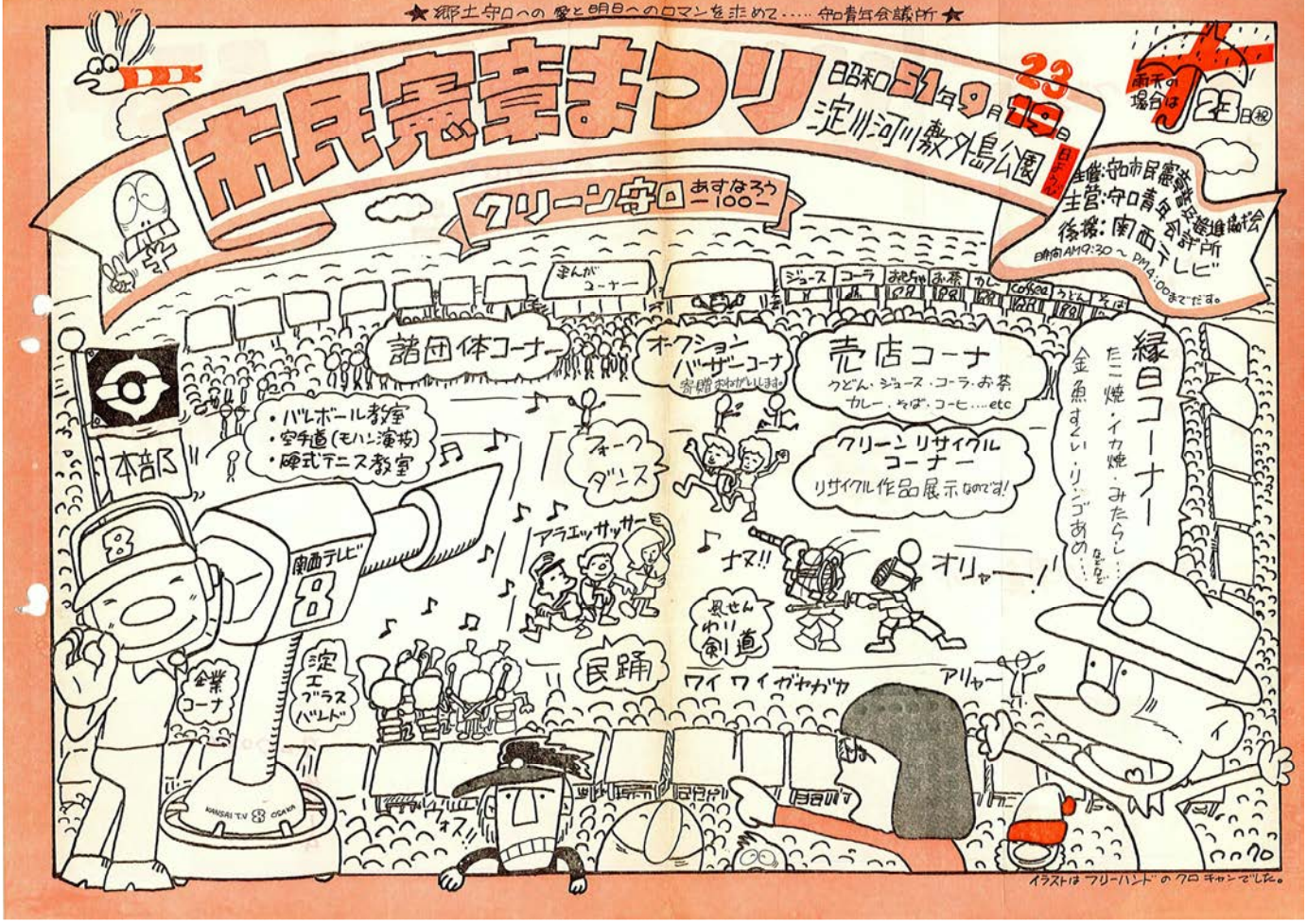
昭和51年9月23日 淀川河川敷外島公園

雨天の場合は9月25日(祝)

クリーン守口 あすなろう100

主催:守口市民憲章推進協議会
主管:守口青年会議所
後援:関西テレビ

時間 AM9:30 ~ PM4:00までです。



市民憲章まつり プログラム

AM:9:30
PM:4:00

- 開会式
- 全団体入場パレード
- 公害観測車観測実演(守口警察署交通課)
- 毋と子の安全実地訓練(守口警察署)
- 防犯教室(守口警察署)
- 大阪府警察音楽隊
- エンジンカッターの実演(守口消防署)
- バレーボール教室(東洋紡)
- 空手道演武(唯心館)
- 市少年少女合唱団
- 行進ポンポン(ガールスカウト守口第75団)
- ホークダンス曲(ガールスカウト守口第75団)
- ゲームソング(市少年団)
- 野試合 風船割り(剣友会)
- 初級硬式テニス教室(市体育協会軟式テニス部)
- リサイクルコンテスト 主催者賞・市長賞・KTV賞他
- 蛍の光 さようならまた会いましょう!

リサイクルコンテスト

《廃品利用》

申込方法……廃品利用した作品を当日(9/23)朝10時まで持込
アイディアだけでも結構です。(原稿用紙1~2まい位にかいて下さい。作画(絵)も入れてネ!!)

☆なを当日審査し、午後3時より表彰します。

ガンバリョーク!!

オークションバザー

☆チャリティーバザーの品物をご寄贈下さい!
当日朝9時~10時本部にて受付

買った 買った

ようこそ

毎月第3日曜は家庭だんらんの日

☆明るい家庭を作ろう!
☆家族団の行事を促進しよう
☆子供を交通事故から守ろう。

★アマチュア写真コンテスト

*当日のスナップ写真
応募:守口市役所内
総合美術協会宛
しめ切り 51年9月30日 チーズ

お楽しみ券

NO 032543

ところ なまえ

御守

NO 032543

ちょうみりょうけんきゅうかい

参加団体

守口市役所
・公園課
・広報公聴課
・交通防災課
・下水道管理課
・公害対策課
・清掃管理課
○満博ハーム

守口警察署
守口消防署
門真税務署
大阪府守口保健所
守口電報電話局
大阪ガス㈱枚方営業所
南西電力㈱守口営業所
松下電工㈱
三洋電機㈱
東洋紡績㈱守口工場
近畿電気工事組合
守口商工会議所
守口文化財研究会
守口ロータリークラブ
ローターアクト
守口BBS会
ガールスカウト第75団
守口少年団
守口少年剣友会
剛柔流空手道唯心館
守口日本民舞研究会
守口日本赤十字奉仕団
共栄研究会
守口市母子福祉会
守口市婦人団体連合協議会
守口市衛生婦人奉仕会
総合美術協会
青少年グループ(仮)
JCシニアクラブ
身体障害者福祉会
松下病院
守口市少年少女合唱団
淀川工業高等学校ブラスバンド

★昭和52年度（1977年度）

・緑化推進事業として大枝公園「記念の森」と大久保中央公園に「さつき」105本を植樹

・「憲章まつり」を開催（10月8日、市民会館大ホール、総合司会：NHKアナウンサー井上善夫、ゲスト漫才：Wヤング、入場者 1140 人）

・緑化推進事業として下島公園に「ひのき」を植樹

・憲章普及推進啓発ポスターを作成し、市内各所に掲示



市民憲章制定のあゆみ

45・8・5　市民憲章制定発起人会がスタート
46・9・4　市民憲章制定協議会を結成し、市民憲章推進に関する基本的見解をまとめ、市民憲章の事業を作成する
48・4・26　市民憲章推進懇談会を設立し、市民憲章の普及およびその推進に関する諸問題を研究する
49・5・3　市民憲章制定

守口市民憲章普及推進協議会のあらまし

昭和49年6月14日市民憲章普及推進協議会設立準備会が設立され憲章の普及推進組織について度重なる協議の結果、同年7月11日、市民憲章の普及推進母体として本協議会が誕生しました。

本協議会は31団体と2人の学識経験者で構成され、明るく住みよい守口市をつくるため各種の実践活動を行っています。

主な事業

(1) 緑化推進事業……記念の森の設置、記念植樹、愛樹運動
(2) あいさつ運動……人間関係の向上と社会福祉の増進をめざし声をかけ合う運動を展開
(3) 市民憲章普及推進月間（9月15日～10月15日）を設定し市民憲章まつりをはじめ、憲章の普及推進運動を展開

あいさつのうた　守口市立庭窪小学校 昭和五十二年作品

一
おはようって　いえるかい
おはようって　いえるかい
いえば　こころが
いっぱい　いっぱい
ひろがって
きもちの　よい
くらし

二
ありがとうって　いえるかい
ありがとうって　いえるかい
いえば　こころが
いっぱい　いっぱい
ひろがって
なかよし　こよしが
ふえて　いく

三
ごめんねって　いえるかい
ごめんねって　いえるかい
いえば　こころが
いっぱい　いっぱい
ひろがって
くらい　きやみが
とけて　いく

四
おやすみって　いえるかい
おやすみって　いえるかい
いえば　こころが
いっぱい　いっぱい
ひろがって
ゆめの　いっぱいが
ふえて　くる

市民憲章まつり
プログラム
昭和52年(1977)
とき－10月8日 午後1時開場，1時30分 開演
ところ－市民会館

守口市民憲章

わたしたちは自由と平和を愛し、人間尊重と自主自立の精神に立ち、互いに協力してよりよい生活を営むため、この憲章を制定します。

1) わたしたちは公害を出さないよう心がけ、緑と広場のある生活環境をつくりましょう。
2) わたしたちは、お互に仲良く、あたたかい人間関係によって連帯感を育てましょう。
3) わたしたちは、自然と文化財を守り教養を高め、実識豊かな社会人となりましょう。
4) わたしたちは、社会福祉を進め、特に青少年に夢を、老人、身障者らには行きとどいた、愛の手を伸ばしましょう。
5) わたしたちは、市政に対して批判と協力を惜しまず、明るい守口市をつくりましょう。

プ　ロ　グ　ラ　ム

総合司会者　NHKアナウンサー　井　上　善　夫

第1部　式　典

1　開式のことば　守口市民憲章まつり実行委員会 委員長　中　川　光　雄
2　主催者代表あいさつ　守口市民憲章普及推進協議会 代表幹事代行　福　田　広　儀
3　来賓祝辞　守口市長　木　崎　正　義 守口市議会議長　高　岡　伍　雄（代読、小泉議会事務局長）
4　「市民憲章」の唱和　昭和52年成人式　大日野　典　良 出場者代表　宇治沢　ゆかり
5　「あいさつの歌」合唱　守口市立庭窪小学校合唱クラブ
6　表　彰
(1) 市民憲章あいさつ運動標語優秀作品　傍島　充保・松橋　成美・室井　久恵・酒匂　豊城
(2) 市民憲章普及推進緑化運動ポスター優秀作品　森　剛宏・黒島栄美子・山瀬　裕子・南野真千子　宇都　雅巳・松本　芳子・木村　正子・小林　正憲
(3) 市民憲章普及推進作文優秀作品　川畑　恵子・清瀬　智子・畑森　純子・上田　治代　高垣しのぶ・工藤　明子・徳本　浩子・中島有香子
7　閉式のことば　守口市民憲章普及推進協議会 副代表幹事　宮　崎　郁　子

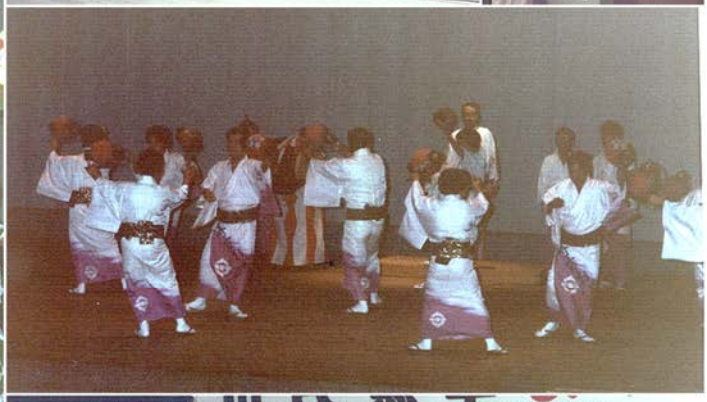
第2部　アトラクション

1　バンド演奏　旧　友　下島校区こども会 指揮　梶　岡　実　リズム・マーチングバンド
2　郷土芸能　八雲太鼓（だんじり囃）　八雲北町3丁目有志
3　民　踊　もみすり唄　守口市公民館橋波地区 運営委員会喜久の里民踊教室
4　民　踊　福知山音頭　守口市公民館守口地区 運営委員会八雲南花菱会
5　民　謡　千葉県白浜音頭　守口市青少年指導員連絡協議会
6　民　踊　隠岐祝い音頭　守口市公民館藤田地区 運営委員会民踊教室
7　民　踊　十三浜音頭　守口市公民館土居地区 運営委員会眞砂社中
8　民　踊　帆柱起こし音頭　守口市公民館会田地区 運営委員会婦人部有志
9　民　謡　秋田船方節・新相馬節　守口市文化財研究会
10　郷土芸能　寺方提灯踊　寺方提灯踊保存会
11　民　踊　祝い酒　守口市老人クラブ連合会民踊部会
12　民　舞　貝殻節・大漁唄込　守口市公民館春日地区 運営委員会民踊教室
13　詩　吟　近江八景　守口市公民館運営審議会
14　詩　吟　"讃"守口市民憲章　守口市文化協会 作詩　田中　陶洲　守口市詩吟連盟　仲間　胡洲
15　民　踊　シヤンシヤン馬道中　守口市衛生婦人会社会有志
16　舞　踊　黒田節　守口市婦人団体連合協議会 八雲東校区
17　舞　踊　俵星玄蕃　守口青年会議所　金行　貢之
18　舞　踊　花街の母　守口市母子福祉会　相原　一恵
19　合　唱　竹田の子守唄・フイーリング　守口市立東小学校PTAコーラス
20　寸　劇　とんだまちがいの市民憲章　守口市赤十字奉仕団有志
21　社交ダンス　ブーペの恋人　サン・トワ・マミー　守口市青少年団体協議会 守口社交ダンス協会
22　郷土芸能　新守口音頭　守口市日本民踊研究会
23　漫　才　Wヤング

◎　お楽しみ抽せん会
◎　パネル展示　NHK大阪製作・朝の連続テレビ小説「風見鶏」のスチール写真















本日の市民憲章まつりの実施にあたりましては、次の方々から賛助金ならびに景品など格別のご賛同をいただきました。厚くお礼申しあげます。

（敬称略・順不同）

松下電器産業（株）
松下電工（株）
三洋電機（株）
丸善ミシン（株）
大成設備工業所（株）
井植　達郎
亀田製作所
一又薬局
（株）うえだ商店
小川テント
（株）大阪環境設備
大阪銀行守口支店
（株）大阪歯車製作所
小野山診療所
梅右衛門
菊水ビル
木谷工作所
木村商店
国富電化（株）
（株）ケーアイストア
光元電気（株）
紙管工業（株）
小西幸福堂
清水家具店
松興建物管理（株）
瑞　松　館
（株）大黒屋
大新工業（株）
大和住宅建設（株）
竹内製作所
谷尾商店
寺田歯科
トキワ工業
中井熔工所
中川板硝子店
中澤　誠一郎
仲田書店
（株）中道電器工業所
ナショナル証券（株）
野原製作所
ノモス商会
橋本　源三郎
樋口石油
備　前　屋
（株）ピロット
（株）泉田ガスサービス
福田組（株）
藤崎　秀章
藤中産業社
堀川工作所
松尾産業（株）
松下興産（株）
マルケンスポーツ社
水谷　卓史
宮崎　都子
（株）森河製作所
（株）守口自動車
守口市衛生婦人連合会
守口市園芸同好会
守口市教育研究会
守口市教職員組合
守口市校園長会
守口市公民館運営審議会
守口市公民館地区運営委員長連絡会
守口市社会福祉協議会
守口市身体障害者福祉会
守口市青少年指導員連絡協議会
守口市青少年団体協議会
守口市赤十字奉仕団
守口市体育連盟
守口市ＰＴＡ協議会
守口市婦人団体連合協議会
守口市文化協会
守口市文化財研究会
守口市母子福祉会
守口市本町有志一同
守口市民生委員協議会
守口市老人クラブ連合会
守口青年会議所シニアクラブ
守口青年会議所
守口綿工（株）
森維設（株）
モリテツ電機
森本水道工業所
山岡金属工業（株）
山田　ヲタ
山村設備工業（株）
藤田米穀店
大阪毎日商事（株）

市民憲章まつり景品一覧表

A　電化製品賞
- (1) カラーテレビ　1点
- (2) ミシン　〃
- (3) ふとん乾燥機　〃
- (4) カセットラジオ　〃

B　美術品賞
- (1) 絵画　1点
- (2) 急須（備前焼）　〃
- (3) 小盆（　〃　）　〃
- (4) 観音竹　〃

C　スポーツ賞
- (1) 4人用テント　1点
- (2) トレーニングウエア（赤）　〃
- (3) 〃（青）　〃

D　学用品賞
- (1) 書道セット　1点
- (2) 図書券　5点
- (3) アルバム　16点
- (4) 化粧箱　10点

E　玩具賞
- (1) 人形　11点
- (2) オモチャセット　19点

F　日用品賞
- (1) カセットレンジ(4)　1点
- (2) 〃　(3)　〃
- (3) コーヒ茶碗セット　〃
- (4) 冷コーヒ茶碗セット　〃
- (5) 盛めし盛ちゃん　8点
- (6) ホーロー両手鍋（大）　1点
- (7) 〃　（中）　〃
- (8) 砂糖　〃
- (9) ミニテーブル　2点
- (10) サラダボール　1点
- (11) 浅鉢皿　〃
- (12) シーツ　〃
- (13) 鉄板焼　〃
- (14) フアミリーバット　〃
- (15) ネクタイ掛け　3点
- (16) サンダル　1点
- (17) 焼ソバソース　15点
- (18) 洗濯のり　80点
- (19) テイクシューペーパー　145点

★昭和53年度（1978年度）

・お年寄りや障がい者240名を招待し、施設や史跡の見学会を開催（10月2日～5日）

・市民憲章音頭の歌詞を市民から募集（応募：19点）

・緑化推進事業として東部公民館の敷地に「くすのき」を植樹

・憲章普及推進啓発ポスターを作成し、市内各所に掲示

守口市民憲章普及推進協議会会員名簿

昭和 53 年(1978 年)総会資料より

－順不同－

団体名	氏名	住所	電話	役員・幹事
学識経験者	中		8	~~相談役~~
〃	菊		1	
市教育委員会委員長	瀬		~~3~~ 8	
市教育研究会会長	田村		7	監査
市校園長会代表	井佐		~~1~~ 0	○
市身体障害者福祉会会長	井		0	○
市総合美術協会会長	市		0	
市PTA協議会代表	戸		8	
市社会教育委員会議議長	~~飛~~		~~9~~	
市社会福祉協議会会長	~~藤~~		~~之~~ 6	○
市赤十字奉仕団委員長	藤		9	○
守口地区保護司会会長	~~中~~		~~8~~	~~相談役~~
市老人クラブ連合会会長	藤		8	副代表幹事
市労働組合協議会代表	西		7	
市公民館運営審議会委員長	倉		3	
市公民館地区運営委員長連絡会会長	中		1 98	
守口地区人権擁護委員会代表	坂		0	
市青少年団体協議会代表	~~山~~		~~之~~ 8	
市青少年指導員連絡協議会会長	~~那~~		~~5~~ 6	
市文化協会会長	三		9	

団体名	氏名	住所	電話	役員・幹事
市文化財研究会 ~~会長~~ ~~代表~~	~~田~~ ~~那~~		~~7~~ ~~6~~	
市衛生婦人奉仕会会長	宮		6	副代表幹事
守口門真商工会議所代表	溝		1	
市体育連盟会長	田		8	~~監査~~
市農業委員会会長	橋		9	
市婦人団体連合協議会会長	西		8	○
市母子福祉会会長	山		4	○
市民生委員協議会代表	大		5	○
守口ライオンズクラブ会長	出		8	
守口ロータリークラブ会長	~~藤~~		0	
守口青年会議所シニアクラブ代表	福		7 1	代表幹事~~代行~~
守口青年会議所シニアクラブ	~~南~~		~~5~~ ~~8~~	○
〃	~~三~~		~~6~~ ~~1~~	~~○~~
〃	山		81 51	~~会~~ ~~○~~ 計
守口青年会議所	~~家~~ ~~谷~~		~~6~~ ~~1~~	○
〃	~~小~~ ~~池~~		~~3~~ ~~1~~	~~会~~ ~~○~~ ~~計~~
〃	~~森~~ ~~中~~		~~5~~ ~~5~~	副代表幹事
〃	~~田~~ 岩		~~2~~ 2	○
市新生活運動推進協議会事務局長	松		8	
守口青年会議所	吉		9	○

昭和５２年度事業報告

月　日	事　業	摘　要
4月12日	幹事会	市民憲章まつり、記念の森植樹事業、予算案 役員の改選について協議
4月24日	記念の森植樹	場　所＝大久保中央公園 植樹本数＝１０５本
5月13日	総会	①　５１年度決算および事業報告 ②　５２年度事業計画案および予算案審議いずれも原案どおり可決 ③　感謝状の授与（中沢誠一郎、中井幸太郎の両氏）
5月31日	役員会・幹事会	市民憲章まつり開催計画について協議 （実行委員会の設置）
6月20日	市民憲章まつり実行委員会	組織、事業予算、アウトプランについて協議
7月20日	同上	市民憲章まつり実施要領について協議 （分科会の設置、加盟団体の出演依頼）
8月24日	同上	プロデュースの割付け、資金調達、観客動員について協議
8月24日	市民憲章まつり出演責任者打合せ会	各種目の具体的内容聴取
9月　8日	市民憲章まつり実行委員会	事業予算、プログラム、組織表の取り決め
9月15日～ 10月15日	市民憲章普及推進月間	市内各所にポスター掲示
9月16日	市民憲章まつり実行委員会	各係の分掌事務の取り決め
9月16日	市民憲章まつり出演責任者打合せ会	出演順序の割当て
9月30日	全体会議	市民憲章まつり開催要綱について審議
10月　4日	市民憲章まつり出演責任者打合せ会	最終打合せ
10月　8日	市民憲章まつり	第１部　式典（市民憲章標語、ポスター、作文優秀作品の表彰） 第２部　アトラクション（演芸会、お楽しみ抽せん会） 入場者＝1,１４０人　場所＝市民会館ホール
11月13日	記念植樹	下島公園内市民憲章碑両側に「ひのき」植樹

昭和５２年度守口市民憲章普及推進協議会賛助金納付先一覧

昭和53年(1978年)定時総会資料より

（個人）

No	氏名	金額
1	藤崎秀豊氏	3000 円
2	宮崎郁子氏	10,000
3	水谷卓史氏	5,000
4	橋本源二郎氏	5,000
5	山田ヲフ氏	3,000 円
6	倉澤二郎氏	3,000
	計	29,000

（各種団体）

No	団体名	金額
1	守口市園芸同好会	5,000 円

（会員）

No	会員名	金額 (No1)
1	守口市PTA協議会(ほか)	5,000 円
2	守口市青少年団体協議会	5,000
3	守口市家庭児童相談員	5,000
4	守口市母子福祉会	5,000
5	守口市婦人団体連絡協議会	5,000
6	守口市仕生保人会社会	5,000
7	守口市社会福祉協議会	5,000
8	守口市公民館大正連絡協議会	5,000
9	守口市文化協会	5,000
10	守口市文化財研究会	5,000
11	守口市公民館運営審議会	5,000
12	守口市民生委員協議会	5,000
13	守口市教育委員協会	10,000

No	会員名	金額 (No2)
14	守口市老人クラブ連合会	10000 円
15	守口市婦人消防協力隊	10,000
16	守口市体育連盟	5,000
17	守口市PTA協議会(ほか)	5,000
18	守口市シニアクラブ	20,000
19	中沢誠一郎	10,000
20	守口商工会議所	30,000
	計	155,000

（民間企業）

No	企業名	金額 (No1)
1	池田鉄機工業所	10,000 円
2	福田漆	10,000
3	中川鉄商事	10,000
4	伊田電店	5,000
5	マルヤスポーツ社	5,000
6	一又薬局	5,000
7	大阪銀行守口支店	10,000
8	神右工門	20000
9	小崎小設計所	20,000
10	清水保険室	5,000
11	脇田木材店	5,000
12	(株)うえだ	10,000
13	菊水ビル	5,000
14	小西幸商堂	5,000
15	(株)中道商事	10,000
16	(株)大阪貴車	20,000

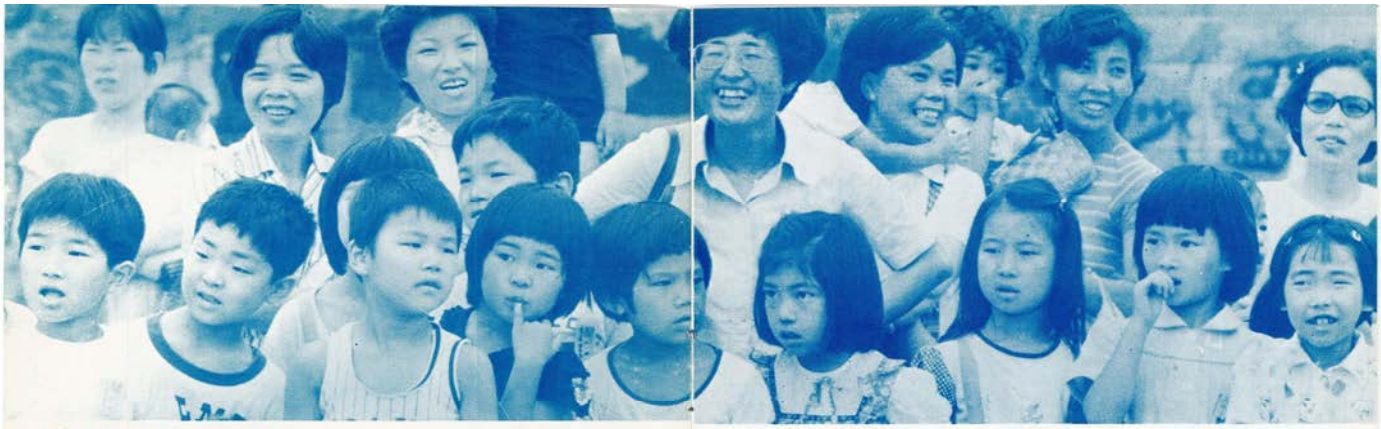
No	企業名	金額 (No2)
17	森建設株式会社	10,000 円
18	大新工業(株)	5,000
19	松尾芸業(株)	10,000
20	瑞松閣	10,000
21	ナショナル商事(株)	10,000
22	山村設備工業(株)	5,000
23	寺田貴神	10,000
24	(株)守口自動車	10,000
25	モリテツ電機	10,000
26	藤中産業社	5,000
27	振川工作所	5,000
28	森本水道工業所	3,000
29	(有)大阪電気設備	10,000
30	中井溶工所	5,000
31	岩原製作所	5,000
32	福田石油	5,000
33	谷尾商店	5,000
34	丸善ミシン株式会社	50,000
35	木谷工作所	5,000
36	森河製作所	5,000
37	大和住宅建設(株)	20,000
38	松下興産	10,000
39	木村商店	3,000
40	竹内製作所	5,000
41	大成設備工作所	5,000
42	三洋電機(株)	20,000
43	大阪毎日商事	100,000

No	企業名	金額 (No3)
44	松下電工株式会社	150,000 円
45	松下電器産業社	300,000
	計	941,000

総額 1,133,000円

（総件数　72件）





守口市民憲章のおいたち

昭和46年夏、守口青年会議所から「市民憲章をつくろう」という声が起こり、同会議所の提唱で、市内の主な団体の代表31人と学識経験者２人が集まって、昭和46年９月４日に「市民憲章制定協議会」を結成しました。

その後、この協議会の中に、８人で構成する起草委員会が組織され、いろいろな角度から審議が積み重ねられる一方、ひろく市民の意見を募り、それらの意見や要望をもとにして、草案の作成がすすめられました。

かくて、成案を得ました「守口市民憲章」は、昭和47年８月11日の市民憲章制定協議会にはかられ、全員一致で決定。市および市議会の承認を得て、昭和48年５月３日の憲法記念日に制定されました。

このように、市民自らの手で、しかも、約１年間もの月日を費してつくられた市民憲章が、一日も早く市民一人ひとりの生活の中に根づくことを念願して、昭和49年７月11日、さきの市民憲章制定協議会が母体となって「守口市民憲章普及推進協議会」を発足。

以来今日まで、推進協議会が主軸となって、市民憲章の市民への浸透と定着を図り、毎年９月15日から10月15日までの１か月間を「市民憲章普及推進月間」と定め、市民憲章まつり、緑化運動としての記念植樹の他、あいさつ運動の実施等、各種の普及推進活動を続けています。







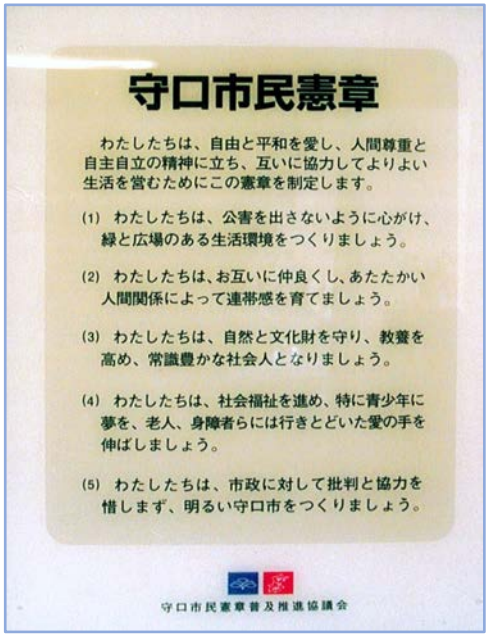


★昭和54年度（1979年度）
・憲章カレンダーを5000部作成（小・中学校で配布）
・「憲章音頭」の録音（作詞：橋本隆司、作曲：キダ・タロー、歌唱：金田たつえ）、
・普及推進月間中、守口駅前などで啓発ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施
・緑化推進事業として青少年センターの敷地に「くすのき」を植樹



★昭和55年度（1980年度）
・「憲章音頭」カセットテープを小・中学校へ寄贈（小学校19校、中学校・養護学校11校）
・資源の大切さを知っていただくための「憲章図エスケール（物差し）」、カレンダーを配布
・緑化推進事業として大枝公園「記念の森」に「くすのき（6メートル）」を植樹

★昭和56年度（1981年度）
・普及推進月間中、守口市駅前、地下鉄守口駅で啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・「市民憲章板」（憲章全文を印刷した塩ビ看板）を市内90カ所の集会所に配布、掲示
・緑化推進事業として大枝公園「記念の森」に「けやき（6メートル）」を植樹



★昭和57年度（1982年度）
・普及推進月間中、守口市駅前、地下鉄守口駅などで啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・「放置自転車の追放」キャンペーンポスターを500枚作成し、市内各所に掲示
・緑化推進事業として大枝公園「記念の森」に「しらかし」を植樹

★昭和58年度（1983年度）
・中学生、市民から憲章普及推進啓発ポスターを募集
・「差別落書きの追放」キャンペーンポスターを500枚作成し、市内各所に掲示
・普及推進月間中、守口市駅前、地下鉄守口駅などで啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・制定10周年記念式典の開催。大枝公園「市民憲章碑」前に「くすのき」を植樹

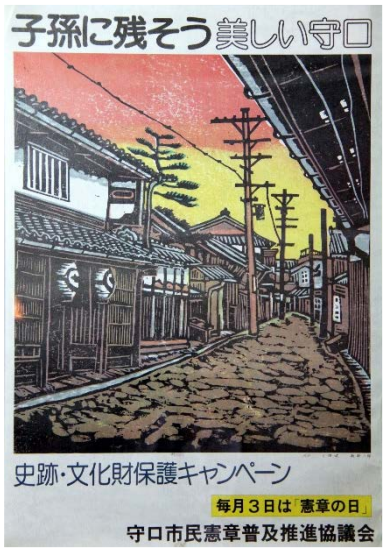


★昭和59年度（1984年度）
・普及推進月間中、守口市駅前、地下鉄守口駅などで啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・「環境美化」キャンペーンポスターを500枚作成し、市内各所に掲示
・緑化推進事業として大枝公園「記念の森」に「くすのき」を植樹



★昭和60年度（1985年度）
・「史跡・文化財保護」キャンペーンポスター（文禄堤の街並み）を500枚作成し、市内各所に掲示
・普及推進月間中、啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・憲章モニュメント「人間と光の交流」（作者：北野正治、上部の曲線は夏至、下部は冬至の太陽の軌跡を表現）を京阪電車守口市駅前に設置、除幕式を開催





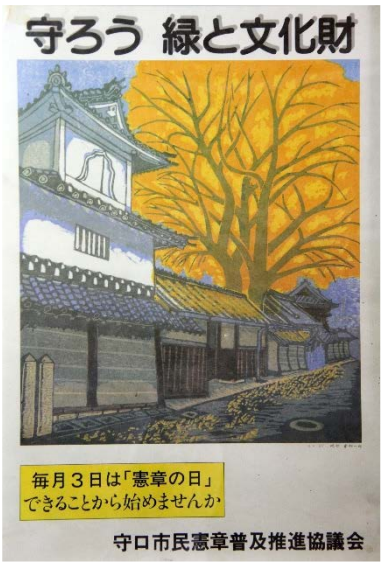
★昭和61年度（1986年度）

・「市民の連帯感育成」キャンペーンポスターを500枚作成し、市内各所に掲示
・普及推進月間中、啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・憲章まつり講演会を開催「憲章音頭と守口市歌」
・市政施行40周年記念「第1回守口市民まつり」に参画し、街頭普及推進活動を実施



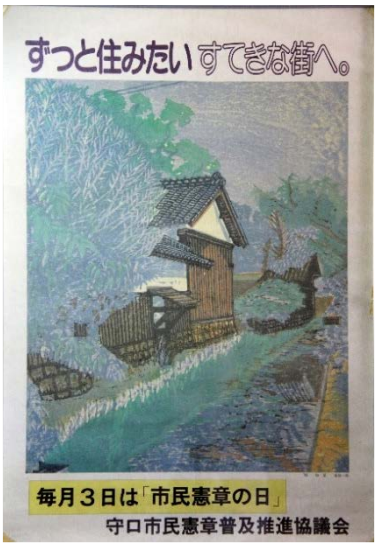
★昭和62年度（1987年度）

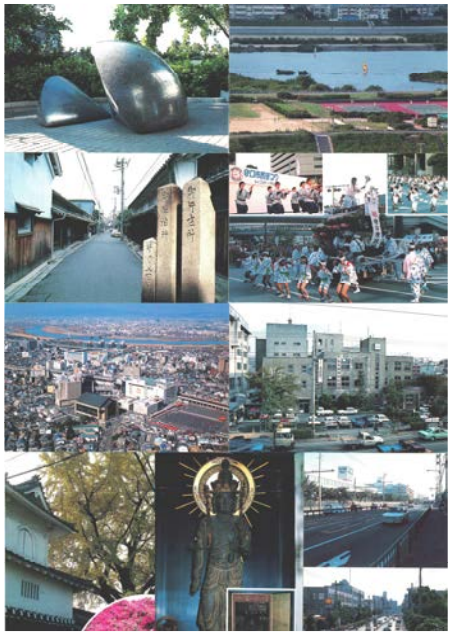
・「守ろう 緑と文化財」キャンペーンポスターを作成し、市内各所に掲示
・西部公民館の敷地に「まきのき」を植樹
・木版画同好会「ばれんの会」(高松真澄会長)に守口市内の景観を版画で表現した作品の作成を依頼
・普及推進月間中、守口市駅前周辺で啓発用「花の種」を配布し、街頭普及活動を実施。広報に憲章を掲載
・市民まつりに協賛し、普及推進活動を実施
（以降、毎年協賛）



★昭和63年度（1988年度）

・普及推進月間中、啓発用ティッシュを配布し、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・「憲章啓発絵葉書」1000部を作成配布し、街頭普及推進活動を実施
・「憲章啓発守口百景テレフォンカード第1集」（10景、10種、合計1500枚）を作成し、街頭普及推進活動を実施（以降、平成9年度第10集、100景まで毎年作成）





・「ずっと住みたいすてきな街へ」啓発キャンペーンポスターを500部作成し、市内各所に掲示
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船1000個を配布、百景テレフォンカードを販売）



総会の様子（撮影：事務局）

★平成元年度（1989年度）
・普及推進月間中、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船1000個を配布、百景テレフォンカードを販売）
・緑化推進事業としてクリーンセンターに「つげ」「かいづか」を植樹

★平成2年度（1990年度）
・普及推進月間中、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・守口市民まつりに協賛（啓発用ガス風船を配布、百景テレフォンカードを販売）
・緑化推進事業としてクリーンセンターに「こぶし」を植樹

★平成3年度（1991年度）
・普及推進月間中、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・守口市民まつりに参画（啓発用ガス風船を配布、百景テレフォンカードを販売）
・緑化推進事業として寺方小学校に「はくもくれん」を植樹

★平成4年度（1992年度）
・普及推進月間中、街頭普及推進活動を実施。広報に憲章を掲載
・平和展を共催
　（毎年12月4日から10日の人権週間に中央公民館で地区人権擁護委員会と共催）
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船を配布、百景テレフォンカードを販売）
・京阪電車守口市駅前、庭窪公民館などの憲章銘板や看板を補修

★平成5～7年度（1993～95年度）
・普及推進月間中、広報に憲章を掲載
・平和展を共催（人権週間、中央公民館）
・憲章制定20周年記念キダ・タロー講演会を開催（エナジーホール）
・3年ポケットカレンダーを2000枚作成し、市民まつりで街頭普及推進活動を実施。（以降、平成15年度まで毎年作成）
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船を配布、百景テレフォンカードを販売）
・大久保・橋波・土居小学校隣接公園に憲章モニュメントを設置





3年ポケットカレンダー

★平成8年度（1996年度）
・普及推進月間中、広報に憲章を掲載
・平和展を共催（人権週間、中央公民館）
・市政施行50周年記念「もりぐちの未来(ゆめ)絵画展」に協賛
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船、3年ポケットカレンダーを配布、百景テレフォンカードを 販売）

★平成9年度（1997年度）
・普及推進月間中、広報に憲章を掲載
・平和展を共催（人権週間、中央公民館）
・緑化推進事業としてふれあい広場に「フラワーベンチ」を設置（なみはや国体協賛）
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船、3年ポケットカレンダーを配布、百景テレフォンカードを販売）

★平成10年度（1998年度）
・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載
・守口文化センターにおいて憲章制定25周年記念「守口百景原画展」(10月30日～11月3日、守口文化センター3階)を開催
・憲章制定25周年記念冊子「守口百景」を2000冊発刊



守口百景の版画 冊子にまとめる

市民憲章制定25年で

「守口市民憲章普及推進協議会」（高橋義信会長）は憲章制定25周年を記念して、同市の名所「守口百景」の版画をまとめた冊子＝写真＝を作った。

同会は平和と人権尊重をうたった同憲章を普及しようと、木版画同好会「ばれんの会」（高松真澄会長）が1988年から守口百景を毎年10カ所ずつ描いた版画のテレホンカードを発行。昨年で100カ所が出そろったため、今年は記念の冊子2000部を作った。

冊子は1ページに原画とその現況写真を対比させ、解説と市民のメッセージも載せている。白黒106ページ、A4判。守口百景の地図付き。1000円。問い合わせは同市広報課（06・992・1221）。【村瀬 達男】









・平和展を共催（人権週間、中央公民館）
・市民まつりに協賛（啓発用ガス風船、3年ポケットカレンダーを配布、百景冊子、百景テレフォンカードの販売）

★平成11～14年度（1999～2002年度）
・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載
・平和展を共催（人権週間、中央公民館）
・守口百景絵葉書第1集（10景セット）を作成（以降、平成14年度第5集まで毎年作成）



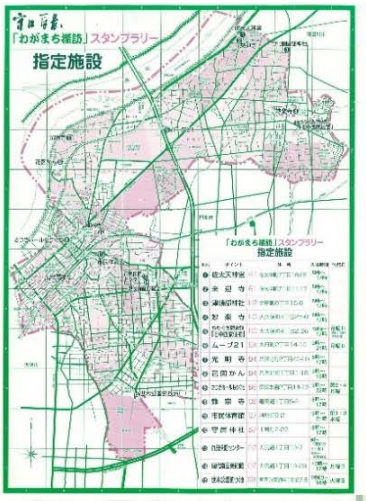
市民まつり会場で会員加入、販売促進のための「守口百景絵葉書第１集～５集」の紹介・PR用パネル

・3年ポケットカレンダーを2000枚作成し、市民まつりで街頭普及推進活動を実施
・市民まつりに協賛
（啓発用ガス風船、3年ポケットカレンダーを配布、百景冊子・百景絵葉書を販売）
・地域の集会所に憲章パネル配布、掲示
・英語版くらしのしおり、市内施設案内地図の発刊
・周年校の佐太、守口、橋波、大久保小学校に緑化推進整備事業として花壇などを寄贈

★平成15年度（2003年度）

・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載









・憲章制定30周年記念事業「わがまち探訪」スタンプラリーを開催

・憲章制定30周年記念式典・講演会・抽せん会を開催（6月 28日、エナジーホール）

・市民まつりに協賛

（啓発用紙風船、3年ポケットカレンダーを配布、百景冊子・百景絵葉書を販売）

・大阪モノレール大日駅前に銘板とベンチを設置

★平成16年度（2004年度）

・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載

・百景スルッとKANSAIカード・クオカードを作成し、市民まつりで販売するとともに協議会入会者に記念品として進呈

（以降、平成 23 年度まで8種類を毎年作成）

・市民まつりに協賛

（百景スルッとKANSAIカード・百景クオ


周年校記念事業（庭窪小学校 100 周年）

カード、百景冊子・百景絵葉書を販売）
・周年校の下島、三郷小学校に緑化推進整備事業として花壇、藤棚を寄贈



市民まつり会場での会員募集・販売用紹介ポスター

★平成17年度（2005年度）
・市の厳しい財政状況を受け、2月に策定された「財政危機対策指針」に沿い『市政に対して批判と協力を惜しまない』という憲章の理念もと、補助金全額の60万円を辞退し、協議会の趣旨に賛同する団体・個人の会費収入で活動を開始
・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載



・市民まつりに協賛（百景スルッとKANSAI・百景クオカード、百景冊子・百景絵葉書、まつり来場者を撮影した写真をその場で年間カレンダーとして印刷し、販売）



★平成18年度（2006年度）～令和3年度（2022年度）
・普及推進月間中、広報（8月、11月）に憲章を掲載
・市民まつりに協賛（百景スルッとKANSAI・百景クオカード、百景冊子・百景絵葉書、

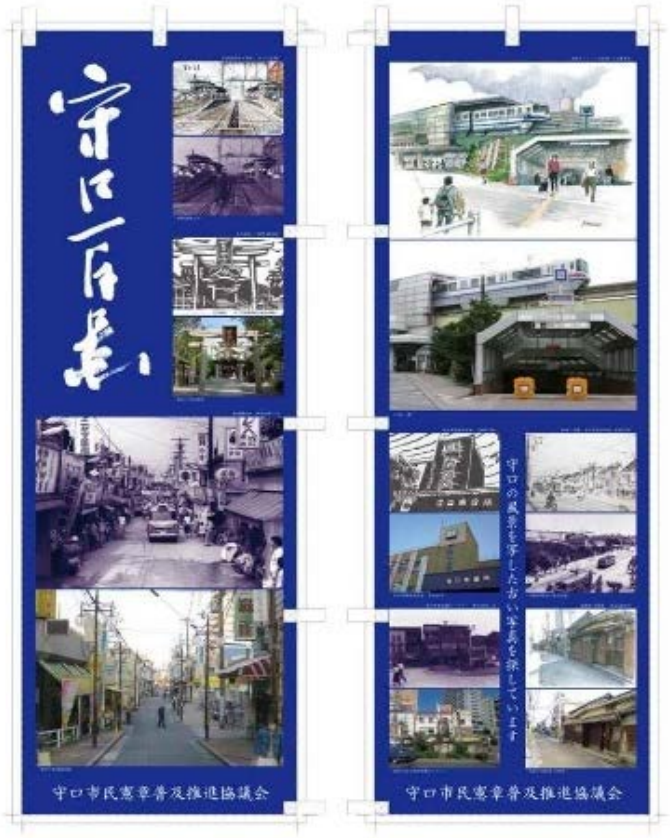
写真入り年間カレンダーなどを販売）
・周年校の第4中学校の緑化推進整備事業として花壇づくりに協力（平成18年度）
・周年校の庭窪、春日小学校の緑化推進整備事業を助成（平成19年度）
・周年校の錦中学校の緑化推進整備事業を助成（平成21年度）
・周年校の滝井、東小学校の緑化推進整備事業を助成（平成23年度）
・協議会の佐伯忠雄会長が市民まつり実行委員長に選任（平成 23～27 年）
・第30回市民まつりで復活したおまつりパレードの運営を担当。パレードの様子を当時珍しかったドローンで上空から撮影し、インターネットで配信（平成27年度）
・市制施行70周年記念事業として守口百景古今東西DVD作成実行委員会を設置
（平成27年度～）
・守口百景古今東西DVDの作成にあたり、各種団体や市民に古い時代の写真提供を依頼
・協議会の規約の改定に向け、役員間で協議を開始（平成27年度～）
・「守口百景古今東西DVD第1集」を小・中学校に寄贈（平成28年度）
・「古今東西DVD」を協議会入会者に記念品として進呈（平成28年度～）
・モノレール大日駅の自転車置き場にあった銘板を人通りの多い場所に移動（平成28年度）
・大久保・土居小学校隣接公園の憲章モニュメントを補修（平成29年度）
・市庁舎西側駐車場、さつき小学校正門前に銘板を補修し、設置（平成29年度）
・「古今東西DVD第2集」を小・中学校に寄贈
（平成30年度）
・市民保健センター前の銘板を補修
（平成30年度）
・「古今東西DVD第3集」の暫定版を50冊印刷し、市民まつりなどで協議会入会者に記念品として進呈
（令和元年度）



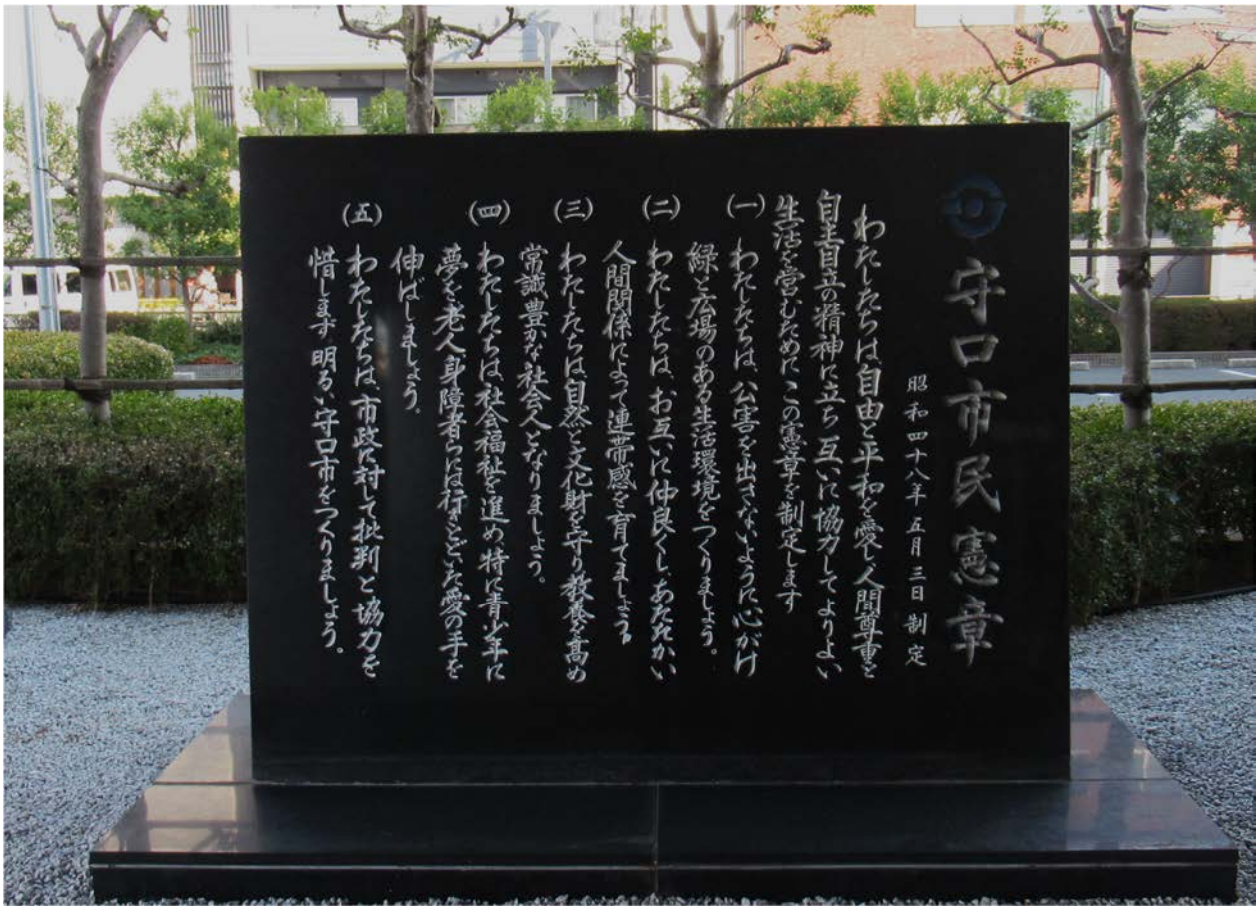




★令和4年（2022年）9月29日
・新型コロナウイルス感染症の流行により令和2年度、3年度の活動はすべて休止とし、総会議案は書面決議に付され、すべて原案通り承認
★令和4年（2022年）12月13日
・臨時総会を開催し、憲章制定50周年記念品の作成、協議会の解散と解散総会の日程について出席者全員に意見を求め、慎重かつ徹底審議。
採決の結果、令和5年3月23日西端勝樹市長ご臨席のもと、協議会の解散式と記念誌『守口百景　古今東西　総集編(第4集)』の作成を賛成多数で承認



★令和５年（2023年）３月23日
・解散式：市役所6階　研修室602



大枝公園再開発と市役所の移転に伴い大枝公園「記念の森」から移設された
市役所正面玄関前の市民憲章碑
（撮影：人見　薫）

歴代役員の方々

	昭和48～49年度 (1973～74年度)	昭和50年度 (1975年度)	昭和51年度 (1976年度)	昭和52年度 (1977年度)	昭和53～54年度 (1978～79年度)
代表幹事	中井幸太郎	中井幸太郎 福田廣儀 (代表幹事代行)	福田廣儀	福田廣儀	福田廣儀
副代表幹事	福田廣儀	藤崎秀豊 宮崎静子 森本幸且	藤崎秀豊 宮崎静子 森本幸且	藤崎秀豊 宮崎静子 森本幸且	藤崎秀豊 宮崎静子 森本幸且
会計	池田幹彦	池田幹彦	池田幹彦	山岡俊夫	山岡俊夫
会計監査	田島尚治	田島尚治	田島尚治	田島尚治 〔5周年〕	田中一雄

	昭和55年度 (1980年度)	昭和56年度 (1981年度)	昭和57年度 (1982年度)	昭和58年度 (1983年度)	昭和59～60年度 (1984～85年度)	昭和61～62年度 (1986～87年度)
会長	宮崎郁子	森本幸且 (代行)	中川光雄	中川光雄	中川光雄	中川光雄
副会長	藤崎秀豊 中川光雄 森本幸且	藤崎秀豊 中川光雄 南野粂二	小川勝 吉本元次郎 西川玉枝	小川勝 吉本元次郎 西川玉枝	小川勝 寺沢耐造 西川玉枝	小川勝 寺沢耐造 西川玉枝
会計	常盤泰弘	常盤泰弘	木村隆義	木村隆義 寺沢耐造	木村隆義 西村良雄	木村隆義 西村良雄
会計監査	藤井ハル子 田中一雄	藤井ハル子 田中一雄	藤井ハル子 田中一雄 〔10周年〕	藤井ハル子 田中一雄	藤井ハル子 田中一雄	藤井ハル子 佐伯重節

(敬称略)

	昭和63年度 (1988年度)	平成元年度 (1989年度)	平成2～5年度 (1990～1993年度)	平成6年度 (1994年度)	平成7年度 (1995年度)
会長	森本幸且	森本幸且	森本幸且	森本幸且	森本幸且
副会長	高橋義信	高橋義信	高橋義信	高橋義信	高橋義信
	寺沢耐造	寺沢耐造	寺沢耐造	神野里志	神野里志
	西川玉枝	西田百合子	西田百合子	西田百合子	西田百合子
会計	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏
	西村良雄	西村良雄	阿保君子	阿保君子	阿保君子
会計監査	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子
	向井寿一	今堀充雄	黒飛俊蔵	黒飛俊蔵	池田克己
理事	中川光雄	中川光雄	中川光雄	中川光雄	佐伯忠雄
	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘
	田島尚治	好田チズ子	好田チズ子	好田チズ子	好田チズ子
	大橋進	阿保君子	日比野滝江	日比野滝江	森田富子
	池田美仁	山木正博	山木正博	山木正博	山木正博
	浅地良一	栗山博文	栗山博文	栗山博文	栗山博文
	木村隆義	木村隆義	木村隆義	木村隆義	木村隆義
	山岡俊夫	鎌倉浩司	田中光夫	田中光夫	田中光夫
	小川勝	中井祥博	中井祥博	中井祥博	中井祥博
		山岡俊夫	山岡俊夫	山岡俊夫	江端豊和
		藪上幹雄	藪上幹雄	藪上幹雄	藪上幹雄
		岡村晃明	岡本一郎	岡本一郎	篠原拓男
		池田美仁	山本一浩	山本一浩	水谷治人

(敬称略)

	平成8年度 (1996年度)	平成9年度 (1997年度)	平成10年度 (1998年度)	平成11年度 (1999年度)	平成12年度 (2000年度)
顧問		森本幸且	森本幸且	森本幸且	森本幸且
会長	森本幸且	高橋義信	高橋義信	高橋義信	高橋義信
副会長	高橋義信	神野里志	神野里志	神野里志	神野里志
	神野里志	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美
	西田百合子	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄
会計	石井雅敏	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子
	阿保君子	浜上知之	浜上知之	浜上知之	浜上知之
会計監査	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子	藤井ハル子
	豊田修	土井池晃	大日方安雄	大日方安雄	山田典正
理事	佐伯忠雄	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏
	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘	井後吉弘
	好田チズ子	好田チズ子	好田チズ子	好田チズ子	好田チズ子
	森田富子	森田君子	森田君子	森田君子	森田君子
	山木正博	山木正博	山木正博	山木正博	山木正博
	栗山博文	藤崎嗣郎	藤崎嗣郎	藤崎嗣郎	藤崎嗣郎
	木村隆義	木村隆義	木村隆義	木村隆義	木村隆義
	田中光夫	田中光夫	田中光夫	田中光夫	田中光夫
	中井祥博	中井祥博	中井祥博	中井祥博	中井祥博
	江端豊和	江端豊和	江端豊和	江端豊和	江端豊和
	藪上幹雄	宮本淳一	宮本淳一	宮本淳一	宮本淳一
	篠原拓男	岡村晃明	岡村晃明	岡村晃明	岡村晃明
	水谷治人	水谷治人	水谷治人	水谷治人	水谷治人
				鈴木保雄	鈴木保雄

(敬称略)

	平成13年度 (2001年度)	平成14年度 (2002年度)	平成15年度 (2003年度)	平成16年度 (2004年度)	平成17～18年度 (2005～2006年度)
顧問	森本幸且	森本幸且	森本幸且	森本幸且	森本幸且
会長	高橋義信	高橋義信	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄
副会長	神野里志	神野里志	伊達一郎	今村修三	今村修三
	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美
	佐伯忠雄	佐伯忠雄	浜上知之	浜上知之	浜上知之
会計	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子
	浜上知之	浜上知之	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭
会計監査	好田チヅ子	好田チヅ子	好田チヅ子	好田チヅ子	好田チヅ子
	廣川文嘉	水落朝之	水落朝之	加藤章三	加藤章三
理事	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏	石井雅敏
	竹内豊	竹内豊	高橋義信	高橋義信	高橋義信
	森田富子	森田富子	竹内豊	竹内豊	竹内豊
	藤川弘子	藤川弘子	森田富子	北野孝子	北野孝子
	山木正博	山木正博	藤川弘子	藤川弘子	藤川弘子
	藤崎嗣郎	中町乙雄	山木正博	山木正博	山木正博
	中井祥博	中井祥博	中町乙雄	山田俊彦	山田俊彦
	宮本淳一	宮本淳一	中井祥博	中井祥博	中井祥博
	南部重和	南部重和	小倉庸敬	小倉庸敬	小倉庸敬
	荒川恭三	荒川恭三	福永敏隆	福永敏隆	福永敏隆
	水谷治人	神原由次	荒川恭三	荒川恭三	荒川恭三
	神原由次	市橋智昭	上野哲充	上野哲充	
	鈴木保雄	嶋村ひとみ	嶋村ひとみ	嶋村ひとみ	
		〔30周年〕			

(敬称略)

	平成19～20年度 (2007～2008年度)	平成21～22年度 (2009～2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)
会長	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄
副会長	今村修三	谷尾昌之	谷尾昌之	谷尾昌之	谷尾昌之
	宮本寿美	宮本寿美	宮本寿美	伏井不二子	伏井不二子
	浜上知之	浜上知之	浜上知之	浜上知之	浜上知之
会計	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子
	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭
会計監査	好田チヅ子	好田チヅ子	藤川弘子	藤川弘子	藤川弘子
	大音博司	渡部良司	渡部良司	渡部良司	田口淑子
理事	石井雅敏	石井雅敏	高橋義信	高橋義信	高橋義信
	高橋義信	高橋義信	竹内豊	竹内豊	竹内豊
	竹内豊	竹内豊	北野孝子	北野孝子	北野孝子
	北野孝子	北野孝子	好田チヅ子	好田チヅ子	好田チヅ子
	藤川弘子	藤川弘子	佐々木佐智子	佐々木佐智子	佐々木佐智子
	山木正博	山木正博	山木正博	山木正博	山木正博
	山田俊彦	山田俊彦	八尾光俊	谷本芳夫	谷本芳夫
	中井祥博	中井祥博	中井祥博	中井祥博	中井祥博
	小倉庸敬	小倉庸敬	小倉庸敬	小倉庸敬	小倉庸敬
	福永敏隆	福永敏隆	荒川恭三	荒川恭三	西端良弘
	荒川恭三	荒川恭三	西端良弘	西端良弘	平石吉彦
			平石吉彦	平石吉彦	

（敬称略）

	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29～30年度 (2017～2018年度)	令和元年～3年度 (2019～2021年度)
会長	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄	佐伯忠雄	木村剛久
副会長	松井宏之	松井宏之	松井宏之	松井宏之	松井宏之
	伏井不二子	伏井不二子	伏井不二子	伏井不二子	南出登紀子
	浜上知之	浜上知之	浜上知之	浜上知之	浜上知之
会計	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	樋口ミツ子	佐々木佐智子
	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭	市橋智昭	小川徹
会計監査	藤川弘子	藤川弘子	藤川弘子	藤川弘子	樋口ミツ子
	田口淑子	竹田晴彦	竹田晴彦	永井竜二	蔵楽信策
理事	高橋義信	高橋義信	高橋義信	高橋義信	高橋義信
	砂原嘉夫	砂原嘉夫	砂原嘉夫	砂原嘉夫	佐伯忠雄
	北野孝子	北野孝子	北野孝子	佐々木佐智子	砂原嘉夫
	好田チヅ子	佐々木佐智子	佐々木佐智子	南出登紀子	藤川弘子
	佐々木佐智子	山木正博	山木正博	中井祥博	中井祥博
	山木正博	中井祥博	中井祥博	小倉庸敬	小倉庸敬
	谷本芳夫	小倉庸敬	小倉庸敬	西端良弘	西端良弘
	中井祥博	西端良弘	西端良弘	平石吉彦	平石吉彦
	小倉庸敬	平石吉彦	平石吉彦	木村剛久	小川徹
	西端良弘	木村剛久	木村剛久	辻仁志	辻仁志
	平石吉彦	浅井俊之	辻仁志	相原伸次	相原伸次
		谷本芳夫	谷本芳夫		

（敬称略）

令和4年度　守口市民憲章普及推進協議会

令和4年7月1日現在

役　員

役職名	氏　名
会　長	木　村　剛　久
副会長	藤　堂　寅　一
副会長	南　出　登紀子
副会長	浜　上　知　之
会　計	佐々木　佐智子
会　計	小　川　　徹
監　査	樋　口　ミツ子
監　査	林　安　喜　夫

理　事

役職名	氏　名
理　事	高　橋　義　信
理　事	佐　伯　忠　雄
理　事	砂　原　嘉　夫
理　事	藤　川　弘　子
理　事	小　倉　庸　敬
理　事	西　端　良　弘
理　事	平　石　吉　彦
理　事	辻　　仁　志
理　事	稲　田　隆　志

普及推進委員

氏名	団体名
西　口　誠　一	守口市農業委員会
萩　原　朋　子	守口市民生委員児童委員協議会
松　岡　雅　信	守口市社会福祉協議会
木　村　孝　司	守口市人権協会
高　橋　義　信	守口地区保護司会
深　田　政　好	守口市社会教育委員会議
木　村　剛　久	守口市青少年育成指導員連絡協議会
林　安　喜　夫	守口市立小中学校校長会（梶中学校）
横　山　　淳	守口市PTA協議会
佐々木　佐智子	守口市赤十字奉仕団
藤　川　弘　子	守口市赤十字奉仕団
南出　登紀子	守口市エイフボランタリーネットワーク
樋口　ミツ子	守口市エイフボランタリーネットワーク
北　野　孝　子	守口市消費生活リーダークラブ
今西　多津雄	守口市文化協会
西　田　　薫	NPO法人　守口市スポーツ協会
中　橋　　實	守口市文化財研究会
藤　堂　寅　一	守口市老人クラブ連合会
砂　原　嘉　夫	守口市身体障害者福祉会
井　上　智　裕	守口ロータリークラブ
稲　田　隆　志	守口門真商工会議所
辻　　仁　志	公益社団法人　門真納税協会
金　子　宗　則	一般社団法人　守口門真青年会議所
田　中　哲　也	守口門真JCシニアクラブ
高　橋　義　信	守口門真JCシニアクラブ
佐　伯　忠　雄	守口門真JCシニアクラブ
浜　上　知　之	守口門真JCシニアクラブ
小　倉　庸　敬	守口門真JCシニアクラブ
西　端　良　弘	守口門真JCシニアクラブ
平　石　吉　彦	守口門真JCシニアクラブ
小　川　　徹	守口門真JCシニアクラブ
木　村　剛　久	守口門真JCシニアクラブ

※守口市教育委員会委員長は平成27年に廃止
※守口市婦人団体連合協議会は平成29年に廃止
※守口市体育連盟は平成30年1月に守口市スポーツ協会に、
　4月にNPO法人守口市スポーツ協会に名称変更

守口百景

守口百景、目次

年	番号（ページ）	版画タイトル	執筆者氏名
昭和63年度	1	アポロン橋堤跡校	和彦
	2	文禄陣屋跡	豊邦明昭一幸子治己之
	3	佐太小学校	西瀬本本下山島原原部
	4	守口小学校	小廣岡辻宮上中砂地服
	5	エナジーホール	豊邦浩義賢正警廣克昌
	6	滝井小学校杏	和彦明昭一幸子治己之
	7	難宗寺の大銀飼（鳥飼）	坂
	8	風見石（鳥飼）	坂
	9	来迎坂	蔵
	10	段	
平成元年度	11	光明寺堤	清
	12	文禄碑	作
	13	喜左衛門記念園	男
	14	冬の桃町緑道公邸	子
	15	旧中西通	裕嗣弘
	16	滝田舗	弘太郎
	17	老社	一
	18	高瀬神舎	良清
	19	本庁近	久夫
	20	1号線鳥飼大橋付	木
平成2年度	21	街へ	笑
	22	佐太神社	夫樹子均一
	23	テルプラザ路	健敏義一
	24	西三荘小学校	元
	25	八雲小邸	種太郎
	26	福田園	定夫
	27	大枝公ん	ミツ子
	28	花図かい	英昭
	29	天乃神社	本
	30	庭窪小校	阪
平成3年度	31	守口消防署	敏
	32	うらみち（梶町）	雅子
	33	守居神社の神馬	照哲
	34	寺方提灯踊り	将誠
	35	光明寺十一面観音	良諦
	36	淀川暮色	真実
	37	カナディアンスクエア	恭子
	38	光明寺鐘楼	委子
	39	佐太天神宮水鏡の池	定昭
	40	八雲だんじり	勇
平成4年度	41	教会	男
	42	駅前（体育館裏から望む）	拓忠文伊都彦
	43	地下鉄守口駅界隈	謙
	44	守口警察署	夫
	45	梵鐘	昭
	46	白山神社	美義
	47	十三夜坂	詠
	48	新しい街並	淑
	49	西三荘ゆとり道	孝
	50	大枝公園	真由

年	番号（ページ）	版画タイトル	執筆者氏名
平成5年度	51	さつきホールもりぐち路	和彦
	52	梶町水路社	豊邦明昭一幸子治己之
	53	産須那神社1校	西瀬本本下山島原原部
	54	ムープ2校	小廣岡辻宮上中砂地服
	55	守口東高校	豊邦浩義賢正警廣克昌
	56	春日小学寺	和彦明昭一幸子治己之
	57	盛泉町社	善
	58	大久保神	純
	59	津嶋部寺	紘子司子治一子仁
	60	専隆	和圭峯正博順
平成6年度	61	佐太の渡し跡	善
	62	来迎寺の松	純
	63	菅相寺道	和
	64	京街	圭
	65	メイプルパークを望む	峯
	66	高瀬の街並み	正
	67	寺井邸	博
	68	弥治右衛門記念碑	順
	69	佐太中町水路	木
	70	唯称寺	松
平成7年度	71	阪口邸	明子彦勝隆博枝一明男
	72	三郷小学校	節春
	73	佐太天神宮	克信房淳晃
	74	妙楽寺の大つつじ	浦田本村橋
	75	乗雲寺	辺
	76	京街道	口
	77	東橋波の小路	本
	78	清澤寺	村
	79	京阪守口車庫跡の碑	中
	80	大日会館	西
平成8年度	81	大枝神社	守祐子子雄治子子子

この本は ———

1. 版画が制作された年度の順番で並んでいます。
2. 版画の下には制作者の名前が記されています。
3. 写真の下には一部写真提供者の名前が入っています。
4. 各ページの文章の下には執筆者の氏名が記されています。
5. 別添の守口百景マップにはタイトル番号を掲載しています。
6. タイトルの前についている番号を別添の守口百景マップに入れて所在地がわかるようにしています。

1 アポロン橋

河原町

昭和６０年に完成した、再開発地域「トークティ守口」内にかかる歩道橋で、その上に設置されている「カリオンの鐘（希望の鐘）」は、からくり人形の演舞とともに四季おりおりの曲目で時報を奏で、市民に親しまれている。



土田　博

１９８５年の駅前再開発事業の一つに「アポロン橋」があります。「アポロン」を辞典で引くと「ギリシャ神話に登場する神。美しく男性的な青年の神で、詩歌、音楽、予言、弓術、医術をつかさどる。ローマではアポロ」とあります。今まで何気なく利用していましたが、初めて守口を訪れた人に話を聞くと、京阪電車を降りて、京阪百貨店、守口プリンスホテル、体育館を利用する時には必ず最初に目にする場所だそうです。エレベータ付きの歩道橋は早くから障害者、老人にやさしい街づくりを目指していた守口市を象徴していると思います。橋上にある「時」を告げる「希望の鐘」の音は、道行く人々に安らぎと希望をあたえてくれます。鐘の音に、ふと足をとめ青空を仰ぐ老人、足早に去っていくサラリーマン、ポップコーンを手におしゃべりしている若いグループ、子供を連れニコニコ顔の若い夫婦、この橋と共に歴史が動いているようです。

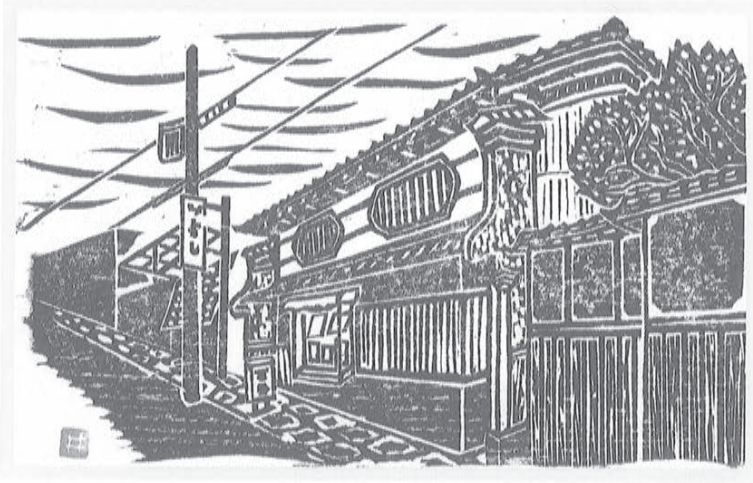


野坂　尚子（早苗町）

2 文禄堤（ぶんろくつつみ）

本町２丁目

豊臣秀吉が文禄３年（１５９４年）毛利・小早川・吉川の三家に命じ築造させた。当時の年号からこのように呼ばれる。伏見と大坂を結ぶ陸路が不便であったため、距離短縮の目的で築造し、約２７キロの道路、これが京街道。のちに東海道と呼ばれ、当時は大名行列など多くの人たちで賑わった。



井野　次正

私たちの町並み「文禄堤」は、守口駅周辺では独特の雰囲気をもった地域です。古い雰囲気をかもしだす情緒のある家々が並んでいます。しかし、最近はこのようすも徐々に変わりつつあります。古い家をこわし、新しい家やマンションにと、変わり始めました。無理のないことだと思う一方、古い建物を残しておいてほしいと思う気持ちも多いにあります。古い建物の良さを残し改築していく方法はないものでしょうか。他の地域ではどのようにしているのでしょうか。一例ですが、４月にこの文禄堤にオープンされた「追立」と言う中華料理屋さんは、古い酒屋の趣を残し、雰囲気のある店に改築されて、ずいぶん賑わっているようです。　私の写真館も、追立さんをみならい、古き良き建物をそのままに味わいのある写真館として、漆喰壁、うだつ、そして腕の良さで頑張っていきたいと思います。文禄堤をやさしく見守っていきましょう。



三好　章（本町２丁目）

3

佐太陣屋跡（さたじんやあと）

佐太中町７丁目

現在は佐太老人福祉センターとし体不自由児通園施設（わかくさ園）になっているが、昔の面影が石垣や竹やぶとして残っている。京都・大坂間の交通および軍事上の要地であることから美濃加納藩永井氏が陣屋をもってきたといわれている。



蔵本　きみ子

現在の佐太老人福祉センターと、し体不自由児通園施設（わかくさ園）は元加納藩の佐太陣屋の跡に建てられている。昭和４４年９月にこの両施設をここに建設するに当り、市教育委員会は駒井正三先生ならびに、民族資料研究調査員に依頼し、石橋佐太郎氏のご協力を得て調査を行った。佐太陣屋は美濃国加納藩（岐阜市加納町）３２，０００石 永井氏の陣屋で、宝永元年（１７０４年）渚（枚方市御殿山）よりここに移し、当地方に１２，０００石を領有して支配していた。当地は、京阪間の交通・軍事上の要地でもあったので有力な譜代大名である永井氏の陣屋をここに置いたものと考える。また、この陣屋は加納藩の蔵屋敷の役割も果たし、年貢米の納入は勿論のこと、加納の特産である提灯や傘も大阪商人に売りさばいていた。陣屋の敷地は、約5，０００平方メートルで、陣屋中心部の役所の周囲には陣屋役人の住居があり、戦後間もない頃まで一部の住居が残っていて、住まわれていたそうである。



宮本　隆次（土居町）

4

守口小学校（もりぐちしょうがっこう）

八島町

明治５年６月２２日、「河内国第９区郷学校」として開校され、市内でもっとも歴史のある小学校。道路面より高いところに設置された正門を石段を上がってくぐると長い歴史が感じとれる。



種池　博

旧国道１号線八島交差点より約１００メートルの所に、古い鉄筋３階建の威厳のある建物（本館）が、守口で一番古い守口小学校である。創立１２６年目をむかえます。鉄筋校舎は、昭和１１年５月２０日に建てられ、以来じっと私達卒業生を見守ってくれています。この建物は昭和９年９月２１日の室戸台風によって倒壊した前の木造校舎のあとに出来たもので、校庭にはその儀牲者となられた児童１１名、給士(小遣さん)１名の慰霊碑が建てられております。また、戦前戦後にかけて、しばらく守口町役場の一部が、小学校の１階に間借りしていた時期がありました。昭和２１年１１月１日に市制が施かれ、昭和２６年４月には現在の本庁舎に移転しました。守口小学校の卒業生は約１５，０００名を数え、有能な方々を世に送り出し、現在も卒業生が地方から訪ねてこられ、少しも変わらない当建物に安堵して、帰ってゆかれる方々が多いそうです。私は太平洋戦争も終りに近づいた昭和１９年の卒業生ですが、平和の尊さ、有難さを痛感する今日この頃です。



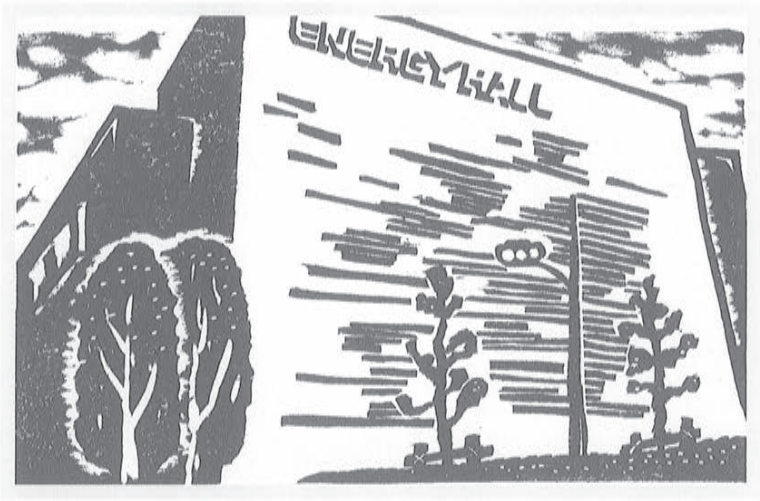
提供：宮中　喜美子

大野　正（河原町）

5 エナジーホール

河原町

昭和６０年７月６日開館。京阪守口市駅前再開発エリア、「トークティ守口」内に完成した「守口文化センター」は、市民をはじめ多くの人たちの文化活動の場として利用されている。建物外壁には、市の名誉市民である直原玉青画伯が図案化されたモザイク「淀川の流れ」が描かれている。



山田　耕治

市民と勤労者のための文化施設として誕生した守口文化センター。ここには、利用者の多様なニーズに応えるいろいろな施設があります。作品展ができるギャラリーや、会議室、バンドやコーラスの練習には最適の音楽室、雑誌まで揃った蔵書３万冊の図書室もあります。そして４３６席の音響効果バツグンの「エナジーホール」。市民のみなさんにもすっかり親しんでいただいていますが、実は「エナジー」とは、１階にあるホールの愛称で、「活力」とか「いきいき」という意味なんです。その名のとおり、落語会やクラシックコンサート、民謡にピアノ発表会など様々なイベントが開催され、多くの市民に親しまれています。また守口文化センターには文化教室があるのをご存じでしょうか？ダンス教室や陶芸教室、華道、箏曲、変わったところでドラム教室も。これらの教室にはたくさんの市民のみなさんが参加され、日々文化活動にいそしんでおられます。



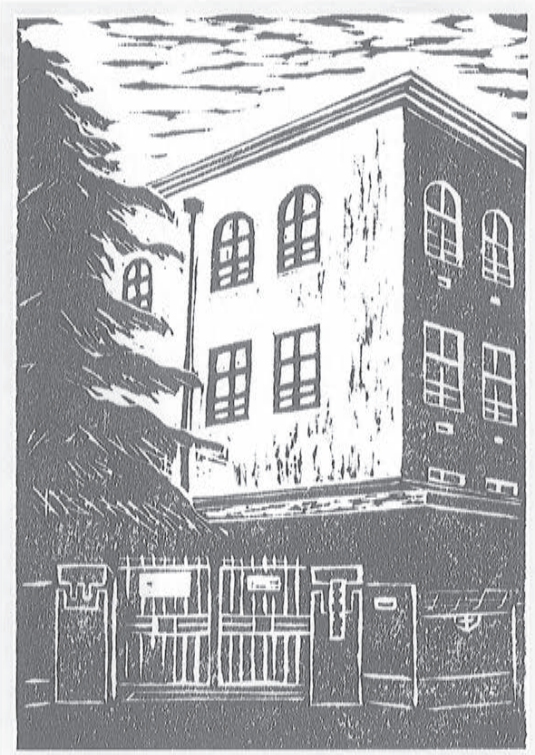
矢本　伸人（大宮通１丁目）

6 滝井小学校

（たきいしょうがっこう）

文園町

昭和６年、守口尋常高等小学校より分離。北河内郡守口第２尋常小学校として開校、昭和９年の室戸台風により校舎が全壊したが、昭和１１年鉄筋３階建の現校舎が完成。



種池　博

滝井小学校は、大正１２年守口尋常高等小学校の分教場として開設され、昭和６年守口尋常高等小学校から分離、大阪府北河内郡守口第２尋常小学校となりました。昭和９年の室戸台風で校舎は全壊。児童、職員に被害はなく、一時期、私立守口幼稚園を仮校舎として、二部授業が行われました。昭和１１年鉄筋コンクリート３階建の新校舎の完成と同時に、私はピカピカの１年生。胸をふくらませて先生の後ろから校舎の見学。一人も犠牲者をださなかったご褒美にこの校舎をいち早く建ててくださったとのこと。水洗便所、理科室の上下に動く黒板、音楽室の防音装置、３階までのスロープ、何もかも目新しく誇らしい物でした。６０数年を経た今、子供、孫と三代がこの伝統ある学校にお世話になり、いつまでも母校に愛着と誇りをもっています。



宮本　美知子（滝井元町３丁目）

7

難宗寺の大銀杏

竜田通１丁目



清田　義雄

難宗寺は文明７年（１４７５年）吉崎を退出し、枚方市出口に光善寺を創立した蓮如上人が、文明９年（１４７７年）に創立した守口御坊が始まりと伝えられており、慶長１６年（１６１１年）には本願寺掛所に昇格し西御坊と呼ばれる。境内の銀杏は樹齢約５００年、木の高さ２５メートル、樹経１．５メートル、昭和５０年、府の天然記念物に指定。



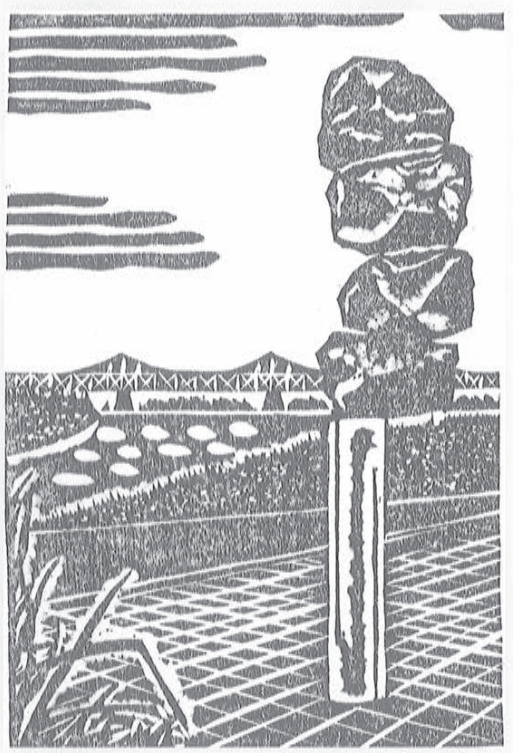
京街道の「守口宿」のあった竜田通に難宗寺がある。その本堂を包み込むかのようにイチョウが立っている。木の高さ約２５メートル、直径約１．５メートル、枝張約１５メートル、樹齢は約５００年。気の遠くなるような年月である。ずっとイチョウは私達のまちを見続けてきた。毎年春になると何１０万もの新緑が芽吹き出す。夏には空を覆うほどの新緑となり、秋にはそれがまばゆいほどに黄葉する。そして晩秋の報恩講の頃には、それら何１０万もの葉が木枯しの風とともに一斉に舞い降りて、あたり一面に黄色い絨毯を敷きつめるのである。こんなに美しい絨毯を私は他に知らない。季節を感じながら今年は息子と一緒にこの絨毯の上を歩いた。冬の間冷たい風にさらされて寂しそうに立っているイチョウだが、来年もまた何１０万もの新緑をつけることだろう。その力強い生命力が見るものを感動させてくれるに違いない。息子の代にも。そして孫の代にも。

水谷　治人（浜町１丁目）

8

風見石（鳥飼）

大庭町２丁目



土田　博

守口市水道局付近の淀川堤防から、鳥飼大橋（昭和２９年、従来の木製の橋にかわり、淀川の左岸と右岸をつなぐ鉄筋の鳥飼大橋が完成、当時は有料道路）を望む。

京街道。守口市北の端から南北にかかるきれいな鳥飼大橋。下を流る淀川。この橋が出来るまでは、旧庭窪村から向う岸鳥飼まで渡し船が交通の足でした。時代の流れと共に木造の鳥飼大橋が建設され、大阪・京都に向う重要な橋として人々に愛された鳥飼大橋。しかし木造の橋はいたみがひどく、ところどころ穴があき、子供達が橋を渡るたび石を投げては遊んだ橋。夏には橋げたを飛込台にしてよく水遊びをしたものです。そうして皆から愛された橋も昭和２９年に木造から鉄筋の橋へとかけかえられ、淀川にかかる有料大橋として新しく生まれ変わり、交通の量も増え、いつのほどにか料金も無料になり、南から北へ渡る橋も行き帰りが別々になり、現在では２本の橋にならんでモノレールの橋もかかり、いっそうにぎわう鳥飼大橋として大変身。皆からいつまでも愛されている鳥飼大橋。



前田　弘　（淀江町）

9

来迎坂（らいごうざか）

本町２丁目

京街道の文禄堤沿いに道標「右ならのざきみち」が今なお残っており、石段の坂道、来迎坂を下り難宗寺を経て、旧奈良街道へと通じている。周囲の建物と共に往時の面影をしのばせている。



清田　初美



時空の道とも言える文禄堤に住んで６０余年。豊臣秀吉がつくったこの堤にも、時の移り変りを見る。幼かりし頃に遊んだ船着き場であり、旅宿であった魚万楼も、今は高層ビルのＭＩＤに。同じく中島屋は診療所に。今なお往時の面影を残す徳永家もまもなくマンションになるという。古き家並がポツポツと残るこの街道筋も近代化の波にのまれてゆくのはいささか淋しい限りである。仕方のないこととはいえ、残すべきは残し、往時の情緒の片々のうかがえる落ち着いた街なみとしての景観の保存と再生の可能性はないものであろうか。かつて酒屋としてあった田中屋がこの３月、中国料亭として甦った。百余年の歴史をもつ商家と薬膳菜との出会いという触れ込みの中に、瓦葺きの日本家屋の息づかいが聞こえてくるようだ。

再びの甦りを参考に、生かすべきは生かし、懐旧と新生の街道筋としての街づくりの手本としてゆきたい。それにしても電柱という無粋なものの地中化を、改装中の道路舗装と併行して出来なかったことは残念である。人々を魅きよせ、心和ませる景観をもった街づくりへの心づかいを行政も市民も共に考え、行動することが繁栄への道につながると思うのだが。守口の歴史街道は、時空を越えて文禄堤にありと思う。　旧家いま　中国料亭街薄暑　青狼

福田　廣儀（本町２丁目）

10

段蔵（だんぐら）

佐太中町６丁目

昔は低湿地帯で水はけが悪く水害の絶えなかったため、農民が収穫した農作物を守るために工夫した倉。通常の倉よりも一段ずつ高く階段状にしたためこう呼ばれる。



南部　一郎



版画にも描かれていますように、昭和６０年代、「春」になると、段蔵の壁の白さと対照的に、色とりどりの幟が風になびいていました。我がまちの郷土力士、小結剣晃関の所属する高田川部屋が大阪場所で近くの来迎寺に滞在していたことを思い出します。毎年、その頃になると、市長を訪ね、激励を受けられていました。

剣晃関は特に関取になられてから、その表情といい立ち振るまいが実に様になってきた、数少ない守口の著名人の一人です。いつもテレビで応援しておりました。これからの活躍が期待されている最中に帰らぬ人となってしまったことを大変残念に思います。

幟がたなびいていた旧国道１号線の近くに実家があり、母上がご健在です。慎んでご冥福をお祈りします。

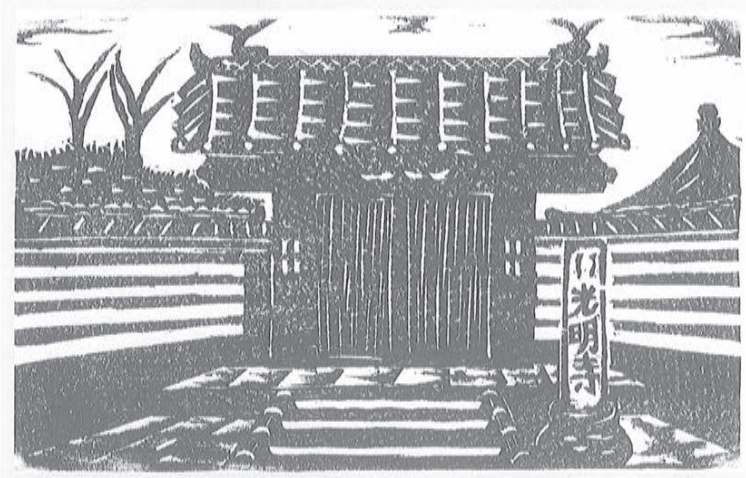
吉川幸弘（寺内町２丁目）

11

光明寺（こうみょうじ）

八雲北町２丁目

真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年（８０６年）空海の開創と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺であった。本尊の十一面観音立像は、右手を下げ、左手を上げて蓮華瓶をもつ俗にいう長谷式で、守口市内に残る最古の仏像で、国の重要文化財の指定を受けている。



服部　昌之

八雲神社の東隣に位置し、正法山歓喜院光明寺と称し、桜で有名な御室仁和寺の末寺である。もとは八幡宮寺と称し、八雲神社の宮寺であった。当寺に安置されている薬師如来は、室町時代の彫像と見られるが、「下番神社」の墨書があって、もとは八雲神社祭神であったが神仏分離によって、光明寺に移されたものらしい。寺伝によれば、大同元年（８０６年）弘法大師の開創といい、文治４年（１１８８年）了悟阿闍梨の中興と伝え、守口屈指の古刹である。その後については、大阪夏の陣の兵火や、度重なる火災や水害により、古い文化財や記録等を失い、つまびらかでない。江戸末期から明治の初めにかけ聖風上人等が寺勢の高揚に努め寺観を一新し、今日に至っている。本尊の十一面観世音菩薩は国の重要文化財に指定されている。



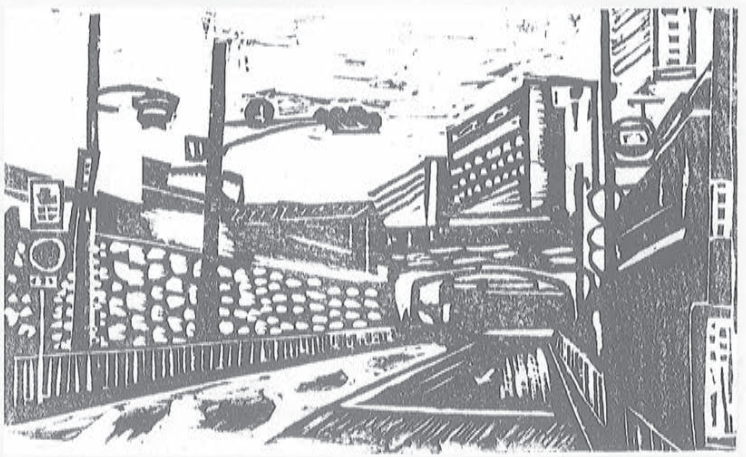
前嶋　清（八雲北町３丁目）

12

文禄堤（ぶんろくつつみ）

本町１丁目

この本町付近は昔の淀川の本堤防で、秀吉が毛利三家に命じて築造させた文禄堤の南端にあたり、東海道守口宿の宿場町といわれたところである。陸橋のところには「船頭ヶ浜」といって船頭さんの家があり船着場として、年貢米などはここから諸国に積みだされていたようである。



清田　義雄

京阪電車の守口市駅から道ひとつ隔てた本町は堤の町、文禄堤と呼ばれた。ここが、いわゆる京街道の宿駅として栄えたところであり、今もそのたたづまいに、いにしえの面影を偲ぶことができる。文禄堤は、豊臣秀吉が伏見城と大坂を結ぶ道路として、文禄３年（１５９４年）毛利輝元、小早川隆景、吉川広家に命じ、淀川左岸の堤防を改修整備させたもので、その長さは、当時約２７キロにおよぶものであり、京都と大坂を結ぶ重要な街道であった。京へ向かうときは「京街道」、大坂へ向かうときは「大坂街道」と呼ばれ東海道５７次の宿駅に指定されたのであった。当時は、街道を行き交う人々でにぎわう活気のある町であったようである。私が小学生のころは、この町にも子供たちが多く、一日中子供たちの遊ぶ声や、走り回る姿が見られ、夕飯時には各家から母親の「ごはんやで、はよかえりんかいな」の声がここかしこから聞こえ、それでも暗くなるまで遊びに熱中したものである。夕暮れには道に水をまくと、昼間の熱気を取り去り、さわやかな夕涼みのひとときが、街角のいたる所で見られた。そんな時代をこの町で体験した人達も今は少なくなり、時が過ぎてしまった。もともと交通に便利な地理にあり、最近は古い家も近代的なマンションへと、その家並も次第に変わりつつあり、さらに新しい時代へと変貌しようとしている。そんな本町かいわいの長い時の流れを静かに見守るように、本町橋のたもとに「京街道」の道標がたてられているのである。



田代　精作（本町１丁目）

13

喜左衛門記念碑（きざえもんきねんひ）

南寺方中通１丁目

旧寺方荘をはじめとした１２ヶ村一帯は、排水の便が悪く、村民は常に悪水に悩まされており、この地に樋を設けることを幕府に願い出たが認められず、思いあまった庄屋喜左衛門は、寛永１１年（１６３４年）に独断で樋を築き水害を一掃した。樋はそのまま残されたが、喜左衛門は幕府を無視したと処刑された。



岩見　正行



庄屋喜左衛門は、今から３６０年余り前、一身一家を犠牲に、官位を無視して独断で樋門を築き、１２ヶ村の農民を水害から救災したのです。当時、江戸時代を通じて稲の栽培は農業の中心でありました。しかし封建社会では酷しい支配下のもと。農民に対し重い年貢が課せられ、天候に左右されながらの苦労がありました。特に水に対する利害がいかに重大であり、厳しいものであったかうかがい知ることができます。やがてこの時代も終り、村民は喜左衛門の偉徳を慕って、明治１５年３月１５日、記念碑を建立し、その後はこの日を命日として、南寺方両農業組合により毎年法要が行なわれております。樋門は中央環状線の改修に伴い現在、門真市二島町の南西に位置する、中央分離帯に石碑を建立し、法要時にはお参りが行われております。現在は、恩恵を受けた各地域の１割余りの水田がかろうじて残っている状況です。社会の変遷する中で、この偉業を永く後世に伝えていきたいと願っております。

北端　一男（南寺方南通２丁目）

14

冬の桃町緑道公園（ふゆのももまちりょくどうこうえん）

桃町

地下鉄守口駅から守口北高校を経て淀川左岸用排水管理組合間の公園・歩道で、淀川が改修されるまでは、市役所のある狼島と外島との間の水路であり、改修後は寺方方面への水路として利用されていたが、暗渠にして桜などを植栽、春にはみごとな花を咲かせ市民の憩いの場となっている。



井峯　広行



桃町緑道は国道１号線に面した地下鉄守口駅の入口の脇から北に延びる３００メートル足らずの小さな遊歩道ですが、「大阪みどりの百選」にも名を連ねています。国道から緑道に足を運ぶとすぐに車の喧噪（けんそう）もなくなり、静かな散歩が楽しめます。道ばたには四阿（あずまや）や遊戯具もあったりします。春には緑道沿いの桜が満開になり、見事な桜吹雪の下を歩くことができます。夏は蝉時雨（せみしぐれ）、秋には色づく木の葉を眺めながら。冬は木漏れ日の中を落ち葉を踏みしめながら再びの春を心待ちにしながらの散歩です。ここは四季折々の味わいを楽しませてくれるところでもあります。緑道の脇にある幼稚園の園児の声が聞こえてくると、もう桃町緑道も終わりです。５分足らずの短い時間ですが、のんびりとこの道を歩いているとここが守口のど真ん中だということを忘れてしまいそうな気分にさせてくれます。

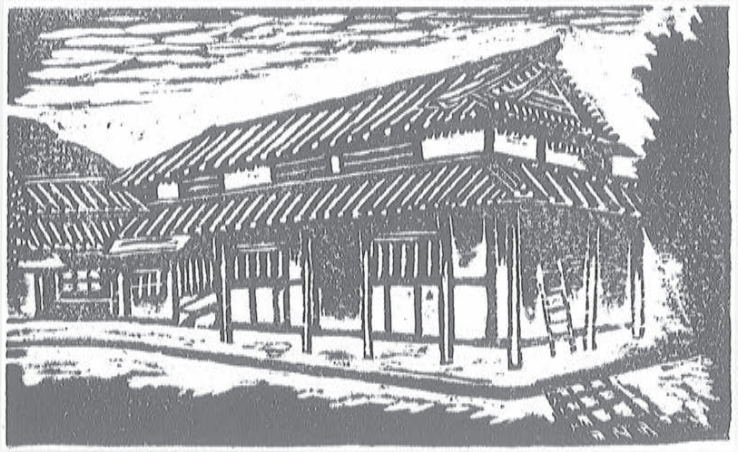
藤岡　亜矢子（松月町）

15

旧中西邸（きゅうなかにしてい）

大久保町４丁目

中西家はかつて代々尾張藩天満蔵屋敷の留守居役を勤める河内きっての名家で、「河内名所図会」にも記されている。現中西邸は寛政５年（１７９３年）の築で府下では比較的新しい建物ですが現在の地に居を構えた弘治元年（１５５５年）当時の規模と大差なく中世の土豪屋敷がしのばれ、市の初の指定文化財の一つである。



高松　真澄



タイムスリップしたような錯覚をする風景です。このお屋敷は、２００年を越える時を経た守口市内に現存する民家最古の建造物であると思われます。まず、最初に目に入るのが、２階建ての建物と同じぐらいの高さがある門と、白壁の塀です。そして、一歩中に足を踏み入れると、武者装束のお侍さんがお出迎えしてくれそうな、まるで本当に江戸時代に戻ってしまったような感じがします。大きな門構え、大きな白壁、優に１０帖はありそうな玄関の大きな土間、どれをとっても士族の薫りがただよう、守口市の指定文化財にふさわしいお屋敷です。皆様も一度、お越しになって江戸時代にタイムスリップしてみませんか。

喜多　一裕（大久保町２丁目）

16

竜田通（たつたどおり）

竜田通１丁目

旧名は市場町といわれており、かつては市場が開かれたことがあった。本陣や問屋場があった、いわば守口宿の心臓部といえるところだった。



南部　一郎



私の仕事場のあるところは竜田通に面しています。竜田通はその昔、東海道５７次の守口宿の中心地だったので、かつては現在日通の建物があるところに本陣があり、他にも難宗寺と通りを挟んで問屋場、八島の交差点のところに高札場などがあったそうです。今、往時を偲ばせるものといえば、大塩平八郎にゆかりのある白井邸や難宗寺の脇にある石の道標くらいのものですが、私の仕事場に面したところだけ竜田通の中でも道幅が広くなっているのも、別に道路を広げたためではなく、宿場の中心で馬をつないだり荷物の上げ下ろしをする必要があった名残りでその昔から今と同じくらいの道幅があったそうです。そんな由緒のある場所に馬の代わりに、私は車を置いたりしています。

森脇　義嗣（祝町）

17

老舗（しにせ）

竜田通１丁目

昔の面影が少なくなりつつある文禄堤で、町並みにマッチしたたたずまいの店舗で、業種も提灯屋さんと今では見ることが少なくなった光景である。



清田　義雄

当店は文禄堤沿いで和洋傘提燈販売業を営ませて頂いておりまして、私は３代目です。木造家屋も百年以上なります。私は当地に生まれ育ちましたのでこの町はもちろんのこと住み馴れたこの家に愛着があり、大切に使わせて貰っています。私の子供の頃から比べますと当地も時代と共に随分変りましたが、人情だけは今も変わっていない様に思います。夏には各々家の前に涼台を持ち出しうちわを片手に蚊を追いながら将棋や囲碁を楽しみ、また世間話しに花を咲かせ、笑顔の絶えぬ風景が懐かしく思われます。昔、当地には有名な料理屋さんが２軒ありタ方ともなれば各地から旦那衆が遊びに来られ、三味の音が絶えず、私も子供の頃から三味の音を聴きながら育ちました。家の横は淀川からの農水道があり五箇桶から八島町の桜公園までトンネルになっていて水深がありましたので近所の子供達はこの川で泳ぎの練習や魚獲をし、夏休みを楽しんだものです。当地に残された自然や文化を大切にしたいと願うところです。



川東　善弘（竜田通１丁目）

18

高瀬神社（たかせじんじゃ）

馬場町

延喜式内社で津嶋部神社と並んで守口市内の古社であり、天正年間（１５７３～９２年）に織田・三好の兵火で社殿は焼かれたもののその後再建され、江戸中期頃に立て替えられたのが現在の社殿。江戸時代には社殿その他すべて備わった大社で八幡宮とも呼ばれていた。



高松　真澄



提供：橋本　好祐

高瀬神社は、市内で最も古い神社の一つに数えられており、遠い昔から人々の心のより処となっていたことでしょう。私も、正月・節分・まつりの時などに、自分勝手なお願いをしております。

今も昔も変わらない境内は、楠で覆われ、真夏でも“ヒンヤリ”と“ふと”一休み。また一休みした後、境内裏の商店街で飲んだ「冷やしコーヒー」の冷たさに頭の天辺までくる痛みを我慢して涼を求めた方も多いことでしょう。

そして神社といえば、“まつり”。夏は太鼓枠が、秋には地車が大人も子供も自分が主役であるかのように、エネルギッシュに町内を所狭しと練り歩いていました。時代の移り変わりで、太鼓枠・地車の出なかった時がありましたが、地車保存会の人達の努力でふたたび地車が高瀬地域に戻ってきました。ヤッパリ地車は、“まつり”のムードを盛り上げてくれますね。

“まつり”は、今日必要とされている地域の連帯感を強め愛着心を育ててくれます。これからも楽しみと共に見守って行きたいものです。

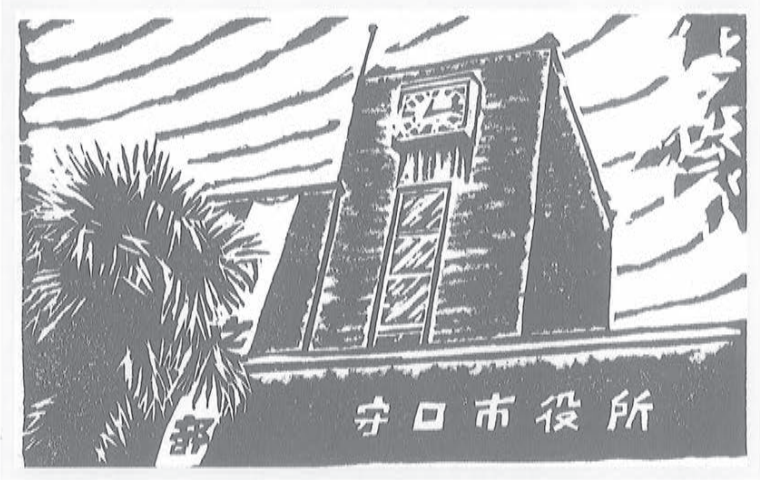
葭川　良太郎（高瀬町１丁目）

19

本庁舎（ほんちょうしゃ）

京阪本通２丁目

昭和２１年１１月、守口町と三郷町が合併。市庁舎を守口小学校の鉄筋校舎に置く。その後、市制５周年を機とした昭和２６年４月、現在地に移転。その後、昭和３２年４月、庭窪町と合併、現在に至っている。



南部　一郎

最近、市役所へ行かれた方はなんと古いわかりにくい庁舎であろうかと、思われた方は少なくないでしょう。

現在の地に市役所が移転してきたのは、戦後間もない昭和２１年、守口町と三郷町が合併して５年後の昭和２６年４月に守口小学校から移ってきました。

合併の話が持ち上がった時、新庁舎も話題になり、合併の話と同時に場所・規模の検討に入りました。合併については、両町の住民からさほど反対もなくスムーズに調整が進み、庁舎は、とりあえず教室に余裕があり、守口町役場が間借りしていた守口小学校に置くことになりました。



新庁舎は、当時全国でも数少ない鉄筋コンクリート造りで近代的な建物でありました。しかし統制下の中、鉄筋もセメントも配給制であり、中央関係官庁まで足を運んで配給を受けてこなければ工事を請負ってもらえなかった時代で、苦労していた事を思い出します。

その後、大阪市に隣接する本市では、急激な人口増加により庁舎も手狭となり、２号別館、１号別館、３号別館と順次増築し、渡り廊下でつなぐ現在の状況になっていますが、市民が“ふらっと”気軽に立ち寄れる新しい庁舎を早い時期にお願いしたいものです。

田中　清一（寺方元町３丁目）

20

１号線鳥飼大橋付近（ごうせんとりかいおおはしふきん）

大日町２丁目

昭和２９年、木製の橋から鉄筋の鳥飼大橋（当時は有料）が完成。昭和３０年に八島～枚方間の１号線が、さらに昭和４４年には中央環状線も一部開通。現在は鳥飼大橋からの寝屋川バイパスが１号線となり、さらにモノレールも開通し、交通の要となっている。



清田　初美

昔、夏になると子供達は、淀川の本流やわんどでよく泳いだものだった。その頃は、鳥飼の渡し船が大庭七番と鳥飼の舟つき場を往復し、人や自転車を運んでいて、鳥飼大橋はまだ架かってはいなかった。最初に木造の大橋が架かり渡し舟は廃止された。



この木造の大橋は砂利道で、人や馬車が往来し砂ぼこりがたちこめていたのを想い出す。その後、今ある鉄骨の大橋（北行きの府道）に造り変えられ、有料大橋になった。そして、有料も廃止され南行の大橋も完成した。千里丘での万博の開催にともない阪神高速道路が開通し、国道１号線も新たに開通した。道路網の整備により、鳥飼大橋付近の風景が一変し、自動車の渋滞が毎日続いている。夏には、子供が淀川で魚つりをしたり、泳いだりした、あの昔ののどかだった頃や、淀川堤防が旧国道１号線であったのが懐かしく思い出される今日この頃である。

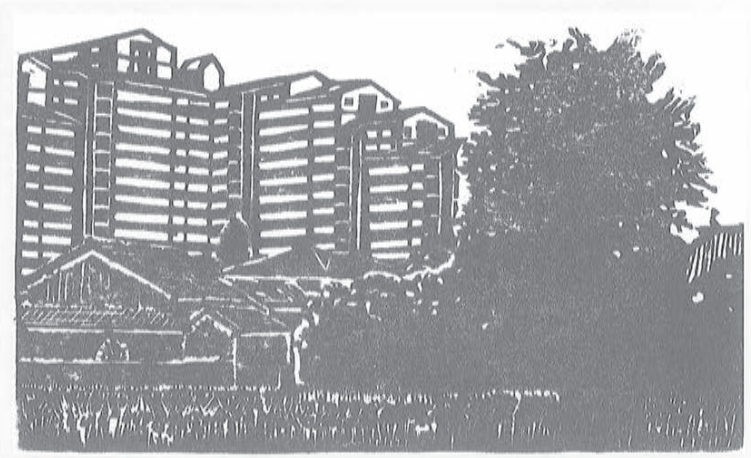
木村　久夫（大庭町１丁目）

21

町から街へ

外島町

市内で唯一自然を残す淀川河川公園と隣接し、元東洋紡守口工場跡地内約３３，５００平方メートルに、昭和６２年３月をはじめに斬新な建物計４棟、９７３戸が平成元年２月までに順次完成。あわせて図書室や中庭などが有機的に整備されている。



笹井　修

元は、東洋紡績の守口工場があったところで、私達が住むメイプルには、図書室や、広場や公園などがあります。まず、図書室にはマンガ本、紙しばい、童話、科学系の本、推理小説、ゲームの本、怖い話など、色々な本がいっぱい置いてあります。それに「アイデアポスト」という箱があり、その中にリクエストしたい本の名前を紙に書いてアイデアポストの中に入れます。すると、図書室にリクエストした本が入ってきます。次は広場です。広場は、サッカーや野球ができます。それに池があります。５時ごろまでは、小学生の子が多くて、５時になると、どこからともなく赤ちゃんや、２～４才ぐらいの子をつれた、色々な、お母さんが広場に集まってきて、子どもたちどうし遊ばせておいて、お母さん同士で、色々な事を話します。メイプルは全体がきれいな所です。このメイプルをもっときれいにしたいです。



鳥井　健笑（外島町，下島小５年）

22

佐太天神宮

佐太中町７丁目

菅原道真が太宰府へ流される途中、しばらく舟を繋いだところで、菅公死後の天暦年間（９４７～５７年）に菅公を慕ってほこらを建てたのが創建である。室町期には大庭庄の惣社として崇拝されるようになった。現在の社殿は永井尚政・尚庸父子や淀屋辰五郎の保護により整備、本殿は寛永１７年（１６４０年）の建立。



高松　真澄

国道１号線を北上すると右側に鬱蒼とした森が視界に入ってくる。大阪みどりの百選に選ばれた「佐太天神の森」である。正面の一の鳥居から林立する石灯篭に囲まれた参道を二の鳥居。赤門を経て社前に詣でた後、まず目を引くのが回廊上部に掲げられた天神絵巻である。この絵巻は当社に残る「佐太天神縁起絵巻」（市指定文化財）の中から、故鈴木渓泉画伯が模写したもので、御祭神・菅原道真公の生誕から太宰府配流までの精進努力と苦渋の日々や死後のたたりまでもが詳細に描かれており、参詣者に深い感銘を与えている。本殿は、寛永１７年（１６４０年）に再建したもので、江戸初期の建築様式を伝える建築史上貴重な建造物としての評価も高く、境内には由緒ある古事来歴を伝える石燈や石碑、句碑、石井筒のほか後水尾帝の勅梅などが点在している。また、「戎祭り」への参詣者も年々増加し境内を賑わしている。



提供：三森　定昭

岡　敏夫　（佐太中町６丁目）

23 テルプラザ

河原町

駅前再開発地の「トークティ守口」内にある。市民の集い、語らいの場としての文化センターと共に、住民と密着したテルプラザは、T．L．プラザで「TはＴａｓｔｅ、ＬはＬｉｆｅ」の頭文字をとったもの、"味と暮らしの品物で活気づく商店街" といった意味あいを込めて名づけられた。



吉川　サチ子

テルプラザが産声をあげましたのは、守口市駅前再開発事業に伴い全事業の完成をみた昭和６０年７月でした。この街づくりで、もっとも大切にされたことは、市民と市民のふれあい、市民の新しい街との出会いでした。市民のより豊かな暮らしづくりと、生活文化と交流の向上でした。テルプラザは、「T．L．プラザ」のことで、TはＴａｓｔｅ、ＬはＬｉｆｅの頭文字をとったもの。いわば「味と暮らしの品物で活気づく商店街」といった意味あいをこめて名づけられたと記憶しております。テルプラザのメインテナントである西友守口店との連携をはかりつつ、プリンスホテル．百貨店．体育館．文化センター．銀行などでなる「トークティ守口」の一角をになうテルプラザ。私共は、魅力あるショッピング施設として、多くのお客様に支持され愛されたいと念願しております。皆様のお越しをぜひおまちしております。

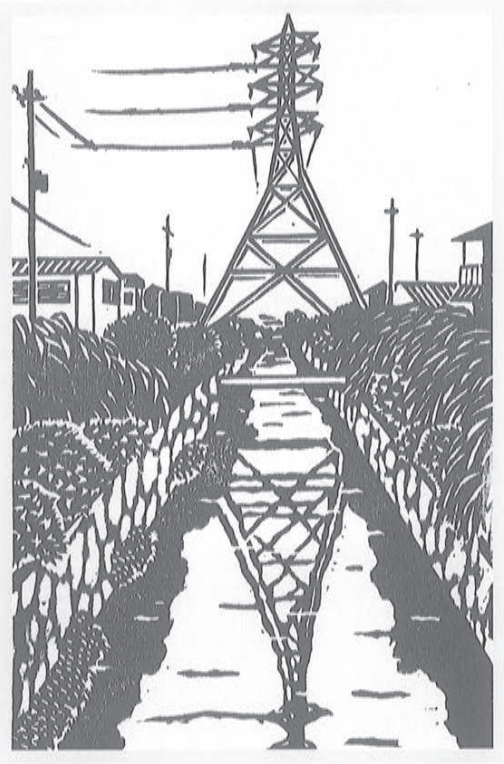


渡壁　義樹（河原町）

24 西三荘水路（にしさんそうすいろ）

菊水通１丁目

現在は鶴見緑地から天乃橋まで、西三荘ゆとり道として整備され、市民の散策うるおいの道となっているが、元々は都市下水路であり平成２年鶴見緑地で「花の博覧会」が開催されるのをきっかけに、下水道工事と共に、上部に蓋をしてその上に遊歩道を整備した。当時は水路の上を送電線が走っていた。



田中　靖治



西三荘ゆとり道として、花と緑の遊歩道が鶴見緑地まで整備され完成したのが平成９年９月。この鉄塔付近は最後の工事となりましたが、現在「花のゾーン」として道行く人たちの目を楽しませてくれます。

私の子供のころ鉄塔付近は一面は畑で、そのなかでひときわめだっていました。今は、まったくその面影もなくなってしまいました。

鉄塔がなくなる少し前までは、水路付近にも住宅が建ち並んでいましたが、初夏になると、水路から、まだ、うしがえるの声も聞こえていました。

夏が来るたびに、その鳴き声も懐かしく思える今日この頃ですが、休日には家族づれや、平日にはお年寄りや奥さんどうしなど、いろんな人たちが楽しそうにあるいているのを見ると、私もなんとなくうれしくなり、付近に住む市民として、いつまでも大切にしていきたいと思います。

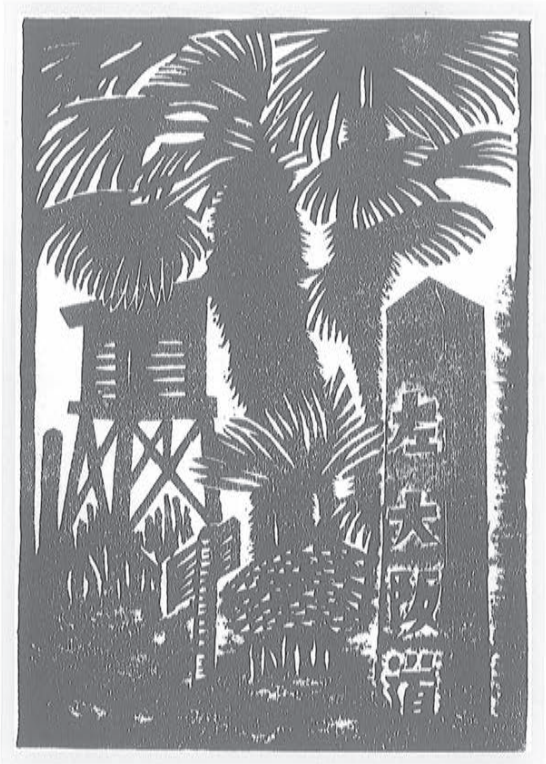
中川　一子（橋波東之町２丁目）

25

八雲小学校（やくもしょうがっこう）

八雲西町４丁目

昭和２７年（１９５２年）４月、大阪府北河内郡庭窪町立八雲小学校として新設開校。昭和３２年、守口市との合併により守口市立となる。小学校横の児童公園は昔は池で、学校造成時土を採取した名残りである。



岩見　正行



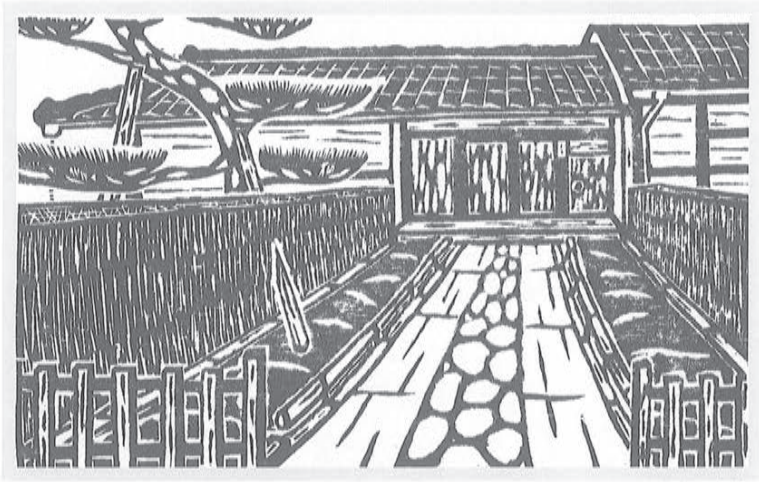
私が、八雲小学校に通っていたのは、昭和３０年代後半の人口急増期。木造の校舎が、鉄筋コンクリートの校舎へと次々に建て替わり、学校全体が大きく変貌している時期であった。学校の正門を入ってすぐの所に花壇が、まるで、小島のようにポツンと造られたのはいつ頃からだったか。その中に、由緒ありげにポツンと石づくりの「左　大阪」と刻まれた「道しるべ」があった。子供心ながら、古き歴史を感じたものだった。その花壇は今も残り、ブロックは学校の運動会の際、自分の子供をビデオ・写真撮影するための良き足場として活躍（？）してくれた。そして、やはり花壇の中で、その石柱は「道しるべ」として残っている。

板垣　均（大庭町２丁目）

26

福田邸（ふくだてい）

高瀬町４丁目



笹本　忠雄

高瀬神社まえから、高瀬川（現在、川は埋められている）に沿って南へ１００メートル程で世木村の中心部にとさしかかる。この辺から道の東側に大きな屋敷の邸宅を数軒見かけます。これが昔からの地主さん達の家々です。特に、広い庭に囲まれた福田さんのお宅が目立ちます。何代続きの家系かは知るよしもなく、予供心にも、いかにも由緒ありげな大きな家だなあという感じを強くいだきました。夏には蝉時雨（せみしぐれ）を降らす大きな古木。どっしりとした大きな母屋。中でも最も興味をそそられるのが正面入口より１０メートル程奥に建てられている長屋門です。地方の郷土や由緒ある旧家などに特典として長屋門が持つことを認められていたと百科辞典にも記載されています。この格式のある門も長年にわたる風雪に耐えてか、太い柱や扉の板面の木目が荒々しく浮き出して、今の時代の我々には到底想像もできない古き時代があったことを、長屋門を初めとして樹木に覆われた庭に囲まれた蔵や母屋などの建物全体が醸しだし、語りかけています。



岡田　元一（高瀬町１丁目）

27

大枝公園（おおえだこうえん）

東光町３丁目

この辺りには大きな池があり、京阪電鉄が土居から野江までを高架にするときに土砂を取ったところで、そのあとが池になった。日曜日にもなると釣り人が糸をたれ子供達が自然とふれあう絶好の遊び場でした。また、洪水の時には、雨水調整池の役割もあった。



熊谷　寿子

たまに散歩に出る時がある。土居商店街を南に歩き、高瀬神社を左に拝みながら少し歩くと中央市場前ロータリーに出る。平成６年にできた「高瀬川跡」で一息つくと、何となく大枝公園方向に足が向く。昔なつかしい道だ。今では１６３号線から内環状線に抜ける主要道路となり、車の行き来も多い。大枝公園につく頃には額に汗が滲む。大枝プール、青少年センター、市民球場と、子供たちが利用した懐かしい施設を見ながら昔を想い出す。私も今年で７１歳になった。随分と年をとったものだ。若い頃は花や緑を観賞する余裕すらなく働いた。今も元気で働いているが、公園の花や緑に心なごむことも多くなった。大枝公園の桜は特によい。植木市にも出かけ、気にいったものがあれば買って帰る。しかし世話をするのは女房で、私は観るだけの楽な役まわり。そのことでも女房には感謝している。今では大枝公園にはたまにしか行かないが、いつまでも市民の交流の場であり、憩いの場であり続けてほしいと思う。



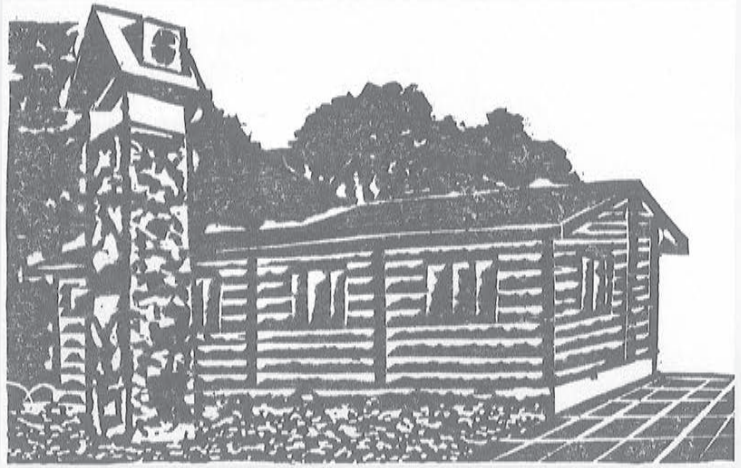
高橋　種太郎（小春町）

28

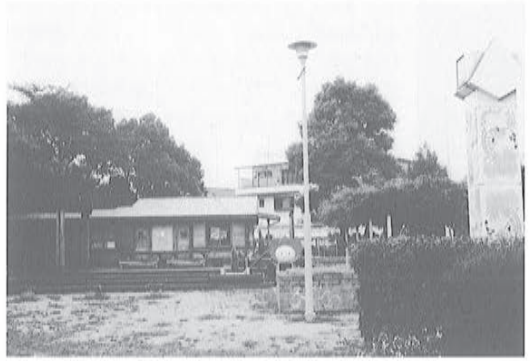
花図かん（はなず）

八雲北町１丁目

所在地は八雲北町１丁目、下島小学校が向かいにある。春には桜が新１年生を歓迎するかのように見事な花を咲かせる。園内にある「花図かん」は花博会場にあったログハウスを移設したもの。守口市の西北部淀川左岸の堤下に位置し面積１７，０００平方メートルの緑地公園として昭和４５年に整備された。



土田・博



児童遊具のあるゾーン・野球場のゾーン・築山のある緑のゾーン・草花造りのゾーンに分かれておりこれを管理する場所として平成３年８月に花と緑の環境に適したログハウスが建てられ現在職員１名、嘱託１名、アルバイト１名の計３名によって管理されています。２８年を経過した苗木も、大木となり枝を拡げ憩いの場所として親しまれています。また桜の木も多く、春には美しい花を咲かせています。昨年より緑化対策事業の一環として桜まつりが開かれ、今年は昨年以上の賑わいをみせ、ボランティア団体の協力で盛大に行われました。また、緑化グループも６１団体あり、職員の指導で草花づくりに励んでおられます。皆さんも一度下島公園に来て下さい。

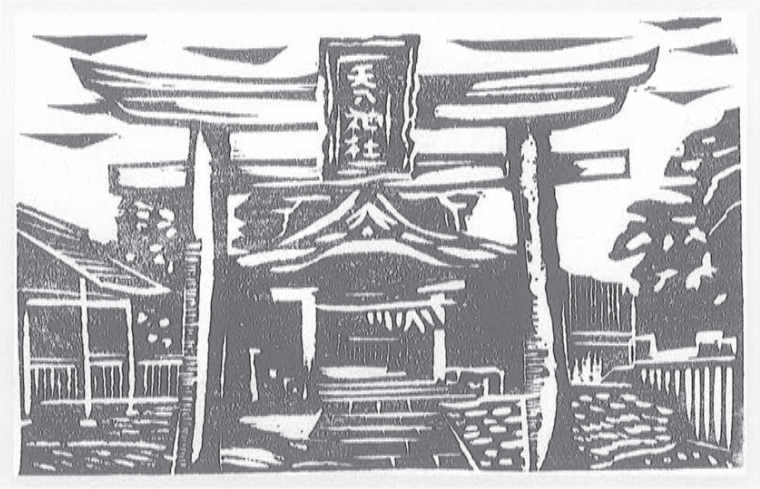
野口　定夫（八雲北町１丁目）

29

天乃神社（あまのじんじゃ）

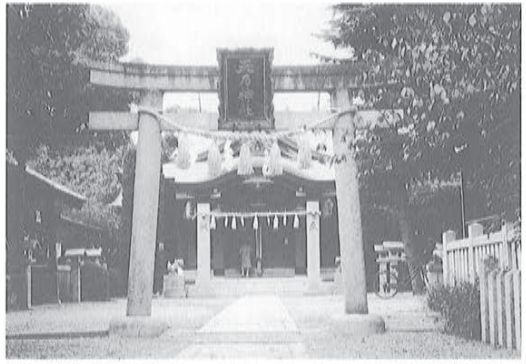
橋波東之町２丁目

祭神は素戔嗚尊・誉田別尊・菅原道真であり、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・宮とも呼ばれていた。寛文１０年（１６７０年）当地方を領有していた竹内門主親王によって祭神である菅原道真の木像を授けられ、社殿を再建したといわれている。旧本殿は桃山・江戸初期の特徴がある貴重な建造物。



岡野　達四郎

京阪電車の西三荘駅より南へ４～５分歩くと「西三荘ゆとり道」の「花のゾーン」の入口に到着しますが、その手前５０メートルほどのところに右へ通じる道があり、この道を入るとすぐのところに天乃神社があります。祭神は素戔嗚尊・誉田別尊・菅原道真公であり、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていました。正平３年（１３４８年）に四條畷戦で焼失しましたが、寛文１０年（１６７０年）当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を再建したといわれています。現在の本殿に安置されている旧本殿は、柿葺きの春日造で、桃山時代や、江戸初期の特徴がよく示されている貴重な建造物であります。また、境内には多くの梅の木が植えられており、春先には満開の花が参拝する人々の目を楽しませてくれています。また、元旦の初詣には、除夜の鐘とともに数多くの参拝者が訪れて、長い列ができて、参道の整理も行なわれる状態です。夏、秋の祭礼には、露店も並び、多くの参拝者を集めています。



樋口　ミツ子（西郷通１丁目）

30

庭窪小学校（にわくぼしょうがっこう）

佐太中町１丁目

庭窪小学校の歴史は古く、明治５年開校の郡学校にさかのぼる。その後、明治４１年庭窪尋常小学校となり、戦後の児童数の増加により、八雲小学校など５校に分かれ、現在に至る。



種池　博



北は淀川堤、南は旧１号線、西は新しくはモノレールが開通。それらに囲まれた庭窪小学校々区。最近では他校区からムーブ２１のプラネタリウムを見学に来る小学生をよく見かけます。そのムーブ２１の東方に小学校があります。校庭の北側、緑の芝生の上に、（昭和４２年当時）創立６０周年を記念してこの記念碑が設立されました。庭窪小学校教育の一大象徴「大志・健康・努力」の上に立って、その中心より力強く伸びていく無限の可能性をそなえた、たくましい人間像を表わしたものです。明治・大正・昭和と三代にわたる歴史と伝統を誇り、それを受継ぎ今後益々の進歩向上をと、皆の大いなる願いをこめて設立された記念碑。その「願い」は平成の今も変わりなく、記念碑と共に　庭窪小学校にあります。私共の祖父母・父・母・兄弟がそうであったように　私も…。そして我が子が今日も元気に通学しています。

阪本　英昭（佐太中町１丁目）

31

守口消防署（もりぐちしょうぼうしょ）

京阪本通２丁目

昭和２０年６月の空襲下、現在の守口消防署の所在地に大阪府城東消防署守口出張所が設置され、昭和２１年４月に大阪府守口消防署に昇格。昭和２３年に市町村消防制度が確立された。現在の庁舎は昭和３８年１１月に新築し、その後、昭和５６年までに３回の増改築を経て現在に至っている。



南部　一郎

京阪国道（１号線）を車がまばらに通っており、その間を多くの人が横断している。国道沿いに、木造の守口警察署があり、その隣には、守口には数少ない鉄筋コンクリートの守口市役所がある。道路を挟んで消防署があり、その横に鉄骨の火の見櫓が立っている。上には赤い三角帽の屋根の小屋がのっており、



そこへ行くには、むきだしの梯子を登って行かなければならない。小学生の私は、そんな梯子を登る消防署の人は勇気があるなと思ったものです。又火事の後には、必ず火の見櫓の途中から、ホースを干してあるのをよく見かけたものです。これが昭和３０年前後の風景です。その消防署も、昭和３８年に建て替えられ、４９年までは、人的監視により、火事をみはっていたそうだが、建物の高層化に伴い近代機器によって町の安全を守っている。その消防署も、発足して平成９年に５０周年を迎え、より装備を充実して、守りの安全を図ってくれている。

石井　雅敏（本町２丁目）

32

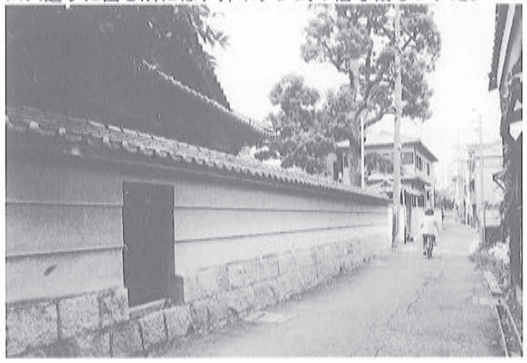
うらみち（梶町）（かじまち）

梶町２丁目



笹井　修

昔、庄屋さんだった旧家のうらみち＝狭い道巾＝を通ると段蔵や土塀があり、道の両側の家々の庭には大木が繁っていた。そのうらみちも　時代と共に様変わりし、今は自動車が通れるようになった。そして、バス通りに出る所には、押ボタン式の信号機もついた。



村中からその道への入口には、３０年ほど前まで、大人でも一抱えもあろうかと思われた、木の柱でできた「火の見櫓」があった。ある日、幼稚園入園前の我が娘と仲よしの２人が火の見櫓の天辺までのぼり、見つけられた近所の方が「もしもの事があったら」と声をかけることができなかったと言われた。思い出深い櫓も移転し、村の中から昔の面影が一つひとつ消えて行く。そして新しいものが生まれ発展する。守口市がいつまでも自慢できる町であることを強く望んでいる。

静永　照子（梶町２丁目）

33

守居神社の神馬

土居町

社記によると、延喜１８年（９１８年）の台風による洪水から人民を救うために、天道神の夢のお告げがあったので、土を高く築いて祭ったのがはじまり。祭神は素盞嗚尊で、三輪明神・日吉権現・新羅明神とも記されている。守口と土居の神社ということから守居神社と呼ぶようになった。



清田　義雄

守居神社が鎮座したのは、醍醐天皇の延喜１８年（９１８年）のことであります。爾来、千年を越える永きにわたって、戦乱・疫病・災厄を静め、御神徳は益々輝き、人々の信仰は綿々と続いてきました。昭和９年の室戸台風で社域が災禍にみまわれた折、氏子崇敬者は、境内地を拡張し、社殿の造営を進め、昭和１６年に現在の本殿が竣功し、諸施設が逐次竣成して今日に至っております。古くより、貴人たちは、神馬として、神社に馬を奉献しました。後に、人々は、神々への感謝の念を込めて木で馬を作って奉納したり、種々の願いを込めて馬を描いた額を献じたりすることとなります。これが、板立馬，絵馬と呼ばれるものです。そして守居神社では、昭和４７年敬神の念篤く、こよなく馬を愛する方が御神徳を感謝し、諸願満足，開運繁栄を願ってこのブロンズの駿馬を奉納されたのです。



江端　将哲（土居町）

34

寺方提灯踊り

寺方地区

守口市の郷土芸能であり、発祥年代は定かではない。昔は一子相伝、世継者のみで門外不出といわれ、虫送りの神事から生じたと考えられる。文化、文政の頃（１８０４～３０年）から盛んとなり、河内音頭や江州音頭に合せ太鼓を用いた囃子、提灯を片手に持つ独特な踊りは他に類のない珍しいもの。



高松　真澄

守口市の東南に位置する寺方地区には、古くから寺方提灯踊という全国にも珍らしい踊りがあります。寺方提灯踊は江戸時代の文化・文政の頃、今から１９０年余り前にはすでに盆の８月には踊られていたと文献にしるされています。踊りは一子相伝と申しまして、家督相続者だけに伝えられ、他村にもれる事を恐れ、納屋のすみなどで踊られた、秘伝伝授の踊りとされていました。一説では、寺方地区を初めとする１２ヶ村は湿地地帯で排水が悪く、霖雨でも田畑が冠水して、常に水害に悩まされ悪水樋を設けるため幕府に嘆願しましたが、下流村々から猛反対のため認められず、庄屋喜左衛門は寛永１１年（１６３４年）意を決して樋を築き、水害から田畑を救う事にしました。しかし、幕府の命令を無視したと言うことで、翌年２月１５日処刑されたのです。この義民の恩と霊を弔うために踊られたのが提灯踊りです。踊りは手踊りで始まり、途中から紅提灯を左手に持ち高くかざしながら乱舞させ、その提灯の灯を消さない所にこの踊りの特徴があります。素手は霊を拝む、または提灯は霊を送ることを表現したものといわれています。昭和４７年１０月「ＮＨＫふるさとの唄まつり」でテレビに紹介されてより、一躍有名になりました。



西村　誠（南寺方中通３丁目）

35

光明寺十一面観音

八雲北町２丁目

光明寺は真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年（８０６年）、空海の開基と伝えられている。もとは八雲神社の宮寺であった。本尊の十一面観音立像は守口市内に残る最古の仏像で身丈３尺５寸、一木造で国の重要文化財の指定を受けている。



高松　真澄



真言宗光明寺の本尊十一面観世音菩薩は、寺伝では行基菩薩あるいは、弘法大師の作と言われ、大正４年国宝に、昭和２５年重要文化財に指定されている。御丈３尺５寸、樟材の一木造で、ノミの冴えと、翻波式（平安初期の仏像に見られる、衣の表現形式。角味を持った波と、丸い波とが交互に規則正しく繰り返される彫刻）の彫法で、平安初期（弘仁、貞観）の特色を持ち、同時代の仏像の中でも特に優秀なものとして有名で、守口市を代表する文化財である。本堂正面の額に「施無畏」とあります。これは観音様の別名で、どんな畏(おそ)れも無くなる「無畏」を施して下さる。「１１面」これは１１の顔が様々な表情をしています。その日によって変化する私たちの心に合せて、導き救うために様々な表情をしているのです。

西端　良諦（八雲北町２丁目）

36

淀川暮色

新橋寺町



田中　靖治

何年前か忘れましたが、大阪に大雪が降った年がありました。その時、私はまだ小学生でした。朝、起きると横で弟が、最高の笑顔で　「お姉ちゃん、外見てみ」と言ったので、ねぼけながらも窓をあけると同時に真っ白な世界が私の目の中に飛びこんできたのです。さっきまで、ふとんの温もりが恋しくてしかたがなかったことも忘れ私は、ベランダの雪をかき集めました。すると、母が私と弟に「今から淀川に行こう」と言ってくれたので私たち家族は車で遊びに行きました。車から降りると、そこは緑におおわれた淀川ではなく雪におおわれた真っ白な淀川でした。つかれという言葉を知らないかのように遊びました。そんな感動もたったの一瞬、弟の呼び声で我に帰りました。外で遊ぶ機会がない今では、あの時の思い出は、私にとって、すてきなものとなっています。



元木　真実（大久保町４丁目, 大久保中３年）

37 カナディアンスクエア

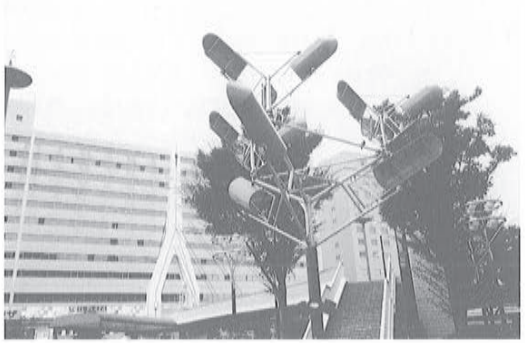
河原町

京阪守口市駅前再開発が昭和６０年１０月に完成し、市と区域内に建物を所有するテナント６社で構成する街の愛称を公募した結果、木尾良隆氏の作品「トークティ守口」（会話のある街）が入選。その街の中心は緑いっぱいの街路樹のカナディアンスクエア（人の広場）があり、市民の憩いの場となっている。



山田　耕治

京阪沿線に住んで２５年も過ぎました。初めて京阪電車に乗った私の印象…、なんて駅の間隔が短いのだろう、緑が少ないのだろう、と驚きました。しかし、この２０数年の間、守口の駅界隈も美しくさま変わりしました。新しいビルが立ち並び緑の木々が植えられ、それらが成長し、人工的なものと自然の木々との美しい共存が見られ、とても嬉しく思います。駅からかかる歩道橋のクリスタル橋からのながめは美しく、春先には木々が芽ぶき、花水木は枝いっぱいに花を咲かせます。また、アポロン橋の上には希望の鐘が四季のメロディをひびかせています。階段の下にはカナディアンスクエアの赤いモビールがゆっくりと廻り、そのまわりではハトと遊んでいる子供やそれをやさしく見守っている老人達…。人待ち顔の若者もいて人々の中に駅前はすっかり馴染んでいるようです。



津嶋　恭子（大久保町５丁目）

38 光明寺鐘楼（こうみょうじしょうろう）

大枝北町

この寺は、僧行基が建てた高瀬寺の子院と伝えられ、また、当地方に多い真宗寺院の最古のものと言われている。門前には、「存覚上人旧跡」の石碑があり、１３５０年南北朝動乱の中、存覚は光明寺を当地方教化の本拠とした。



駒井　峯子



京阪守口市駅から南へ３００メートル、百日紅（さるすべり）の並木道花博ロードに面した歴史を感じさせるお寺、これが光明寺です。

光明寺には、多くの老木があります。特に本堂の裏には、それは高く、大きく、たくましい柿がそびえ立ち。昔、この大枝いや三郷地域の何処からでも見ることができた柿は、地域の人々を勇気づけ、見守ってくれていたに違いありません。

しかし、子供の頃、このたくましい柿も時によっては、不気味な姿に見え、声が聞こえ、肝をひやして、耳を手で抑え、目は足元をじっと見つめて、家へ走って帰ったこともあります。これは、私が時間を忘れて日が暮れるまで遊んでいた時、時間を告げる鐘の音で家へ帰る途中、この柿が気をつけて帰りなさいといってくれていたのでは……と。

また、門をくぐると右手に銀杏の木、そしていくつもの株をもった老蘇鉄、大きな椰（ヤシ）の木が昔と変わらず本堂の前を落ちついた雰囲気にしています。

そして、幾多の時を刻んできた鐘楼が門の左側に静かに建ち、今にも時を刻む鐘の音が聞こえてきそうな感じがしてきます。

中畑　委子（大枝北町）

39

佐太天神宮水鏡の池

佐太中町７丁目

佐太天神宮は、菅原道真が祭神。道真が延喜３年（９０３年）２月２５日に没し、５０年後、道真自作の木像を神体として創建。道真が太宰府への途、この地にしばらく滞在し、木像と自画像を残され、その時、自画像を写す鏡として池の水をつかったことから由来している。



清田　初美

佐太天神の本殿の東側に菅公水鏡の池がある。社伝によると、菅公水鏡の池とは御祭神菅原道真公が筑紫へ左遷の途次、この池に御姿を写され、自画像を残されたのでこの名が生まれたと伝えられている。市街地に残された貴重な自然として「大阪みどりの百選」に選定され、守口市の保存樹林に指定されている天神の森の中に、水鏡の池がある。市内では、池が希少価値となった今日、この池には昔の自然がまだ残っている。池に関わる楽しみな自然観察としては、冬になり水が少なくなると白鷺や青鷺が訪れてくれること。６月頃になると池に住む亀が境内に這上がって来て産卵の準備をすること。夏場には食用蛙が独特の大きな鳴き声を聞かせてくれること等がある。この豊かな自然を眺めながら新たな自然に出会えることを楽しみに、今日も散策をしたい。



三森　定昭（佐太中町７丁目）

40

八雲だんじり

八雲地区

八雲神社は古くは三社権現といわれ、天保年間（１８３０～４４年）に再建され現在の社になる。旧八番村・北十番村・下島村・南十番村・八雲中町、各村々の地車５台が町なかを練り歩き、先を争って宮入りする光景は勇壮で貴重な民族文化である。



武田　敏男

河内名所図会には、八雲神社は「三社権現」といわれ、八番村と下島村との境界にあると述べられています。八雲神社の祭神は、牛頭天王（すさのおの尊）・八幡宮（応神天皇）・天満宮（菅原道真）の三神で、ここから三社権現といわれたとのことです。この八雲神社のお祭りは１０月１９日が宵宮、同２０日が本祭りでしたが、氏子が増えたことと、急激な都市化による生活環境の変化、それに子どもに至るまで氏子がすべて参加できるようにと、１０数年前から１０月の第３土曜日、日曜日に変えられました。八雲神社には、山車（だんじり）が八番、北十番、南十番、下島、八雲南の旧各村に１台ずつあり、今日までこれを維持し、継続するには、いろいろ困難なことがありました。それが今となっては、本市における貴重な文化財のひとつとなっているのです。山車は、宵宮の日の午後から町々を練り歩き、夕方宮入りをします。また、本祭りではパレード（旧１号線）もあり５台が一列に並び豪華絢爛です。夜には御神燈の宮入りがあり「練込提燈」という。御神燈は大の提燈４つ、小の提燈２つと６つの提燈があり、毛やり唄に鐘と太鼓を合わしながら練り歩き宮入りします。そして新しく氏子となった人々との連帯感を強め、綱を引いた子供達にとっても、成人した時の、良き思い出となっています。



大西　勇（八雲北町１丁目）

41

教会（きょうかい）

土居町



笹井　修

昭和２７年４月、大阪市旭区橋寺町で伝導を開始。当時は畳の教会と呼ばれた。昭和３１年７月芦澤光雄牧師が中心となり現在地に礼拝堂、牧師館を新築、移転。毎週日曜日には、日曜学校、礼拝が行われている。また、１０月第１日曜日にはバザー、１２月２４日の夜にはクリスマスイブ礼拝が行われている。正式名称は日本聖公会大阪教区守口復活教会。



初めて教会の存在を知った時、私はすでに小学生になっていました。生まれた時から近所に住んでおり、自分の縄張りのつもりでいましたが、いつも通る土居商店街の少し外れた所にあるため、全然気付きませんでした。神社やお寺はあちらこちらで見かけましたので、「守口（自分のまち）にもキリスト教の教会があったんや」と言う事実に強烈な印象を覚えたものでした。それ以来、少し遠回りしてでもその小道を通る機会が多くなりした。十字架が屋根に飾られている白い建物がかっこよく思われて、「大きくなったらあんな家に住みたいな」なんて子供らしい夢を抱かせる存在でした。年末になると、クリスマスのセレモニーだと思いますが、庭が華やかに飾り付けられており、参加出来ないのが残念に思ったものでした。クリスマスパーティだけに参加したいだけで、その高尚な目的を知らないままの子供の自分、勝手な考えで恥ずかしいものです。今、改めて眺めますと少し古ぼけたように感じますが、味わい深い建造物です。

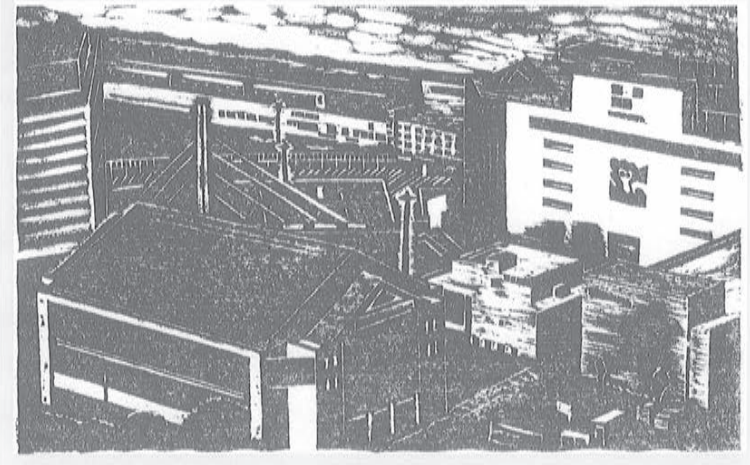
篠原　拓男（土居町）

42

駅前（体育館裏から望む）（えきまえ　たいいくかんうら　のぞ）

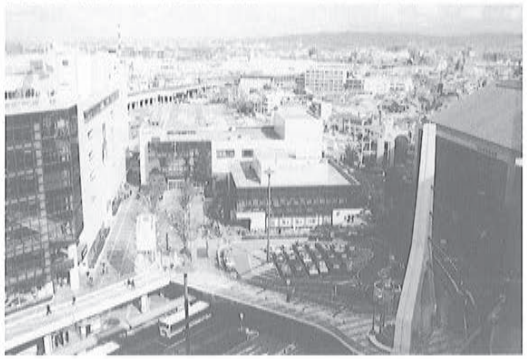
河原町

河原地区市街地再開発事業は旧京阪守口駅南側にあった京阪守口電車車庫や住宅、商店街を含めた３．６ヘクタールが再開発された。昭和４５年に調査開始、昭和５２年２月に都市計画決定がされ、昭和５８年３月から本格的な工事が開始し、その間京阪電車も高架化を並行して行い、駅前周辺整備も昭和６０年にすべて完成。



山田　耕治

私達のまち守口は、江戸時代から京街道の宿場町として栄え、明治末期の京阪電車の開通、昭和の京阪国道、大阪市電の開通を契機として、また松下、三洋の大手家電メーカーをリーディング産業として発展を遂げてきました。その中心であった駅前も昭和６０年の再開発に伴ない、京阪百貨店、体育館、文化センターをはじめ、プリンスホテル、トークティ守口の新設、そして京阪電車の高架化と大きく変わりました。駅前東口には市民憲章モニュメントがあります。また、同時期に、京阪百貨店と文化センターの境界裏に建てられた「愛の鈴モニュメント」を皆さんはご存知でしょうか。このモニュメントの下には、タイムカプセルが埋められてあって、２００１年には開封される予定になっていますが、それが今から楽しみです。



佐伯　忠雄（佐太中町１丁目）

43

地下鉄守口駅界隈（ちかてつもりぐちえきかいわい）

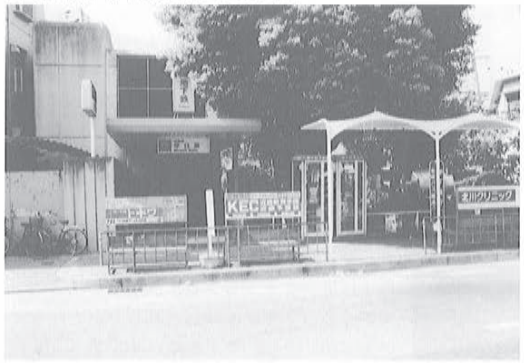
京阪本通２丁目

昭和５２年４月、大阪市営地下鉄：谷町線が都島から守口まで延伸。その後、昭和５８年２月、大日まで再延伸し現在に至っている。



泉谷　鈴雄

昭和４９年の春、地下鉄谷町線が守口市域まで延伸されたのを機に、以前まで京阪電車を利用していた通学路線を地下鉄に変更しました。



梅田まで２０数分、確かに便利になりました。お陰で今まであまり気に止めなかった周辺の街なみも、気ぜわしい朝夕の通学時にもおのずと目に入ります。まず、あいかわらず古めかしい小学校のような建物の市役所、これも毎日見慣れているうちに、夕刻、地下鉄を下車し、殺風景な地下道を通り階段を上がってまず目にとまります。その時、「ああ！守口に我が家に帰ってきたんだ」との実感を覚えるようになりました。
今ではこの周辺も、大・小のビルもどんどん建ち、日増しに大きく変貌していくようです。

谷尾　文孝（八雲中町１丁目）

44

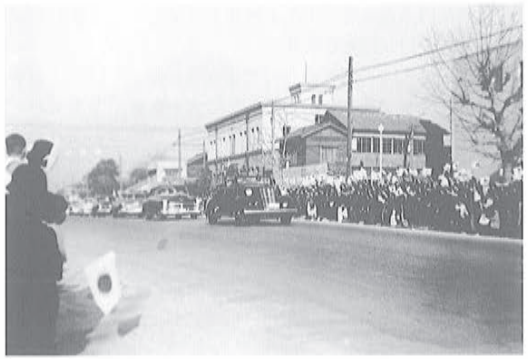
守口警察署（もりぐちけいさつしょ）

京阪本通２丁目



河田　能行

明治８年１２月１日、枚方警察署守口出張所として発足した。大正１５年７月１日、地方官制の改正に伴い守口警察署に昇格した。昭和５年１月２日、守口市のほぼ中心に位置する国道１号線沿いの現在地に鉄筋コンクリート２階建ての本館及び木造２階建ての付属庁舎が建設された。警察法の施行等により昭和２９年７月１日大阪府守口警察署となった。昭和３０年当時の守口署は、守口市、門真町、庭窪町など１市５ヶ町村、人口１０万余人の区域を管轄していた。その後、増・改築を経て昭和５０年８月１５日、現在の鉄筋５階建て地下１階の庁舎が完成した。以後人口増加と交通量の激増などの治安情勢の急激な変化に伴い昭和５２年４月１日門真警察署が新設され、守口警察署は守口市域だけを管轄することになり、現在に至っています。



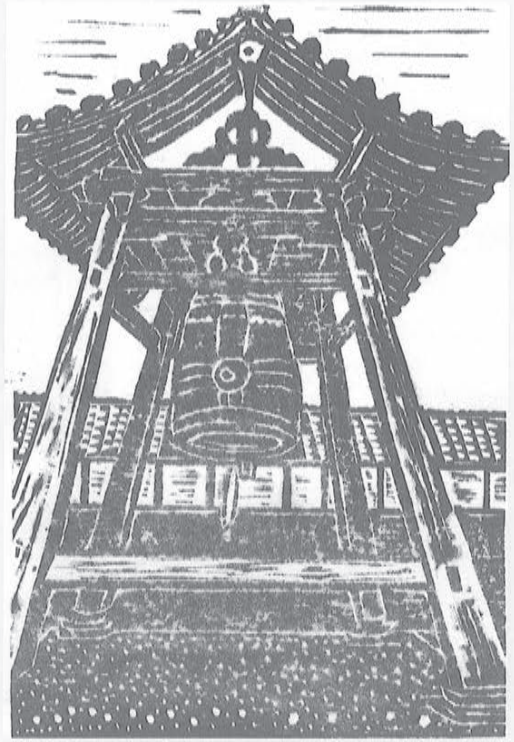
藤本　伊都彦（京阪本通２丁目）

45

梵鐘（ぼんしょう）

竜田通１丁目

竜田通にある雖宗寺の梵鐘で、この雖宗寺は文明９年（１４７７年）、蓮如上人が建てた守口坊が始まりと言われている。境内には大阪府指定天然記念物の樹齢約５００年の大銀杏（おおいちょう）があり、昔、このあたり周辺は本陣や問屋場があり、守口宿の中心地であった。



清田　義雄



私がまだ小さい頃、１２月３１日だけは夜遅くまで起きていても親に叱られませんでした。「紅白歌合戦」を見て「ゆく年くる年」が始まると、家族全員で家から５０メートルほどしか離れていない雖宗寺に除夜の鐘をつきに行きました。

近所の人達もぞろぞろと集まり、おしゃべりをしながら梵鐘の回りに並びます。

大人の人達と同じように大きな音を出したいと、毎年力一杯鐘をつきました。弟よりは大きな音が出ますが、父のように大きな音が出ず、来年こそはもっと大きな音を出してやるぞというようなことを考えていたことを思い出します。

昔はとても大きく感じていた梵鐘ですが、今見るとそんなに大きく感じないのは、私が大人になった証でしょう。今は仕事の関係で九州にいますが、小さい頃の様々な思い出の一杯つまった守口市が、やっぱり私の心安らぐふるさとです。

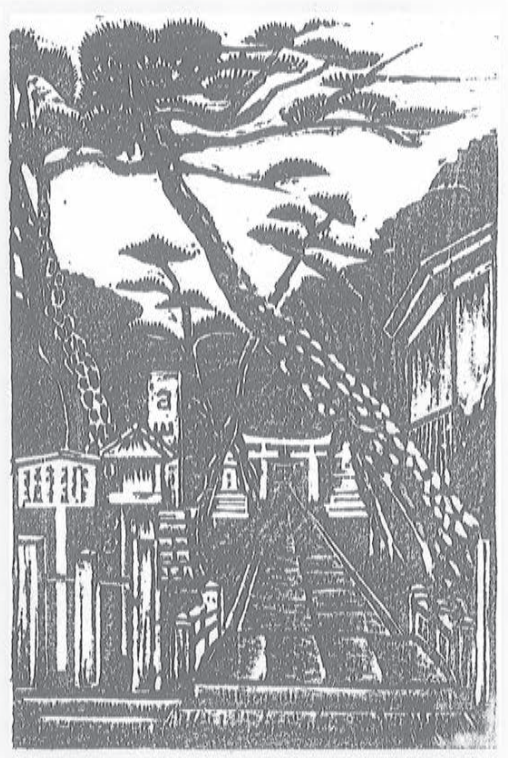
山村　謙（竜田通１丁目）

46

白山神社（しろやまじんじゃ）

大日町２丁目

河内名所図会には、「六番村田園のなかにあり今藤森という」とあることから、昔は田園のなかにあったと考えられる。現在の本殿は覆屋の中に一間社流れ造りの白山大権現、春日大明神の二殿が左右に並置され、江戸中期の建立と見られる。



蔵本　きみ子

昭和３０年代、私がまだ小学生の頃、白山神社の秋祭りにみこしの上に乗って太鼓をたたく人に憧れました。独特の衣装が子供心に非常に格好良く映り、「いつかはこの衣装を着て太鼓をたたくぞ」と心に誓ったものです。特に烏帽子が印象的でした。しかしながら、いつだったかの祭りでの喧嘩が原因で、このような形のみこしがなくなってしまったことが残念です。さて、１年を通じて私がおもちゃを買ってもらえるのはこの祭りの時だけでした。屋台がずらりと並び、その中におもちゃを並べた屋台が必ずありました。近所におもちゃ屋がなく、買うなら土居、千林まで行かなければならなかった私達にとって、本当に楽しみで待ち遠しいイベントでした。豊かになった現在でも、少しずつ形は変わりながら、この良き風習は受け継がれています。子供達がだんじりを引き、鐘と太鼓をたたきながら町内を練り歩く姿を見て、地域への愛着を感じています。



萩原　輝夫（佐太中町１丁目）

47

十三夜坂（じゅうさんやざか）

桜町

本町は、またの名を堤ノ町と呼び、ロータリーの陸橋（本町橋：昭和１１年の区画整理により架けられた）をくぐり、本町の桜通商店街から文禄堤に抜ける坂道。別名を月見坂とロマンチックに呼ばれた。陸橋のところに「船頭ヶ浜」という数軒の船頭の家があり、淀川筋の「船着場」であった。



岩見　正行

守口市本町に生まれて、５０年余りたちましたが、旧市街地の変りようには、ただ驚くばかりです。本町筋には、中島家や、魚満桜などの料亭があり、昔の町家が歴史の古さを思わす風景が瞼（まぶた）の奥に残っております。守口大根も発祥の地でありながら、今は安城市で栽培されています。私の小さい頃、旧市民会館前に農業用水があり、６月頃にはホタルが飛んでいましたし、鮒や鯉などの魚もよく取れ、今は少ないギンヤンマもよく追いかけたものです。本町通りは、地道でアスファルト舗装をしておらず、夕方、水をまけば涼しい風がすだれを通して家の中に吹き込んで来た想い出が今でも脳裏に焼き付いております。私の家の前は、坂道になっており、月見坂と呼ばれています。昔はこの坂から大阪湾に浮かぶ月を見ることができたので、月見坂と名付けられたと父より聞かされました。現代風に変化するのは世の流れかも知れませんが、何でも近代化するのはどうかと思います。



岡崎　喜昭（本町２丁目）

48

新しい街並（あたらしいまちなみ）

外島町



清田　初美

幼い頃、東洋紡のグランドで三角ベースをしたり、友達が社宅に住んでいたのでよく遊びに行ったものだ。広い敷地に立ち並ぶ社宅の間を走り回った記憶が今も鮮明に残っている。開発が進み、記憶のなかの町並が少しづつ変化して行くたびに幼い頃の思い出が一つ、また一つ消えていく淋しさを味わったものである。よく遊んだグランドのあたりは、マンションが建ち並び、走り回って遊んだ社宅の跡は大きな病院やプールなどに様変わりしてしまった。今、公園になったベンチに座っていると、幼い子供たちが楽しそうに走り回っている。彼や彼女達にとっては、今遊んでいる公園やスポーツプラザの大きなプールなどが幼い頃の心地よい「想い出」になるのだろう。



藤田　真由美（八雲西町１丁目）

49

西三荘ゆとり道

南寺方東通４丁目

鶴見緑地から西三荘駅の手前天乃橋までの約１．９キロに渡る西三荘水路の上に「ふた」をし、「国際花と緑の博覧会」を契機に、平成元年～平成９年度にかけて整備されたもので、緑と空間のゾーン、文化・教養、フィットネス、水、花のゾーンとに分かれ、四季おりおりの花木、草木も多く植えられている。このモニュメントは文化・教養のゾーンの音とかたちの道にある。



土田　博



私が６０年前ここに来たときは、田圃と蓮池そして水路があちらこちらにあり、建物は、野良小屋だけで遠くには生駒山の全景が展望できた、のどかな地域でありました。春はれんげに田植え、夏には蓮の花に子供のじゃこ取り、秋は赤とんぼに稲刈りと、今ではほとんど見る事のできない光景でした。この西三荘も昔は、魚が泳いでいるきれいな水路で、水遊びをした人も多い事でしょう。しかし時代の移り変わりにより、工場が建ち、人家が急増し、工場からの排水そして家庭からはごみが捨てられるなど、水路の水は汚れ、夏になると悪臭で困ったものでした。平成２年鶴見緑地で開催された「花と緑の博覧会」を機に、西三荘水路の整備が進み、ブロックごとに楽しめる工夫がされ、花と緑は四季を通して人の心を和ませ、また色々な形をしたモニュメントが配置されているのがまた楽しく、家族や友達と軽スポーツや散歩など健康に活用できる施設として多いに利用したいものです。しかし、犬の糞の始末など一部心ない人がおられる事は悲しい事ですな・・。

児島　孝義（寺方本通２丁目）

50

大枝公園

東光町３丁目

平成３年１１月、市制施行４５周年を記念して、大枝公園北入口に設置。このモニュメントは永遠の平和、ゆとりとうるおいのある市民生活、そして市の限りない発展への願いをこめて建立され、テーマを「創生」として、植物の種子から新芽が発芽する様子を「生命の活力の象徴」としてデザイン。



山中　淑詠



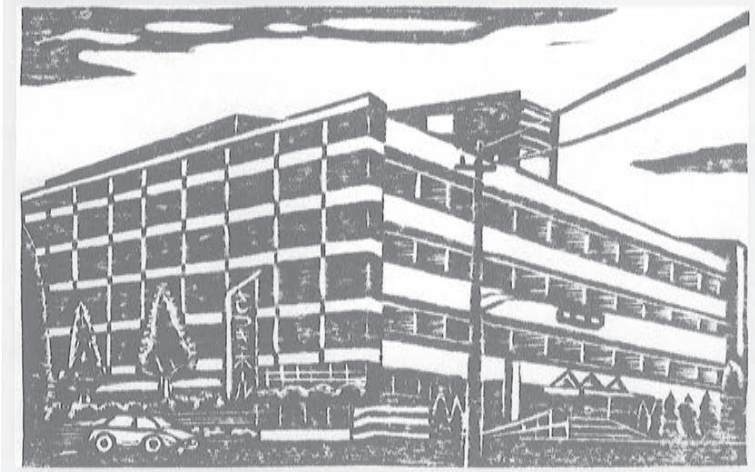
鶴見緑地で開かれた花の万博の北ゲートへ続く道。市民球場前でバスを降りると大枝公園です。この公園内に、１９９１年に建立されたモニュメントがあります。守口市民の希望、連帯、限りない発展をイメージして造られたそうです。上の金属の部分は、新芽、下の土台の部分は、根を表しているそうです。創作者は金井良輔氏。ブランコ、ジャングルジム、スベリ台等、遊具の、置かれている広場の一角に立っています。子供達の遊ぶ姿をじっと見守っているかのように……

山中　淑詠（大日町４丁目）

51 さつきホールもりぐち

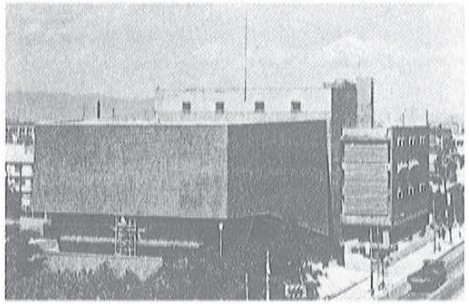
京阪本通２丁目

昭和４１年、現在の地に市民の交流、文化活動や催しの場として開館した市民会館も、２０数年の歳月を経て老朽化が目立ち始めたため、平成５年４月、大改修を終えて装いも新たにオープン。名称も「さつきホールもりぐち」となり、結婚式場はもちろん、披露宴会場、研修各会議室、広々としたロビーも完備。



高松　真澄

悪夢の昭和２０年２月１２日、第１回大阪大空襲。あと２ヶ月で終戦であった６月１５日に守口一帯が空襲を受けた。特に八雲地区の被害は大きく、報徳工学校、大森家、徳永家を含むかなりの民家が焼失し、妻の実家も全焼するといった悲惨な戦禍も５０年を過ぎた今日では知る人も少なく隔世を感ずる。市の復興を目指し、庭窪町との合併が昭和３２年４月、翌３３年８月に最初の市民会館（前の電子計算センター）が本町に完成した。８年後の昭和４１年１１月、現在の「さつきホールもりぐち」が完成する。産業経済、教育文化等あらゆる分野にわたり飛躍的な発展を遂げ、近代都市へ躍進する守口市のシンボルとして市民会館は市民の夢の実現に大きな働きをしてきた。第２の人生のスタートである結婚式は、１３０００組を越え、１０００人収容可能の大ホールでは、あらゆる文化イベントが繰り広げられ、各会議室においては市民の文化活動の場として幅広く活用され、現在に至っている。



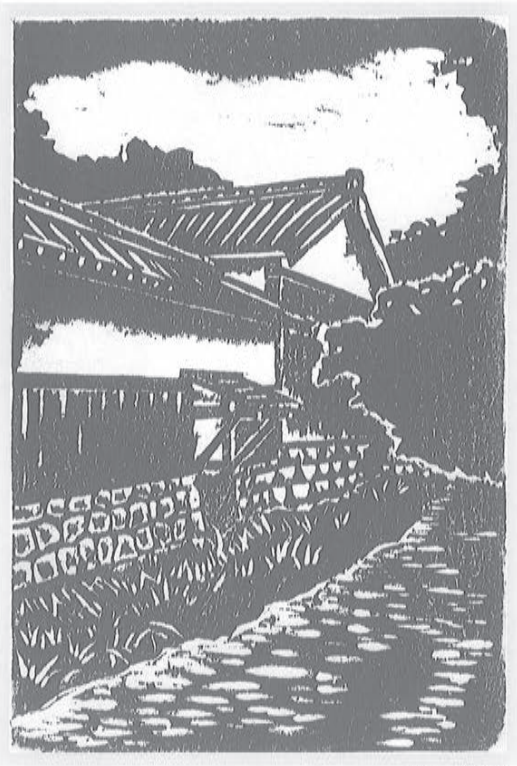
提供：小西　豊和

小西　豊和（淀江町）

52 梶町水路（かじまちすいろ）

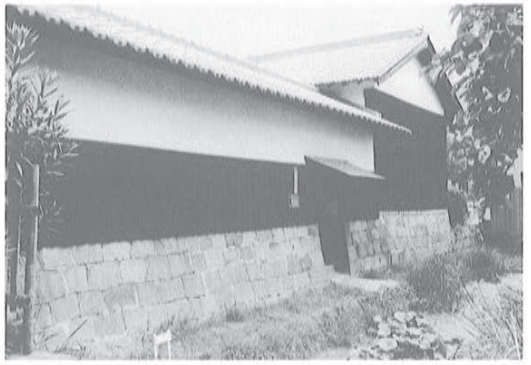
梶町２丁目

今では珍しい「ひなだ」（洗い場）が残っている。この名称の由来は雛祭りの「雛段」がなまって「ひなだ」になったとも言われてる。水路に沿って建てられた家々にはこの洗い場があって、そこで洗い物をしていた。



蔵本　きみ子

梶町の南方に幅約３メートルの淀川から古川橋の方へ流れている１本の用水路がある。白壁のある古い建物で、左右に石垣があり石段を七段程下りると、その用水路に出る。ここを「ひなだ」と呼び、語源はお雛様の「雛段」から来たと言われる。昭和の初期の頃には、この水は大切な生活水として用いられ、また灌漑用水であり、舟で農作物の運搬にも用いられた。川にはカラス貝や、カワニナがいて柳の下には、メダカの学校もあり、また夏には星空の下、川面を乱舞するホタルの姿も見られた。しかしよい事ばかりではなかった。この水のためチフスが流行ることもあった。やがて水道も引かれ、「ひなだ」の周辺は、アヤメ、カキツバタ、ハナショウブと季節の花が咲き乱れ、前には「ひなだ公園」が造られ、サクラ、ハクモクレン等道行く人々を楽しませてくれる。明治時代から愛されてきた「ひなだ」を次の世にも、またその次の世にも大切に残していきたい。



廣瀬　邦彦（梶町２丁目）

53

産須那神社（うぶすなじんじゃ）

寺方元町２丁目

祭神は菅原道真で、創建は室町時代前半。大坂夏の陣で全村が焼失した時、村民は産須那神社の神霊を土中に埋めて避難させたと伝えられている。また、拝殿には天保年間（１８３０～４３年）のものらしい「大神楽絵馬」がある。



高松　真澄



当社は、樹齢約３５０年の楠の木が境内を大きくおおい、鎮守の社として現在、寺方地域の氏神様として崇敬されている。ご祭神は菅原道真公で、御神紋は「剣先梅鉢」である。近年境内は氏子の方々の寄進により、稲荷社の朱鳥居が建立され、天神様のおつかいでもある神牛（撫で牛）が奉納され、正面には社名入の大提灯がかかげられ、立地条件もよく、氏子区域外からの参詣も多く、社名にちなんで「安産」とお祈りする方も増えている。夏の祭礼は、７月１９日，２０日、秋の大祭は、１０月２４日，２５日で、特に、地車が曳行され年々非常に賑わいをみせている。神社（お宮さん）には神が宿ります。人の生命は、母の子宮に宿り、産道（参道）をとおり、産声をあげます。一度、心静かに氏神様にお参りをしてはいかがですか。

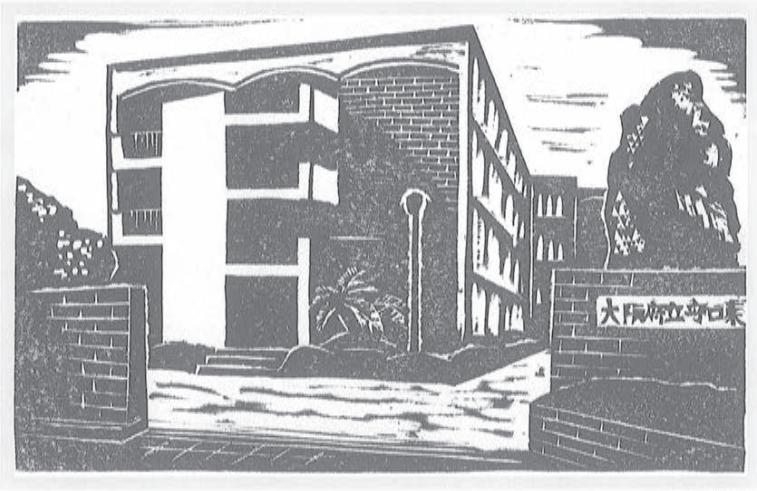
岡本　浩明（寺方元町２丁目）

55

守口東高校（もりぐちひがしこうこう）

八雲中町２丁目

昭和５８年４月、八雲中町２丁目の新神戸電機跡に、府立第１４３高校、守口市内で３番目の公立高校として開校。開校当時は体育館もプールなども未完成で、学内の施設整備は、第１期の卒業生が巣立つ昭和６１年頃にほぼ完成。



熊谷　寿子

私は家が守口東高校の近くなので、よく買い物に行く時、校門の前を通るので、部活をして汗を流している学生の元気な声が聞こえてくる。それを見るたび思い出すのです。私が通っていた時、高校生活の中で、ある一つの夢を持ち始めていた。それはミュージシャンになりたいという夢で、もちろん勉強もしなければならなかったが、守口東高校の先生方は夢中に校舎などで歌う私を見て、一生懸命になって応援して下さいました。そう、きっと本当に生徒達の夢や希望を、そして社会へ出て行く為に、一人ひとりのそれぞれの生きる道を真剣に向き合って考えてくれ、そして何よりも心と心で話をしてくれる先生方ばかりだったように思います。学生時代はいろいろと迷いや不安もたくさん抱いていましたが、未来という道の光を与えてくれるそんな私にとってはすばらしい学校です。今も私の心の支えです。守口東高校、本当にありがとう。現在通っている学生達も、きっとすばらしい道を歩む上でかけがえのない学生時代となることでしょう。



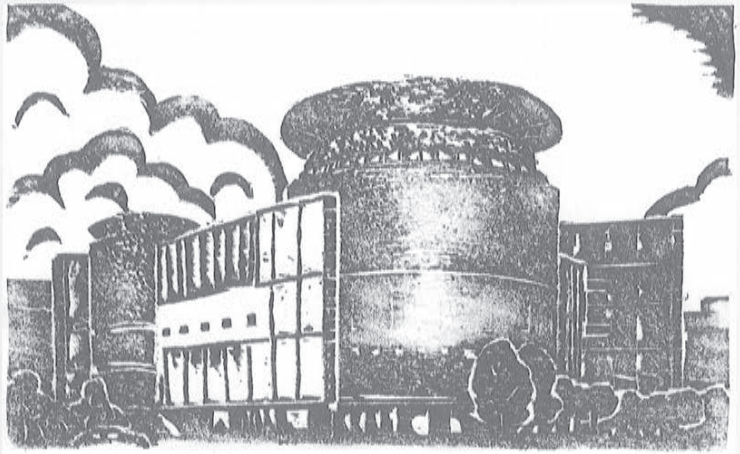
宮下　賢一（北斗町）

54

ムーブ２１

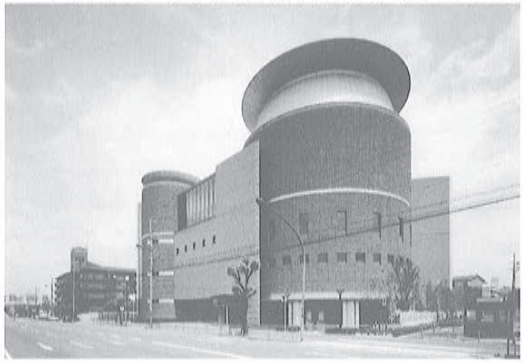
大日町２丁目

平成５年８月、守口市生涯学習情報センターとして開館し、愛称はムーブ２１。図書館機能をはじめ同時通訳設備を備えた会議室、多目的イベントホール、さらに最新鋭のプラネタリウムも備え、情報の発信基地として市民をはじめ多くの方たちが利用している。今年は開館５周年目を迎えた。



吉川　サチ子

市民のくらしと仕事に役立つ各種情報の発信と文化交流の拠点として建設された「ＭＯＶＥ２１」の愛称を持つ守口市生涯学習情報センターが開館したのは平成５年８月でした。ここにはプラネタリウムが四季おりおりの守口市の星空を満喫させてくれるので楽しみにしております。図書の利用は時間のあるときはゆっくりソファで読書をして帰りますが、時間のないときは電話予約をしておいてから貸出しを受けるなど忙しい私にはとても助かっています。



そのほか視聴覚コーナー、イベントホール、同時通訳設備を設置した会議室などの多彩な施設を備えており、全国的にもユニークなものだそうです。

また隣接する「大日公園」とを有機的に歩道でつなぎ、夜になると歩道が「天の川」を模してライトアップもされています。

さらにモノレールの門真への開通に伴い、市内の利用者をはじめ市外のみなさんにも、ご利用いただけるかと思います。

辻本　義昭（大日町３丁目）

56

春日小学校（かすがしょうがっこう）

春日町

昭和３２年４月仮称守口市立第７小学校として創立したが、守口小学校、滝井小学校の教室を利用しての授業であった。昭和３２年８月、校名を守口市立春日小学校と決定し、同年９月、当時の守口市立京阪高等学校があった現在の地に開校した。



駒井　峯子

今年で創立４１年の我が母校は、今も当時の面影を残しながら堂々として時を刻んでいる。今、改めて門の前に立つと、あの時堂々と見えた門が少し小ぶりに見える。私の子供達も今、この学校に通っているが、当時の私のように感じただろうか。この門の左横に桜の木が一本あるが、４月の入学式の頃には満開になる。そして、入学式には、花びらの舞うなか、新１年生が門をくぐる。その向こうには、うっそうと繁る楠（くすのき）と銀杏（いちょう）の木が体育館を包み込むかのように立っている。うすら覚えではあるが、この木々達の下にある小山を在校当時に土を運んで作った事がある。その時にこの木々達は植えられたのだと思う。樹齢は４０年以上だろう。学校の右横には、守口市立第３中学校がある。校舎と給食室が塀の役目を果たしてると言える。また、門を出て右へ、１００メートルも歩かない所に京阪電鉄土居駅がある。この立地条件の良さは守口一番ではないかと思う。



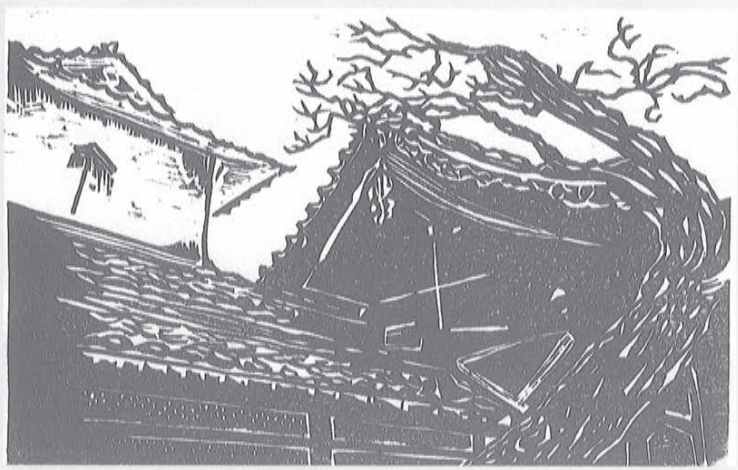
上山　正幸（小春町）

57

盛泉寺（じょうせんじ）

浜町１丁目

慶長７年（１６０２年）徳川家康によって、東西両本願寺に分離され、守口門徒の有力者も東西両派に分かれた。西派は本堂のある難宗寺に残り、東派は本尊を持って分かれ、盛泉寺を創建した。本堂は兵火や風水害を何度も受け、現在の本堂は天保６年（１８３５年）に再建された。



清田　義雄

江戸末期に建立され、明治天皇の内侍所とされていた盛泉寺。連綿と続く住職も現在１３代目で、御寺も本堂・御殿・裏庫・太鼓桜・鐘楼・井戸屋形・大門・小門等、往年の月日の間、訪れる人々に、その威容を誇っています。今日の新聞テレビ等マスコミで扱われるニュースには、暗い話題が非常に多いように思われます。そんな喧（やかま）しい昨今、本堂にむかい手を掌わせると、ふと無の心になり「心の時代」といわれる今をいかに大切にすべきかを解いてくれます。平成５年に新築された鐘楼で鳴り響く鐘の音が、とこしえに続く平和をうたっています。守口の名刹として誇れる盛泉寺。親鸞聖人の教え、それを知らない方々も、お寺を訪れ、心を癒す一時を過ごしていらっしゃいます。そして今日もまた、私も本堂にむかい合掌……。



中島　警子（神木町）

58

大久保町（おおくぼちょう）

大久保町２丁目

昔は、一面田圃と畑で、生駒山の頂上からすそ野までや、夜になると京阪電車の灯かりが見え、冬には片町線（現学研都市線）の汽車の汽笛が聞こえたりした。田圃は、絶好の遊び場であった。



田中　靖治

春はれんげ・菜の花が咲き、蝶々が飛び回ります。れんげ畑にゴザを敷き、近所の友達と一緒にお弁当を食べるのが楽しみでした。田植え前になると、水路の掃除を村人総出で行います。小鮒・モロコ・ザリガニがバケツ一杯取れます。田植えの季節には水路に水が流れます。笹舟と木切れのどちらが早いかレースをし、流体力学の勉強をしました。夏には蓮根畑に蓮根の花が咲きます。蓮根の花が散ると蓮根の実（ばんちょ）を採って食べます。ほんのり甘くおいしいのですが、とうが立つと苦くて食べれません。秋は稲の刈り取りが終わると大きなグランドが出現します。ここで野球やサッカーをするのですが、切り株につまづいたり、ボールがあっちこっちに跳ねたり、これがなかなか面白い。晩秋になると、籾殻をあちらこちらで燃やします。この中でサツマイモを焼くと、最高の味。冬になると、わらを円筒状に積み上げた『じんどう』が４本集まった空間は最高の秘密基地になります。この中で自分が『地球防衛隊長』になった気分で、色々空想したり、木切れを持ち込んで自分の部屋を作り悦に入っていました。泥だらけになって遊んだ田圃も昭和４０年頃からの宅地造成で激減し、現在は住宅地の間に田圃が点在するようになり、子供達が遊ぶ姿も見られなくなり、時代の変遷を感じます。



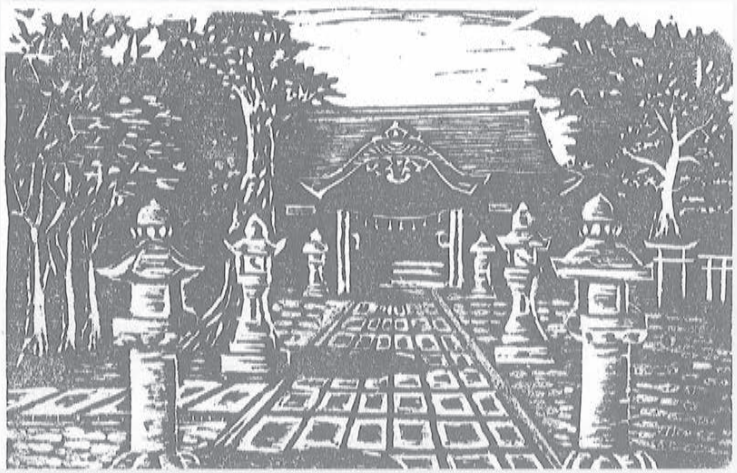
砂原　廣治（大久保町２丁目）

59

津嶋部神社（つしまべじんじゃ）

金田町６丁目

高瀬神社と共に「延喜式神名帳」に記された由緒深い神社（祭神は津嶋女大神・素盞嗚尊、菅原道真です）で元和元年（１６１５年）５月、大坂夏の陣の兵火で社殿が炎上したと伝えられ、その後、幾多の再興が行われてきたが、元禄年間（１６８８～７０４年）に再建された社殿は、現在の社殿と同規模で相当大きく当時の隆盛がうかがえる。



高松　真澄

私達が住む地域の、氏神様は、守口市(旧庭窪の５ヶ村)と、寝屋川市(旧９ヶ荘の２ヶ村)の、７ヶ村にまたがる広範な地域に約５００戸の集落が点在し、年に一度の秋の大祭には多くの参詣者により、賑わいをみせるのどかな田園風景の村でした。また、当時は行きかう車なども少なく、祭礼の宵宮、本宮には７ヶ村から夫々村人達が持つ幟を先頭に、長提灯数基が粛々と行進、続いて数多くの青年団員に担がれた大太鼓がリズミカルな伊勢音頭の掛け声で道中所狭しと練り歩き、躍動感溢れる暴れ太鼓を披露しながら、宮入りを済ませます。境内に入れば７ヶ村が所定の場所に幟、提灯、大太鼓を置き勢揃いし一斉に鐘や太鼓の囃で賑々しく祭礼気分を盛り上げる様子は壮厳にして豪華そのものでした。しかし、この光景は昭和４０年頃を境に、各地域では住宅が建ち始めた事から状況が一変、交通量の激増など諸々の要因が派生しその勇姿を見ることは望めなくなりました。最近はいづれの神社でも祭礼につきもののだんじり囃子に囃されて賑わいを見せる、だんじり曳行が日本人の心に通ずるものがあり、また地域住民の触れ合いの場として脚光を浴び年々盛大になって参りました。ご多分に漏れず当神社でも２～３基のだんじりが地域の役員や子供達により曳行され祭礼のムードを盛り上げています。私達が本当に何気無く過ごしてきた風習の中で古き良き時代の思い出と歴史を持つ大切な什物（幟、提灯、太鼓）を子供から孫へと後世に永く保存継承していただきたいものと思います。



提供：石橋　勝彦

地原　克己（金田町６丁目）

60

専隆寺（せんりゅうじ）

佐太中町５丁目

浄土真宗大谷派の寺院で、庭窪地区では２ヶ寺しかない数少ない大谷派の寺院。無銘ではあるが、きれいな蓮の紋様のある喚鐘が目を引く。



服部　昌之

守口百景の題材を求めて守口市内を自転車・車・歩いてと東へ西へ…この日は車を別のところに止め、１号線バイパスから斜めに西へ小さな運河にそって狭い道を歩いていると、右にこじんまりとしたお寺（専隆寺）があり、足を止めて本堂を見ていると作品にと思い写真を撮って帰り彫ってみました。今、お寺に出向き資料とか寺にまつわるお話とか聞けないかとお伺いしたのですが、お寺の話ですと、住職様が何人も変わっておられ、お寺についての資料は何も残っていないそうです。今回伺って感じたことですが、前回伺い作品にした時の本堂は古い瓦でしたが今は新しい瓦に葺き替えられていました。新しくなった本堂を見ていると、古い町並みを残す佐太中町もいずれは新しい町にと変わって行くのではと思いながら寺を後にしました。



服部　昌之（外島町）

61

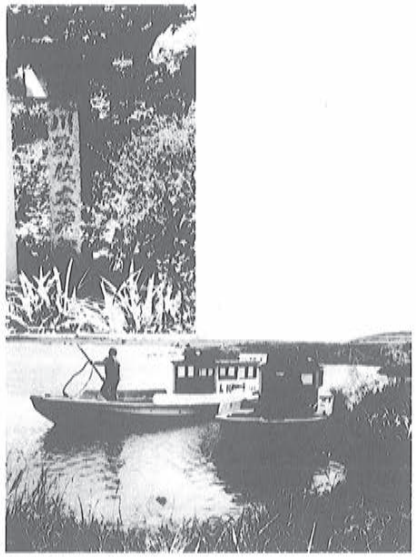
佐太の渡し跡

佐太西町２丁目

淀川の堤に上がる左角に「淀川筋佐太渡船場」と刻まれた石標があり、ここから川向かいの鳥飼へ船で渡っていた。昭和の初めに府営となり、昭和４８年９月淀川新橋の完成にともなって渡しは廃止された。他にも下島、七番の渡しがあった。



山中　淑詠



提供：中田　正

佐太は古くから京街道に沿って、枚方守口の間の宿として栄え、佐太へ来れば何でも揃うということで、近在の村より買物に来られたそうです。つい最近まで、風呂屋，茶碗屋，樽屋等の屋号で呼ぶことが通用していました。佐太といえば佐太天神・来迎寺・陣屋跡などの史跡と共に川向いの摂津へ渡る道筋として、佐太の渡場がありました。この渡場は歴史が古く慶長年間（１５９６～６１５年）大阪冬の陣の折、片桐且三が大坂城より高槻へ帰る時に、この佐太の渡しを渡ったと伝えられています。私も子供の頃、この渡し舟に乗って、お盆の精霊を淀川へ流した懐かしい思い出があります。この渡しも昭和初期頃は艪で漕いでいましたが、その後、発動機になり摂津市へ渡る唯一の交通機関として栄えていました。昭和４８年淀川新橋の開通により閉鎖され、今はその昔渡しの世話をしておられた西村家の前庭に「淀川筋佐太渡船場」という石標だけが昔の面影を残しています。

生駒　善一（佐太中町７丁目）

62

来迎寺の松

佐太中町７丁目

現在来迎寺は浄土宗知恩院の末寺で、元は大念仏宗佐太派の総本山。創建は大念仏宗中興法名明上人の弟子実尊誠阿上人西願が正平２年（１３４７年）に下仁和寺庄守口村に一宇を建立したのが始まりといわれている。しかし住職が代わるたびに本堂を移し、延宝６年（１６７８年）永井家より現在の寺地を賜り定堂となる。



服部　昌之

来迎寺が佐太中町に本尊を移してから３２０年程経つそうですが、門をくぐると真っ先に視界に入ってくる松の樹は、一説では樹齢５００年とも６００年とも言われているそうです。松の皮が亀甲のような形になっているのが特徴で、このような形になるのは非常に古い証拠だそうです。見るからに迫力があります。確かに近くにある松の皮はこのような形にはなっていません。



長い間根を張り続けてきた松ですが、現在は幹の中ががらんどうになっているそうで、お寺の方も幹が腐らないように穴をふさいだり、肥やしをやったり、お酒をかけてやったりと、愛情をかけておられます。国の重要文化財とされている「絹本著色八幡曼荼羅図」や大阪府指定有形文化財の石造十三重塔、そして、あの「幽霊の足跡」で有名な来迎寺ですが、この松も素晴らしく、必見です。

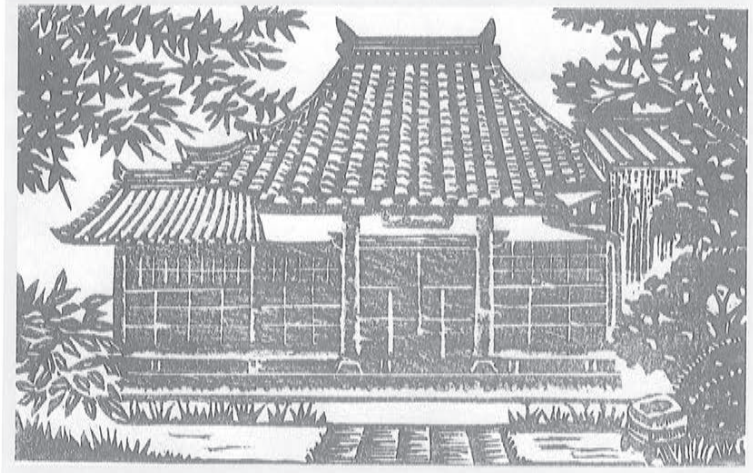
景山　純一（高瀬町５）

63

菅相寺（かんしょうじ）

佐太中町７丁目

平安時代中期の創建と考えられ、かっては境内も広く７坊あったうちの一つと言われ昔から佐太天神宮の宮寺であった。本堂は慶安４年（１６５１年）に再建されたもので、市内の仏堂建築としては最古のものである。また、境内の石製露盤も、鎌倉時代の貴重な逸品。



三垣　博美

菅相寺は、山号を香林山、院号を玉蔵院といいます。開基創建は、本尊十一面観世音菩薩が平安時代中期承暦２年（１０７８年）の作であることから同時代の創立と考えられます。天正８年（１５８０年）佐太天神宮再興時から宮寺となり、奥院といわれていました。菅相寺の寺号も佐太天神宮の祭神である菅原道真の別名が、菅丞相と尊称されるところから菅相寺の２字を取って寺号としたものです。



創建当初は、真言密教の寺でしたが、正保元年（１６４４年）に徳川幕府、譜代の淀城主永井信守尚政が、宇治興聖寺から萬安禅師を招いて御開山として、禅宗曹洞宗に改めました。

以後菅相寺は、永井氏の菩提寺となり尚政から９代にわたって永井氏の庇護を受けてきた関係上近在の他寺と異なり、最近まで檀信徒の無い寺として過ごしてきました。

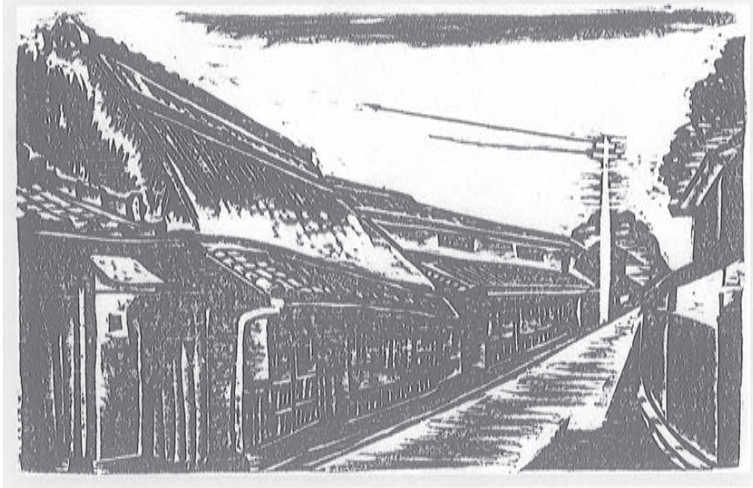
白井　紘（佐太中町７丁目）

64

京街道（きょうかいどう）

浜町１丁目

秀吉が造った文禄堤の堤防の上に家康が整備、江戸時代は大名行列も通り大阪～京都を結ぶ大切な道であった。守口（宿）では祝町から文禄堤をのぼり本町橋を通って竜田通に、難宗寺の道標に従って浜町へ、瓶橋の刻みのある橋柱を後にして１号線を渡り、一里塚跡の碑を通り水道局前を経て淀川の堤防へ。



三垣　博美

我がまち浜町は、東海道５７次の最終地点「守口宿」。昔からの旧街道でございます。市の公共施設、市役所、消防署、警察署、小・中学校のある中心地に隣接して、東西の御坊もございます。交通の便もよく最高の街並だと思っております。高いマンションがあちこちに林立します昨今ですが、１００年以上の建物は自宅だけではないでしょうか。夏は涼しく住めば都と申します様にとても愛着がございます。レトロのすきな私は守口で生まれ育った幼い頃、あちらもこちらも田ばかり、蛙が鳴き畦道には可愛いレンゲ草が咲いておりました。しかし今では立派な街に成長して参りました。なお一層、古い歴史のある守口が大きく２１世紀に向ってはばたいてほしいと願っております。高齢社会の進む今、色々と不安もございますが、心を広く、丸い心で助け合いながら年を重ねて参りたいと存じます。



野口　和子（浜町１丁目）

65

メイプルパークを望む

八雲北町１丁目

市内で唯一自然を残す淀川河川公園と隣接し、元東洋紡守口工場跡地内約３３，５００平方メートルに、昭和６２年３月をはじめに斬新な建物計４棟、９７３戸が平成元年２月までに順次完成。あわせて図書室や中庭などが有機的に整備されている。



田中　靖治



ぼくの住むマンションは、春に近くなると、花いっぱいの楽園になります。例えば、かわいいうめや、ピンク色の、まんかいの桜がさきみだれます。７月になると、競うように、セミがなき、空には、トンボが、あふれるように、飛んでいます。秋には、実が、たくさんなって、小さな子が、よく遊んでいます。このマンションは、他に、けしきもいいです。夕方、ていぼうに出てみると、とってもきれいな夕日が、見えます。この夕日は、日によって、きれいさが、ちがいます。雲が流れ、夕日に、近ずいていくようにもなります。これからも、こんな緑があり、けしきがいい、マンションで、住んでいきたいです。

小原　圭司（外島町６丁目,下島小５年）

66

高瀬の街並み

高瀬町４丁目



駒井　峯子



きょうは、守口をあまり知らない私は、自転車であちこちを探索に出掛けました。いつも走っている道から一歩中へ一歩中へとカメラを肩に、自転車のカゴにはスケッチブック。京街道、守口街道などなど。そして高瀬の方に来ました。一瞬、おやと感じました。以前京都に住んでいた時感じた暑さの中にもひんやりとした空気。右左が木塀の中を走ったのです。そこが高瀬の裏街道、車の音も耳に入りません。自転車が似合うところでした。子供の頃、路地裏で遊んだ石けり、缶げた、陣地取りをなつかしく思い出させてくれる街。今は子供の声が聞こえないのが淋しいかぎりです。

駒井　峯子（大枝西町）

67

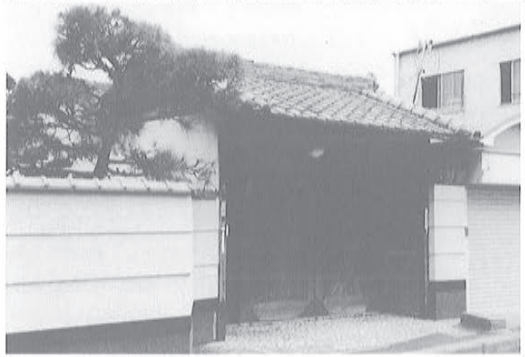
寺井邸（てらいてい）

寺方元町３丁目



南部　一郎

いつの頃か不明だが、現在と同じ敷地の東側に門があった。祖父が丈夫で長持ちするという考えで欅（けやき）の門にしたらしい。実に古めかしいと言う印象だけが残っている。当時の入母屋の我が家も古くなったので、親しくお付合をさせていただいていた中西一有さんのお父さんに昭和２４年、同じ形態で建ててていただき現在に至っている。５０年経過した今も、補修箇所もなく満足している。家の西側が当時、南寺方から大枝に向って川が流れていた。「ひなだ」（石段のある洗い場）からよく舟に乗って遊んだのを憶えている。それが昭和３０年代に入り、暗渠（あんきょ）となり道路も広く、そして舗装されたのを機に門を西側に移した。欅の一枚物の門を作りたいと思い、福井県に何回となく足を運び、気に入った物をみつけて作って貰った。西日が当っても割れる事なく現在に至っている。



寺井　正治（寺方元町３丁目）

68

弥治右衛門記念碑（やじえもんきねんひ）

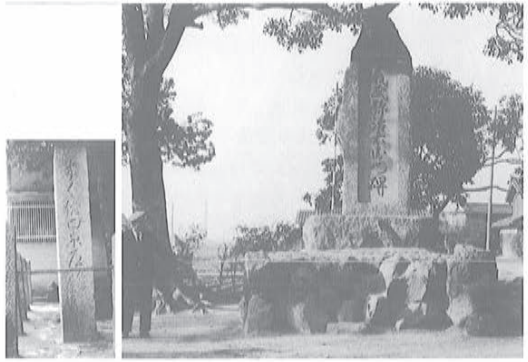
藤田町３丁目

藤田村は水はけが悪く、稲の水腐れ被害が毎年のようにおこっていた。慶安元年（１６４８年）、藤田村の小泉弥治右衛門は村民の被害を取り除こうと幕府の許可なしに排水樋を造り、幕府を無視したと弥治右衛門一家は処刑された。村民たちは犠牲になった弥治右衛門を後世に伝えるべく俗名を刻んだ道標を造った。



山田　耕治

今は家がぎっしりと建てこんで、見渡す限り田圃であった風景は失われているが、この弥治右衛門碑のある一画だけは昔の面影を残している。ここに立つと幼いころの自分の姿がまざまざと浮かんでくる。大木の緑陰があり、清らかな水をたたえた水路がこの辺りでは急流になっていて、夏には子どもたちの絶好の水遊び場であった。この水路は梶町から古川へと連なっており、魚もたくさん泳いでいた。電線を入れて感電したウナギを捕らえたことも覚えている。私が小学生であったころは古池があった。後にこの池は埋め立てられ、その際に人の骨が出てきたので、弥治右衛門にゆかりがあるかもと、そこに今の墓を建て葬られたと聞く。現在も毎年３月２１日に行われている弥治右衛門祭だが、近年は形式的になっており、寂しい限りだ。往時は近隣の小学生も先生に引率されて参列し、にぎやかな催しのなかで弥治右衛門の業績を聞き遺徳を偲んだものである。今の小学生たちは弥治右衛門という名前すら知らないのではないかという気がする。少なくとも守口市の学校教育の中ではぜひ取り上げてほしいと思う。



吉田　弥三郎（藤田町３丁目）

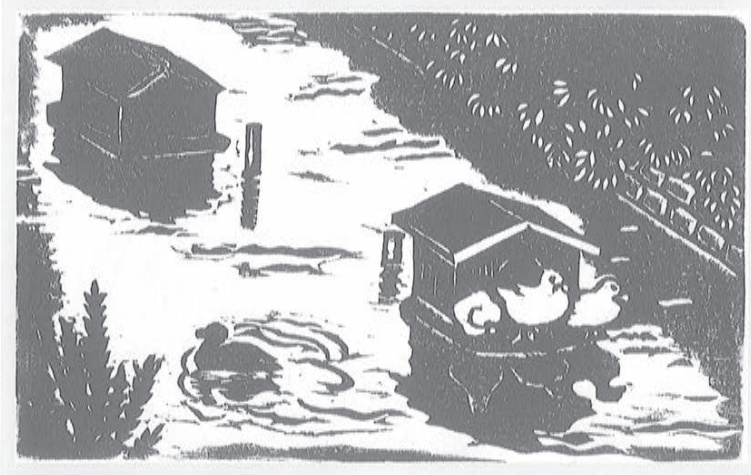
取材：若津　博一　（藤田町５丁目）

69

佐太中町水路（さたなかまちすいろ）

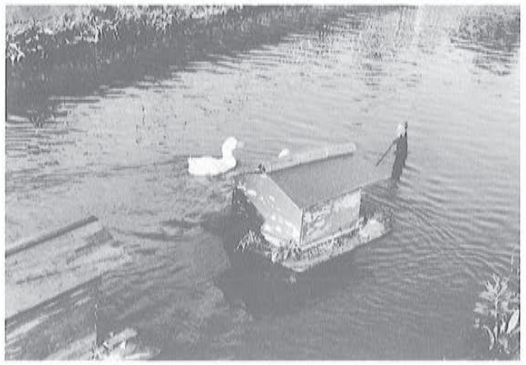
佐太中町１丁目

北河内地域等の用水路整備ため、昭和２７年から３５年に府営淀川左岸用水改良事業が行われた。その一つとして、枚方の伊加賀から寝屋川、守口を経て城北運河へ至る水路がこの水路である。市内では、佐太天神宮北側からメイプルパーク南側の阪神高速道路下を流れ緑町へ。



蔵本　きみ子

私が、この庭窪に嫁いで早や２３年が過ぎようとしています。家からほん近くにあまりきれいでない運河があります。いつから住みついたのか定かでありませんが、アヒルさんがいます。また、いつの間にかアヒルさんの家が出来ました。小屋の中に卵があったり、カルガモの親子が列をつくり泳ぐ姿も見かけます。色々な人達が足を止めて眺めているのを見ると、そこを行きかう人々の心を和ませてくれているんだなあと、つくづく思います。アヒルさんを通して、自分より小さい生物に対する思いやりの心、善意でお世話して下さる方への感謝の気持ち、少しでも住みやすくする為に自分の出来る事、幼い息子に語り聞かせた頃が走馬燈のごとく脳裏にうかびます。『ガアガアさん見に行こか？』ぐずっていた息子に言うと満面の笑みを浮かべたっけ…。今も昔も変らない情景をまの当りにすると、なぜかほっとするのは私だけでしょうか!!



椎木　順子（大日町４丁目）

70

唯称寺（ゆいしょうじ）

橋波西之町３丁目

東本願寺大谷派で、本尊阿弥陀如来像は室町末期あるいは江戸時代初期の彫像と思われ、市内の真宗寺院の中では早い時代の木造仏を安置したとされ、現本堂の建立については、寛政７年（１７９５年）寄進の喚鐘（かんしょう）のことを記した木札があることから、この時期をあまりさかのぼらない建立と思われる。



熊谷　寿子

真宗寺院は、高僧によって建立されたということは、あまりなく、村の惣道場として発足し、お百姓たちの寄り合いの場であったり、儀式執行の場所から寺院化していった経過があり、今日に至るまで門徒衆によって護持されてきました。お寺参りの人々には、お喋りの場であり、家から一時解放される憩いの空間ではないでしょうか。おもしろおかしく、あるいは、涙して我が身を振り返って説法を聴きに集まられております。「守口市文化財調査報告書」によると、創建は、寛文５年（１６６５年）、唯称寺の寺号は、明和２年（１７６５年）に許され、現在の本堂は、喚鐘の記録や建築技法から、明和（１７６４～７２年）の頃の建立で２００年以上経っております。また、１５０年程前の住職、恵明さんが、藁葺の屋根を瓦葺きにしたり、天井や内陣廻りを現状のように改修されました。門信徒と共に、唯称寺と仏法を守ってゆきたいものです。



小松　仁（橋波西之町３丁目）

71

阪口邸（さかぐちてい）

八雲西町１丁目



清田　義雄

私はこの家の前を通るたびに思うことは、古い時代のよき風景を思い出させてくれる一つとして、今も悠然とした姿を残していることであります。時の流れとともに周囲には住宅が建ち並び人の往来も多くなりましたが、その昔は周辺一帯が田畑でのどかな田舎町であり、当家の前から南方には遠くに守口小学校が見えました。西方には淀川堤が見え、またその時代には、春になれば菜の花や蓮華草や蒲公英（たんぽぽ）が咲き乱れ、蝶々やトンボがとびかっており、その田畑の中で子供達が小さな網をもって走り廻っていた姿が思い出されます。そして、夏がすぎ秋ともなれば一面に黄金色の稲穂が垂れさがり収穫期には一斉に農作業が行なわれていました。それが終われば冬支度となります。このように四季を通じて色々の思い出のあるこの町、その町の一角にある阪口邸がいつまでも今の姿でいてほしいと思っています。



阪口　明（八雲西町１丁目）

72

三郷小学校（さんごうしょうがっこう）

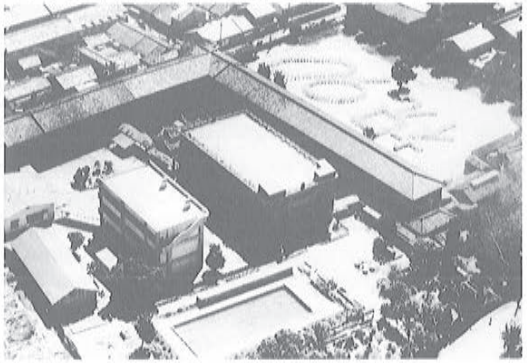
東光町２丁目

明治７年１１月、堺県第１３３番小学校として旧世木村護念寺（現高瀬町）に開校されてから１２０数年の歳月が過ぎた。その間淀川の大洪水、室戸台風による被害など尊い生命をなくした悲しい憶い出があり、校庭の「くす」の大樹は学校とともに幾多の世相の変遷を見守ってきた歴史を感じる。



駒井　峯子

小学校で朝のラジオ体操を終えての帰り道、校庭の裏で「くすのき」の大樹に登って遊んでいる幼児が２人。そばには３０才前後の男の人と、その父親らしい人がかたわらにいて、「パパも小さい頃、よくこの木に登って遊んだよ」「……」「久し振りだけど、このくすの木も随分大きくなったなぁーおとうさんも」里帰りなのか？親子三代の会話がセミの声と共に聞こえてきた。わが町、明治７年１１月２５日創立の伝統ある三郷小学校のシンボルはこの「くすのき」であり、１００年余り「くすの木」はずっとこの小学校の出来事を見つめ続けて来た。区画の変更と校名の改称などで、明治２７年にこの地（東光町）に校舎が移転して以来ずっと……。「昭和９年の室戸台風の倒壊」「昭和４３年の校舎が火災で焼失」と悲しい出来事も、そして昭和４９年には、学校創立１００周年を迎え、正門横に記念事業として「百年の庭」が寄贈されこの「くすのき」を中心に、都会ではめずらしいほど「緑が一杯、花一杯」の、自然にめぐまれた環境にある。明治、大正、昭和、平成と世は移り変われど、風雪に耐えて生きてきた「くすの木」の大樹は、毎日元気で明るく遊ぶ子供達をこれからもずーっと見つめてくれることでしょう。

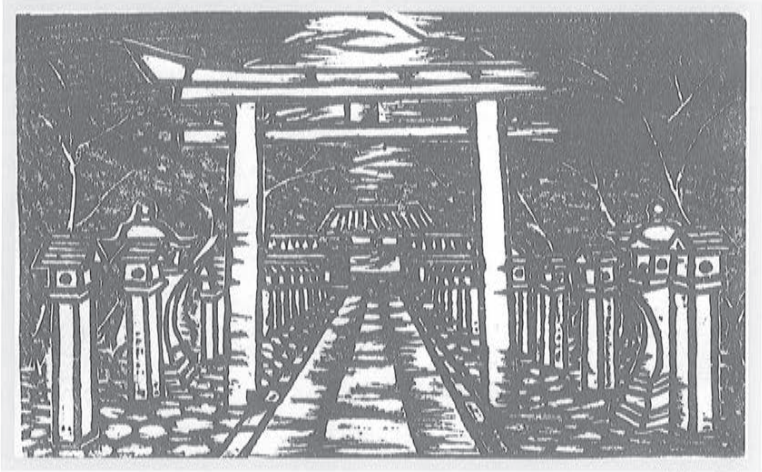


西村　節子（大枝南町）

73 佐太天神宮

佐太中町７丁目

菅原道真が太宰府へ流される途中、しばらく舟を繋いだところで、菅公死後の天暦年間（９４７～５７年）に菅公を慕って祠を建てたのが創建であると伝えられている。室町期には大庭庄の惣社として崇敬されるようになった。現在の社殿は永井尚政・尚庸父子や淀屋辰五郎たちの手厚い保護のもとに整備された。



服部　昌之

国道１号線（寝屋川バイパス）を京都方面に入るとすぐ右手に見える神社が佐太天神宮である。守口市の一番北の端に当たる。昔は淀川の堤防から木々に囲まれた参道が続いていたのだが今は国道が横切ってしまい一の鳥居や道標の位置も遠慮したように立っている。もちろん天神様即ち菅原道真公をお祭りしてある。当時、文才で知られた菅原道真が、藤原氏の権力争いの犠牲となって左遷されたのは、延喜元年（９０１年）のことであるから、そのころの中央の話がどうして民間に伝わって信仰の対象となっていったのか不思議な気がする。道真死後の天変地異や飢饉や疫病の流行が、菅原道真の怨念によるものと流布されたことから、各地の天神の祭祀となったそうだが、現在のような神社になるには、かなりの年月を要したことだろう。この参道の古い灯籠や石柱門などに刻まれた年号を見ても、それぞれの歴史の背景や民間信仰の様子など、今日まで変遷してきた様子が忍ばれ面白い。



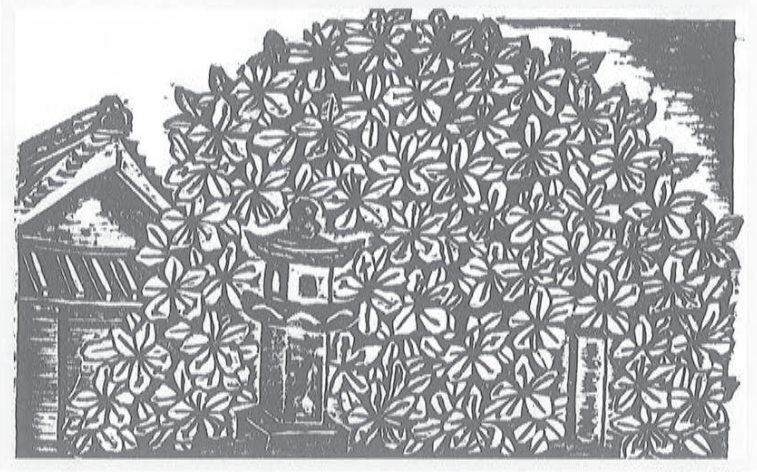
提供：三森　定昭

阪口　春彦（佐太中町６丁目）

74 妙楽寺の大つつじ

大久保町４丁目

延宝年間（１６７３～８１年）の洪水で本堂や庫裏を流失したが、天和２年（１６８２年）、浄土宗融通派の僧一空知三唱阿上人が建立。しかしもとは天台宗であったので妙楽の号を称したと伝えられている。境内にある樹齢約３００年の府の天然記念物に指定された「つつじ」が有名。



山田　耕治

大久保中央公園での植木市会場内で「オオムラサキツツジがないか。」という声があちこちで、不思議に思い聞いてみると、「今、妙楽寺のオオムラサキツツジを見てきて、あんまり見事なものなので家で育ててみようと思っています。」ということです。妙楽寺の大ツツジという名前は知ってはいましたが、まだ見たことがなかったので、一度見ておこうと妙楽寺を訪ねてみました。大ツツジはお寺の裏庭にあり、開花時期（４月下旬～５月初旬）には、一般に公開されています。百聞は一見にしかずとはよく言ったもので、その大きさと赤い花が満開の様は、まさに見るものを圧倒する美しさでした。日頃の世話は、住職と奥様がされているそうですが、古木の故、いろいろ問題が生じてきており、樹勢を保つのに気をつかっているとのことです。そして、ヒコバエが多く発生し、刈り取る必要があるとのことですが、捨て去るのは勿体ないので、もりぐち緑花協会でいただき来年の参観者に配布するため挿し木で増やし育てることにしました。その後「大ツツジ」は京阪電鉄主催の「花の寺」にも選出され数多くの愛好者の目を楽しませてくれています。また挿し木した苗は毎年配布され、参観者の家で「大ツツジ」の子供たちが育っていることでしょう。なお、大ツツジは「大阪府天然記念物」に昭和５８年に指定されています。



藤本　勝（佐太中町５丁目）

75 乗雲寺（じょううんじ）

淀江町

昭和２６年創建（寿町）
昭和６４年現在の地に本堂を再建して現在に至る。



吉川　サチ子

私達の息子が大きくなったのを機会に、夏休み中に友達を呼んで、お寺の本堂で一泊二日のお泊まり会をしています。今年も14人の同級生が参加してくれて、思いきり夜更かしをしてしまいました。あとは座ブトンをフトンがわりに、かわいい寝顔をみせてグーッグーッです。

また、毎年8月24日の地蔵盆には子供達が集まります。ゲームをしたり、映画会をしたりしています。



毎日のように同級生は集まってきます。子供達が遊んでいて怪我（ケガ）でもしたら大変だと思い、極力お寺にいるようにしています。買い物に行くこともできず、しんどいこともありますが、これは仕方ありません。

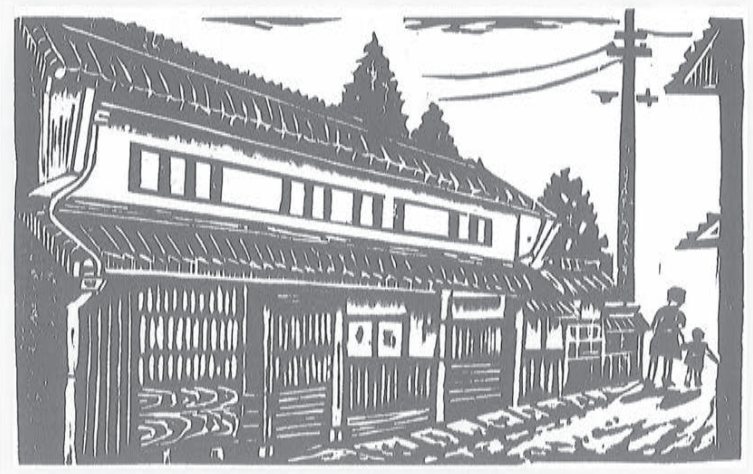
今は子供達にとって特に大変な時代だと思います。のびのびと遊ぶための空間が全くといっていいほどありません。子供達が楽しみながら学ぶことの喜びを感じてもらえるよう、少しでも寺を開放できたらいいなあと思います。ほかに「掲示板」や「仏教なんでも相談室」が市民との出会いの場です。

渡辺　克隆（淀江町）

76 京街道（きょうかいどう）

浜町２丁目

秀吉が造った文禄堤の堤防の上に家康が整備、江戸時代は大名行列も通り大阪～京都を結ぶ大切な道であった。守口（宿）では祝町から文禄堤をのぼり本町橋を通って竜田通に、難宗寺の道標に従って浜町へ、瓶橋の刻みのある橋柱を後にして１号線を渡り、一里塚跡の碑を通り水道局前を経て淀川の堤防へ。



高松　真澄

平成１０年６月のある日、「守口歴史街道」の世話人会を京街道の文禄堤沿いの中華料理店で行なった。その店は白壁の蔵を奥に持つ旧家を改装した建物である。都会では味わえなくなった日本家屋の雰囲気を残しているので、開店そうそうであるが繁盛している。２階から淀川の方向に向かって眺めると、かつて賑を極めた淀川の水運の景色が彷彿としてくる。古くは浜町あたりから小野妹子が遣隋使で出発したと伝えられている風景に、江戸時代の朝鮮通信使の船団が風を切って淀方面に向かっている姿も重なっている。朝鮮通信使の正使、副使の亀甲船の一行を幕府御楼船や、西国大名の出した川御座舟が取り巻き、朱、黄、緑色の幡をなびかせて移動する様子をイメージできる。このページェントを見るために、淀川の堤に群がった数万の人達の歓声も耳を澄ませば聞こえてくる気さえする。第１回の通信使は慶長１２年（１６０７年）に訪問したと記録にあるが、秀吉が毛利、小早川、吉川家に命じて作らせた文禄堤はすでに完成していたと思われる。



文禄堤沿いには、その後うだつを建てた商家が並び、東海道５７次守口宿を西に東に移動する人達が街道を通過した。浜町に袖うだつを建てた家がみられる。うだつはかつての商家の矜持（きょうじ）であったが、それを知る人も少なくなった。しかし、問いかければ沈黙を破って、昔のことを語ってくれるかもしれない。

西浦　信博（八雲中町３丁目）

77

東橋波の小路（ひがしはしばのこみち）

橋波東之町４丁目



三垣　博美

このあたりの街並は昔から何も変わっていません。西三荘駅のあたりは、京阪電車の高架工事のために付近の土地が買収された頃からマンションなどの建設が相次ぎ、まちの風景は今ではすっかりと変わってしまっています。時代が変わっていくわけですから、まちがその姿を変かえていくことが悪いことだとは思いませんし、私の家でも時代の流れに合わせて近所にマンションを建てたりしております。自宅の庭なども月極駐車場にでもして収益をあげた方がいいのではないかと思うこともありますが、昔の良き時代のようにゆっくりと時が流れているような、そんな不思議な力を持ったこの地域には今のままが似合うと思い、これからもこのままの状態にしておこうと考えています。ご近所の方々もおそらく同じような思いをお持ちだと思います。



菊田　房枝（橋波東之町２丁目）

78

清澤寺（しょうたくじ）

土居町

実悟上人（蓮如上人の子）が永禄年間（１５５８～７０年）に荒廃していた清安寺を再興して土居坊と改称し、上人の姓をとって清澤寺と呼ぶようになった。土居町では各家ごとの墓はなく納骨は清澤寺の納骨堂に納められている。この習慣は身分制度の厳しい時代から民主的な運命共同体として続いている。



山元　尚子

本願寺蓮如上人の十男である実悟上人が、永禄のはじめ（１５５８年）ごろに再興し、現在は土居坊と呼ばれています。

古来より清澤寺門徒は、「倶会一処」（ともに一処に会う）としてお墓を建てずに実悟上人の御元に納骨する習わしがある門徒である。私の家にもお墓がなくお寺の納骨堂に納められたお骨で作られた骨仏様がご先祖様です。現在にお墓の心配をしなくて済むということは金銭的にも、時間的にも本当に助かります。



小学生の頃お寺の本堂で日曜学校が開かれ、お釈迦様の誕生や修業の話しなど仏教についての色々なことをわかりやすく教えてもらいました。また、その頃本堂で習字の塾もあり、学校が終わると走って行き練習はそっちのけで、友人と境内や本堂で鬼ごっこ、かくれんぼなどをして遊びました。薄暗い本堂にまつられている２体の骨仏様が子供心にとても怖かったという記憶があります。

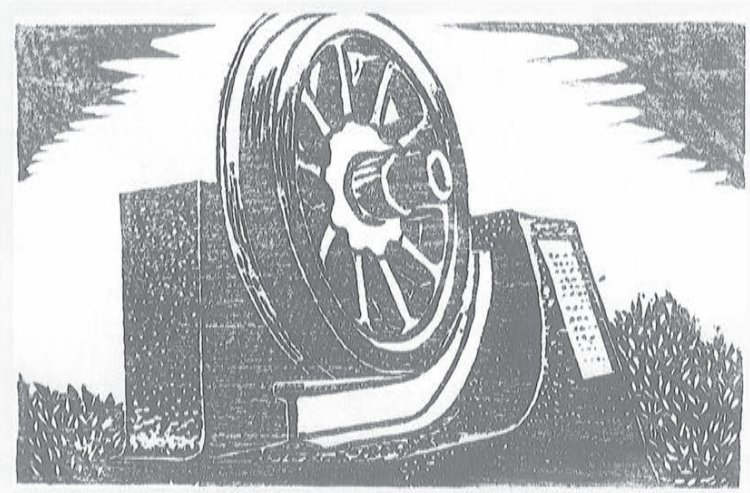
宮本　淳一（早苗町）

79

京阪守口車庫跡の碑

河原町

京阪電車守口車庫を含めた「河原地区市街地再開発事業」は昭和５６年に事業認可され、昭和５８年３月から本格工事が始まり、計画から１５年の歳月をかけ昭和６０年完成した。当時の京阪電車守口車庫を記念して、京阪百貨店前にモニュメントがある。



吉川　サチ子

京阪電鉄「守口車庫」それは、思い出多いところです。なぜなら、子供の頃の遊び場の一つであったからです。それでは守口市駅前の昔を思い出してみましょう！今の京阪百貨店の所に、京阪電鉄守口車庫がありました。その少し手前、大阪よりに長い長い「開かずの踏切」があり、路面を走っていた時代の守口の駅がありました。そして、駅の横（１号線側）には、赤いレンガの変電所がありました。（現在の京阪守口ビルです。）私にとって、すべてが思い出の場所です。その中でも守口車庫は、子供にとって絶好の遊び場でした。



また、私の祖父が車庫の中で、電車の整備点検に携わっていたこともあり、私にとってはより身近な存在となっていたと思います。レールの感触、沢山の電車、すべて子供心にとって、とてもスリリングな、また愛着心をもてる場所、「思い出の守口車庫」と言えるのです。

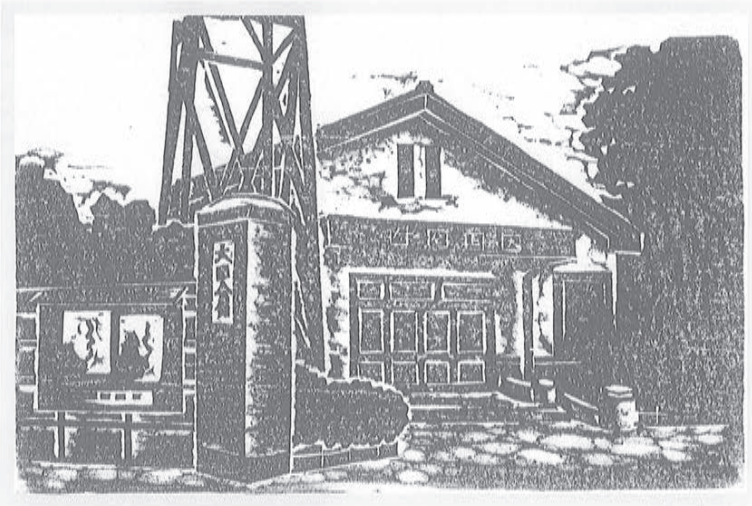
岡村　晃明（本町１丁目）

80

大日会館

大日町２丁目

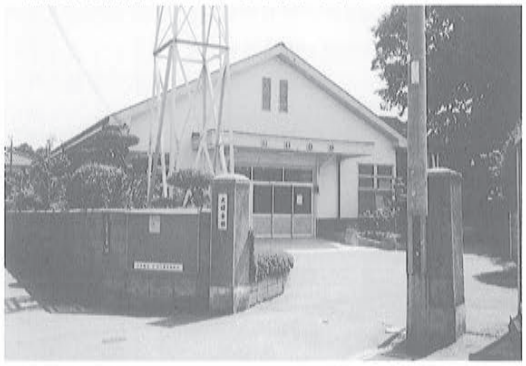
大正末期に建てられたようで、旧庭窪村（当時約３００戸程）の集会所として、村の寄り合いや、親睦の場として利用され、現在の建物は何度か改修されたものの建設当時の姿を残している。火の見櫓は地元消防団の詰め所が同敷地内にあった名残りで、集会所は現在でも大日地区住民に大いに親しまれ、利用されている。



蔵本　きみ子

私の記憶する限り、現在の大日会館は、４０年以上前の私が小さい頃から親しんだ会館そのままです。どれくらい前につくられたものかは分かりませんが、この会館はこの地区に住む人達が、老若男女を問わずに集う憩いの場であり続けています。

私が最も記憶に残っているのは、小さい頃、昭和４０年前後でしょうか、こまどりグループによるゲームで私達小学生や中学生が楽しく集まったことです。娯楽の少ない、のんびりした時代でした。会館の前ではおじさんが紙芝居をやっていました。お金のある時は抜き飴、水飴、酢昆布などを買いました。お金がなくても紙芝居はただですので、いつも多くの子供達が集まっていました。



今でも子供会の行事や地域の集会場所、葬儀などで会館が活用されています。また毎年秋になりますと、今も秋祭りの練習で、太鼓と鐘の音が会館から聞こえてきます。

本橋　三千男（大日町２丁目）

81

大枝神社（おおえだじんじゃ）

大枝東町

祭神は誉田別尊。創建の年代は定かでは無いが現存する境内の石造物には元禄１６年（１７０３年）、正徳３年（１７１３年）などの刻が見受けられ、境内にひときわ目を引く老松にも歴史の程がうかがえる。



高松　真澄

今の大枝神社は、終戦後荒れ放題であった本宮を昭和２９年、地元の方々が再建されたものです。 境内にある老木の「くすの木」は守口市保存樹木に指定され、大枝神社をより一層神々しい雰囲気にしています。

戦前、大枝神社のお祭りでは若者が太鼓台を担ぎ、町内を練り歩き、天乃神社の太鼓台と進む道の奪い合いや、境内によその太鼓台を入れないように激しいぶつかり合いを演じたそうです。しかし、戦争の為に担ぎ手の若者が少なくなってからは、天満の天満宮で獅子踊りを教わり奉納するようになったそうです。昔の写真を手に説明されている世話人の方々の顔にはいつしか４０数年前の若き日の輝きがあふれ、今もなお青少年達に郷土の伝統としての獅子踊りを教え、楽しい思い出づくりに努力されていることをうかがい大変頼もしく思いました。これらの話しを通じて青少年のみんなが二度とない青春と、大切な我が町をもう一度見直して欲しいなと思いました。



提供：坂東　寛

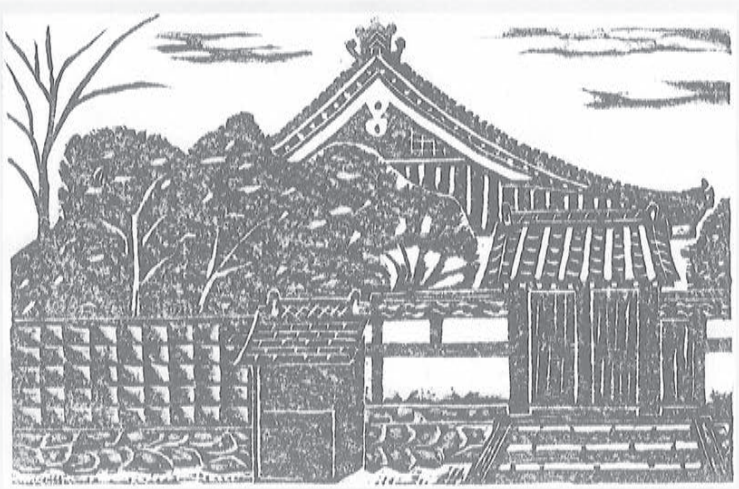
山元　守（大宮通１丁目）

82

常称寺（じょうしょうじ）

高瀬町２丁目

現在、知恩院の末寺であるが、昔は高瀬山華厳院常称寺と称し、華厳院高瀬寺の奥院と伝えられている。二巻の縁起を蔵し、一つは行基開創になる高瀬寺の縁起を録しており、今一つは寺に伝わる舎利の由来を記したもの。いずれも元和４年（１６１８年）のものと判り、江戸初期の貴重な資料。



服部　昌之

「常称寺縁起・舎利記」でも知られているこの寺に、先祖・両親が眠っているにもかかわらず、月々のお詣りは家族に任せている。山門をくぐるのは、親不幸を詫びに気が向けば墓参りをする時と、年３度の「施餓鬼（せがき）」ぐらいであろうか。（これは役目上の事であるのでお詣りとは言えないだろう）しかし思い出は数多くある。「落慶法要」のとき息子と一緒に銀杏（いちょう）の葉を拾い集めた事。夏休みの行事で「肝だめし」を楽しんだ事など、数え上げれば切りがないが、一番の思いは山門前に祀ってある「地蔵さん」である。墓参りの帰りには必ずお詣りするし、「地蔵盆」には飾られた２人の息子の提灯を眺め、無事成人した事を感謝しながら、子供の頃、地蔵盆のお下がりを楽しみにしたことなどを懐かしく思い出す。いつの日か、息子が私と同じ事を繰り返し、同じ思いをするであろうと信じて時々は墓参りを・・・と思っている。



橋本　好祐（高瀬町３丁目）

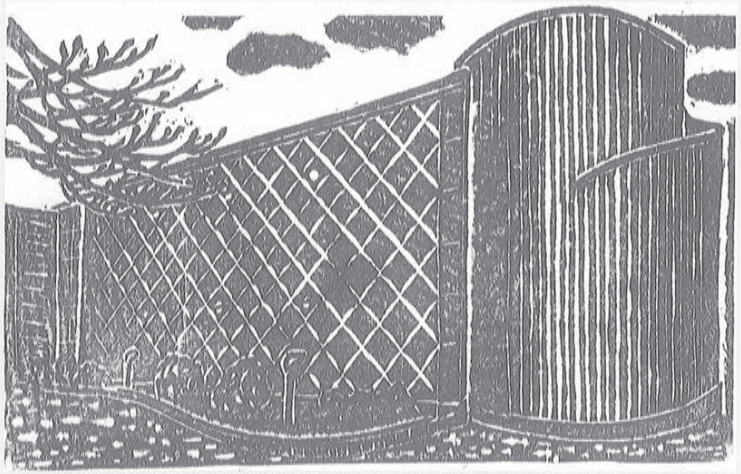
83

守口市現代南画美術館

もりぐちしげんだいなんがびじゅつかん

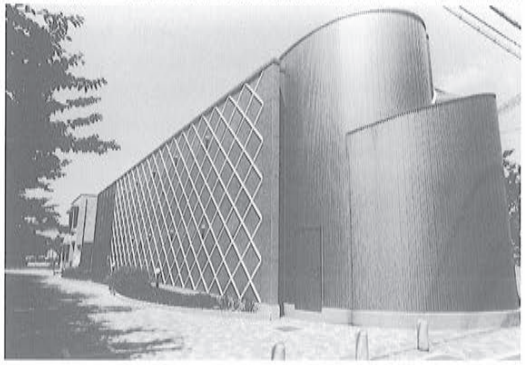
大宮通１丁目

平成８年２月に開館。社団法人日本南画院の会長で守口市の名誉市民である直原玉青氏らから市に寄贈していただいた作品などを常設展示。南画（南宗画の略で室町時代に中国から伝わり、水墨や淡彩による柔らかい筆使いで主に山と川を題材にしたものが多い）を一堂に展示する美術館は全国に類を見ない。



吉川　サチ子

この美術館は守口市の名誉市民であり社団法人日本南画院の会長でもある直原玉青氏をはじめ著名画家から、現代南画の優れた作品の寄贈を受け、全国でもあまり例のない、常設展示館として、平成８年２月にオープンしました。美術館の外観は、南画の水墨や淡彩の画風に合わせ、ナマコ壁仕立ての土蔵を現代風のイメージでまとめたユニークなもの。市民保健センターの南側に位置し、鉄筋２階建てのフロアーは淡路島特産の瓦が敷きつめられ、４室の展示室は静かで、ゆったりと鑑賞していただけるよう長イスがおかれ、親しみやすく心なごむスペースとなっております。守口市が、２１世紀の街づくりのため市民とともに、市民一人ひとりが文化に親しむことができる「生涯学習都市」の実現めざし、市民をはじめ全国の美術愛好家に親しまれ、愛される美術館であり続ける為に、日本南画院の協力を得て、年に数回、作品の展示替えを行い、また特別展も企画するなど、２階資料室では、ビデオの鑑賞も行っております。西三荘ゆとり道（花のゾーン）の大宮中央公園に近く、橋波小学校の向い側。春ともなれば、桜が実にみごとで２階からの眺めは格別すばらしく、気品と個性あふれる作品は観る人の心を打ち想像豊かにして、日常の雑念から解き放たれる思いです。秋には南画講座も予定されております。参加されてみてはいかがでしょうか。



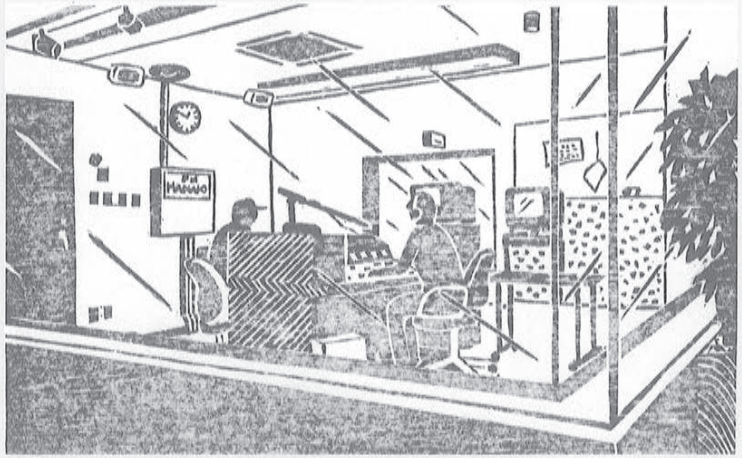
小谷　澄子（来迎町）

84

FM−HANAKO

河原町

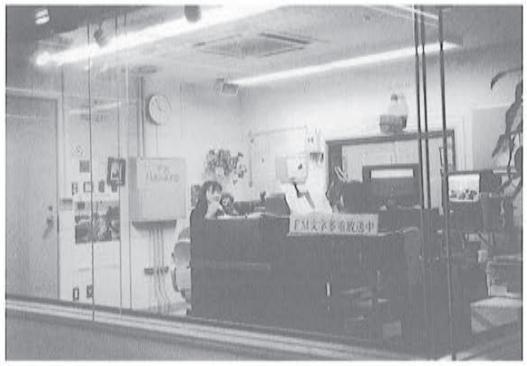
正式名称はエフエムもりぐち。守口市が平成５年７月２０日、全国に先駆け市内企業等の協力を得て、第三セクターで設立した都市型コミュニティー放送局。周波数は８２．４メガヘルツ、２４時間態勢の災害防災情報をはじめ市民と共に歩む地域密着型の放送局でエナジーホール地階にスタジオがある。



田中　靖治

私の街に、放送局ができたのよ！。市外に住む友人たちに会うたびに自慢げに話したものでしたが、いつのまにか開局５年を迎えたＦＭ−ＨＡＮＡＫＯの存在は私の日常生活に溶け込んだものとなりました。

停電や台風、近くで消防車のサイレンが鳴ったときなど、いつもテレビの上に置いてある（市の記念品として頂いた）専用ラジオに手がいきます。



また、朝・夕には食事の準備のかたわらに市からのお知らせなども重宝しています。ときたま、昼の「いきいきライフ」のゲストとして聴き覚えのあるお友達の声が流れたりすると、私も最近はじめたカラオケなどで、機会があれば出演してみようかな！と思うこともありますが、反面、恥ずかしさもあります。とにかく、守口市に身近な話題を提供できる放送局が在ることは、すばらしいことで話題も生まれてきます。これからも市民まつりをはじめとした市民への情報提供に基地局としての活躍に期待しています。

山下　桂子（寺内町１丁目）

85

三郷街道（さんごうかいどう）

橋波東之町１丁目

大正末から昭和初期にかけて、高瀬神社から大枝、橋波西・東を経て門真へぬけるバイパス道が整備された。当時ではかなり広い道で、昭和１１年の三郷町制施行と三郷小学校の鉄筋講堂完成を祝いパレードが行われた。



山中　淑詠

私の亡き父（明治３５年生れ）が健在だった昭和６０年頃、守口門真商工会議所専務理事、故浅地さんが橋波の街道について、記事の取材に来られました。それまでは私も、今日の三郷街道は太古の昔から存在していたように、思っておりましたが、父は「子供の頃に出来た」と申しておりました。そういえば古い国土地理院の地図によれば大昔は、両隣り村の神社・仏閣とその集落を結んだのが、唯一の道であり。先達の人々が造ってくれた三郷街道も狭く、カーブの多い道ではあった。当時は、はるかに生駒連山がくっきりと浮かび、一方では京阪国道あるいは淀川の堤まで一望でき、身近には蓮田が広がり、白鷺が数羽舞い降り餌をついばんでいる。こんな風情のある情景であったとは隔世の感にたえません。



中川　光雄（橋波東之町４丁目）

86

浄宗寺（じょうしゅうじ）

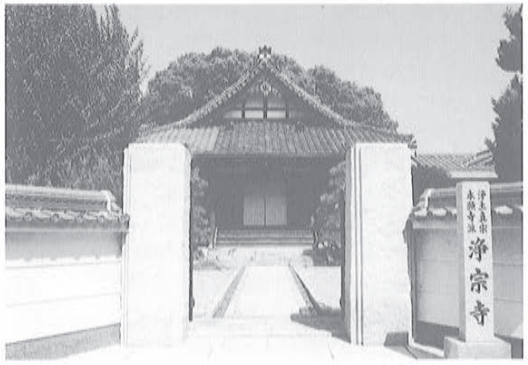
金田町２丁目

室町時代、浄土真宗中興の祖である蓮如上人が文明年間（１４６９～８６年）当地方を布教のおり、帰依し創建されたと寺伝明細帳に記されている。



山田　耕治

予供のころ、母に連れられてよくお寺に行った。集まったおばあさん達に、「えらいなぁ。」と言われて、もらえる飴玉が目当である。大人になってからは、お寺にお参りするのは、ちょっと抵抗があった。が、きっかけがあればと思っていたある年の彼岸に、近所をぶらぶらしてさがしたお寺の横の畑で、（ごえんさん）らしき人を見た。芋の蔓が見えたので、たぶん秋にはおいしい芋が食べられるなぁ、と声もかけずに手を合わせて帰った。しばらくして、母と一緒の生活がはじまった。「お寺に連れて行ってくれ。」と言う母の、年老いた後ろ姿を見ながら、車椅子で、何度か足を運んだ事がある。その母の今年が一周忌。金田の村にひっそりとしたたたずまいの浄宗寺を百景に残し、母との思い出にしたい。夜ともなれば国道からのネオンが、色とりどりに変えて見せてくれる風情は、今の時代の流れなのだろうか。



山田　耕治（金田町３丁目）

87

蕪村の碑（ぶそんひ）

佐太中町７丁目

与謝蕪村が故郷毛馬に向かう道中淀川を下りながら読んだ句とされている「窓の灯の　佐太はまだ寝ぬ　時雨かな」の句碑が菅原道真を祭神とする佐太天神境内の「水鏡の池」のほとりに建立されている。揮毫されたのは現在、社団法人日本南画院の会長で守口市の名誉市民である直原玉青氏。



泉谷　鈴雄



「窓の灯の　佐太はまだ寝ぬ　時雨かな」と刻まれた句碑が本殿裏の池のほとりに静かにたたずんでいます。この句は、江戸時代の俳人であり画家でもあった与謝蕪村（１７１６～８３年）が夜舟で淀川を下って故郷の毛馬へ帰る途中、詠んだ句といわれています。当時の佐太は、京の都と大坂を結ぶ水路・淀川と、陸路・東海道が通る交通の要衝であり、佐太天神の門前町として栄え、街道筋に茶店などが並び人馬行き交う賑わいを夜まで見せていたようです。そして、賑わいを見せる佐太を背景に多くの歌が詠まれ、同じ時期、浄瑠璃の三大傑作「菅原伝授手習鑑」が初公演（１７４６年）。その段の一つ「佐太村の段」は、この佐太にあったといわれる菅原忠臣邸を舞台にしたといわれています。現在、浄瑠璃は財団法人 文楽協会が国立文楽劇場を主に保存・伝承されており、そのなかに守口国民学校出身の吉田文吾さんが「人形遣い」として活躍されています。

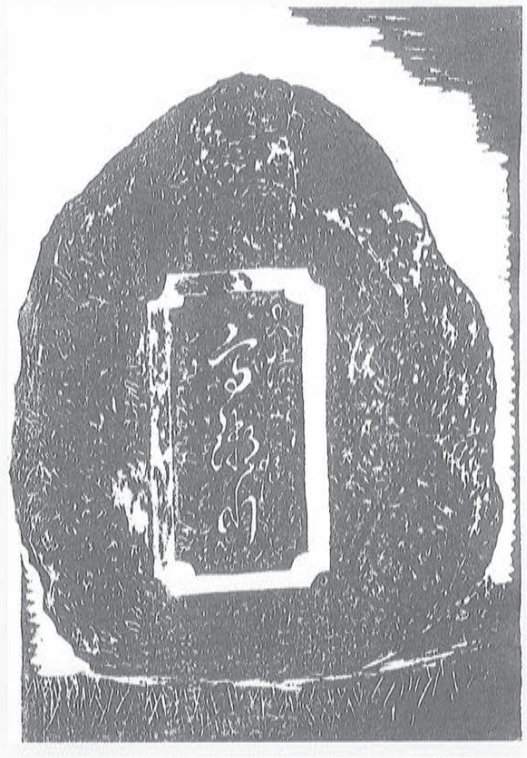
官中　喜美子（八雲西町２丁目）

88

高瀬川跡（たかせがわあと）

馬場町１丁目

かつては淀川の本流であり、平安時代には「高瀬の淀」、江戸時代には「守口川」とも呼ばれ、古歌にも多くうたわれている。また、この川には僧行基がかけたと言われる高瀬大橋があり、その遺物と思われる橋杭の石柱から、相当大きな川であったと推測される。



山田　耕治

高瀬神社の前を南北に流れていた高瀬川の川藻は、美しい緑色のものから、暗灰色のものまで川底にびっしりとへばりついて水の流れのまま波うっていた。この水藻によって川の汚れを自然浄化していたのでしょう。昭和初期の頃、母は高瀬神社前の川辺に敷いた石「ひなだ」にかがんで洗濯したそうです。田畑の灌がい用水のほか、人々の生活用水としても重要な使われ方があったようです。普段は魚を見ることはないが 田螺（タニシ）は土囲いの板や補強の丸太に沢山くっついていた。川蝦（かわえび）もいた。突然川面に魚がいっぱい浮いて、口をパクパクしていましたが子供達はあみを持ち川に入り大騒ぎしたこともありました。また、泥鰌（どろます）取りを仕掛けたこともありました。時折男の人が尻からげして膝まで川につかって川底をさらい、サイダーやビール瓶の金栓や釘・針金などの古鉄を拾い、お金に変える仕事をしてる人もいて現在では到底考えられない光景もみられた。また、京阪電車を高架と複々線に変更するにあたり、京阪池になった前の田圃の土を、木枠トロッコに積み、当時土汽車と呼ばれた小型の蒸気機関車２０両程で現在の土居駅周辺に運んでいた。高瀬川には簡単な橋があり、トロッコの後尾につかまっていた子供達も橋の手前で飛び降りました。京阪池が今、市民球場になり道も広くなりました。



近藤　良子（高瀬町１丁目）

89

大阪国際滝井高校

馬場町２丁目

昭和４年、帝国高等女学校として誕生。昭和２３年、学制改革により帝国女子高校となる。その後、大和田校地（藤田町）に併設の帝国女子大学大和田高校、帝国女子短大、同女子大など開設。平成４年、各学校の名称を「大阪国際」に改称。翌年には法人名も「大阪国際学園」に変更して現在に至る。



熊谷　寿子



提供：登井　順子

内環状線と馬場菊水線の交差する所に、旧帝国女子高等学校、今の大阪国際滝井高等学校があり、その屋上に「平安の像」がある。顔は空を仰ぎ、手も空高く掲げられた女性のモニュメントは、まるで自由の女神のような存在だ。私の家が学校の裏ということもあり、物心付いたときから現在まで、その像は私の成長を見てくれていたような気がする。私は小さいときから、誰に習うでもなくその像を「女神さん」と呼んでいた。天気のいい日、その姿は青空に映え、また、雷雨の日も力強くそびえ立ち、学校や町を見守ってくれている。まさに女神のようである。帰路につき家に近づくと、どこか私は「女神さん」を見上げてしまう。「時代や人の移り変わりや、なにもかも見てきているのだろうな。」と思いながら・・・

これから先も、いい町になるようにあの「女神さん」はきっと空に向かって願いをかけてくれているに違いないと思う。

登井　順子（馬場町２丁目）

90

道しるべ（乱歩の家）

八島町

推理小説の大家、江戸川乱歩は大正１３年に守口の八島町に住んでおり、初期の乱歩の名作は市内の書斎で書かれたと思われる。「D坂の殺人事件」には初めて素人探偵「明智小五郎」が登場する。思い出の住居は、現在、乱歩の資料館として、大野氏の独力で保存されている。



山元　尚子



江戸川乱歩（本名　平井太郎）は、近代日本探偵小説の大御所的存在として広く知られています。その乱歩が大正末期まだ無名の一青年であった頃、一躍文壇に認められた処女作「二銭銅貨」を始め、多数の短編名作を執筆した場所は、当時の守口町と門真村です。乱歩著「探偵小説４０年」には大正末期、守口門真で五軒の借家を転々として生活していた事が詳しく述べられています。乱歩が最も創作意欲を燃やして書いたのは、守口門真であった。彼は探偵小説４０年に「大正１４年と１５年の２ヵ年は、私の持っているものを一応書き尽くしてしまった期間で、その後の２０数年は惰性で書いた」と述べているほどです。私と弟が少年少女時代を過ごした我が家に乱歩が住んでいて、２階を書斎にして執筆され探偵「明智小五郎」を世におくりだされたことを知って感動しています。

中川　満喜子（河原町）

91

佐太村（河内名所図会）

佐太天神宮は河内名所図会にも描かれており、菅原道真に関する多くの文化財を所有する佐太天神宮。中でも「紙本著色天神　縁起絵巻」は平成１０年２月、市内初の市指定文化財の一つとして指定された。

佐太中町７丁目



高松　真澄

昔淀川の堤防はもっと低い位置にあって国道の役割を果たしていた。また、舟で向側へ行くのに佐太渡船場もあった。堤防から松並木の参道が続いて参拝の人達の休み処として茶店もあった。今や国道１号線（寝屋川バイパス）が出来て昔の面影は全くなくなりましたが、 佐太渡船場の石標が淋しくたっています。



佐太天神の祭礼は学問の神様といわれる。菅原道真公であることは良く知られている。佐太天神宮には歴史的な宝物が多くあります。その中で一級品は「天神縁起絵巻」文安３年（１４４６年）以前に描かれとものである。それぞれの歴史の背景民間信仰の様子が興味深く忍ばれる。現在、守口市の指定文化財に指定されている。歴史の重みを感じるものでは、本殿の屋根が檜皮ぶき造りである。また、参道の古い灯籠や石柱門などに刻まれた年号などがある。

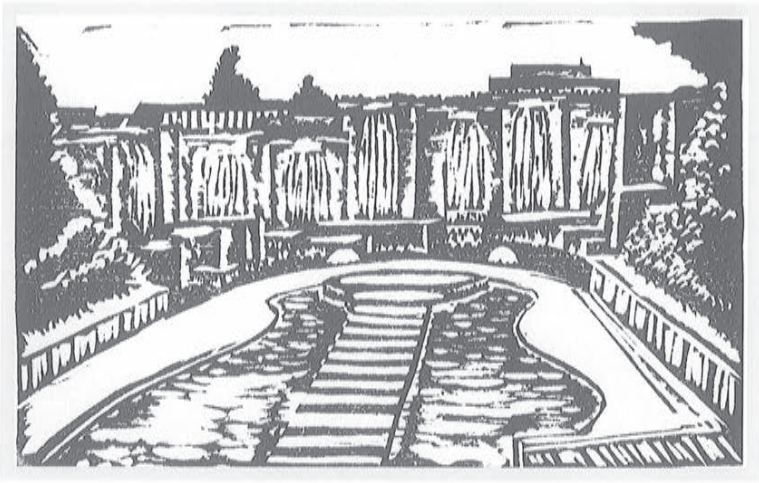
西村　忠義（佐太西町２丁目）

92

西三荘ゆとり道の滝

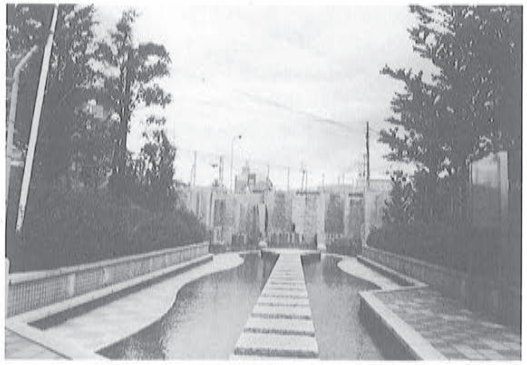
花博記念公園鶴見緑地から西三荘ゆとり道「緑と空間」「文化教養」「フィットネス」ゾーンとそれぞれのゾーンにコンセプトを持たせて整備され、平成７年度には「水のゾーン」が完成し、小川が流れる「山河の景」、「野辺の景」、「まちの景」と分かれる。「まちの景」には水舞台とでも言える壁泉がある。

菊水通３丁目



南部　一郎

京阪西三荘駅南に少し歩くと、大きな鉄塔が２基あり、下は昔の農業用水路として利用されていました。河原菊水線、馬場菊水線、国道１６３号線、府道深野大阪線、南寺方線、まで、五つのゾーンに別れています。花のゾーンから入り、さつ木などの四季折々の花が咲き、香草もある。 市民の輪、遠心力、人をイメージしたブロンズを組合せた、「輪」は上の赤い色は守口市民であると云う。強い誇りを表す文化都市守口を創造しようとする市民の姿を表現している。市制施行５０周年にあたり、市民の連帯と力の結果を記念の碑として創られたものである。馬場菊水線を越えて、和風四阿屋（あずまや）を通ると、石噴水があり、街の流れを表現している。石の橋があり川底にはいろいろなビー玉が敷詰めてあり、光、照明があたると美しく光る。１６３号線の手前に大きな石で滝が出来ていて、コンピュータの操作で勢いよく流れ落ち、周りにしぶきが飛び、その下の流れの側で水遊びをしている様子を親達も石に腰をおろし眺め、散歩、運動されている。人々の安らぎの場所であり、時計塔の日時計は午後３時には影が守口市の形を浮かべ、風の通り道では風が抜けるイメージで設置したトレリス、風で動くオブジェ等、緑の空間のゾーンは、ハナミヅキとキリシマツツジなどゆったりと過ごせる道である。



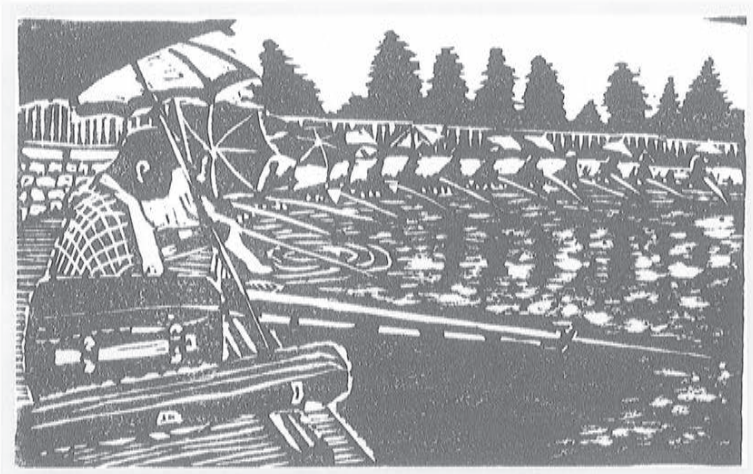
青木　道江（大宮通２丁目）

93

世木公園釣り池

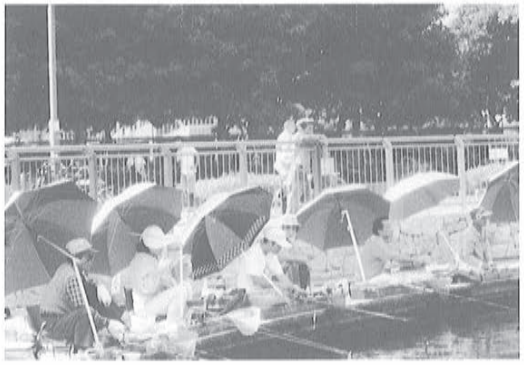
南寺方東通４丁目

平成９年５月、花博記念公園鶴見緑地と西三荘ゆとり道の「緑と空間のゾーン」の間にある世木公園内に下水処理水と地下水を利用した広さ１４００平方メートルの釣り池が完成。池にはへら鮒約３０００匹を放流。子どもから大人まで安心して釣りを楽しむことができ、連日賑わっている。



南部　一郎

平成９年５月にオープンした世木公園「釣り池」は土曜・日曜ともなると早朝より道具一式数１０万円の本格的な釣師から、ご家族づれ、ご夫婦など大勢の太公望で賑わっています。釣り池で親切にアドバイスをされている沢田守弘さん（八雲西町）にお話しを伺いました。「この池には２３００キロ、約３０００匹のフナを放流していて、大きいのは体長が４５～６センチもあります。オープン当初は、よく釣れていましたが、釣られて痛い思いをした魚は徐々に賢くなり、最近は上手な人で１日２０～３０匹位いです。フナ釣りの極意は『寄せて釣る』と言われるほどで、１０センチ四方の同じ所へ竿を投げ入れる技と根気が必要です。場所はあまり関係なく９月～１０月が天候もよく絶好の釣りシーズンです。大人１０００円，小・中学生は２００円の利用料で１日楽しめますのでぜひ一度、ご家族でチャレンジして下さい。」普段、仕事に追われて忙しくしている自分を振り返る良い機会を持つことができると思います。



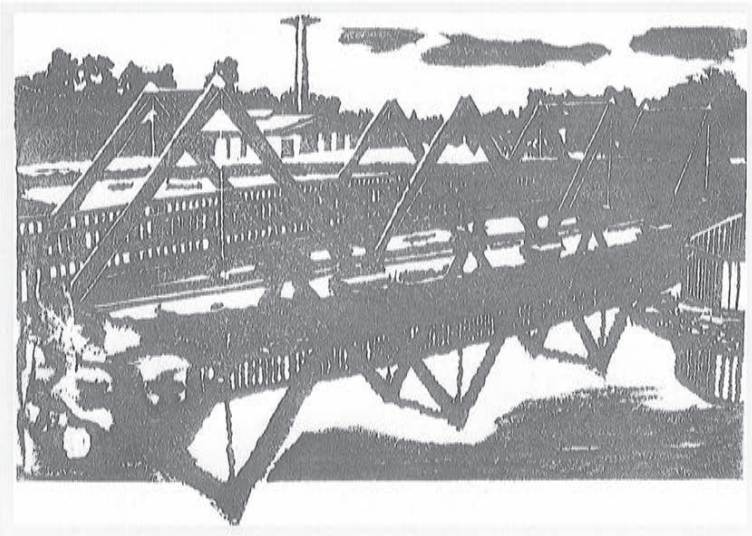
浜上　知之（南寺方中通１丁目）

94

世木公園つり橋

南寺方東通４丁目

世木公園は、釣り池・体験池を中心に、水に親しめる公園である。エントランスゾーンでは石組みの小山から流れる水や、水のゾーンの噴水などでは子供たちが水遊びに興じている。釣り池ゾーンとエコロジーゾーンは木橋で分かれている。



山田　耕治

昭和１３年、小学生の頃、京阪池から東へ真っすぐ草一面の農道を行くと瓢箪池があって、大きなタイワン泥鰌（雷魚）が黒々と浮かんでいました。その先の運河は黄土色の水で、あまり深くないので、かせにいる魚の手掴みに、弟と夢中になったものです。運河は橘波変電所から南へ寺方まで続いていて両側には青々とした水田と大きな蓮池が広がり、背の高いハスの葉の下には小魚がいて子供にとっては、人家を離れた格好の水遊び場でした。運河の東は飯盛山の麓、野崎まで緑の平野が一望でき、すぐ近くを流れる用水路の先には墓場があり椿の黒っぽい木立、点々とした赤い花、人影は全くなく子供心にそれは怖かったものでした。あれから６０年。運河は花博公園までの「西三荘ゆとり道」となり、緑の樹木、四季折々に咲く花、日時計、音の流れるゲート、体験ゾーン、市民釣池など散策、ジョギングには結構楽しい憩いの遊歩道になりました。



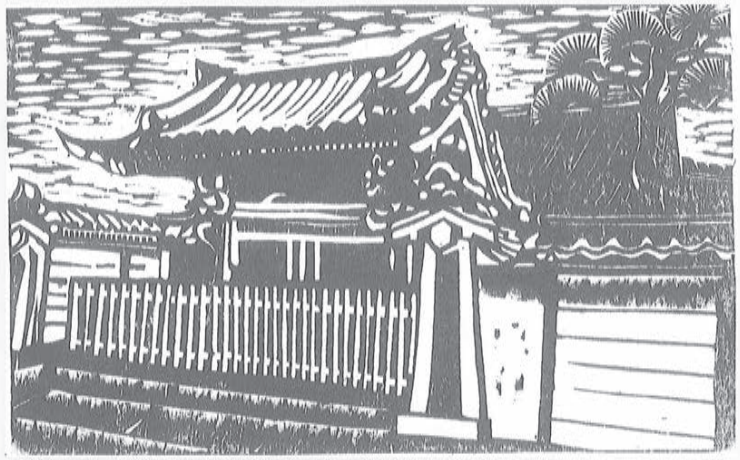
山田　武司（橘波東之町１丁目）

95

護念寺（ごねんじ）

高瀬町５丁目

「世木御堂」と呼ばれ、真宗大谷派の寺院である。永禄８年（１５６５年）実悟上人が加賀国石川郡にあった若松本泉寺をこの地に復興した。また、本泉寺の懸所であり、法主が教化説教して歩く足場として休泊に利用していた。また、隠れキリシタンの灯籠が境内にある。



清田　初美

昭和９年大阪で最大級の台風、「室戸台風」によって倒壊した山門は、平成８年１１月に住職、檀信徒の懇願によって再建する。倒壊する前の山門は、寺院が創建された永禄（１５５８～７０年）以前に建てられたもので、門柱は１尺５寸角の欅（けやき）で棟までの高さも現在のものよりも高く大きなものであった。護念寺にはこの門の北側に薬医門といわれる長屋門がある。山門は普段開門されることはなく、大きな法要の営まれる時に開けられるのである。通常の出入りは住職も檀信徒も北の薬医門を利用するのである。江戸時代には住職が檀信徒の家におまいりに行く時は、もう少し北の太鼓楼の太鼓を打って先触れをし、籠（かご）に乗ってこの薬医門から出かけたのである。山門は寺院の顔であり、寺院の景観を引きたてる大きな役目を果している。



佐治　信隆（高瀬町５丁目）

96

市杵島神社（いちきしまじんじゃ）

橋波西之町３丁目

土地の人たちから弁天さんといって親しまれています、祭神は、いちきしま姫命で、弁財天といわれるようになりました。市杵島神社は、弘化５年（１８４８年）の記録では、６０センチ四方の小さな祠でしたが、昭和３７年に現在のような社になりました。境内には、文化１５年（１８１８年）建立の鳥居や安政６年（１８５９年）の灯籠などがある。



高松　真澄

この神社の祭神は「いちきしま姫命」で、古くより土地の人からは弁天さんと言って親しまれています。境内には文化１５年（１８１８年）建立の鳥居や安政６年（１８５９年）奉納の灯篭があり、私が小学生の頃にはハス池のまん中に小さな社（やしろ）があり、現在のような社になったのは昭和３７年頃だったと思います。子供の頃は仲間との絶好の遊び場で、境内でせみとりや木のぼり、かくれんぼ、枝にロープを張って隠れ家作りをしました。また、１０月１４日、１５日の秋まつりに向けて友人と一緒に１ヶ月程前から夜遅くまで一生懸命太鼓の稽古をしました。というのは太鼓の上手な小・中学生だけが着物を着て、兵児帯を締め、お白いを塗って「まつりワク」に乗ることが出きたからです。お陰で私も当日は３０人位で担ぐ太鼓みこしに乗り、町内を練り歩くことができました。普段でも女の子に人気のあった私ですが、このまつりの時は一層男前を挙げることができました。あれから５０年、今は昔の面影もありません。



森本　幸且（西郷通１丁目）

97

モノレール大日駅（だいにちえき）

大日東町

大阪モノレールは、大阪空港～南茨木駅まで営業を行っていたが、なみはや国体を契機に、平成９年８月、南茨木駅から南進し、門真市駅まで開通した。同時にモノレール「大日駅」も営業を開始。地下鉄大日駅とも連絡、接続が可能となり、守口はもちろん大阪市内から空港、吹田方面へのアクセスが便利になった。



山中　淑詠

モノレールが我が街〔守口〕にやって来た。地下鉄の終点大日駅の上を爽やかな車体の色ですいすいと、あたかも宇宙空間を泳ぐがごとき「モノレール」。

大阪空港・北摂方面と河内を結ぶアクセスとしてその完成が待たれていた「大阪モノレール」。いかにも都会っぽくオシャレな感じの語韻が残るモノレール。



街を見下ろし、我が物顔で走るモノレール。大日から門真市へ、茨木・豊中方面へ、通勤通学に、レジャーに買物などなど、それぞれの思いを乗せて走るモノレール。

行く手には、万博公園、エキスポランド、国立民族学博物館など話題のところもいっぱい。

さあ、明日への夢乗せ、今日もその勇姿を太陽に輝かせながら、南へ北へと進む！

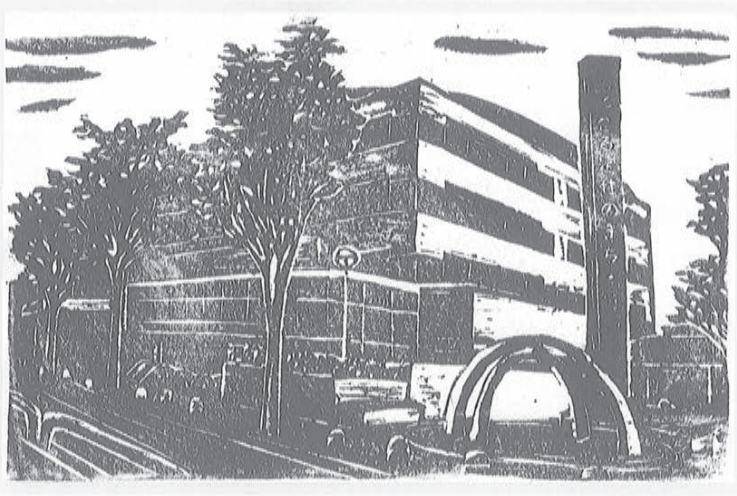
藤﨑　嗣郎（守口門真商工会議所）

98

守口市民保健センター（もりぐちしみんほけん）

大宮通１丁目

平成９年６月、手狭になった京阪本通にあった旧市民保健センターに代わり、大宮通１丁目に新市民保健センターを開館。保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供。休日応急診療やデイサービス、市民健診、健康増進、母子保健、さらに将来介護保険関連の拠点施設として注目されている。



吉川　サチ子

市役所の前にあった、以前の市民保健センターもだんだん手狭になり、健康診査に出かけていったとき、たびたび、１階の車庫の所に並んで、受付を待ったものでした。それに比べ、平成９年大宮通に新設された新保健センターは、何と心強いことでしょう。白亜の殿堂そのものですね！じっと見上げてごらん、吸い込まれそうな雄大さです。ロビーもまるで一流ホテルなみ、中庭のような公園をはさんで現代南画美術館とも隣あわせです。このようなすばらしい施設で健康診査を受けるなんて、気分的に血圧も安定しそうです。みなさん達者です、健康ですよね、と言っても人間生身の身体です。生涯病気をしない人なんていませんよね！



定期的な診査で、早く見つけて貰って１日でも長く、同じ人生なら元気印で暮らしたいものですね。予防第１、治療第２、さぁ　みんなで利用しましょう、守口市民保健センターを！

中谷　佐代子（春日町）

99

西三荘ゆとり道

菊水通３丁目

花の博覧会を契機に、平成元～９年度にかけ西三荘都市下水路の上部に蓋をし、花博記念公園から西三荘駅の総延長約１．９キロを「緑と空間」「文化・教養」「フイットネス」「水」「花」の５ゾーンに区分して整備、市の花サツキを主体に色々な樹木や花に変化を持たせた歩行路として整備された。



清田　義雄

大阪が世界から注目された万国博覧会から３年後、守口の心意気を込めて市民憲章が制定され、あれから２５年、想えば当時かかわった者として感慨深いものがあります。さて、このゆとり道はその昔、近所の子供達が水泳を楽しんだ西三荘用水路を改修し、守口での一大景観をなすものになっております。世木公園から一緒に歩いてみましょう。緑と空間、文化教養、フイットネスの各ゾーンを多くの散歩を楽しむ人々と会いながら「水のゾーン」に入ります。今までの花や木の緑とは変わった一瞬目を見張る光景が目に入ります。近郊ではみられない大滝を思わせる石造りの構造で、水のゾーンの始まりにふさわしい物です。更に歩きましょう。せせらぎの音が今にも聞こえて来そうな小川。小路で川底のきれいな造りについ、童心をくすぐられる想いです。いついつまでも大切に残し、市民の生活と心のゆとり道である事を願い、このあづまやで一服しよう。



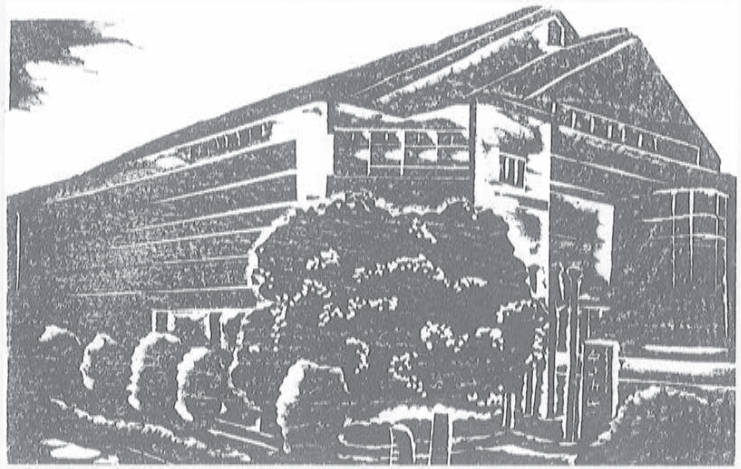
辻　健（寺方錦通１丁目）

100

守口市民体育館

河原町

河原地区市街地再開発事業の一貫として計画され、昭和６０年１０月に完成した「トークティ守口」より１年早く、昭和５９年９月完成。延べ床面積は８，４５８平方メートルと府下トップクラス。１階は小体育室、２階は武道室、３階は大体育室で、特に観客席は固定席１，１００席、電動移動式２，５００席を備えている。



厩本　きみ子

三角屋根の市民体育館はもう１０年以上も前に建てられたもので、すっかり駅前のランドスケープとして私の中には定着しています。体育館にはトレーニングルームや卓球教室などの催しなどもあって、気軽に市民が利用できるみたいなので、守口市で生まれ育った私も「一度は利用せねば！」と思うのですが、ちょうど開館が社会人になった頃だったので、仕事に追われて残念ながらまだその機会に恵まれていません。また、この体育館ではなみはや国体やバレーボールのＶリーグ、ボクシングの世界タイトルマッチなどのビッグなイベントも時々催されています。そこでビッグなイベントといえばオリンピック。以前に２００８年のオリンピックに立候補している大阪市の開催施設の１つとして守口市民体育館の名前が挙がっているのを新聞の記事で読んだことがあります。まだ先の話でライバルも多いとのことらしいので、開催できればいいですね。



山本　勉（日向町）

編　集　後　記

この記念誌「守口百景」に使用している100枚の版画は、当協議会が守口市民憲章の普及・推進活動の一貫として、ともすれば日頃見落としがちな市内の景観を版画を通して見つめなおしてみようと、「ばれんの会」のご協力を得て同会会員が制作された作品のなかから、昭和63年を初年度として毎年市内の景観10景ずつを選定、テレホンカードを制作して啓発してまいりました。お陰さまで当初の目標である100景を数えることができました。そして本年、市民憲章制定25周年を記念し、市民の皆様をはじめ、守口市に関係する方々に守口市を、より親しみのあるまちとして愛着を持っていただこうと、この100景に、守口市を愛する100人の方々からのメッセージや写真を添えて、本日記念誌「守口百景」が発刊される運びとなりました。

発刊に際しましては、心温まるメッセージを書いて下さった皆様をはじめ、素晴らしい版画を制作し続けてくださいました「ばれんの会」の皆様、題字を書いて下さいました澁谷先生など、多くの市民の方々のご協力を得ましたことに、厚く感謝申し上げます。

製作に関しましては、当協議会に所属いただいている市民団体の皆様とともに協力しあい、力を合わせて作り上げた記念誌であるという実感がございます。この機会に育ませていただいた市民団体の交流を持続させながら、今後も守口市民憲章の普及・推進を通じて、我がまち守口に誇りと愛着をもっていただくよう努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、ご協力いただきながら編集の過程で割愛させていただいたもの、敬称は略させていただきましたことなどをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

平成10年10月吉日

守口市民憲章普及推進協議会
25周年記念事業実行委員長　佐　伯　忠　雄

●守口市民憲章普及推進協議会所属団体●

守口市教育委員会	守口市農業委員会	守口市民生委員協議会
守口社会福祉協議会	守口地区人権擁護委員会	守口地区保護司会
守口市社会教育委員会議	守口市公民館運営審議会	守口市公民館地区運営委員長会
守口市青少年育成指導員連絡協議会	守口市立学校校長会	守口市ＰＴＡ協議会
守口市赤十字奉仕団	守口市婦人団体連合協議会	守口市エイフボランタリーネットワーク
守口市母子福祉会	守口市消費生活リーダークラブ	守口市文化協会
守口市総合美術協会	守口市文化財研究会	守口市老人クラブ連合会
守口市身体障害者福祉会	守口市体育連盟	社団法人守口青年会議所
守口ＪＣシニアクラブ	守口ライオンズクラブ	守口ロータリークラブ
守口門真商工会議所		

（順不同）

守口市民憲章制定25周年記念　守口百景

平成10年10月30日　発行

発　　行：守口市民憲章普及推進協議会
表紙題字：澁谷大雲（日展会友）
わんど絵（市所蔵）：山木正博（市総合美術協会理事長）
版画制作：木版画同好会「ばれんの会」
制作・印刷：寺方印刷株式会社

引用、掲（転）載させていただいた資料など（順不同）

・『守口百景 古今東西』第Ⅰ集～第３集ＤＶＤ版・冊子版、守口百景絵はがき（第Ⅰ集～第５集）、
守口百景スルッとＫＡＮＳＡＩカード、守口百景クオ・カード、守口百景テレフォンカード　など
守口百景関連書籍などの編集と発行：守口市民憲章普及推進協議会

・守口市広報、守口市史、グラフ守口、一般財団法人守口文庫所蔵品、国土地理院地図コンテンツ　　ほか

・Seijun's Blog「守口・義天寺へ」　https://hbs-seijun.blogspot.com/2007/10/blog-post_20.html
・新之介のBlog「京街道を歩く・守口の文禄堤」　http://atamatote.blog119.fc2.com/blog-entry-599.html

ご協力いただいた団体や個人（順不同）

守口市、守口市教育委員会、守口市日本民謡研究会、守口市門真市消防組合消防本部、公益社団法人門真納税協会、一般財団法人守口文庫、一般社団法人大阪スポーツみどり財団、大阪国際中学校高等学校、本門佛立宗由緒寺院義天寺、こころ優しき歯科医師 Ｔ・Ｋ さん、上住 寿夫さん、水谷 喜美子さん、菊池 郁子さん、奥田 喜一さん、澤井 あさみさん、三宅 奈緒子さん、木版画同好会「ばれんの会」の みなさん、守口市民憲章普及推進協議会　ほか

『守口百景 古今東西 総集編』解説文執筆者のご紹介

岸 田　護 氏（きしだ まもる）

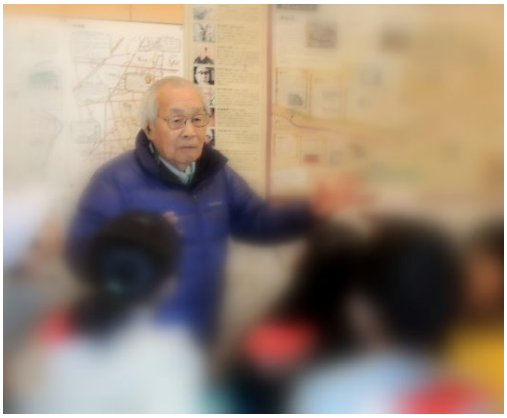


昭和１２年京都府出身、僧籍を得るために大谷大学卒業。

昭和３８年、神戸大学から守口市立第二中学校(現樟風中学校)社会科担当教諭として赴任。第三中学校(現さつき学園)に１０年間勤務した時に、併設の夜間学級の先生や生徒と接することが多く「世の中のお役に立つためにも学びの原点といえる夜間学級で勤務したい」と思うようになった。
希望がかない藤田中を経て昭和６３年から平成９年３月定年までの８年間、三中夜間で教鞭をとる。

この間、子どもとともに平和を学習するために守口空襲の実態を丹念に調べ、市民の戦争体験記をまとめた平和実践資料集の発刊や守口や近隣地域の郷土史の研究に携わり、『私たちの郷土守口』を出版。守口市成人基礎学習講座「あけぼの教室」で講師を１５年間務め、平成２４年３月に教職を離れた。

退職後はこれまでの郷土史研究の成果を『守口及び周辺の歴史』



『東海道５７次「守口宿」』『京街道』『門真市の郷土』『東海道五十七次 守口宿』『守口宿マイスター検定(ガイド認定)用資料集』など関連著書を多数出版。もりぐち市民大学、東海道検定受験合格講座の講師、守口市文化財研究会参与などを務めた。

守口市市制施行７０周年記念「文禄堤 歴史シンポジウム」にパネリストとして登壇、「守口市民は互いに協力して、この貴重な文禄堤を大切に守ろう」と強く呼びかけた。
また令和５年３月、市民憲章普及推進協議会の解散総会では記念品の守口百景冊子に掲載された写真の解説に交え、「守口の往時のにぎわい、暮らしや風景がわかる写真や資料をぜひとも次代に残し、生かしてほしい」などと講演した。

８７歳になられた現在も、郷土史研究家として守口門真歴史街道推進協議会歴史顧問などを務め、歴史ウォークのガイドや講演・執筆活動、文化財保護などに取り組み、精力的に忙しい日々を過ごしている。

発行にあたり

守口市民憲章普及推進協議会(令和５年３月解散)は昭和４７年７月に発足以来、市民団体が中心となり市民憲章を広く普及推進するため５０年間にわたり、さまざまな啓発・啓蒙活動を行ってこられました。

その活動の一環として企画・編集し、学校教育や生涯学習、郷土愛を育むため無償で守口市内の小・中学校などに配布していた補助教材『守口百景 古今東西』に関する資料などを制作実行ワーキンググループが引継ぎ、守口市民憲章制定５０周年記念誌『守口百景 古今東西 総集編』として目次やノンブル、５０年の歩み、２５周年記念誌「守口百景」(守口木版画同好会「ばれんの会」)などを追加し、できるだけ忠実にかつ読みやすく工夫を加え再刊、発行しました。

著作権などについては信義誠実の原則もって十分配慮し、著作権制度審議会答申を援用、補助教材として守口市内の小・中学校や公共施設の図書館、図書室などに限定のうえ無償で配架する予定です。

なお、掲載の写真・解説文は発行当時のもので誤字・脱字、些細なミスや見解の相違はご放念ください。

『守口百景 古今東西』制作実行ワーキンググループ

人見 薫(副座長)、岸田　護、山根 敬義、稲葉 亜純、藤川 弘子(会計監査)、木村 剛久(会計)、濵上 知之(座長・発行責任者、E-mail : t5726@gold.ocn.ne.jp)